京都府遺跡調査報告書

第 18 冊

近畿自動車道敦賀線関係遺跡（8次区間）

三　宅　遺　跡
小西町田遺跡

＜本　文　編＞

1 9 9 3

財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

三宅遺跡・小西町田遺跡遠景（北から）

巻頭図版２

(1) 三宅遺跡全景（西から）

(2) 三宅遺跡第Ⅱ・第Ⅵ調査区全景（東から）

巻頭図版３

(1) 小西町田遺跡遠景（南から）

(2) 小西町田遺跡土坑SK08出土遺物

序

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、昭和56年４月の設立以来、京都府内の公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行ってまいりました。この報告書に収められた２遺跡も、近畿自動車道敦賀線の建設に伴い発掘調査を行ったものであります。

福知山市から舞鶴市にいたる近畿自動車道８次区間の路線帯には、各時代の遺跡が見つかっています。今回、報告します三宅遺跡と小西町田遺跡の両遺跡からも、弥生時代から歴史時代にかけての様々な遺構や遺物が見つかり、当時の集落のあり方を考える上で貴重な資料を得ることができました。

これら二つの遺跡につきましては、現地での説明会のほか、『京都府埋蔵文化財情報』・『京都府遺跡調査概報』を通じて、その調査成果を紹介してまいりました。また、近畿自動車道敦賀線に係わる発掘調査の報告書としましては、これまでに『京都府遺跡調査報告書』第14冊・『京都府遺跡調査報告書』第17冊をそれぞれ刊行してまいりました。これらの刊行物とあわせまして、本書を関係各位の参考に供され、地域の文化の発展に少しでも寄与すれば幸いです。

現地での発掘調査にあたりましては、調査を依頼された日本道路公団大阪建設局をはじめ、京都府教育委員会・綾部市教育委員会などの関係諸機関のご協力を受けました。また、極暑・極寒の中、多くの方々には熱心に各作業に従事していただきました。ここに記し、感謝いたしたいと存じます。

平成５年１月18日

財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター
理事長　福　山　敏　男

例　　言

1　本書は、京都府綾部市豊里町三宅に所在する三宅遺跡と同市小西町町田に所在する小西町田遺跡の発掘調査報告書である。

2　各遺跡の調査は、近畿自動車道敦賀線(８次区間)関連遺跡として、日本道路公団大阪建設局の依頼を受け、昭和62・63年度に財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが主体となって実施した。

3　発掘調査にあたっては、当調査研究センター調査第２課調査第２係長水谷壽克、同調査員竹原一彦・三好博喜(いずれも当時)が担当して行った。

4　本書に掲載した写真は、遺構を主に竹原一彦・三好博喜が、遺物写真は、調査第１課資料係調査員田中　彰が撮影した。また、航空写真及び一部図化作業は、朝日航洋株式会社・アジア航測株式会社に委託した。

5　第４章小西町田遺跡の出土遺物観察表の計測値の単位はcm、口径・底径の()内数値は復原値、器高の()数値は現存高を表わす。また、胎土の細砂は各々粒子１mm程度以下、小粒砂は１～２mm程度、中粒砂は２～３mm程度、大粒砂は３～４mm程度、礫は５mm程度を基準とする。土錘の計測に当たっては、ノギスと電子秤を用い、末尾を四捨五入した数値である。残存率については、口縁部から底部まで残存する資料については全体の残存部をおおまかな百分率で示し、口縁部もしくは底部のみ残存するものについては分数で示した。図面の方位は、座標系第Ⅳ系座標北を示す。

6　本書の執筆は、水谷壽克、竹原一彦、三好博喜・平松久和が分担して行い、末尾に明示した。編集は、西村香代子の協力を得て、調査第１課資料係主任調査員土橋　誠が行った。

7　現地調査・整理作業に当たっては、以下の方々に参加していただいた。

調査参加者（順不同）

橋本　稔・田中智子・平松久和・大和田淳司・真下定平・品田俊治・川勝　修・田鶴谷　京・組藤敦史・藤山眞理・松元達也・福井信一・平田　裕・北村　清・中原昌弘・只野　昭・四方洋行・伊藤　守・藤田順基・山口陽一郎・大槻浩和・岡田留美・立藤　聡・川見晋也・吉田　浩・西田博紀・吉田隆志・山本由美・塩見　学・大槻勝康・石田雅晃・赤井三千代・田中重春・四方雅人・梅垣健一郎・河野朋子・上東克

彦・飛田浩一・重松麻里子・平野仁佳子・黒羽展久・辻　健二郎・森　美知子・野々垣照美・四野宮洋子・国重和江・池田純子・大島　聡・植野一明・松田浩二・大西智也・田村　悟・川畑　聰・谷畑聖子・奈良律子・西村欣也・河田正明・遠藤ひと美・松室孝樹・大崎康文・武内かおり・中前幸子・山本正敏・山口浩章・横山憲一・山本美雪・春名　浩・石崎善久・小沼のり子・佐々木教文・梅下健一郎・冨田眞二・板倉礼子・市野瀬正美・今川二郎・斉藤　優・高野陽子・西　世津子・林　日佐子・白井真澄・高橋美穂・丸岡冨江・河野美行・丸岡一實・大槻純子・田口直子・野田侑記子・中島恵美子・山本弥生・小滝初代・和田正子・丹新千晶・丸谷はま子・牧野みゆき・劉　和子・藤山留美・大島淳二・新田行雄・渡邊節子・伊勢田恵美子・大島多賀子・四方純子・今村明子・塩見京子・出口御遊・村上千秋・野澤久代・野澤正次・稲葉逸郎・大槻哲也・永井保治・塩尻　武・上羽　章・横田政之・室木昇太郎・小堀亀男・四方　勇・川北丈夫・四方康夫・大志万　栄・伊藤義夫・梅垣光治・渡辺　保・大槻弘二・川北依夫・藤田キミエ・坪内　勇・坪内はつの・梅原正義・永野保春・高橋清一・森岡義雄・赤井克巳・荻野ツヤ子・村上綾子・清水　清・横田　進・大嶋英樹・森本国光・村上陽一・松下三郎・永井眞由美・吉岡　護・吉岡勇治・塩見敏夫・永井ヨシエ・浪江芳計・吉田健治・塩尻治作・福田竜太朗・梅原高雄・古澤幹雄・村上芳子・藤田トラ・相根あいの・塩尻やゑ・塩尻梅代・福井和子・福井多美子・塩尻アサノ・沖　ヨシエ・谷口ツヤ子・村上梅の・横山冴子・大槻みき枝・村上千賀子・大槻美佐子・大槻久枝・澤田一二三・吉田みつゑ・梅垣文枝・堀川はま枝・塩尻秀昭・塩尻惇人・小山　勇・大槻ミチエ・白波瀬くにえ・吉見勝巳・新谷二三代・林恵子・中西　修・辻　道子・吉永清美・田中文美・林　益美・古川良子・中村久登・有馬三喜子・小田栄子・青山恵子・山中道代・林　秀子・田村重野・内藤チエ・久平喜美子・森川敦子・栃木道代・村川　恵・清水紀子・後藤尚美・村上典子・岡本美和子・荻野冨紗子・牧野當子・松尾幸枝・松下道子・寺尾(旧姓北山)貴美子・与十田節子・福田玲子・奥平廣子・山下敬子・溝井麗子・針尾紀代・新谷幸子・疋田季美枝・西川悦子・西村香代子・竹内千賀子・真下春美・長田京子・安田由美子・山崎とも子・天岡昌代・松崎才枝・小笠原順子・高山エミ・見須俊介・横山成己・吉岡孝博・羽生夕紀子・福嶋美保・三澤繁忠・角南聡一郎・波部　建・照沼修美・後藤昌子・塚本晃子・木坂葉子・内山明子・中野美佐子・梶間直美

本 文 目 次

はじめに----------1
第１章　調査経緯----------2
　第１節　調査に至る経過----------2
　第２節　調査組織----------3
第２章　位置と環境----------5
　第１節　地理的環境----------5
　第２節　歴史的環境----------6
第３章　三宅遺跡----------9
　第１節　はじめに----------9
　第２節　検出遺構----------10
　　１．弥生時代の遺構----------10
　　２．古墳時代の遺構----------14
　　３．歴史時代の遺構----------20
　第３節　出土遺物----------23
　　１．縄文・弥生時代----------23
　　２．古墳時代----------24
　　３．歴史時代----------26
　第４節　まとめ----------26
　　１．縄文・弥生時代----------26
　　２．古墳時代----------28
　　３．歴史時代----------31
第４章　小西町田遺跡----------69
　第１節　はじめに----------69
　　１．調査経過----------69
　　２．層序----------70
　第２節　検出遺構----------72
　　１．東部地区----------72

2．西部地区----------84
第3節　出土遺物----------88
1．小西町田遺跡の出土遺物----------88
2．縄文時代の遺物----------88
3．弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺物----------89
4．古墳時代後期～平安時代の遺物----------104
第4節　小結----------111
第5章　総括----------174
第1節　8次区間調査成果----------174
第2節　三宅遺跡の土壙群について----------177
第3節　小西町田遺跡の総括----------182
1．小西町田遺跡の古式土師器----------182
2．小西町田遺跡の掘立柱建物跡----------190
3．胎土分析の結果から----------192
付載　小西町田遺跡出土土器の蛍光X線分析----------196

付　表　目　次

第3章　三宅遺跡
付表1　土壙墓群埋土観察表----------20
付表2　土壙墓観察表----------33
付表3　三宅遺跡出土遺物観察表----------59
第4章　小西町田遺跡
付表4　小西町田遺跡出土遺物観察表----------112
第5章　総括
付表5　近敦線関係遺跡年次調査一覧----------175
付表6　遺構出土古式土師器器種及び形態別出土点数表----------183
付表7　甕及び鉢の器種別対応底部形態点数表----------187

挿　図　目　次

第２章　位置と環境

第１図　周辺遺跡地図----------7

第３章　三宅遺跡

第２図　方形周溝墓１実測図----------11

第３図　ＳＤ01実測図----------12

第４図　方形周溝墓５実測図----------13

第５図　三宅４号墳実測図----------15

第６図　ＳＤ17実測図----------17

第７図　弥生時代遺構概観図----------27

第８図　古墳時代遺構概観図----------28

第９図　歴史時代遺構概観図----------31

第４章　小西町田遺跡

第10図　試掘トレンチ配置図----------69

第11図　土層断面図----------71

第12図　溝ＳＤ06遺物出土状況平面図----------72

第13図　東部地区遺構平面図----------73

第14図　溝ＳＤ07遺物出土状況平面図----------75

第15図　溝ＳＤ09遺物出土状況平面図----------75

第16図　土坑ＳＫ01・土坑ＳＫ02遺物出土状況平面図----------78

第17図　土坑ＳＫ03遺物出土状況平面図----------79

第18図　土坑ＳＫ04・土坑ＳＫ05遺物出土状況平面図----------80

第19図　土坑ＳＫ08遺物出土状況平面及び立面図----------81

第20図　土坑ＳＫ23遺物出土状況平面図----------82

第21図　土坑ＳＫ50遺物出土状況平面図----------83

第22図　西部地区遺構平面図----------85

第23図　古式土師器分類図１----------90

第24図　古式土師器分類図２----------92

第25図　古式土師器分類図３----------94
第26図　古式土師器分類図４----------96
第27図　須恵器分類図----------105

第５章　総括

第28図　土壙墓群構成図----------179
第29図　粘土採掘坑掘削模式図----------181
第30図　東部地区遺構変遷図----------188
第31図　西部地区遺構変遷図----------190

近畿自動車道敦賀線（８次区間）関係遺跡発掘調査報告書

はじめに

近畿自動車道敦賀線は、「国土開発幹線自動車道建設法」並びに「高速自動車国道法」に基づき、京都府北部の丹波・丹後の開発や経済の活性化、そして京阪神地域への交流などを目的として、兵庫県美嚢郡吉川町の中国自動車道吉川ＪＣから京都府舞鶴市に至り計画された高速自動車道である。この自動車道は、昭和63年３月に中国自動車道吉川ＪＣから福知山ＩＣまでの区間（近舞線７次区間）について開通し、福知山から西舞鶴間は、平成３年３月に開通している。また昭和63年２月近舞線は福井県敦賀市まで区間延長されることが決定した。

近畿自動車道敦賀線８次区間の調査は、福知山市から西舞鶴までの延長約22.7kmの区間を、昭和61年11月から平成２年３月まで真夏の炎天下、真冬の極寒の中、約３年４か月を要し、23遺跡の調査を実施した。遺跡の種類は、集落跡７か所・古墳９か所・古墓経塚２か所・城館跡４か所である。

福知山市から綾部市を帯状に横断したこの調査は、弥生時代から中世に至る各時期の貴重な資料をえて、当地域の歴史を知るうえで多大な成果を得ている。特に、全長81mの大円墳である私市円山古墳は、墳形・副葬品から大和政権と密接な関係にある首長墓と推察され、中丹地方と大和との関係を考えるうえで極めて重要な古墳の発見であった。また、畝状竪堀14条を面的に調査し、中世城郭研究に貴重な成果を得た平山城・平山東城跡、総数573基を数える土壙墓群を検出し、古墳時代の大規模な共同墓地と考えられる三宅遺跡、鏡背の文様に一対の龍と虎が見返る状態で描かれた盤龍鏡１面が出土したヌクモ古墳群、全国でも40余例しか知られていない蛇行剣（全長70cm）が出土した奥大石古墳群など、その調査成果は多大である。

しかし現地調査を優先して実施したため、十分な整理作業も行えず各年度の概要報告書として刊行したものもあることから、平山城跡・平山東城跡・野崎古墳群・小西町田遺跡・三宅遺跡・福垣北古墳群・興遺跡・観音寺遺跡の８遺跡については、平成２年度以降鋭意整理報告作業を進め３分冊に分け随時報告書を刊行している。本書はその最終分冊で、小西町田遺跡・三宅遺跡の２遺跡について報告するものである。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経過

福知山市長田野から舞鶴市堀に至る22.7kmの近畿自動車道敦賀線（8次区間）は、路線決定に際し、福知山市・綾部市・舞鶴市の各教育委員会及び京都府文化財保護課との間で再三にわたる協議が行われ、どうしても避けられない遺跡について事前に調査することとなった。昭和58年4月、日本道路公団職員立ち会いのもと文化財保護課・当調査研究センター調査員により道路予定路線内に含まれる遺跡の詳細な分布調査を実施し、福知山市域に6遺跡・綾部市域に11遺跡の計17遺跡を確認した。現地調査は、昭和61年度から調査に着手したが、山間部で遺跡地と認められなかった地点において、用地買収終了後樹木の伐採が行われ、地形の隆起・遺物採集がより詳細に行われる時点で、新たに6遺跡が路線内に含まれることが判明した。

調査は、日本道路公団大阪建設局の依頼により、文化財保護法第57条第2項の規定に基づき、各遺跡の発掘調査届出書を文化庁長官あて提出し、各教育委員会・近舞線対策委員会等関係機関の協力をえて、地元自治会への説明会及び作業員募集を行ったうえで現地調査に着手した。

今回報告する小西町田遺跡・三宅遺跡の調査に至る経緯及び現地調査期間・調査面積等については、下記のとおりである。

小西町田遺跡	所在地	綾部市小西町町田
	調査期間	昭和62年5月8日～昭和63年1月13日
	調査面積	約5,000㎡
	調査担当	三好　博喜

犀川西岸の水田地帯に広範囲に広がる遺跡散布地である。採集された土器片は、細かく摩滅したものであったが、北方丘陵地に所在する古墳時代初頭の成山古墳群との関係が考えられる遺跡であることから調査を実施した。

三宅遺跡	所在地	綾部市豊里町三宅
	調査期間	昭和62年5月8日～昭和63年3月11日

昭和63年4月21日～平成元年1月25日

調査面積　約8,500㎡

調査担当　竹原　一彦

犀川から以久田野丘陵の間に広がる河岸段丘上に、須恵器・土師器等の遺物が散布する。小字「三宅」名が官衙遺跡を想起させ、また台地西縁部には、仿製内行花文鏡・横矢矧鋲留短甲・馬具類等多数の副葬品が出土した荒神塚古墳(三宅1号墳)をはじめとする三宅古墳群が位置することから調査を実施した。

調査に際しては、日本道路公団大阪建設局福知山工事事務所・綾部市教育委員会・福知山市教育委員会・綾部史談会・地元各自治会・京都府教育委員会・京都府中丹教育局・京都府立丹後郷土資料館等関係諸機関諸氏より多大な協力をえた。また、現地作業や整理作業においては、地元各自治会の有志の方々及び学生諸氏に参加願った。心より感謝したい。

第2節　調 査 組 織(近敦線8次区間)

調査主体者	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	
	理事長　福山敏男	
調査責任者	荒木昭太郎	(事務局長　昭和61～平成元年度)
	松阪寛支	(事務局長　平成2～平成3年度)
	城戸秀夫	(事務局長　平成4年度)
調査担当責任者	堤圭三郎	(調査課長　昭和61年4月～6月)
	中谷雅治	(調査課長　昭和61年6月～昭和62年3月)
		(次長　昭和62～平成4年度)
	杉原和雄	(調査第2課長　昭和62～平成元年度)
	安藤信策	(調査第2課長　平成2～平成4年度)
事務局責任者	中西和之	(総務課長　昭和61年度)
	田中英明	(総務課長　昭和62･63年度)
	山本　勇	(次長　平成元年度)
	小林将夫	(次長　平成2～平成3年度)
	佐伯拓郎	(次長　平成4年度)

調査担当者　長谷川達(主任調査員　昭和61年4月～6月)　小山雅人(主任調査員　昭和61年6月～昭和62年3月)　水谷壽克(調査第2係長　昭和62～平成元年度)　引原茂

治(主任調査員　昭和63･平成元年度)　藤原敏晃(調査員　昭和61年度)　細川康晴(調査員　昭和61年度)　鍋田　勇(調査員　昭和61～平成元年度)　竹原一彦(調査員　昭和62～平成元年度)　三好博喜(調査員　昭和62年度)　石井清司(調査員　昭和62年度)　黒坪一樹(調査員　昭和62～平成元年度)　岡崎研一(調査員　昭和63年度)　田代　弘(調査員　昭和63･平成元年度)　小池　寛(調査員　平成元年度)

(水谷壽克)

小西町田遺跡現地説明会風景

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

今回報告する三宅遺跡は綾部市豊里町字三宅、小西町田遺跡は綾部市小西町字町田にそれぞれ所在している。両遺跡は行政区画では区分されているが、綾部市域の西端を南北に流れる犀川を挟んで両岸に位置しており、地理的には近接している。

三宅遺跡は犀川が形成した河岸段丘上に位置し、標高は36m前後を測る。小西町田遺跡は丘陵裾部から沖積低地上に位置し、標高は33～39m程度である。

調査地の位置する綾部市は、丹波山地の東北部を占めている。この丹波山地は中国山地の東端に位置しており、全体に標高数百mという起伏が少ない定高性の山地である。丹波山地の北側を流れる由良川は丹波山地を侵食し、上流域や中流域では河岸段丘を発達させ、下流域では自然堤防を形成している。現在、中流域に形成された福知山盆地の西側には福知山市街地、東側には綾部市街地が発展している。平地面積の少ない丹波山地を蛇行しながら日本海の若狭湾へと流れ込んでいる由良川は、梅雨季や台風季には度々大氾濫を引き起こし、流域に多大な被害を与えてもきた。しかし、この由良川沿いの河岸段丘上や自然堤防上は古くから開発が行われており、多くの遺跡が立地している。このことは、災害にも勝る、母なる恵みをこの由良川が人々に与えてきていたことを示している。いわば由良川筋は、文化を運ぶ道筋でもあったのである。

地形は、北を金峯山(標高334.1m)、東を高浪山(標高295.8m)、西を空山(標高351.9m)に囲まれた谷部で、間を由良川中流域の支流のひとつの犀川が南北に流れ、由良川との合流地点付近には広い沖積地を形成している。三宅遺跡と小西町田遺跡とは、由良川との合流地点から約1.5km入った地点に位置している。犀川は水量が少なく、現代でも流域には溜池が多い。この地の開発を行うにあたっては、水利の確保が重要な課題であったものと思われる。

地質では、綾部市域の最も古い基盤が古生層であり、南東側の丹波帯古生層・北西側の舞鶴帯古生層の二帯にまたがっている。調査地のある犀川流域は舞鶴帯古生層に載っている。舞鶴帯は、二畳紀や三畳紀の地層と夜久野複合岩類とが断層によって帯状に配列され、一種の構造帯を形成している。こうした基盤を新生代層が薄く覆い、段丘や台地を形成し、遺跡が立地している。

気候では、おおむね日本海気候的な様相を示しているが、積雪はそれほど多くない。秋から冬にかけては、「ウラニシ」とよばれる北西の風が吹き、時雨が多くなる。以久田野での平均気温は13.9℃、年間降水量は1772.4mm、年間日照時間は1342.8hと、京阪神地区と比べても大差はない。冬期の一時期を除けば比較的過ごしやすい地域である。

交通では、調査地から犀川を下り南へ向かうと、由良川の中流域に出る。犀川をさかのぼり西へ向かうと、由良川下流域へ直接つながる。また、東へ向かうと、八田川上流域から伊佐津川を経て舞鶴方面へ抜けることも可能である。陸路・水路からみても周辺地域との交通は容易である。巨視的に見れば、日本海地域と近畿中央部との交通路の要衝の地として重要な位置を占めているといえよう。

（三好博喜）

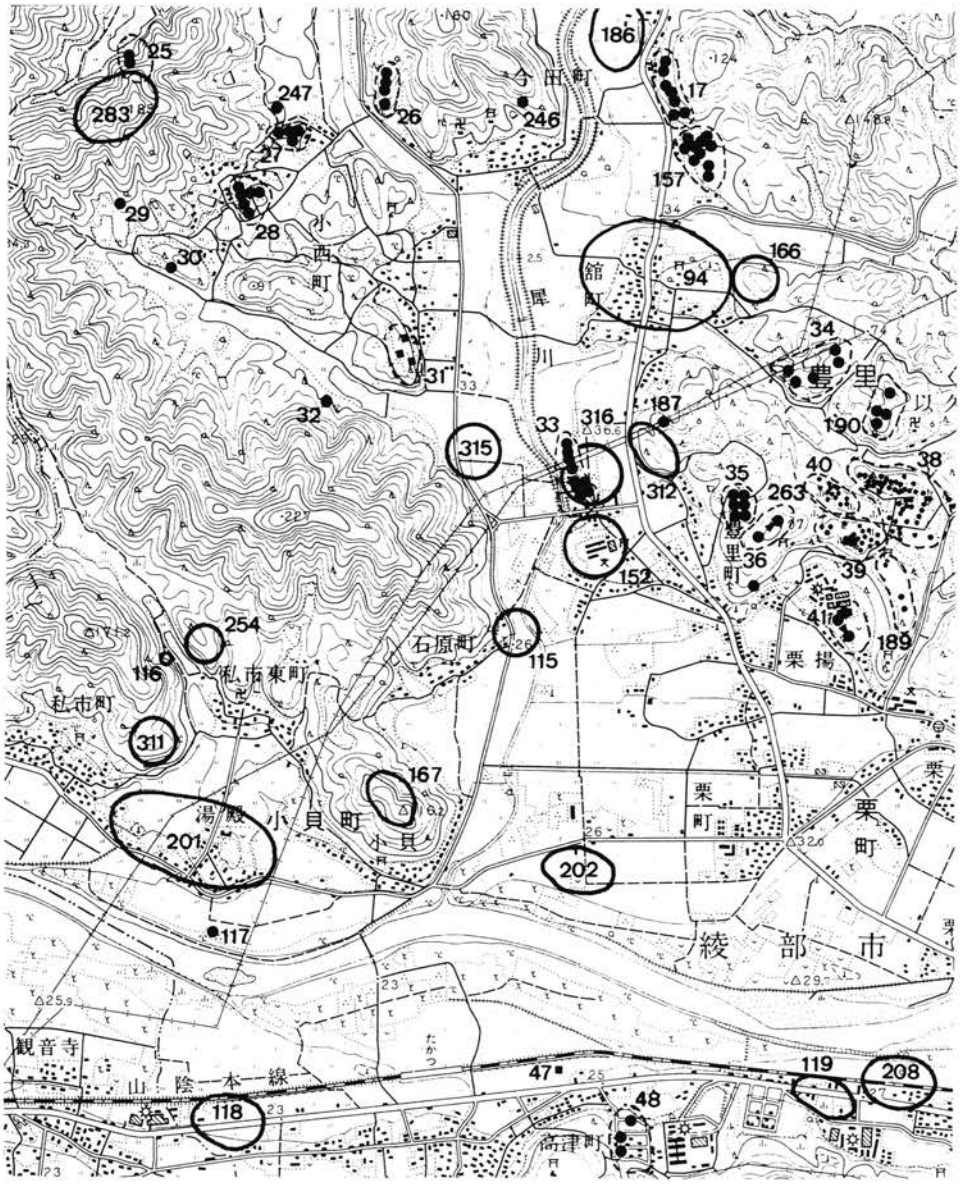
第2節　歴　史　的　環　境

今回報告する三宅遺跡では、弥生時代中期の方形周溝墓・古墳時代前期の土壙墓群・後期の古墳痕跡・鎌倉時代の溝など、小西町田遺跡では弥生時代末から古墳時代初頭の土坑や溝・平安時代の掘立柱建物跡などを検出した。以下では、両遺跡が位置する犀川流域を中心とした周辺地域の状況について概観する。

由良川との合流地点に近い犀川右岸にある石原遺跡や小貝遺跡では石鏃などの石器や石片が出土し、左岸にある以久田野遺跡では旧石器時代のナイフ形石器や縄文時代の石器・石片が採集されている。また、舘遺跡では黒曜石製の石鏃が採集されており、犀川流域には原始の人々の足跡が数多く残されている。

弥生時代の遺跡としては、舘遺跡が著名である。舘遺跡では第Ⅰ様式の土器片が出土しており、体部に貝殻施文した壺や甕の破片がある。前期にまでさかのぼる土器の出土は、由良川流域では他に舞鶴市志高遺跡が知られているだけである。犀川流域が由良川流域で最も早く受け入れた弥生文化は、貝殻施文があることなどから、日本海沿岸と関連すると思われる。

由良川流域に築造された古墳の数をみると1,700基余りが知られている。大多数の1,300基余りが福知山盆地にある。このうち犀川流域には300基余りが築かれている。半数は以久田野台地に密集し、古墳時代後期を主体とする以久田野古墳群を形成している。犀川流域は、他の地域に比べて後期古墳の多い地域である一方で、福知山盆地で最も古い古墳のひとつに挙げられる成山古墳群や、中丹地域では最も早く横穴式石室を導入した高谷古墳群があるなど特筆すべき古墳が多い地域でもある。小西町田遺跡に臨む丘陵上に築造された成山古墳群の年代は、庄内式併行期に求められており、同時期の遺構・遺物が多く検出



第1図　周辺遺跡地図(1/25,000　福知山東部)－『京都府遺跡地図』第2分冊　1987より抜粋－

25.三坂古墳群	283.小西城跡	29.奥小西古墳	247.中山古墳	27.大迫古墳群
28.前田古墳群	30.西前田山古墳	26.オンドリ古墳群	31.成山古墳群	32.奥田古墳
315.小西町田遺跡	115.石原遺跡	202.散布地	167.小貝城跡	254.馬場池東遺跡
116.私市経塚	311.私市円山古墳	201.小貝遺跡	117.小貝古墳	118.高津遺跡
48.高津古墳群	119.大島遺跡	208.大島東遺跡	246.古墳	186.唐部城跡
17.神子田古墳群	157.高谷古墳群	94.舘遺跡	166.舘城跡	34.舘古墳群
190.りょうごん寺古墳群	38・39・40.以久田野古墳群	41.沢古墳群	189.愛宕神社古墳群	
263.殿山経塚	36.殿山古墳群	35.福垣古墳群	187.福垣北古墳群	
312.福垣城館跡	**316.三宅遺跡**	33.三宅古墳群	152.長砂遺跡	47.藤ノ木古墳

された小西町田遺跡とは密接な関係があると思われる。また、三宅遺跡は三宅古墳群の古墳痕跡が検出されたように、三宅古墳群成立の背景をも含めて考えなければいけない遺跡であろう。盟主墳的な三宅１号墳(荒神塚)は５世紀末頃築造された円墳で、２基の粘土槨内からは短甲などの武具や金銅張りの馬具など多くの副葬品が出土した。短甲の由良川流域での出土例は、聖塚古墳や私市円山古墳など中期の首長墓と考えられる古墳にある。金銅張りの馬具の由良川流域での出土例は奉安塚古墳や牧弁財１号墳など後期の横穴式石室墳から出土しているのが知られているだけである。５世紀後半の以久田野古墳群ではすでに首長墓たる前方後円墳が築造され始めており、三宅１号墳のあり方は特異である。なお、犀川と由良川との合流地点に近い丘陵上には、府内最大の円墳である中期の私市円山古墳が築造されている。福知山盆地を一望の元に見渡せる立地からは、広域な地域の首長墓であることを実感させられる。

『倭名類聚抄』にみえる何鹿郡の郷数は16郷で、丹波国６郡のなかでも氷上郡とともに群を抜いた郷数をもつ。このことは、他の地域よりも開発が進んでいたことを示しているものと思われる。16郷のうち犀川流域に比定されているものには、物部郷(綾部市旧物部村域付近)・吾雀郷(綾部市旧志賀郷村域付近)・栗村郷(綾部市栗町付近)・小幡郷(綾部市旧小畑村域付近)がある。なお、栗村郷と小幡郷との間には高殿郷が存在したとする説もあり、三宅遺跡付近の三宅・長砂・福垣・大畠・館の地域をその郷域に当てている。

これまでみてきたように、三宅遺跡と小西町田遺跡とが位置する犀川流域は、由良川流域では弥生時代以降一貫して積極的な開発が進められてきた地域であり、豊かな生産力を誇っていた。特に、由良川との合流地点付近に広がる沖積地付近は、生産力も高かったものと思われる。三宅遺跡や小西町田遺跡の調査は、この地域の状況を更に細かく分析するための多くの資料を与えてくれた。

(三好博喜)

参考文献

平凡社　『京都府の地名』日本歴史地名大系26　1981
綾部市史編さん委員会　『綾部市史』上巻　1976
山城考古学研究会　『丹波の古墳Ⅰ　―由良川流域の古墳―』　1983

第3章 三 宅 遺 跡

第1節 は じ め に

三宅遺跡は、以久田野丘陵の西端部を流れる犀川左岸の段丘上にあり、古墳時代～奈良時代の遺跡として周知されている。また、段丘の西辺に南北に広がる微高地上には、後期群集墳である三宅古墳群が存在する。三宅古墳群は、荒神塚古墳(1号墳)を首長墳とする5世紀末～6世紀にかけて築造された円墳群である。これまでに9基の古墳の存在が知られていたが、北端部の4号墳(半壊)を除く他の古墳は、過去の開墾により消滅している。

今回の報告は、近畿自動車道建設に先立ち昭和62・63年度に実施した三宅遺跡の調査報告である。調査対象地は三宅遺跡の北部に位置する。東は以久田野丘陵西裾の府道・大江宮津線、西は犀川の侵食により急崖となる段丘西縁間の全長約150m・幅約70mの路線帯部分である。三宅古墳群中で唯一墳丘が現存する三宅4号墳は、路線帯に含まれたことから昭和62年度に当調査研究センターが発掘調査を実施している。

三宅遺跡の発掘調査は、昭和62年5月8日の試掘調査に始まる。三宅遺跡は今回の調査が始めてであることから、遺跡の状況把握を目的として幅3mのトレンチを路線帯内の11か所に設定し、調査を開始した。試掘調査では、路線帯のほぼ全域で遺構・遺物が良好に遺存することが判明した。遺構では溝・土坑・竪穴式住居跡・柱穴等を多数検出した。また、遺物に関しては主として弥生時代～鎌倉時代の土器の出土をみた。この試掘調査の成果から、三宅遺跡の発掘調査は同年6月8日から本格的な面的調査に切り替えた。

昭和62年度は、路線帯南半部を中心に第Ⅰ～第Ⅲ・第Ⅴ調査区(約5,500m²)の調査を実施した。(注1) 第Ⅱ調査区では弥生時代の方形周溝墓・古墳周溝・中世～近世の遺構・遺物を検出した。第Ⅲ調査区では古墳時代前期を中心とする土壙墓群、第Ⅴ調査区では古墳時代後期の竪穴式住居跡・水路等を検出した。第Ⅰ調査区は遺構・遺物の分布があまり認められない。

調査の終盤を迎えた昭和63年1月30日には現地説明会を開催し、昭和62年度の調査は昭和63年3月11日に終了した。

昭和63年度は、4月21日から第Ⅱ調査区北部で重機による拡張を開始し、新たに第Ⅳ・第Ⅵ調査区での面的調査を実施した。(注2) 第Ⅱ調査区及び第Ⅵ調査区では、前年度検出の方形周溝墓・古墳周溝の広がりを確認した。第Ⅳ調査区は第Ⅲ調査区の北に位置することから、

第Ⅲ調査区検出の土壙墓群の広がりを確認した。

現地調査の終了を迎えた平成元年１月25日には中間報告会を開催し、同日、現地を撤収した。

なお、今回調査の地区割りは、国土座標に基づいた10m方眼を用いた。ラインの名称はX＝－75.000をＡラインとして南方向にアルファベットを付し、Y＝－71,190を０ラインとして西方向に算用数字を付した。地区名称は、北西交点を地区名とした。

第２節　検　出　遺　構

１．弥生時代の遺構

三宅遺跡のなかで弥生時代の遺構と考えられるものは、第Ⅱ調査区を中心として検出した方形周溝墓、第Ⅲ・第Ⅳ調査区で検出した土壙墓、第Ⅴ調査区検出の溝である。

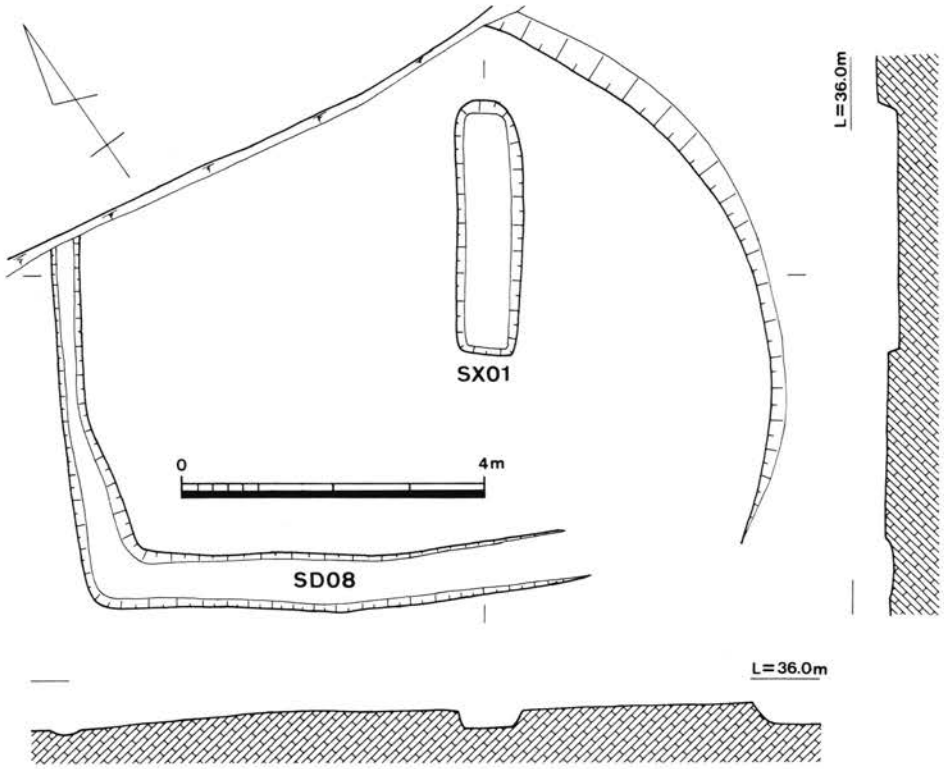
方形周溝墓は西端部に広がる微高地上にあり、遺構検出面は海抜約36.2mである。微高地部分は弥生時代以降の土地利用による攪乱を受け、方形周溝墓の多くは破壊されていた。検出した遺構の多くは周溝と考えられる溝状遺構であり、埋葬主体部の検出は２基だけである。周溝の配列状況から、調査範囲内には７基前後の方形周溝墓が存在したと考えられる。方形周溝墓の平面形態は２形態に分かれ、四周溝のめぐる型と四隅の何か所かが切れる型が存在する。また、周溝の方位も大きく２方向に分かれ、座標北に対し11°西に振るものと、東に約30°振るものが存在している。遺物を伴う遺構はわずかであるが、方形周溝墓の多くは弥生時代中期後葉頃とみている。第Ⅴ調査区北端で検出した弥生時代後期の溝（ＳＤ09）も、方形周溝墓の周溝とみられる。

第Ⅲ・第Ⅳ調査区で検出した573基の土壙墓群は、その多くが庄内式期に属するとみているが、一部の土壙墓は弥生時代後期にさかのぼろう。

方形周溝墓１　13Ｄ区で検出した方形周溝墓である。後世に削平を受けているため全容は不明であるが、周溝（ＳＤ08）の一部と埋葬主体部（ＳＸ01）を検出した。周溝墓の一辺は10m前後と推定される。

ほぼ直角に折れる周溝は、墓域の西と南を画するものであり、幅約70cm・深さ約5cmを測る。溝内には黒色粘質土が堆積するが、溝底付近には暗茶褐色粘質土が薄く堆積している。「Ｕ」字形の溝底はほぼ水平であるが、西南コーナーから東約5mで消滅する。周溝墓の東部は、後世（中世以前）の畠作により周溝が失われている。

周溝墓のほぼ中央には埋葬主体部１基が存在した。埋葬主体部（ＳＸ01）は全長約3.5m・幅約1m・深さ約20cmを測る。埋葬主体部の主軸はＳ－36°－Ｅである。墓壙内の埋土は黒

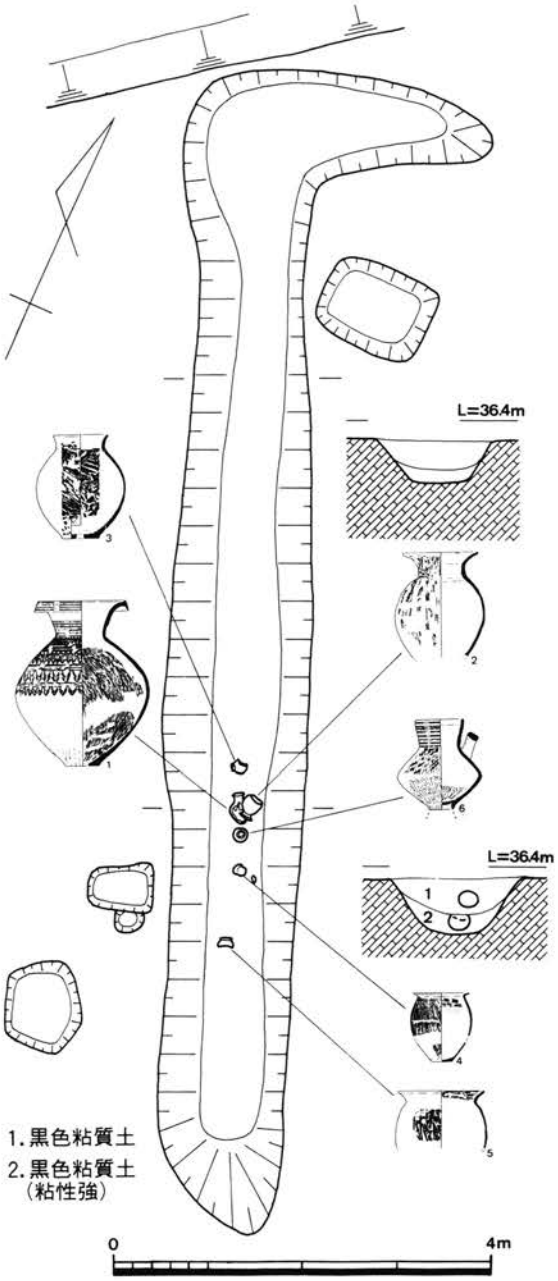


第2図　方形周溝墓1実測図

色粘質土である。土層観察では木棺の痕跡を確認することができなかった。埋葬主体部・周溝とも時期を確定する遺物の出土がみられない。

方形周溝墓2　13G区を中心に検出した方形周溝墓である。埋葬主体部は古墳築造に伴う削平で失われている。検出遺構としては、墓域を画する西側(ＳＤ01)と南側(ＳＤ02)の周溝がある。

ＳＤ01は、南北約12.2m・幅1.1～1.5m・深さ約60cmを測る。溝底の両端部は緩やかに立ち上がり、北端は東方向に直角に折れた後1.8mほどで終わる。溝には2層に分かれる黒色の粘質土が堆積し、下層に関しては粘性が強い。溝の中央やや南部から一括性のある畿内第Ⅳ様式に属する土器群の出土をみた(図版第13-1～6)。土器は完形品のほか底部を欠いた大型破片が多く、およそ2mの範囲に集中している。脚部を欠いた水差し形土器(6)は溝底に正位置で出土し、北側には横転した大型の壺(1)が出土した。底部を残す土器には底部穿孔(壺2点・水差し)がみられる。大部分の土器は溝底もしくは直上付近から出土したが、壺(2)は埋土内上部の出土である。溝底付近から出土した一群の土器は供献遺物とみられ、祭祀に伴って溝底に置かれたものであろう。また、壺(2)は出土状況からみて、



第３図　ＳＤ01実測図

マウンド上に置かれていたものが転落したものであろう。溝（ＳＤ01）の方位はＳ－22°－Ｗである。

ＳＤ02は、東西約11.3m・幅約0.8m・深さ約20cmを測る直線溝である。ＳＤ01とほぼ直角関係にあり、ＳＤ01南端とＳＤ02の西端は約3mの間隔をとる。ＳＤ01と同一の方形周溝墓を区画する南辺の溝であるが、溝の西北部は三宅10号墳に伴う周溝（ＳＤ14）に切られている。溝埋土はＳＤ01と同一であり、壺・甕の体部小破片が出土している。

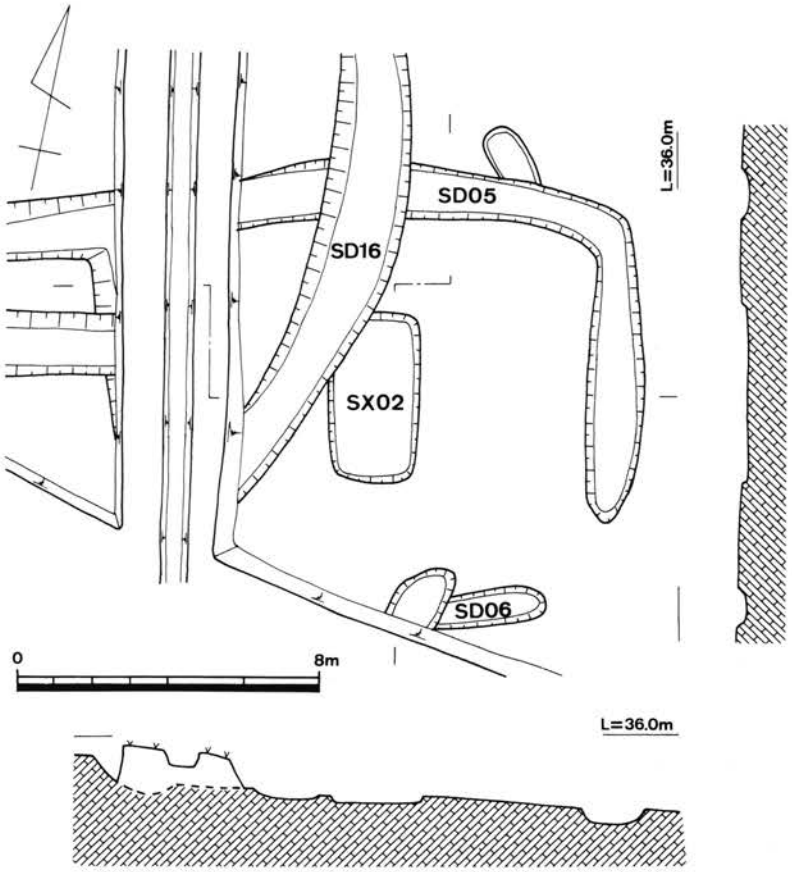
方形周溝墓３　周溝墓２の南に位置する方形周溝墓である。西側に溝ＳＤ03を配し、北側は周溝墓２とともに溝ＳＤ02を共有する。この方形周溝墓も後世に削平を受けており、埋葬主体部のほか、東側・南側の周溝を失っている。周溝墓２と同様、周溝は各コーナー部で途切れている。ＳＤ03は、溝の南端を古墳に伴う周溝（ＳＤ18）により切られているが、現存長約12m・幅約1.6m・深さ約40cmを測る。ＳＤ01とは約5.3mの間隔を置いて直線的に連なるが、方位はＳＤ01より更に西に12°振っている。埋土は黒色の粘質土であり、畿内第Ⅳ様式に属する土器の破片が少量ながら出土している。

方形周溝墓４　11Ｈ区を中心に検出した方形周溝墓である。後世の削平・古墳溝・農業

水路の存在から、詳細については不明な点が多い。周溝(ＳＤ04)は、幅約1m・深さ約30cmを測る。周溝は墓域の全周をめぐると考えられるが、北半部の「コ」字分を検出したにとどまった。ＳＤ04に区画された周溝墓は東西約８mであり、南北はおよそ10mと推定される。周溝墓自体は古墳築造とともに削平を受け、主体部等はすでに失われている。黒色粘質土が堆積した周溝内には遺物が少なく、弥生時代に属する少量の土器片が出土した。この周溝の方位はＳ－22°－Ｗである。

方形周溝墓５　10Ｊ区を中心に検出した方形周溝墓である。墓域を画する周溝(ＳＤ05・06)は、北部が「コ」字形にめぐり、東南コーナーが約2.5mにわたって途切れる。周溝は全周をめぐらないことが明らかであるが、西南コーナーが調査範囲外であることから周溝の全容に関しては不明である。ＳＤ05・06によって画された墓域は一辺約10m前後の規模とみられる。

ＳＤ05は幅約1.5m・深さ約20cm、ＳＤ06は幅約1m・深さ約10cmである。周溝内(ＳＤ



第４図　方形周溝墓５実測図

05・06)には黒色粘質土が堆積し、畿内第Ⅳ様式に属する壺・甕の小破片が出土している。

方形周溝墓の中央から埋葬主体部(ＳＸ02)１基を検出した。方形の掘形は全長約4.5m・幅約2.4m・深さ約10cmを測る。墓壙底は平らである。埋土は黒色粘質土であり、木棺の痕跡は確認できなかった。遺物の出土はみられない。墓壙の主軸はＳ－12°－Ｗである。

方形周溝墓６　周溝墓５の西に位置し、周溝を共有する。墓域の大部分は調査範囲外であり、詳細は不明である。墓域の北側を画する溝(ＳＤ05)の溝底は西に向かって緩やかに上昇し、北東コーナーから西7m付近で途切れる。北東隅での溝幅は約2m、深さは約30cmを測る。

土壙墓　土壙墓群は、調査対象地内の低地に設けた第Ⅲ・第Ⅳ調査区に広く分布し、573基を調査した。出土遺物・切り合い関係により時期が判明している土壙墓のうち、弥生時代に属する土壙墓はこれまでに８基を確認している。土壙墓は第Ⅲ調査区で４基(ＳＸ099・261・287・335)、第Ⅳ調査区で４基(ＳＸ406・440・477・478)であった。平面形態は、円形(ＳＸ440・478)・楕円形(ＳＸ287・406)・隅丸方形(ＳＸ477)・隅丸長方形(ＳＸ099・335)・不定形(ＳＸ261)に分かれる。これらの土壙墓は出土遺物の年代観から、ほぼ弥生時代後期に属するとみれよう。

なお、詳細については、本章末尾の付表２を参照されたい。

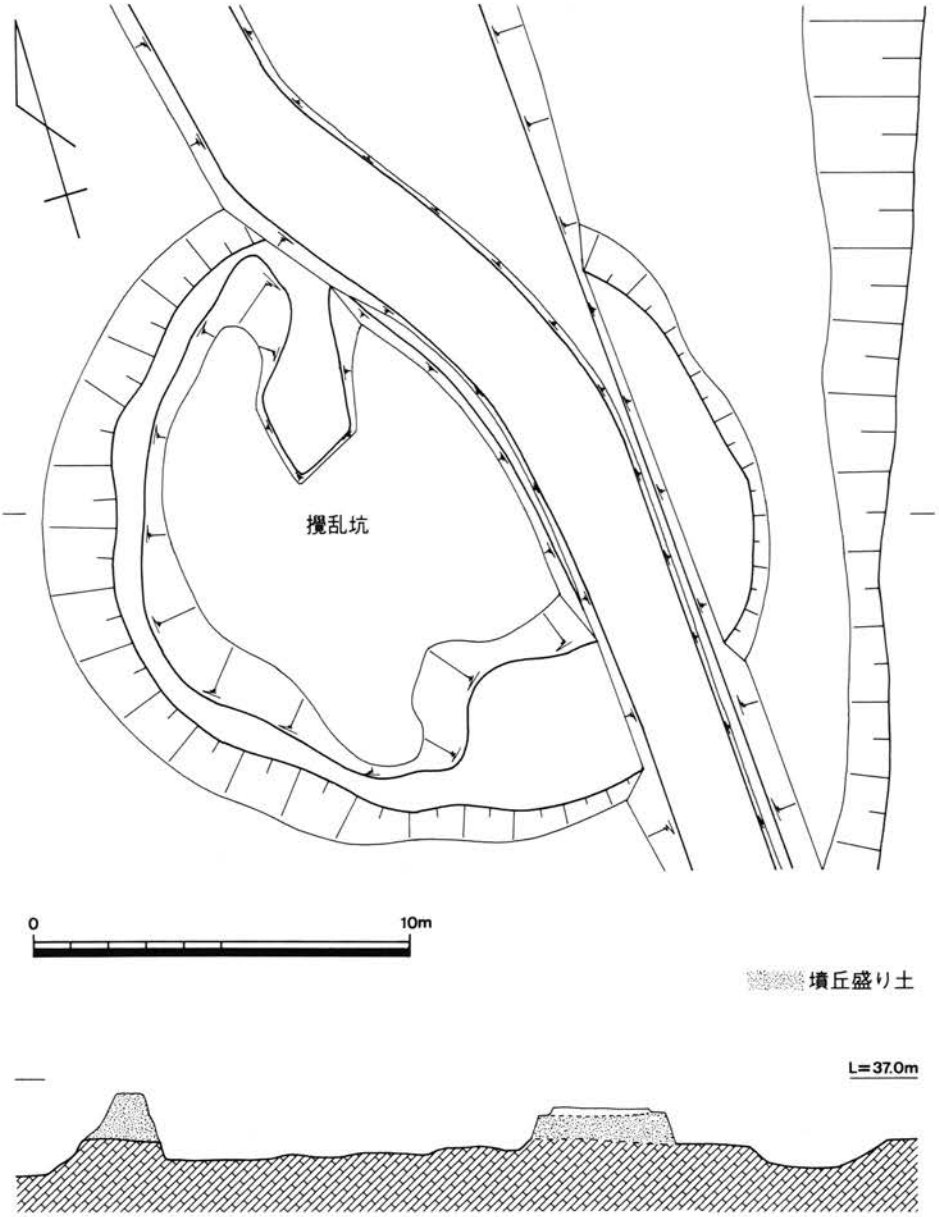
溝ＳＤ09・10　この素掘り溝は、丘陵裾部の小規模な平坦地に設けた第Ⅴ調査区で検出したものである。幅約50～80cm・深さ約20～30cm前後であり、溝底は東から西に緩やかに下がる。溝は古墳時代の竪穴式住居跡に切られているが、ＳＤ09と10は同一溝である可能性が高い。同一溝であるならば、「コ」字状に方形にめぐることから、方形周溝墓に伴う周溝とみてよかろう。後世に削平を受けていることから、埋葬主体部等はすでに失われている。ＳＤ09の埋土中から畿内第Ⅴ様式に属する土器の破片が出土している。

２．古墳時代の遺構

三宅遺跡のなかで古墳時代の遺構と考えられるものは、第Ⅱ調査区を中心に検出した三宅古墳群を構成した古墳に伴う周溝、第Ⅲ・第Ⅳ調査区で検出した土壙群、第Ⅴ調査区検出の竪穴式住居跡である。当初、三宅古墳群は９基の円墳で構成されるとみられていたが、今回の調査で新たに４基の古墳(三宅10～13号墳)の痕跡(周溝部)を検出することができた。

三宅４号墳　三宅古墳群中で唯一現存していた円墳である。直径は約17mであり、現存する墳丘高は基底部より約1.2mを測る。葺石・埴輪等の外部施設は存在しない。墳丘部は南北に農道が走り、埋葬主体部が存在したとみる墳丘中央部は、過去の土取り等で調査以

前から大きく窪んでいた。古墳は第Ⅰ・第Ⅱ調査区にまたがり、古墳の基底部は他の古墳が存在する微高地から西に1段下がった段丘上にある。墳丘は盛り土で築かれていたが埋葬主体部は完全に失われていた。墳丘の西南側にのみ存在する溝ＳＤ13は、微高地と墳丘を切り放した溝とみられる。ＳＤ13は幅約3.7m、第Ⅱ調査区遺構面からの深さは約50cmを測る。



第5図　三宅4号墳実測図

三宅10号墳　第Ⅱ調査区の中央、13F・G区を中心に検出した円墳である。墳丘はすでに失われており、周溝(ＳＤ14)部の検出にとどまった。ＳＤ14は幅約3m・深さ約40cm前後で円形にめぐる。ＳＤ14の内周直径は約16mである。古墳は、弥生時代後期の方形周溝墓上に位置することから、盛り土で墳丘が築かれたことが明らかとなった。埋葬主体部は不明であり、地山面にも痕跡が残っていない。ＳＤ14の東部と北部は、後世の畠作に伴う攪乱を受けている。周溝内には灰黒色粘質土が堆積し、弥生時代後期～古墳時代後期の土器が出土している。墳丘は近世頃には失われていたらしく、墳丘削平後に建物(ＳＢ01・02)が建られている。

三宅11号墳　10号墳の東側に近接して存在する円墳である。10号墳と同様に、墳丘・埋葬主体部を失っている。古墳の全周をめぐっていたとみられる周溝(ＳＤ15)は、大部分が後世の畠作・水田耕作で攪乱されていた。築造当時の周溝は11号墳の南側にのみ残っていた。ＳＤ15は、内側直径約14mで円形にめぐり、幅約3.5m・深さ約20cm前後を測る。周溝内には灰黒色粘質土が堆積し、古墳時代後期の須恵器・土師器のほか、鏡形・人形・船形・ミニチュア土器等の祭祀遺物が出土している。

三宅12号墳　第Ⅱ調査区東南部で検出した円墳である。墳丘と埋葬主体部はすでに失われ、周溝(ＳＤ16)部の検出で終わった。ＳＤ16の内側直径は約20mであり、幅約2.5m・深さ約20cmを測る。ＳＤ16は、方形周溝墓４・５を切って存在しているが、北東部が中世以前の畠遺構(ＳＸ05)で切られている。また、古墳部分は平安時代後期の溝(ＳＤ20)にも切られている。周溝内には黒色粘質土が堆積し、古墳時代後期～中世の土器が出土した。

三宅13号墳　12号墳の西側に近接して存在したとみられる円墳である。他の古墳と同様に墳丘・埋葬主体部を失っており、古墳の北側に周溝(ＳＤ18)を残していた。ＳＤ18以南の古墳域とみている黄褐色粘質土の地山面は、直径約18mの範囲で明色を呈しており、周辺部の地山面とは大きく異なっていた。ＳＤ18は古墳の北東側で弧を描いて存在し、北東部で幅約1mの間が陸橋状に途切れている。溝の東部はＳＸ05に切られて不明であるが、溝底の西端部は緩やかに上がり、全長約13mで終わっている。溝幅は約3m・深さ約20cmを測る。この13号墳は周溝が全周をめぐらず、北東側にのみ溝を掘っていた可能性が高い。古墳の南部は調査範囲外であるため、詳細については不明である。

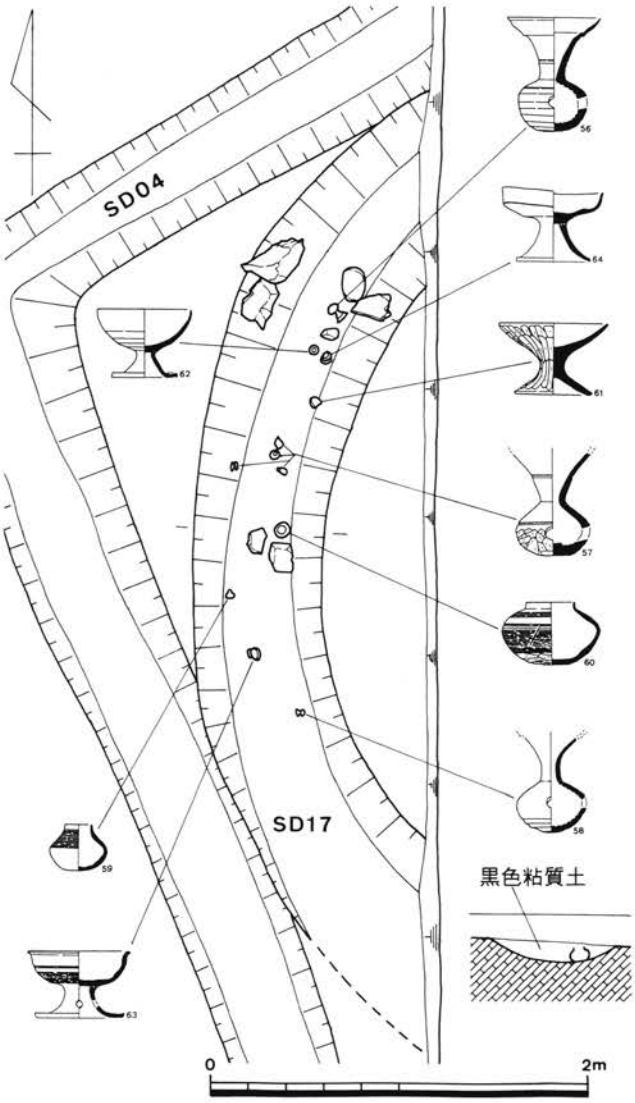
溝ＳＤ17　11H区で検出した弧状の溝である。溝は正円に近いカーブを描いて、西に大きく張り出している。溝幅約80cm・深さ約10cmを測る。溝の南部は11号墳の周溝と接しているが、堆積土が同一であることから切り合いに関しては不明である。溝底付近から一括性の高い須恵器・土師器の出土をみている(図版第17-56～62)。出土遺物には壺３点・高杯４点・短頸壺２点があり、うち高杯１点は土師器であった。これらの遺物は器種構

成・点数等から供献遺物の可能性が高い。この溝は10m程度の直径をもつ円墳の周溝の一部ともみられるが、詳細は不明である。

竪穴式住居跡ＳＨ01

東部丘陵裾に設けた第Ｖ調査区で検出した、古墳時代後期の竪穴式住居跡である(図版第11)。住居跡のプランは方形であり、北壁が調査範囲の外に位置するため、全容が明らかでないが、東西約4.3m・南北約4.5m(推定)の規模と考えられる。壁高は最大で約20cm(東壁)を測る。

丘陵側の東壁中央には馬蹄形の造り付けの竈をもち、竈の東端には南に延びる煙道(ＳＤ19)が取り付く。住居跡の東壁は竈を境に南側が北側に対し約40cm内側に入り込む。この東壁の段差は、竈から住居壁に並走して南に延びる煙道(ＳＤ19)が造られていることに起因している。ＳＤ19は、全長約2.3m・幅約45cm・深さ約5cmの規模を測り、竈の手前には雨水の流入を防ぐ施設とみられる直径約40cm・深さ約3cmの浅い窪みが存在する。竈の上部は削平によって失われていたが、住居床面より約10cm分が遺存していた。竈内中央部は直径約30cmの範囲に焼土が認められるとともに、炭化木・灰の堆積が周囲に認められた。住居跡の底面はほぼ平坦で、４か所に直径約30cm・深さ約30cm前後の柱穴が存在する。



第６図　ＳＤ17実測図

住居跡の西南コーナーには、西南方向に延びる排水溝状の小規模な溝（ＳＤ20）が存在する。ＳＤ20は全長約2.5m・幅約30cm・深さ約10cmを測り、南西端部は西方に曲がりぎみに終わる。

住居跡内から土師質椀（78）と須恵質の杯破片のほか、竈の焚き口付近から土師質甕の体部破片が出土した。また、ＳＤ19から土師質の杯身（77）が出土している。

溝ＳＤ21　ＳＨ01を取り巻くように存在する溝である。溝は住居跡の東側は1.4m、南側では2.5m前後の距離をおく。溝は東側には二重、南側では一重にめぐらせる。溝は幅約40cm・深さ約20～40cmを測る。溝底は平らで南方向に傾斜する。この溝は、住居跡との位置関係から、丘陵から流入する雨水を防ぐ目的をもつ排水溝と判断する。

溝ＳＤ11　第Ⅲ調査区の８Ｉ～８Ｊにかけて存在する、南北方向の素掘り溝である。溝は、方形周溝墓・三宅古墳群の存在する微高地と東部の低地を区画するように、微高地に沿ってカーブを描いている。溝幅約5.5m・深さ約50cmであり、約22mにわたって検出した第Ⅲ調査区以北は、第Ⅳ・第Ⅵ調査区の間を貫けるとみられるが、今回の調査では確認できていない。溝内から少量の土器片が出土しているが、時期を確定するには至らない。溝から東側には土壙墓群が分布しているが、西側には土壙墓が存在しない。このような状況から、このＳＤ11は土壙墓域を区画する溝であり、弥生時代後期～古墳時代初頭頃とみてよかろう。

溝ＳＤ12　第Ⅲ調査区の東端部で検出した、幅約１m・深さ約40cmの素掘り溝である。溝は丘陵の裾を走ることから、墓域に向かって丘陵から流入する雨水を防ぐ排水溝とみれよう。出土遺物はみられない。

土壙墓群　丘陵と微高地に挟まれた低地部から、おびただしい数の土壙墓を検出した。土壙墓は第Ⅲ調査区から384基、第Ⅳ調査区から189基を検出し、総数は573基を数える。このうち、土器が出土する土壙墓は約４割を占め、残る６割の土壙墓は無遺物であった。出土した土器によって年代の確定している土壙墓のうち８基は弥生時代後期であった。他の大多数の土壙墓は庄内式期と考えられるが、少数ながら布留式期（ＳＸ417）・古墳時代後期（ＳＸ174）・鎌倉時代（ＳＸ072）も含まれている。

573基の土壙墓のうち、切り合い関係にあるものは少なく、切り合うことなく単基で存在するものが多数を占める。

土壙墓は、規模・平面形・断面形・埋土等に規格性が無く、多種・多様な様相をもつ。平面形は、楕円形（ＳＸ001等）・円形（ＳＸ007等）・隅丸方形（ＳＸ002等）・隅丸長方形（ＳＸ035等）・方形（ＳＸ030等）・長方形（ＳＸ125等）・半円形（ＳＸ073・540）・隅丸三角形（ＳＸ481・544）・不定形（ＳＸ005等）に大別できる。このうち、楕円形プランをもつもの

が229基(40.0%)と多数を占める。以下、円形が120基(20.9%)・隅丸方形が100基(17.5%)・隅丸長方形が33基(5.8%)・方形が16基(2.8%)・長方形が6基(1.0%)・半円形が2基(0.4%)・隅丸三角形が2基(0.4%)・不定形が65基(11.3%)である。

断面形態は、垂直に近い状態で掘り込んだもの(SX183・303等)、緩やかな角度をもって掘り込まれたもの(SX221・534等)、壁の一部が二段に掘り込まれたもの(SX341・573等)など多彩である。全体的には、墓壙壁の傾斜が緩やかなものが垂直的なものに対して検出例がやや勝り、二段に掘り込まれるものはごくわずかである。墓壙底は、ほぼ水平な例が多数を占めるが、緩やかに傾斜するもの(SX476・527等)、平坦な壙底の一部がさらに一段下がるもの(SX518等)、凹凸が認められるもの(SX221・444等)が存在する。全体的には、水平もしくはやや傾斜するものが多数を占め、壙底が二段もしくは凹凸が認められるものは少数である。楕円形プランを持つ土壙墓では横断面が丸みをもち、船底様を呈するもの(SX549等)もわずかに認められる。

平面規模は、楕円形ではSX428(長軸3.4m・短軸1.9m)が最大で、SX171(長軸0.7m・短軸0.5m)が最小である。円形ではSX360(長径2.7m・短径2.4m)が最大で、SX171(直径0.6m)が最小である。隅丸方形ではSX533(長軸3.3m・短軸2.4m)が最大で、SX077(長軸0.8m・短軸0.8m)が最小である。隅丸長方形ではSX419(長軸4.2m・短軸3.1m)が最大で、SX099(長軸1.2m・短軸0.7m)が最小である。方形ではSX438(長軸2.0m・短軸1.8m)が最大で、SX084(長軸0.6m・短軸0.5m)が最小である。

墓壙の深さはさまざまであり、最も浅い墓壙で約15cm(SX016等)、最も深い墓壙では120cm(SX410)を測る。

墓壙の埋土は、地山層(黄色系・茶褐色系粘質土)の混入したブロック層・茶灰色系粘質土・灰色系粘質土・黒色系粘質土がそれぞれ組み合い、多様なパターンを示している。墓壙埋土は多層系(A)・複層系(B)・単層系(C)に大別できる。さらに土層は組み合わせから多層系では5パターン(a～e)、複層系では4パターン(a～d)、単層系では4パターン(a～d)に細分できる。墓壙埋土のパターンに関しては付表1を参照されたい。

埋土パターンによる各土壙墓は、多層系が400基(69.8%)と大多数を占め、複層系が126基(22.0%)、単層系が47基(8.2%)である。細分にみる埋土パターンでは、多層系のA－aが62基(10.8%)・A－bが77基(13.4%)・A－cが84基(14.7%)・A－dが144基(25.1%)・A－eが33基(5.8%)である。複層系ではB－aが32基(5.6%)・B－bが54基(9.4%)・B－cが16基(2.8%)・B－dが24基(4.2%)である。単層系ではC－aが11基(1.9%)・C－bが17基(3.0%)・C－cが16基(2.8%)・C－dが3基(0.5%)である。

出土遺物としては約4割の土壙墓から、土器もしくは板材の出土をみている。大多数の

付表１　土壙墓群埋土観察表

		上　　層	中　　層	下　　層
A	a	ブロック層	暗灰色粘質土層	ブロック層
	b	暗灰色粘質土層	ブロック層	灰黒色粘質土層
	c	茶灰色粘質土層	暗灰色粘質土層	ブロック層
	d	茶灰色粘質土層	ブロック層	灰黒色粘質土層
	e	ブロック層	暗茶灰色粘質土層	灰黒色粘質土層
B	a	暗灰色粘質土層		ブロック層
	b	茶灰色粘質土層		ブロック層
	c	暗灰色粘質土層		灰黒色粘質土層
	d	ブロック層		灰黒色粘質土層
C	a	暗灰色粘質土層		
	b	暗茶灰色粘質土層		
	c	ブロック層		
	d	灰黒色粘質土層		

遺物は墓壙底か中間層から出土し、埋土上部からの遺物の出土は少ない。

土器の大部分は庄内式併行期に属するものであり、破片での出土が多いが完形品もしくは半完形の大型破片の出土をみる例も多数認められる。完形品の中には底部穿孔を行った甕(25)も存在する。出土した土器は壺と甕にほぼ限定される。このうち壺は２％程度であり、甕が圧倒的な量を占める。甕においては、単純口縁の畿内系と二重口縁の山陰系(在地系)に分かれる。

３．歴史時代の遺構

古墳時代以降の遺構として、第Ⅰ調査区から土坑、第Ⅱ調査区で溝・土坑・畠遺構・建物跡等、第Ⅳ調査区では土坑、第Ⅴ調査区から水路(小河川)跡を検出している。

第Ⅰ調査区

この調査区は段丘の西端部に位置し、南半部は海抜約34m、北半部は海抜約35.7m付近と二段に分かれる平坦地が存在する。上段部の地山は砂礫層であり遺構、遺物の検出はみられない。下段部には三宅４号墳が存在し、墳丘西南側から中世遺物を含む土器溜りを１か所検出した。下段部の地山は黄灰色砂質土層である。

土坑ＳＫ06　長さ約9m・幅約5m・深さ約10cmの不定形な浅い土坑である。土坑底は西から東へ緩やかに傾斜し、西壁部は過去の削平で失われている。須恵器・土師器・瓦器椀等の小破片が出土している。

第Ⅱ調査区

溝ＳＤ22　11Ｊ～12Ｊ地区で検出した素掘りの東西溝であり、溝幅約2m・深さ約

30cm・約11m分を検出した。溝底は西が高く、東に緩やかに傾斜している。溝は東側延長部が第Ⅲ調査区で検出できないことから、微高地の東端裾の第Ⅱ・第Ⅲ調査区間で屈曲するとみられる。地形等からみて溝は南方に延びるものと推定される。溝の埋土中から須恵器の蓋(84)・杯身(92)が、古墳時代遺物に混じって出土している。土器の年代観から、この溝は8世紀末～9世紀初頭頃とみられる。溝は三宅12号墳を切っているところから、12号墳の墳丘は溝ＳＤ22が掘られる以前に失われていたことが明らかである。

土坑ＳＫ01・02　11Ｆ区と11Ｇ区で検出した土坑である。2基ともほぼ同一の規模・形状を呈する。2基の土坑は主軸を東西方向にとり、東端部は調査地外にかかる。ＳＫ02はＳＫ01の真南約8mに位置する。2基とも幅約1.4m・深さ約40cm前後であり、ＳＫ02は長さ約3m分を検出した。ＳＫ01に出土遺物は無いが、ＳＫ02から土師器の皿(105)が出土している。この2基の土坑は関連性があるとみているが、詳細については不明である。

土坑ＳＫ03　13Ｉ区で検出した土坑である。周溝(ＳＤ18)・畠遺構(ＳＸ05)を切っている。円形に近い平面形をもち、直径約4m・深さ約40cmを測り、土坑底は丸く終わる。土師器の細片が出土しているが、時期は不明である。

土坑ＳＫ04　12Ｉ区で検出した楕円形を呈する土坑であり、畠遺構(ＳＸ05)を切っている。全長約7m・幅約5m・深さ約40cmを測る。土坑底は丸みをもって終わる。埋土中から室町時代の年代観をもつ瓦質の羽釜(100)が出土している。

土坑ＳＫ05　調査区西南隅で検出した方形の土坑である。一辺は約2m・深さ約40cmを測る。土坑はＳＸ06の埋土を切って掘られている。埋土中から土師器の細片の出土をみている。近世の野井戸の可能性があるが、詳細は不明である。

畠遺構(ＳＸ03～05)　三宅11号墳周溝部(ＳＤ15)で2か所(ＳＸ03・04)、三宅12号墳周溝部(ＳＤ16)で1か所(ＳＸ05)検出した溝状遺構(畝状遺構)である。最も遺存状況の良好なものはＳＸ05である。

ＳＸ05は、三宅12号墳の北東側周溝部に位置する。周溝部を中心に全長約15m・幅約6mの範囲を10cm程度掘り下げた掘形があり、周溝相当部には掘形に直交する溝状遺構が掘り込まれている。溝は20～3cmの間隔をおいて並列して掘られており、個々の溝は全長約4m・幅約60cm・深さ約20cm前後を測る。溝底は平坦で、地山の下層に広がる円礫層に達している。この溝状遺構は周溝に沿う形でやや弧を描き、各溝間は地山が畝状に残る。北側では溝と畝が整然と並ぶが、中央付近では畝が途中で途切れ、南部になるほど畝の残りが悪くなる。このような溝状遺構は、多くの調査例からみて畠遺構と考えてよかろう。この畠遺構の年代は、掘形内から古墳時代の土器に混じって須恵器の杯身(図版第18-88・94)等が出土していることから、およそ8世紀末～9世紀初頭頃とみている。

ＳＸ03・04もＳＸ05と同様な状況にあることから畠遺構と考える。ＳＸ04に伴う溝の埋土から土製勾玉(133)が１点出土している。11号墳の周溝(ＳＤ15)から鏡形土製品等の祭祀遺物が出土していることから、勾玉は耕作に伴って混入した遺物と考えられる。

ＳＸ06　調査区の西南隅、15Ｉ区で検出した落ち込み遺構である。深さ約15cm程度であり、検出範囲でみる平面形は円形を呈する。底面は北東から南西にやや傾斜する。出土遺物は少なく、須恵器・土師器片に混じって土師器皿(106・108)が出土している。

溝ＳＤ24・25　12Ｅ区～15Ｆ区で検出した、北東から南西に走る素掘り溝である。両溝はともに幅約1m・深さ約15cm前後であり、南北に約4～5m前後の間隔をおいて並走関係にある。やや蛇行するＳＤ24は北東から南西に緩やかに傾斜し、埋土中から須恵器・土師器に混じって13世紀前半頃の瓦器椀の出土をみている。ＳＤ24とＳＤ25は位置関係等から道路に伴う側溝と考えられる。今回の調査では当時の路面を確認できなかったが、三宅10・11号墳の北をかすめて４号墳間を抜ける道路の存在が推定できる。また、この道路はやや南に位置を変えながらも現在にまで残っている。

掘立柱建物跡ＳＢ01　調査区中央付近で検出した総柱の掘立柱建物跡である。東西棟の建物跡であり、過去の削平により北西部の一部を失っている。建物跡は桁行５間×梁間４間であるが、北側梁間２間分の桁行が東に１間分張り出している。柱穴の掘形は一辺が１m前後の方形か長方形を呈し、深さは20cm前後を測る。柱穴掘形の心々間距離にみる建物の規模は、北側桁行が約23.1m(推定)・南側桁行は約19.5m、梁間は約14.1mを測る。各柱穴の心々間は、桁行が約3.9m前後、梁間では約3.5mをもつ。桁行に関しては西端の１間分は約３mと間隔が詰まる。柱穴掘形内から土師質皿(109・110)の出土をみている。建物の方位はＳ－３°－Ｗである。

掘立柱建物跡ＳＢ02　ＳＢ01の南側から検出した、１間×７間の東西に細長い建物跡である。柱穴掘形は方形か長方形を呈し、一辺が80cm前後とＳＢ01の柱穴より小型である。柱穴掘形の心々間距離にみる建物跡の全体規模は、東西約32.5m×南北約3mである。東西７間の柱穴心々間は4m前後の規模をもつ。

ＳＢ01の南端桁行き柱穴列とＳＢ02の北側柱穴列は、約5mの間隔をおいて並走するが、梁間筋はＳＢ02が南にずれる。この２棟の建物跡は規模・形状・位置関係等から、ＳＢ01が母屋、ＳＢ02は牛馬等の畜舎であろう。この２棟は、ともに安土・桃山時代とみられる。

第Ⅲ調査区

５Ｈ・５Ｉ地区から３基の土坑(ＳＫ07～09)を検出している。第Ⅲ調査区では古墳時代初頭頃の土壙墓群を検出しているが、この３基の土坑は他の土壙墓とやや異なる様相を呈している。

３基の土坑は細長い平面形を呈し、ＳＫ07・09は東西方向・ＳＫ08は南北方向に主軸をもち、掘形はほぼ垂直に下がる。ＳＫ07は幅約80cm・深さ約20cm、東部は調査地外に延びるが3m分を検出した。ＳＫ08は幅約1m・深さ約50cm、北部は調査地外に延びるが5.4m分を検出している。ＳＫ09は全長約4.4m・最大幅約1m・深さは約40cmである。ＳＫ09の掘形は西に向かうほど幅広となる。東西方向に主軸をもつＳＫ07・09は約4mの間隔をもって南北に正対するが、ＳＫ07は東にややずれた位置関係にある。ＳＫ08の主軸は、Ｓ－19°－Ｅであり、ＳＫ09とは約30cmの間隔を開ける。土坑は変形「コ」字状に配置され、西側に開口部を向ける。出土遺物としては、ＳＫ09から瓦器椀(99)の出土をみている。

第Ⅴ調査区

この調査区では１Ｆ～２Ｆ区で自然流路(ＳＤ23)を検出した。ＳＤ23は、小規模な蛇行を繰り返す２～３本の細長い水路(幅約0.6～1.2m・深さ約60cm)の集合体である。人工的に掘られた水路ではなく、東部丘陵から流れる自然河川とみられる。埋土中から出土した土器の年代観から、平安時代後期末頃の河川跡とみている。

（竹原一彦）

第３節　出　土　遺　物

今回の発掘調査では、弥生時代中期から近世にかけての土器が出土したほか、石器及び石製品・祭祀に関連した土製品・装飾品等の出土をみている。遺物は遺構の集中する第Ⅱ～第Ⅴ調査区からの出土が多数を占める。なかでも第Ⅲ・第Ⅳ調査区では、土壙墓内から弥生時代終末期～古墳時代初頭頃に属する土器が多量に出土している。第Ⅱ調査区では弥生時代中期・古墳時代後期の土器が多数を占めるが、奈良時代～鎌倉時代の土器もわずかながら出土をみている。奈良時代以降の遺物の大部分は包含層からの出土であり、遺構に伴う例はほとんど認められない。第Ⅴ調査区では弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代の土器の出土をみている。

１．縄文・弥生時代

今回の調査では、第Ⅱ調査区の遺物包含層等から縄文時代とみる石匙・磨石が出土している。石匙(137)はチャート製、磨石(138)は花崗岩製である。縄文土器は出土していない。

弥生時代では、第Ⅱ調査区の２号墓の周溝(ＳＤ01)内から一括性の高い土器の出土がみられた。いずれも畿内第Ⅳ様式の広口壺(１・２)・直口壺(３)・水差し形土器(６)・甕(４・５)である。底部穿孔もしくは底部を欠く例があることから、供献遺物とみれよう。

その他、第Ⅱ調査区では包含層中から壺・甕・脚台の破片とともに、サヌカイト製の打製石鏃(135・136)も出土している。

第Ⅲ・第Ⅳ調査区では、573基にのぼる土壙墓群のうち８基から、畿内第Ⅴ様式の壺・甕の破片が出土している。底部の破片であり器形全体が不明であるが、底部の形状は上げ底もしくは凹底を呈する。

第Ⅴ調査区では溝ＳＤ09内より畿内第Ⅴ様式の把手付き鉢の破片が出土している。

２．古墳時代

各調査区から古墳時代に属する遺物の出土をみている。なかでも第Ⅱ～第Ⅳ調査区からの出土が大多数を占める。出土遺物においては古墳時代初頭頃と後期の２時期に分かれる。

第Ⅲ・第Ⅳ調査区では、573基にのぼる土壙墓群のうち半数近くの土壙墓から、弥生時代終末～古墳時代初頭頃に位置付けられる庄内式期を中心とする土器の出土をみている。器種としてはほぼ壺と甕に限定されるが、１例のみ鉢(35)が認められる。また、比率的には甕の出土が圧倒的多数を占める。土壙墓内出土の土器は特に遺存状況が悪く、硬化処理を施しても原形を保ったままの取り上げができない土器が多数を占める。また、かろうじて取り上げた土器も器表面の調整が不明であったり、原形復原ができない土器も数多い。土壙墓群の出土遺物としては、壺(41～45)・甕(8・14～34・36～40・46～55)・鉢(35)が図化できた。

甕は、口縁部の形状から単純口縁(8・14～30・32・33)と二重口縁(34～36・46～55)の２種に大別でき、比率的には単純口縁甕の出土が多く認められる。形態においては、単純口縁甕に倒卵形の体部に極小な平底をもつものが多い。ＳＸ341出土の甕14は体部の外面はタタキとハケメ調整を併用し、内面はハケメ調整を行っているほか、体部の最大幅を中位付近にもっている。少数例ではあるが、体部内面をヘラケズリするＳＸ518出土の甕(16)も存在する。また、体部の形態・調整を同一にするが、二重口縁をもつ例もＳＸ488出土の甕(36)に認められる。甕25は体部最大幅が上位にあり、分割整形痕を残すとともに外面は全面にタタキを施すことから、庄内式期でも古相をとどめている。ＳＸ156出土の甕(19)は、口縁端が尖がり気味に鋭く立ち上がり、体部もケズリによって薄く仕上げることから搬入品である可能性が高い。

二重口縁甕には、体部が倒卵形を呈するもの(36)と丸みを強めて球形に近いもの(49・50)が認められる。前者は口縁の立ち上がりが外上方にのび、後者は上方に立ち上がる傾向にある。体部の調整では外面にタタキを施すものは稀であり、ハケメ調整を行うものが多い。内面の調整ではヘラケズリを行うものが多数を占め、ＳＸ472出土の甕(34)のみ粗

いハケメを行っている。また、ＳＸ534出土の甕(50)では、唯一口縁部内面をていねいにヘラミガキしている。

壺は、直口壺(41～43)と広口壺(44)の２器種が認められる。ＳＸ562出土の壺43は口縁が緩やかに外反する傾向にある。広口壺44は、口縁が強く外反し、端部は上方につまみ上げ面をつくる。

鉢(35)は二重口縁の鉢であり、口縁部の形状は甕と同様であるが、外上方への突出の度合いが強い。

甕においては、生駒山西麓産のいわゆる庄内式土器の搬入品は認められないが、単純口縁甕は形態・調整手法を模倣したものであろう。二重口縁甕は畿内第Ｖ様式期以降に丹後地域に分布が認められ、山陰地方の影響下にあるものである。受け口状を呈する甕(52・54)は近江地方の影響を受けたものであろう。庄内式期の土器に関しては、胎土・色調・調整等から、出土した壺・甕・鉢の大半は在地産の土器とみられる。

古墳時代後期では、第Ⅱ調査区で検出した三宅古墳群の周溝内から土師器・須恵器・土製品等が出土している。また、第Ｖ調査区においては竪穴式住居跡内から土師器・須恵器の出土をみている。第Ⅱ調査区検出の溝ＳＤ17では甕(56～58)・短頸壺(59・60)・無蓋高杯(61～64)が一括出土している。このうち高杯(61)は土師質であり、他は須恵質焼成である。甕は体部の張り・調整にやや変化が認められるが、口縁部はアクセントを付けてラッパ状に大きく開き、体部は小さく頸部が細い点で共通する。短頸壺は口縁が短く直立し、体部は肩にやや張りをもたせる。大小２器種があり、なで肩となる59は小型品であり、大型の60は体部外面に「メ」のヘラ記号を有する。須恵質の高杯は短い脚が大きく開き、比較的浅い杯部をもつもの(63・64)と、丸みが強く深い杯部をもつもの(62)が存在する。なお、高杯(62)は軟質焼成であり、白灰色を呈する。これらの須恵器は６世紀後半の陶邑編年のⅡ型式５段階とみられる。また、ほぼ同時期の土器として、第Ⅱ調査区三宅古墳群周溝(ＳＤ13～16・18)及び包含層中から高杯・杯身・杯蓋・壺等、第Ｖ調査区の竪穴式住居跡(ＳＨ01)から杯身(77)と椀(78)が出土している。蓋(72・73)は低い天井部をもち、稜も退化していることから、陶邑Ⅱ型式２段階とやや先行し、有蓋壺(67)・杯身(74)は受け部の立ち上がりから、陶邑Ⅱ型式４段階とみられる。

第Ⅱ調査区出土の遺物の多くは古墳の副葬品とみられ、墳丘の削平に伴って周溝部等に混入したものであろう。また、第Ⅵ調査区包含層出土の銀環(132)もいずれかの古墳の埋葬主体部内に存在したものであろう。ＳＨ01出土の杯身(77)は土師質焼成である。　その他、同時期に属するとみられる土製模造品(118～128・131・133)が、11号墳の周溝内から出土している。形態の判別が可能なものには、鏡形(118～121)・人形(123)・船形(124)・

ミニチュア土器(126・127)・勾玉(133)がある。すべて手づくねによる整形である。出土した他の土器とは胎土・色調が異なり、胎土は精良で淡黄褐色を呈する例が多い。これらの土製模造品は古墳の祭祀に関連した遺物であろう。

3．歴史時代

飛鳥・奈良時代の遺物としては、須恵質の鉢(70)・蓋(81・82)・杯(70・71・87)・壺(95)の出土をみている。第Ⅱ調査区遺物包含層の出土が多く、古墳周溝出土の蓋(81・82)は混入遺物とみられる。

平安時代の遺物としては、須恵質の蓋(83～86)・杯(88～94)・皿(96)・瓦器椀(99)・土師質皿(103・111)等の出土をみている。蓋84・杯92は溝ＳＤ20、杯(88・94)は畠遺構ＳＸ05の出土である。平安時代末頃の年代観をもつ瓦器椀(99)は、第Ⅲ調査区の土壙墓群に混じって検出された土坑(ＳＫ08)の出土である。

鎌倉時代以降の土器としては、土師質皿(104～110・112・113)・瓦質の羽釜(100)と鍋(101・102)、白磁椀(114・115)・土師質鍋(116・117)等が出土している。また、土器以外の遺物として硯(134)の出土もみている。平安時代末～鎌倉時代初頭頃の年代観をもつ瓦質鍋のうち、101は古墳周溝の上層部から出土したものである。

個々の遺物の詳細については、遺物観察表(付表３)を参照されたい。

(平松久和)

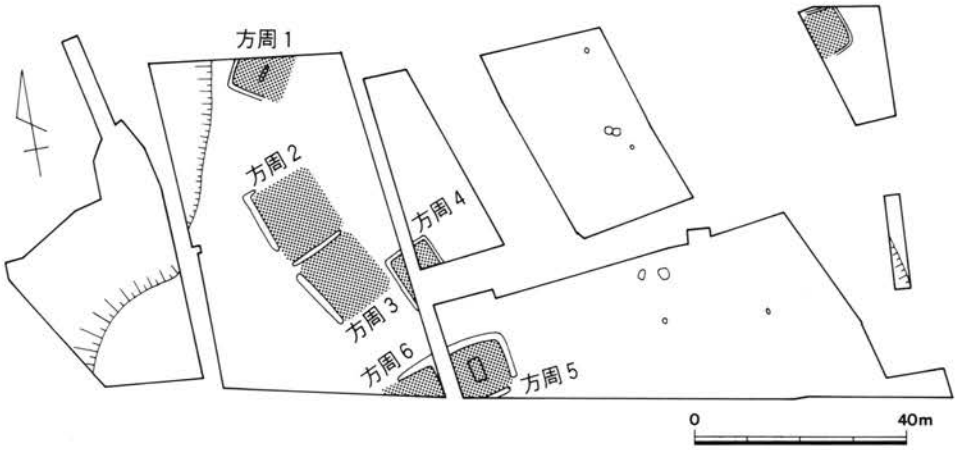
第４節　ま　と　め

今回の発掘調査では、縄文時代・弥生時代(中・後期)・古墳時代(前・後期)・歴史時代(奈良～安土・桃山時代)にかけての遺物が出土し、三宅遺跡が長期にわたって断続的に形成された遺跡であることが明らかになった。代表的な検出遺構としては、弥生時代中期の方形周溝墓群、弥生時代後期末～古墳時代初頭の土壙墓群、古墳時代後期の古墳周溝部など各時期の墓に関する遺構がまとまって確認され、三宅遺跡の性格の一端を明らかにすることができた。

1．縄文・弥生時代

今回の発掘調査では、最もさかのぼる時期として縄文時代とみる石匙・タタキ石の出土をみている。縄文時代に属する土器の出土や遺構の検出がないことから、当地に縄文時代集落が存在する可能性は少ない。ただ、少量ではあるが石器が出土したことは、周辺地域に集落の存在を十分予想させる。

遺構として最も時期のさかのぼるものは、弥生時代中期の畿内第Ⅳ様式に属する土器が



第7図　弥生時代遺構概観図　　（方周＝方形周溝墓）

出土した方形周溝墓群である。この方形周溝墓群は第Ⅱ調査区を中心に検出したものであり、段丘上では比較的高所に築かれている。周溝墓の立地する微高地は、段丘の西縁部をほぼ南北に走り、調査地付近が北端に位置する。周溝墓群は微高地の東縁に沿うように、北西から南東方向にかけて分布する状況が読み取れる。

検出した6基の方形周溝墓のうち5基は軸線を座標北から西に12～32°振るが、北端で検出した方形周溝墓1のみ軸線が東に約36°振る。また、周溝も溝が全周をめぐるもの（4号墓）、一隅が途切れるもの（5号墓）、四隅が途切れるもの（2号・3号墓）など多様な形態の方形周溝墓が混在している。このような方形周溝墓のあり方は、時期・階層等の差を示している可能性がある。

方形周溝墓は、近接する周溝墓と周溝の一部を共有するものと、単独に存在するものが認められる。周溝の共有は2号・3号墓と5号・6号墓にみられ、1号・4号墓は単独で存在する。また、平面規模においては単独の周溝墓がやや小型傾向にある。溝を共有する2号・3号墓は南北方向、5号・6号墓は東西方向に連なり、2基1組の小群構成が認められる。これは、被葬者間の近親関係を表しているともみられよう。

弥生時代後期に入ると、第Ⅲ・第Ⅳ調査区において墓とみている土壙が築かれ始める。畿内第Ⅴ様式期とみる土壙はわずか8基を確認したにすぎないが、爆発的に増加するのは弥生時代終末期から古墳時代初頭頃にかけてである。方形周溝墓と土壙墓にみる埋葬形態の差は、その分布域においても大きく異なる。前者は微高地上に、後者は低地に分布する状況が読み取れる。これは両者の墓には時期差があることを念頭においても、階級差による墓域の規制があったことを如実に物語るものであろう。

今回の調査範囲内では弥生時代の住居跡が存在せず、集落域を検出することはできなか

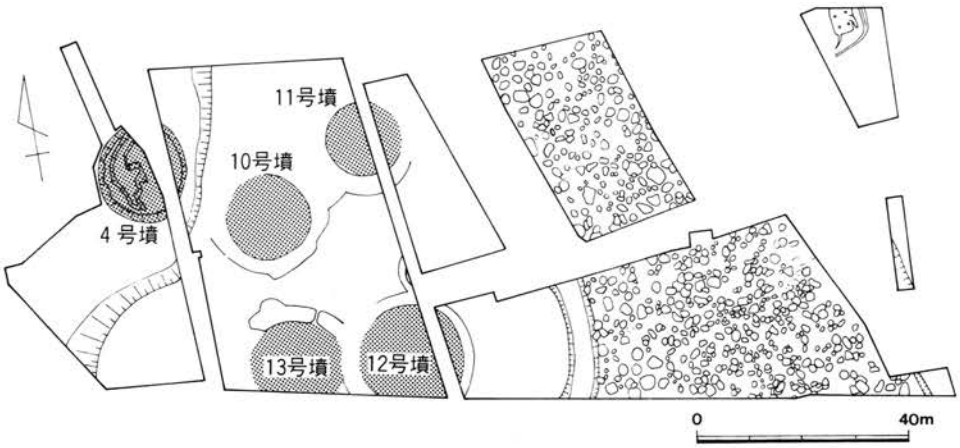
った。調査地の北東側は台地が広がり、現在の式内「赤国神社」の境内を中心に館遺跡が存在する。館遺跡は畿内第Ⅳ・第Ⅴ様式期を中心とする遺跡であり、土器・石斧・砥石・鉄滓等が出土している[注3]。館遺跡は、調査地との距離が約500mと近接し時期もほぼ合致することから、今回検出の方形周溝墓や土壙墓を築いた被葬者の集落である可能性が高い。

2．古墳時代

古墳時代の遺構は、第Ⅱ調査区を中心に三宅古墳群を構成する円墳の周溝、第Ⅲ・第Ⅳ調査区において弥生時代後期から続く土壙墓群、第Ⅴ調査区で竪穴式住居跡を検出した。遺物は古墳周溝及び土壙墓に伴う出土が多数を占める。

土壙墓群は第Ⅲ・第Ⅳ調査区に集中して分布する。この地点は、東西を以久田野丘陵と段丘縁辺部の微高地に挟まれた段丘上でも低位置にあたり、北から南に緩やかに下る傾斜面である。573基にのぼる土壙のうち、土器等の遺物が出土した237基の土壙の大多数は庄内併行期とみられ、布留式期・古墳時代後期も小数例存在する。土壙の平面形はさまざまであるが、おおむね楕円形・円形・隅丸方形が多数を占め、溝底も平坦もしくは緩やかな船底状を呈するものが多い。土壙埋土は幾つかのパターンに大別可能であり、人為的な埋め戻しと考えられるものも多数存在する。すべての土壙が同一の性格であるとはいえないが、第Ⅳ調査区ＳＸ472・518・525の埋土中から高等生物由来のステロールが高い価で検出されたほか[注4]、ＳＸ573から底部穿孔をもつ甕の出土、甕の出土比率が高く完形品も多いことなどから、土壙墓と考えられる。

古墳時代後期では第Ⅱ調査区で円墳が相次いで築造される。唯一墳丘を残していた４号墳は中央部が失われ、墳丘外縁部がかろうじて遺存していた。また、調査範囲内で検出し



第８図　古墳時代遺構概観図

た4基の円墳も墳丘がすでに失われ、周溝部の調査で終了した。円墳の墳丘は盛り土によって構築されており、直径は14～20前後を測る。周溝内の出土遺物から古墳時代後期の年代観がえられている。墳丘高及び埋葬主体部に関しては不明である。

三宅古墳群は、調査地の南約180m付近に存在した1号墳(荒神塚古墳)を盟主墳とし、今回新たに検出した4基を含め13基ほどの円墳で構成されていたことが明らかとなった。古墳の多くは平安時代頃から破壊を受けており、古墳の立地する段丘縁辺部の今後の調査によっては、さらに幾つかの古墳が検出される可能性が高い。

古墳以外では、第Ⅴ調査区から7世紀前半の竪穴式住居跡(ＳＨ01)1基を検出することができた。住居跡は外部に溝をめぐらせるとともに住居跡の南西隅に排水溝を設けている。これは丘陵斜面に近接した立地条件から、常に雨水等の流入の危険性が高かったことに起因するものであろう。また、ＳＨ01は方形竪穴式住居跡の東壁中央に竈をもち、竈以南の東壁は内側に入り込む。綾部市域では古墳時代末～飛鳥時代にかけて、方形竪穴式住居跡の東南隅を掘り残し竈を築く「青野型住居跡」[注5]の分布が認められ、ＳＨ01もその類型に属するものである。ＳＨ01は竈が東壁中央に位置し、住居壁部の掘り残しも小規模であることから「青野型住居跡」の初原形態とみられる。

以上のことから、古墳時代においては前期初頭の段階で、段丘面の低地に庶民墓と考えられる多数の土壙墓群が築かれる。土壙墓群はＳＤ11を西限とし、西の微高地部に同時期の遺構の分布がみられないことから、ＳＤ11は微高地と土壙墓による墓域を画する性格をもつものであろう。微高地域には同時期の遺構が存在しないが、立地条件及びＳＤ11による規制等からみて、微高地部が居住域であり南に集落が展開している可能性がある。

古墳時代後期には微高地部に三宅古墳群が築かれ、北端部の調査地周辺にも円墳が相次いで築かれる。荒神塚古墳は昭和36年の茶園造成により破壊されたが、多種・多様な副葬品が出土している[注6]。荒神塚古墳は直径約15m×高さ約3mの円墳(5世紀末)であり、埋葬主体部として2基の粘土槨が存在した。副葬品としては、仿製内行花文鏡・横矧板鋲留短甲・金銅製馬具・直刀・鉄鏃・刀子・鎌・鋤先・鉇・のみ・鉄斧・須恵器・土師器が出土している。荒神塚古墳とともに破壊された2号墳(木棺直葬？)では直刀・鉄鏃・鉄斧・鋤先・刀子・須恵器・土師器、3号墳では直刀・須恵器の出土をみている。荒神塚古墳の副葬品のうち短甲は、この地域では5世紀中葉に比定される綾部市聖塚古墳[注7]・私市円山古墳[注8]に類例があるのみで、金銅製馬具も6世紀後葉に比定される福知山市牧弁財古墳[注9]・奉安塚古墳[注10]が知られる程度である。鏡・短甲・馬具に代表される豊富な遺物を副葬した荒神塚の被葬者は、この地域でも傑出した地位をもつ一首長とみられる。今回調査した4号墳・10～13号墳の被葬者も、荒神塚古墳の被葬者一族の系譜を引くと考えられよう。

今回調査を行った４号墳・10号墳～13号墳は埋葬主体部を完全に失っており、良好な遺物の出土をみないことから時期確定にいたらない。周溝内及びＳＤ17出土の須恵器の年代観から６世紀末頃と推察されるが、各古墳間に大きな時期差はないとみられる。各古墳の築造順位は、周溝の切り合い関係から13号墳→12号墳の流れが追えるが、４号墳・10号墳・11号墳に関しては後世の攪乱等により不明である。

周辺地域では、総数120基を越える以久田野古墳群(注11)（５世紀後半～７世紀前半）が東の丘陵上に展開する。およそ9～10の支群によって構成され、首長墳とみられる５基の前方後円墳が存在するが、群を構成する多くの古墳は円墳である。各古墳の埋葬主体は粘土槨・木棺直葬・横穴式石室とさまざまな様相をもつ。以久田野古墳群造営集団は、由良川北岸及び犀川下流域に直接的な基盤が求められ、周辺地域までも支配下に置く有力集団と考えられる。三宅遺跡の東側丘陵上にはほぼ５世紀前半～後半にかけて、木棺直葬を埋葬主体とする福垣北古墳群が築かれる。福垣北古墳群(注12)に関しては、先の以久田野古墳群の支群と考えられている。５世紀後半～６世紀後半には館集落の北側丘陵部に木棺直葬や横穴式石室を埋葬主体とする高谷古墳群(注13)が築かれる。

三宅古墳群は、埋葬主体部の構造の上で以久田野古墳群との関連性が認められるが、その立地条件が大きく異なり、前方後円墳にみる首長墓が含まれない。このことから三宅古墳群造営集団は、以久田野古墳群造営集団の影響下にありながらも独自の集団を形成していたものであろう。

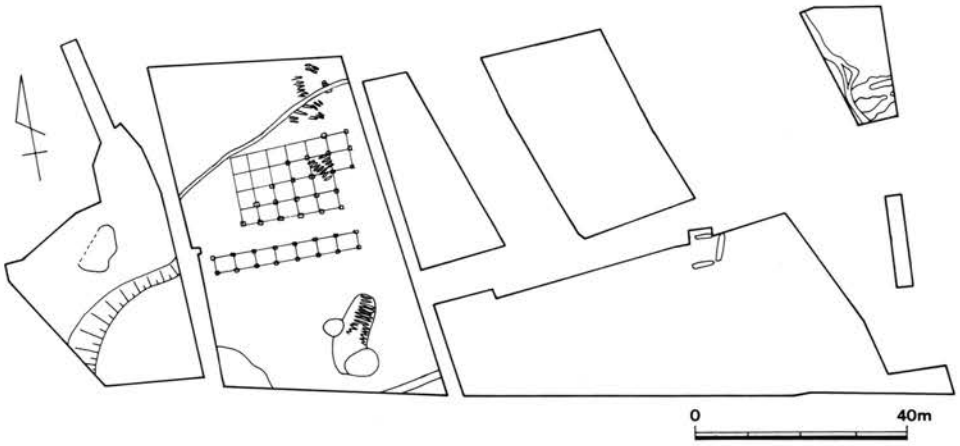
古墳時代後期の集落は、丘陵裾から北東に弧状に張り出す小規模な台地の南端部で竪穴式住居跡を検出したことから、第Ｖ調査区の北に展開するものと予想される。館遺跡の赤国神社周辺部では、これまでのところ古墳時代の集落が検出されていないが、立地条件・出土遺物から同時期の中心的な集落が営まれたことが濃厚である。赤国神社とＳＨ01検出の台地間は小さな谷によって隔たることから、ＳＨ01は館遺跡の中核部から離れた支群を構成する住居跡である可能性が高い。

遺物では、11号墳の周溝内から手づくねの土製模造品の出土をみている。これは石製模造品の盛行の後をうけて古墳時代後期を中心に、全国的にみられる祭祀遺物である。形態の判別できるものとして鏡・勾玉・人・舟・土器の意匠があるほか、器種不明の土製品も数点認められる。なかでも鏡形土製品は鈕を円盤面からつまみだし、孔を貫通させるものである。鏡面は凸面に調整し、かなりていねいに作られている。出土した土製品中では鏡形が４点ともっとも多く、次いでミニチュア土器が２点、他は各々１点の出土である。これらのうち勾玉のみ完形で出土したが、他はいずれも一部を欠いている。これは祭祀に伴う何らかの意義において、土製模造品の破砕行為があったことを物語ろう。

京都府内における鏡形土製品の出土例は、綾部市野崎３号墳周溝内出土[注14]の１点があり、三宅遺跡で２例目となった。野崎３号墳では、周溝の陸橋付近から鏡形・馬形・獣形・ミニチュア土器が出土しており、時期・出土遺構・出土品の構成等に三宅遺跡との共通性が認められる。鏡形土製品類の出土は集落関連遺跡(住居跡)及び祭祀遺跡の出土が多数を占め、古墳に伴う出土は福岡県五穀神山古墳・同県剣塚２号墳・鳥取県青木遺跡Ｂ地区古墳周溝例があげられる程度である[注15]。また、青木遺跡例は三宅11号墳・野崎３号墳と同様に古墳周溝部の出土で、祭祀における共通性が認められる。三宅・野崎・青木遺跡例は遺物の出土状況等から、葬送儀礼に伴うものとみるよりも、一定時間経過後の追善供養的な性格もつものと考えてよかろう。

３．歴史時代

第Ｖ調査区を除く調査地周辺は、弥生時代後期から古墳時代後期にかけて常に墓域であったが、三宅古墳群築造を最後に墓域としての利用が終焉を迎える。奈良時代以降は、安土・桃山時代の掘立柱建物跡を除き、特に顕著な遺構の検出がみられず、遺物の出土も総じて少ない。第Ⅱ調査区では、古墳の周溝部堆積土を利用して畠作が行われたことが判明している。古墳周溝内の地山面に残る畝状遺構(ＳＸ03～05)は、これまでの調査例から畠遺構として認識されるものである[注16]。畠遺構は古墳周溝部に限定されることから、時期は古墳の墳丘削平以前とみられよう。溝(ＳＤ22)は12号墳の墳丘削平後に掘られていることから、12号墳の墳丘削平はおよそ平安時代前期以前と考えられる。また、10号墳と11号墳の墳丘削平は、掘立柱建物跡２基の存在と周溝内上層から瓦質鍋(101)が出土したことから、およそ安土・桃山時代頃と考えてよかろう。



第９図　歴史時代遺構概観図

三宅遺跡の歴史時代を考えるうえで無視できないのは、「三宅」という地名である。この地名が残ることから、三宅遺跡では「屯倉」あるいは「郡衙」などの古代の地方官衙に関連する遺構の検出が予想されていたのであるが、調査範囲内では残念ながら検出することができなかった。本遺跡の存在する綾部市域は古くは「何鹿(いかるが)郡」に含まれ、三宅のほか「漢部・八田・物部・唐部・草壁・弓削・日置」など、古代の部民制と結び付く地名が数多く残る。また、「和名抄」にみえる何鹿郡の郷は、「賀美・拝師・八田・吉美・物部・吾雀・小幡・高殿・私部・栗村・高津・志麻・文井・漢部・余戸・味方」の16郷であり、三宅地区は栗村郷に含まれる。高殿郷の位置については明確ではないが、舘集落付近に求める説が有力であり、三宅地区はもと高殿郷に含まれていた可能性が出ている[注17]。「高殿」は「館」に通じるところから、赤国神社周辺域に地方豪族の居館の存在を示唆するものであるのかもしれない。また、荒神塚古墳に代表される三宅古墳群の被葬者は、豊富な副葬品・立地条件等から舘遺跡と密接な関係をもつと考えられる。

（竹原一彦）

付表２　土壙墓観察表

地区	遺構番号	平面形	規模（）現存値 縦･横･深（m）	出土遺物（遺物番号）	備考
３Ｉ	ＳＸ００１	楕円形	1.1×(0.8)×0.35		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗灰色・茶灰色の粘質土ブロック。土壙東部は調査地外に延びる。
	ＳＸ００２	隅丸方形	1.7×1.4×0.5		埋土はＡ-ａ。下層は白黄色粘質土ブロック。ＳＸ071に切られる。
	ＳＸ００３	楕円形	3.0×1.2×0.5		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗灰色・茶灰色の粘質土ブロック。土壙底部は丸みをもつ。ＳＸ004を切る。
	ＳＸ００４	楕円形	1.3×(0.5)×0.25	甕３体部破片	埋土はＢ-ａ。下層は黄色・暗灰色の粘質土ブロック。ＳＸ003・083に切られる。
３Ｊ	ＳＸ００５	不定形	2.0×1.7×0.4	甕体部破片	埋土はＡ-ｂ。下層は灰黒色粘質土。ＳＸ110に切られるがＳＸ006を切る。
	ＳＸ００６	不定形	2.9×(1.4)×0.4	甕体部破片(8)	埋土はＡ-ａ。上層・下層は黄色・暗灰色・茶灰色粘質土ブロック。ＳＸ110・005に切られる。土壙底は平らである。
	ＳＸ００７	円形	1.1×1.0×0.4	甕体部破片	埋土はＣ-ｂ。
	ＳＸ００８	円形	1.3×1.2×0.3	甕底部破片	埋土はＡ-ｃ。中層は黄色･暗灰色粘質土ブロックＳＸ009・010を切る。
	ＳＸ００９	楕円形	1.6×(1.1)×0.3		埋土はＢ-ｂ。下層は白黄色・暗灰色粘質土ブロック。ＳＸ008に切られる。
	ＳＸ０１０	隅丸方形	1.0×(0.7)×0.25		埋土はＣ-ａ。ＳＸ008に切られる。
	ＳＸ０１１	楕円形	0.8×0.6×0.2		埋土はＣ-ｂ。土壙底は丸くおわる。
	ＳＸ０１２	隅丸方形	1.1×0.9×0.3		埋土はＢ-ｂ。下層は黄色・白黄色粘質土のブロック。
	ＳＸ０１３	円形	1.4×1.3×0.3	甕破片	埋土はＡ-ａ。土壙底は平ら。ＳＸ014・015を切る
	ＳＸ０１４	隅丸方形	(0.8)×1.0×0.25		埋土はＢ-ｂ。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。ＳＸ013に切られるが、ＳＸ015を切る。
	ＳＸ０１５	隅丸方形	(1.0)×0.9×0.2		埋土はＣ-ａ。ＳＸ013・014に切られる。
	ＳＸ０１６	楕円形	1.7×0.9×0.15		埋土はＣ-ａ。土壙底は丸く終わる。黄色粘土ブロックを少量含む。
	ＳＸ０１７	隅丸方形	1.1×1.1×0.4	甕２体部・底部破片	埋土はＡ-ａ。土壙底は平ら。最上層に茶灰色粘質土層。庄内式期。
	ＳＸ０１８	円形	1.4×1.3×0.3		埋土はＢ-ｂ。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。ＳＸ022を切る。
３Ｋ	ＳＸ０１９	楕円形	1.3×0.7×0.2		埋土はＢ-ｂ。ＳＸ020を切る。下層は黄色・白黄色・黒色粘質土のブロック。
	ＳＸ０２０	楕円形	(1.3)×0.7×0.2		埋土はＡ-ｄ。ＳＸ019に切られる。中層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。
	ＳＸ０２１	隅丸方形	0.9×0.7×0.35		埋土はＡ-ｃ。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	ＳＸ０２２	円形	1.5×1.2×0.35	甕２体部上半半個体	埋土はＡ-ａ。ＳＸ018に切られる。庄内式期。
	ＳＸ０２３	楕円形	2.3×1.2×0.4		埋土はＡ-ａ。土壙底は平ら。下層は白黄色・暗灰色粘質土のブロック。

3K	SX024	楕円形	1.6×1.3×0.35		埋土はA-c。SX025を切る。下層は黄色・黒色粘質土のブロック。
	SX025	隅丸方形	1.8×1.5×0.2		埋土はA-d。SX024に切られる。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX026	楕円形	1.3×0.8×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・黒色粘質土のブロック
	SX027	円形	0.8×0.7×0.25		埋土はA-c。下層は茶灰色・黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX028	隅丸方形	1.9×1.6×0.35	壺体部・甕口縁	埋土はA-a。上層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄灰色粘質土のブロック。
	SX029	不定形	1.5×1.2×0.35		埋土はA-b。土壙底は丸く終わる。中層は黄色・茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX030	方形	1.9×1.7×0.25	甕体部破片	埋土はA-b。土壙底は平ら。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX031を切る。
	SX031	隅丸方形	1.6×1.1×0.35		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX030に切られる。
	SX032	円形	1.0×1.0×0.25		埋土はB-c。
	SX033	隅丸方形	1.9×1.7×0.45		埋土はA-e。上層は茶褐色・黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX034	円形	1.5×1.3×0.4		埋土はA-e。上層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。SX036を切る。
	SX035	隅丸長方形	2.7×2.1×0.3	甕2体部と底部	埋土はA-a。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX036・037を切る。上層に土器。庄内式期。
	SX036	隅丸長方形	2.5×(1.0)×0.45		埋土はA-c。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX034・035に切られる。
	SX037	楕円形	2.1×1.5×0.4	甕底部	埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。SX035に切られる。庄内式期。
	SX038	円形	1.6×1.2×0.35	甕体部破片	埋土はC-b。SX039を切る。
	SX039	不定形	1.9×(0.9)×0.3	甕体部破片	埋土はB-b。下層は茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX038に切られる。
3L	SX040	楕円形	2.2×1.2×0.55		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
2L	SX041	隅丸長方形	2.2×1.4×0.5		埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。
2K	SX042	隅丸方形	1.6×(0.6)×0.5		埋土はA-a。上層は黄色粘質土ブロックを少量含む。下層は黄色・灰黒色・白黄色粘質土のブロック。SX044を切る。土壙北部は調査地外。
	SX043	円形	1.2×(1.0)×0.55		埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX044を切る。土壙北部は調査地外。
	SX044	楕円形	1.5×1.2×0.55	甕(24)	埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX042・043に切られる。
	SX045	楕円形	(2.7)×2.0×0.65		埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
4H	SX046	不定形	1.4×(1.2)×0.5		埋土はA-b。土壙北部は調査地外に延びる。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX047	隅丸方形	1.5×1.3×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX048	円形	0.8×0.6×0.45		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。

4 H	SX049	円形	1.6×1.4×0.45	甕2体部上半半個体	埋土はB-b。下層は白黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX050を切る。
	SX050	不定形	2.0×(1.2)×0.4		埋土はB-b。下層は白黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX049に切られる。
	SX051	隅丸方形	1.5×1.1×0.45		埋土はB-a。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX052	隅丸方形	1.1×0.9×0.3		埋土はA-e。上層は白黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。
4 I	SX053	円形	1.2×1.2×0.45		埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
	SX054	円形	1.8×1.6×0.35	甕体部破片	埋土はA-e。上層は暗茶灰色・黄色粘質土のブロック。SX055を切る。
	SX055	楕円形	1.8×(1.0)×0.35	甕2個体	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX054に切られる。
	SX056	楕円形	2.1×1.1×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX057を切る。
	SX057	楕円形	0.5×(0.6)×0.2		埋土はC-b。SX056に切られる。土壙東部は調査地外。
	SX058	隅丸方形	1.3×1.1×0.4	甕3体部破片	埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
5 I	SX059	隅丸長方形	2.9×1.0×0.55		埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
4 I	SX060	方形	1.2×1.0×0.3		埋土はC-a。
	SX061	楕円形	1.4×1.1×0.45	甕体部破片	埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX062	隅丸方形	2.1×1.9×0.65	甕体部破片(37)	埋土はA-c。下層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。
	SX063	楕円形	1.5×1.2×0.4	甕2体部破片	埋土はA-e。上層は茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
	SX064	円形	1.1×1.0×0.55	甕体部破片	埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX184・067を切る。
	SX065	隅丸長方形	2.0×1.2×0.45	甕2口縁・体部	埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX066を切る。甕のうち1点は二重口縁。
	SX066	隅丸方形	1.6×(1.0)×0.4	甕2体部破片	埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX065に切られる。
	SX067	楕円形	2.1×(1.3)×0.4	甕2口縁・体部破片	埋土はA-a。上層は暗茶褐色・暗灰色粘質土。下層は黄褐色・暗灰色粘質土のブロック。SX064・066に切られる。
	SX068	楕円形	1.3×1.0×0.1		C-c。土層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX069	不定形	2.0×1.6×0.35	甕体部破片	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX070を切る。
	SX070	隅丸長方形	(1.1)×0.7×0.1		埋土はC-b。SX069に切られる。
	SX071	楕円形	1.6×1.0×0.35		埋土はA-b。SX002を切る。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX072	円形	1.5×1.4×0.4	甕体部破片・瓦器片	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。鎌倉時代か？
	SX073	半円形	0.5×0.3×0.1		埋土はC-a。

4 I	SX 074	不定形	2.2×1.2×0.45	甕口縁部	埋土はA-b。中層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX075を切る。
	SX 075	楕円形	1.8×(0.8)×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX074に切られるが、SX076を切る。
	SX 076	不定形	2.0×1.5×0.5		埋土はA-a。ほぼ黄色・灰黒色粘質土のブロック層。中層に薄い灰黒色粘質土層を挟む。土壙底は平らであるが、一部に凹凸あり。
	SX 077	隅丸方形？	0.8×0.8×0.15		埋土はC-b。SX078を切る。
	SX 078	不定形	1.8×1.5×0.5	甕体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX077に切られる。
	SX 079	楕円形	1.3×1.0×0.4	甕体部破片	埋土はA-e。上層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX 080	楕円形	2.5×1.7×0.5		埋土はA-c。下層は白黄色・暗灰褐色粘質土ブロック。SX081を切る。土壙底はやや丸みをもつ。
	SX 081	隅丸方形	1.4×(0.9)×0.15	甕口縁部	埋土はA-b。中層に薄い粘土ブロック。
	SX 082	不定形	1.2×0.8×0.3		埋土はA-a。上層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 083	楕円形	1.7×1.3×0.5	甕体部破片	埋土はB-a。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。甕は体部上半部分が出土。
4 J	SX 084	方形	0.6×0.5×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 085	隅丸方形	1.0×0.8×0.2	甕体部破片	埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX084に切られるが、SX086を切る。
	SX 086	隅丸方形	0.8×0.8×0.2		埋土はB-b。下層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX085に切られる。
	SX 087	隅丸方形	1.1×1.0×0.3		埋土はB-c。
	SX 088	楕円形	1.3×0.7×0.35		埋土はC-b。
	SX 089	隅丸方形	1.9×1.5×0.5	甕底部２	埋土はB-b。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX090・096を切る。庄内式期。
	SX 090	隅丸長方形？	(1.7)×1.3×0.4	甕口縁	埋土はA-a。最上層に暗茶褐色粘質土層。上層・下層は黄色・暗灰色・茶褐色粘質土のブロック。二重口縁甕。
	SX 091	円形	1.1×1.1×0.5	甕体部破片	埋土はB-a。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層の上面に土器片。SX092・093を切る。
	SX 092	楕円形	1.1×(0.9)×0.3		埋土はB-b。下層は黄色・白黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX091に切られる。
	SX 093	楕円形	1.3×(0.9)×0.2	甕２体部破片	埋土はB-b。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX091に切られる。
	SX 094	楕円形	2.2×1.7×0.45		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に土器。
	SX 095	円形	1.7×1.6×0.45		埋土はB-b。下層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。

4 J	SX 096	円形	2.2×2.0×0.65		埋土はA-a。上層は暗茶褐色・黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX089・095・097に切られる。
	SX 097	隅丸方形	1.7×1.5×0.5		埋土はA-a。上層は暗茶褐色・黄色・暗灰色粘土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX096を切る。
	SX 098	隅丸長方形	1.8×1.4×0.35	甕底部	埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX100を切る。
	SX 099	隅丸長方形	1.2×0.7×0.3	甕4個体破片 壺底部(11)	埋土はA-b。中層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層から土器。二重口縁甕2・単純口縁甕2。
	SX 100	楕円形	(1.3)×1.2×0.45	甕体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙上端をSX098に切られる。
	SX 101	円形	1.0×0.8×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX102を切る。
	SX 102	楕円形	1.6×(1.1)×0.45	甕体部破片	埋土はA-c。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 103	楕円形	1.3×1.2×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX104を切る。
	SX 104	隅丸方形	1.1×1.0×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX103に切られるが、SX105を切る。
	SX 105	隅丸方形	(0.9)×0.8×0.4		埋土はA-e。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX104に切られる。
	SX 106	円形	1.1×1.1×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX107を切る。
	SX 107	円形	1.1×1.0×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX106に切られる。
	SX 108	楕円形	1.4×1.0×0.3		埋土はA-a。上層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 109	楕円形	2.0×1.0×0.3	甕2口縁と体部	埋土はA-a。上層は暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX110を切る。
	SX 110	不定形	(1.7)×1.5×0.3		埋土はB-a。下層は黄色・黒灰色粘質土のブロック。SX109に切られるが、SX005・006を切る。土壙底は平ら。
	SX 111	楕円形	2.0×1.2×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX112を切る。
	SX 112	不定形	1.6×1.4×0.3	壺体部下半半個体	埋土はA-b。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙上端をSX111に切られる。土壙底は丸みをもつ。下層から土器。
	SX 113	方形	1.2×1.0×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 114	不定形	1.9×1.1×0.3	甕体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。庄内式期。
	SX 115	不定形	1.9×1.4×0.35		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底には小さな凹凸あり。
	SX 116	方形	1.3×1.1×0.25	甕体部破片	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層上面に土器。庄内式期。
	SX 117	円形	0.8×0.8×0.3	甕体部破片	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層中に土器。

4 J	SX 118	隅丸方形	1.1×1.0×0.3	甕(47)	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX119を切る。
	SX 119	方形	(1.0)×1.0×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX118に切られる。
	SX 120	不定形	1.8×1.2×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。
5 J	SX 121	円形	0.9×0.9×0.3		埋土はB-c。下層に小さな粘土ブロックを含むSX122を切る。
4 K	SX 122	楕円形	1.6×1.4×0.5		埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX121に切られる。
4 J	SX 123	円形	0.7×0.7×0.25		埋土はB-a。下層は茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX124・125を切る。
4 K	SX 124	楕円形	1.2×1.0×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX123に切られるが、SX125を切る。
	SX 125	長方形	1.1×0.7×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX123・124に切られる。
	SX 126	隅丸方形	1.2×0.8×0.3		埋土はA-c。下層は黄色粘質土ブロックに黒色粘質土を少量含む。
	SX 127	楕円形	1.1×1.0×0.3		埋土はB-a。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙底はやや丸みをもつ。
	SX 128	円形	1.2×1.1×0.4	甕2体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底から土器。
	SX 129	楕円形	1.8×1.5×0.45	甕体部破片	埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。壁の立ち上がりは緩やかで、土壙底は平らである。下層中から土器。
	SX 130	楕円形	1.1×0.8×0.25	甕体部破片	埋土はB-a。下層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 131	楕円形	0.8×0.5×0.15		埋土はC-c。
	SX 132	楕円形	1.2×1.0×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。SX133を切る。
	SX 133	隅丸方形	1.1×(0.9)×0.2		埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX132に切られる。
	SX 134	不定形	1.6×1.3×0.25	甕2体部破片	埋土はA-e。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層上面に土器。
	SX 135	隅丸長方形	1.8×1.2×0.3	甕	埋土はC-b。土壙底は平ら。土壙底に接して土器。庄内式期の甕上半部半個体。
	SX 136	楕円形	1.7×1.3×0.3		埋土はA-c。中層は灰黒色粘質土。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX137を切る。
	SX 137	不定形（円形）	2.0×1.7×0.4	甕	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX136に切られる。
	SX 138	隅丸長方形	2.0×0.8×0.4		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。
	SX 139	不定形	1.9×1.4×0.45		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX140・142・143・144を切る。
	SX 140	楕円形	2.2×1.4×0.3	甕	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平らで、東から西にやや傾斜する。下層から土器。SX139に切られる。
	SX 141	楕円形	1.0×0.6×0.3		埋土はB-b。下層は黄色・暗灰褐色粘質土のブロック。SX142を切る。

4K	SX142	楕円形	2.0×1.2×0.3	甕体部破片	埋土はC-b。土壙底に土器。
	SX143	隅丸方形	(1.6)×1.5×0.25		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙はSX142に大きく切られる。
	SX144	隅丸長方形	(1.2)×1.1×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX145を切るが、SX139に切られる。
	SX145	楕円形？	(1.2)×1.3×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX143・144・146に切られる。
	SX146	楕円形	1.5×0.9×0.4	甕体部	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX145を切る。下層から土器。
	SX147	楕円形	1.4×0.9×0.2		埋土はB-c。
	SX148	隅丸方形	1.7×1.3×0.3	甕2個体	埋土はC-c。中層は茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。下層に二重口縁甕。SX149・151を切る。
	SX149	隅丸方形	(1.4)×1.2×0.35		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX148に切られるが、SX150を切る。
	SX150	楕円形	0.8×0.7×0.35		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX149に切られる。
	SX151	隅丸方形	1.3×0.8×0.25		埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX148に切られる。
	SX152	円形	(0.6)×0.7×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙南部は調査地外。
	SX153	楕円形	1.4×0.7×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX154を切る。土壙南部は調査地外。
	SX154	隅丸長方形	2.6×1.4×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平らであるが、東北隅部が楕円形に一段下がる。SX153に切られるが、SX155を切る。
	SX155	隅丸方形	1.1×(0.7)×0.25		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX154に切られる。
	SX156	楕円形	1.7×0.8×0.35	甕2(19)	埋土はA-e。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX157を切る。庄内式期。
	SX157	楕円形	1.3×(0.6)×0.35		埋土はA-d。中層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX156に切られる。
5H	SX158	隅丸方形	1.5×1.2×0.15		埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX159	楕円形	1.6×1.5×0.5		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX170を切る。
	SX160	円形	0.6×0.6×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX161	隅丸方形	1.2×0.9×0.4	壺口縁(43)	埋土はA-a。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・暗茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底の一部に黒灰色粘質土層。下層上面に土器。
	SX162	円形	0.9×0.7×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX163	不定形	1.0×(0.8)×0.25		埋土はB-a。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙北部は調査地外。SX164を切る。

5H	SX164	隅丸方形	1.4×1.0×0.25		埋土はB-b。下層は黄色・黒色粘質土のブロック。土壙底は北半部が一段下がる。SX163に土壙上端を切られるが、SX165を切る。
	SX165	隅丸方形	1.7×1.5×0.4	甕体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX164に切られるが、SX166を切る。
	SX166	隅丸方形	1.8×(1.5)×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX165と中世土坑SK08に切られる。
	SX167	楕円形	1.3×1.0×0.55		埋土はA-a。上層の粘質土ブロックは薄い。下層は黄色・暗茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもち、壁の立ち上がりは緩やかである。土壙南部壁に段をもつ。
	SX168	円形	1.2×1.2×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
5I	SX169	円形	1.2×1.0×0.45	甕	埋土はA-e。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。最下層に淡緑灰色・黒灰色粘質土ブロックが薄く入る。SX264・170を切る。下層の灰黒色粘質土に甕体部下半部。庄内式期。
	SX170	不定形	(1.7)×1.8×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX159・169と中世土坑SK09に切られる。
	SX171	楕円形	0.7×0.5×0.2		埋土はB-c。
	SX172	長方形	1.8×0.9×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX173	楕円形	1.9×1.0×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。最上層に薄い粘土ブロック。SX174を切る。
	SX174	円形	1.4×1.3×0.35	甕2個体須恵器片	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙上端をSX173に切られる。下層に土器。古墳時代後期か？
	SX175	隅丸長方形	1.3×0.7×0.25		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX176	楕円形	0.8×0.6×0.25		埋土はB-c。
	SX177	隅丸方形	0.9×0.9×0.2		埋土はC-c。埋土は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底はほぼ平ら。
	SX178	隅丸方形	2.6×2.5×0.55	甕2	埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平らであるが、東南壁部に段をもつ。SX179を切る。
	SX179	楕円形	1.6×1.1×0.45		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX178に切られるが、SX180を切る。
6I	SX180	楕円形	2.5×(1.3)×0.55	甕2体部	埋土はA-d。中層は茶褐色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄い粘質土のブロック層。SX179に切られる。
5I	SX181	隅丸方形	1.6×(1.3)×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロックが数層に分かれる。SX178に切られる。
	SX182	隅丸方形	1.4×1.4×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・淡緑灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底はほぼ平ら。

5 I	SX 183	隅丸方形	2.0×1.7×0.55	甕2口縁と底部	埋土はA-a。上層は暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に黒色粘質土。土壙底は平ら。掘形内に埋葬主体部(1.4×0.8×0.4)の痕跡。主体部内底面に土器。SX184・185を切る。庄内式期
	SX 184	不定形	(2.0)×1.2×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は南から北へ緩やかに傾斜。SX059・064・183に切られる。
	SX 185	隅丸方形	1.3×1.3×0.15		埋土はB-b。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。
	SX 186	円形	1.2×1.1×0.5	甕2固体	埋土はB-b。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブック。下層に土器。SX187を切る。甕1点は二重口縁。
	SX 187	楕円形	1.6×1.1×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。SX186に切られる
	SX 188	円形	1.1×1.0×0.45		埋土はB-a。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に灰黒色粘質土。SX284を切る。
	SX 189	楕円形	1.0×0.7×0.75		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に白黄色・淡緑灰色粘質土の薄いブロック。土壙壁はほぼ垂直に立ち上がる。
	SX 190	楕円形	0.9×0.5×0.1		埋土はC-a。土壙底は平ら。SX191・192を切る。
5 J	SX 191	隅丸方形	1.7×1.4×0.2		埋土はA-e。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX190に切られるが、SX192を切る。
5 I	SX 192	隅丸方形	1.6×1.4×0.25		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX190・191に切られる。
	SX 193	不定形	1.9×1.7×0.45	甕口縁	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。
	SX 194	円形	1.3×1.1×0.4		埋土はA-e。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX195・196を切る。
5 J	SX 195	隅丸方形	(0.8)×0.9×0.2		埋土はC-b。SX194に切られるが、SX196を切る。
5 I	SX 196	隅丸方形	(1.8)×1.7×0.45	甕2	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX194・195に切られる
5 J	SX 197	円形	1.8×1.7×0.2		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。中層に薄い粘土ブロック。土壙底は平らであるが、中央付近がやや窪む。
	SX 198	円形	0.9×0.9×0.3		埋土はB-b。下層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。SX199を切る。
	SX 199	楕円形	(1.6)×1.1×0.25	甕体部	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX198に切られる。
	SX 200	楕円形	1.1×0.7×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸く終わる。
	SX 201	楕円形	1.0×0.6×0.3	甕底部	埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX202を切る。庄内式期。
	SX 202	不定形	1.6×1.1×0.15		埋土はB-b。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX201に切られる。
	SX 203	円形	1.1×1.0×0.35		埋土はA-c。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。最下層に薄く黒色粘質土。

5 J	ＳＸ２０４	楕円形	1.5×1.2×0.4		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。最下層に黒色粘質土。ＳＸ205・206・209・210を切る。
	ＳＸ２０５	隅丸長方形	1.7×1.0×0.25		埋土はＢ-ａ。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ204に切られるが、ＳＸ207を切る。
	ＳＸ２０６	楕円形	1.5×0.9×0.3		埋土はＡ-ｂ。中層は黄色・暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。ＳＸ204に切られる。
	ＳＸ２０７	楕円形	1.2×0.7×0.15		埋土はＡ-ｄ。中層は暗黄色・暗灰色粘質土のブロック。ＳＸ205に切られる。
	ＳＸ２０８	楕円形	1.0×0.7×0.2		埋土はＢ-ｂ。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	ＳＸ２０９	隅丸方形	0.7×(0.6)×0.25		埋土はＡ-ｂ。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄い粘土ブロック。ＳＸ204に切られる。
	ＳＸ２１０	隅丸方形	1.2×1.2×0.3		埋土はＡ-ａ。上層は茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロックＳＸ204に切られる。
	ＳＸ２１１	楕円形	2.5×2.0×0.3	甕体部	埋土はＢ-ｄ。上層は黄色・暗茶褐色・黒色の粘質土ブロック。
	ＳＸ２１２	楕円形	1.5×1.2×0.4	板材	埋土はＢ-ａ。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ213を切る。下層上面に小さな板材。
	ＳＸ２１３	隅丸方形	1.7×1.4×0.4		埋土はＡ-ａ。上層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白灰色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ212に切られる。
	ＳＸ２１４	楕円形	1.9×1.3×0.45	甕２	埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙底と下層上面に土器。甕は庄内式期と布留式期。
	ＳＸ２１５	隅丸方形	1.9×1.3×0.25	甕２	埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。最下層に薄い粘質土ブロック最下層上面に土器。甕のうち１点は上半部半個体。ＳＸ216を切る。
	ＳＸ２１６	隅丸長方形	2.2×1.8×0.3	甕	埋土はＡ-ｂ。中層は黄色・茶褐色・黒色粘質土のブロック。ＳＸ215に土壙上端を切られる。甕は体部上半の半個体。
	ＳＸ２１７	円形	0.7×0.6×0.2	甕体部	埋土はＡ-ｂ。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。
	ＳＸ２１８	楕円形	1.6×1.0×0.3	甕２	埋土はＡ-ｂ。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。下層上面に土器。
	ＳＸ２１９	隅丸方形	1.3×1.2×0.3		埋土はＢ-ｂ。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ220・221を切る。
	ＳＸ２２０	隅丸方形	1.3×1.0×0.25	甕	埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ219に切られる。
	ＳＸ２２１	隅丸方形	1.8×1.8×0.4		埋土はＡ-ａ。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。中央に埋葬主体部(0.7×0.4×0.25)の痕跡。主体部内下層に黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ219に切られる。土壙底に凹凸あり。
	ＳＸ２２２	円形	1.2×1.2×0.25		埋土はＡ-ｅ。上層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ223を切る。

5 J	SX 223	隅丸方形	1.5×1.3×0.15		埋土はB-d。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 224	楕円形	1.3×1.1×0.2		埋土はB-c。土壙底は丸く終わる。
	SX 225	楕円形	1.1×0.9×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰褐色粘質土のブロック。土壙底はほぼ平らであるが、一部に凹凸あり。
	SX 226	円形	1.4×1.3×0.3		埋土はA-e。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 227	隅丸長方形	1.5×1.4×0.45	甕4個体(18・30)	埋土はA-d。中層は黄色・黄白色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄い黒色粘質土層。下層中に土器。甕体部の大型破片が多い。土壙底は平ら。北東側長辺が一部突出する。庄内式期
5 K	SX 228	楕円形	1.5×1.2×0.35		埋土はA-a。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・淡緑灰色粘質土のブロック。
	SX 229	楕円形	1.0×0.7×0.2		埋土はB-a。下層は黄色・淡緑灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 230	円形	1.5×1.4×0.35		埋土はA-e。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX231を切る。
	SX 231	円形	1.8×(1.4)×0.4		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄い黒色粘質土。土壙底は平らSX230に切られるが、SX232・233を切る。
	SX 232	隅丸長方形	1.3×0.8×0.15		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX231に切られる。
	SX 233	円形	1.6×1.5×0.35		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX231に切られる。
	SX 234	円形	1.0×0.9×0.25		埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 235	隅丸方形	1.5×1.4×0.25	甕体部	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX236・237を切る。
	SX 236	楕円形	(1.0)×1.0×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX235に切られる。
	SX 237	円形	1.1×1.0×0.3		埋土はB-b。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 238	隅丸方形	1.0×1.0×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く灰黒色粘質土。
	SX 239	隅丸方形	1.2×1.1×0.4		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX241を切る。
	SX 240	楕円形	1.5×0.9×0.2	壺口縁2	埋土はA-d。中層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。下層中に土器。
	SX 241	不定形	1.8×0.9×0.2		埋土はB-a。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底には小規模な凹凸あり。
	SX 242	隅丸方形	1.8×1.6×0.3上 0.5下	甕底部	埋土はB-d。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層は灰黒色粘質土。土壙底は東北部が一段下がる。土壙底はほぼ平ら。下段土壙底に土器。
	SX 243	楕円形	1.2×0.8×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。

5K	SX 244	円形	1.4×1.4×0.4	壺底部 (45)	埋土はB-b。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く灰黒色粘質土。SX245・246を切る。
	SX 245	隅丸方形	1.1×1.1×0.3	甕底部 (31)	埋土はB-b。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX244に切られる。
	SX 246	円形	0.8×(0.6)×0.4		埋土はA-e。上層は黄色・白黄色・黒色粘質土のブロック。SX244に切られる。
	SX 247	楕円形	1.1×1.0×0.4	甕体部	埋土はA-d。中層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸く終わる。
	SX 248	長方形	0.9×0.4×0.25		埋土はA-e。上層の黄色・灰黒色粘質土ブロック層は厚みが薄い。
	SX 249	円形	0.8×0.7×0.3		埋土はB-b。上層は暗茶褐色粘質土。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 250	隅丸方形	1.5×1.3×0.25	甕体部	埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 251	隅丸方形	1.1×(0.5)×0.25		埋土はB-b。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX252を切る。土壙南部は調査地外。
	SX 252	楕円形？	(1.2)×(0.8)×0.3		埋土はB-a。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX251に切られる。
	SX 253	円形	0.8×0.7×0.15		埋土はB-a。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
6I	SX 254	楕円形	2.1×(1.5)×0.55		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。土壙北部は調査地外。
	SX 255	隅丸方形	2.3×2.2×0.6	甕2	埋土はA-d。中層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く黄色・灰黒色粘質土のブロック。庄内式期。
	SX 256	円形	1.5×1.3×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層は灰黒色粘質土。
	SX 257	円形	1.3×1.2×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く灰黒色粘質土。
	SX 258	円形	1.2×1.2×0.6	甕2	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。最下層に薄い黄色・白黄色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
	SX 259	長方形	1.0×0.7×0.4	甕2	埋土はA-d。中層は茶褐色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX 260	円形	1.3×1.3×0.4	甕体部	埋土はB-d。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層の暗灰色粘質土は厚さが薄い。土壙底に土器。
	SX 261	不定形	2.7×2.3×0.65	甕(32) 壺(44)	埋土はA-b。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。一部に淡緑灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 262	円形	1.3×1.2×0.45	甕	埋土はA-e。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX263・264を切る。
	SX 263	楕円形	1.8×(1.5)×0.5	甕	埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。下層は灰黒色粘質土。SX262に切られる。
	SX 264	不定形	2.3×2.0×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX169・262に切られるが、SX265を切る。

6 I	SX 265	円形	1.2×(1.0)×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX264に切られる。
	SX 266	円形	2.0×1.9×0.45	甕	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX267·268を切る。SK08に切られる。
	SX 267	不定形	(1.5)×1.0×0.35		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX266と中世土坑SK09に切られる。
	SX 268	楕円形	2.5×1.5×0.4	甕体部	埋土はC-c。埋土は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底はほぼ平ら。SX266に切られるが、SX269を切る。
	SX 269	楕円形？	(2.3)×(2.0)×0.7	甕2	埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。最下層に薄く白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX268・270・271・272に切られる。
	SX 270	隅丸長方形	1.9×1.4×0.5	甕2	埋土はA-c。下層は黄色・白灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX269・271を切る。中世土坑SK09に切られる。
	SX 271	隅丸方形	2.2×(1.8)×0.45	甕2	埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX270に切られるが、SX269を切る。
	SX 272	楕円形	2.1×1.7×0.6	甕2	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く黄色・白黄色粘質土のブロック。土壙東南壁に小規模な段をもつ。土壙底は平ら。SX269を切る。
	SX 273	隅丸方形	2.4×2.0×0.6	甕2	埋土はA-c。下層は黄色・暗茶褐色・黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。
	SX 274	楕円形	1.2×0.9×0.35	甕	埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX275・276を切る。
	SX 275	楕円形	(1.2)×1.0×0.3		埋土はA-a。上層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX274に切られる。
	SX 276	楕円形？	(1.1)×1.0×0.4	甕	埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX274・277に切られる。
	SX 277	不定形	2.1×1.9×0.5	甕2 (51)	埋土はA-a。上層は暗茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層上面に土器。SX276・278を切る。
	SX 278	不定形	1.7×(1.6)×0.5	甕 板材	埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層中に土器及び小さな板材。
	SX 279	円形	2.0×1.7×0.45	甕体部破片	埋土はC-b。SX278を切る。
	SX 280	楕円形	1.4×1.0×0.25	甕体部	埋土はC-a。SX271に切られるが、SX281を切る。
	SX 281	不定形	1.0×(0.8)×0.2	甕体部	埋土はC-b。土壙底に凹凸あり。SX280に切られる。
	SX 282	円形	1.1×1.1×0.45		埋土はA-e。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。西側土壙壁に段をもつ。土壙底は平ら。SX283・284を切る。
	SX 283	楕円形	2.0×1.6×0.4		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。SX282に切られるが、SX284を切る。
	SX 284	隅丸方形？	(1.1)×(1.1)×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX188・282・283に切られる。

6 J	ＳＸ２８５	隅丸方形	1.7×1.6×0.4	甕	埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。庄内式期。
	ＳＸ２８６	不定形	2.9×1.3×0.5		埋土はＡ-ｃ。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸く終わる。
	ＳＸ２８７	楕円形	1.6×1.4×0.5	甕２個体	埋土はＡ-ａ。上層は暗茶褐色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・黒色粘質土のブロック。中層に完形品の土器。(図化不能)。弥生後期。
	ＳＸ２８８	不定形	2.0×1.6×0.6	壺口縁甕２	埋土はＡ-ｂ。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。最下層に薄く黒色粘質土層。庄内式期。
	ＳＸ２８９	隅丸方形	1.2×1.0×0.35	甕	埋土はＢ-ｃ。下層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。庄内式期。
	ＳＸ２９０	不定形	2.5×1.7×0.45	甕	埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。ＳＸ291を切る。
	ＳＸ２９１	不定形	2.0×(1.6)×0.4		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は平ら。ＳＸ290に切られる。
	ＳＸ２９２	隅丸方形	1.6×1.3×0.4		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。最下層に薄く黄色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ293を切る。
	ＳＸ２９３	隅丸長方形	2.1×(1.3)×0.5		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ292・294に切られる。
	ＳＸ２９４	円形	1.6×1.4×0.4		埋土はＡ-ｅ。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもち、小規模な凹凸あり。ＳＸ293を切る。
	ＳＸ２９５	楕円形	2.0×1.3×0.4	甕２	埋土はＡ-ｃ。下層は黄色・白灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	ＳＸ２９６	楕円形	1.5×1.0×0.4	甕底部	埋土はＢ-ｄ。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。下層に土器。
	ＳＸ２９７	楕円形	1.7×0.9×0.35		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ298を切る。
	ＳＸ２９８	楕円形	1.8×1.0×0.3		埋土はＢ-ｂ。下層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ297に切られる。
	ＳＸ２９９	隅丸方形	1.6×1.3×0.3	甕体部	埋土はＡ-ｄ。中層は暗黄色・暗茶灰色粘質土のブロック。ＳＸ199を切る。
	ＳＸ３００	隅丸長方形	1.6×1.2×0.4		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に凹凸あり。
	ＳＸ３０１	不定形	2.1×1.7×0.6	甕２	埋土はＢ-ｂ。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底には２か所で大きく窪む３基の土壙に分かれる？ＳＸ302を切る。
	ＳＸ３０２	楕円形	(1.0)×0.8×0.4	甕３体部	埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙上端をＳＸ301に切られる。
	ＳＸ３０３	楕円形	1.6×1.0×0.4	甕	埋土はＡ-ａ。上層と下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。中層にほぼ完形の甕(実測不能)。
	ＳＸ３０４	楕円形	2.5×1.3×0.3		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	ＳＸ３０５	隅丸方形	1.4×1.4×0.35		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。土壙底に凹凸あり。
	ＳＸ３０６	円形	1.0×1.0×0.3		埋土はＡ-ｄ。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。ＳＸ307を切る。

6 J	SX 307	隅丸方形	1.6×1.4×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX306・308に切られる。
	SX 308	長方形	1.1×0.6×0.7		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙壁の立ち上がりは強い。SX307を切る。
	SX 309	円形	0.7×0.7×0.2	甕体部	埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 310	楕円形	0.9×0.6×0.1		埋土はC-b。
6 K	SX 311	隅丸方形	1.8×1.3×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 312	楕円形	2.1×1.6×0.5	甕	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に厚みの薄い黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙壁の立ち上がりは弱い。甕は上半部のみ。SX313を切る。
	SX 313	円形	0.9×0.7×0.4		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に灰黒色粘質土層。SX312に土壙上端を切られる。
	SX 314	円形	0.9×0.8×0.4	甕体部	埋土はA-e。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 315	円形	1.4×1.3×0.5	甕体部	埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 316	楕円形	1.5×1.3×0.5		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX317に切られる。
	SX 317	楕円形	1.9×1.5×0.45		埋土はA-c。下層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。SX316を切る。
	SX 318	隅丸長方形	1.5×0.9×0.3	甕体部	埋土はB-a。上層は暗茶灰色粘質土。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 319	不定形	1.7×1.3×0.55		埋土はA-c。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX320を切る。
	SX 320	円形	1.7×1.5×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX319に切られる。
	SX 321	楕円形	1.9×1.6×0.3上 0.4下		埋土はA-b。中層は黄色・茶褐色・黒色粘質土のブロック。土壙西南部が一段下がる。土壙底は平ら。SX322を切る。
	SX 322	隅丸長方形	(2.1)×1.3× 0.2上 0.35下		埋土はA-d。中層は暗黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙南端が一段下がる。SX321に切られる。
	SX 323	不定形	1.5×1.4×1.2上 1.3下		埋土はA-e。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙の南半部が一段下がる。2基の土壙？
	SX 324	不定形	1.9×1.2×0.9		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。土壙壁の立ち上がりは強い。
	SX 325	楕円形	1.9×1.3×0.5	甕体部	埋土はB-d。上層は暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。SX326を切る。
	SX 326	不定形	2.3×2.2×0.5		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX325に切られる。
7 H	SX 327	隅丸方形	1.5×1.4×0.5		埋土はA-a。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。下層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。最上層に厚みの薄い暗茶褐色粘質土層。SX328を切る。

7H	SX328	円形？	(0.9)×(0.5)×0.2		埋土はB-b。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
7I	SX329	楕円形	1.8×1.6×0.4	甕2(48)	埋土はB-a。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。SX330を切る。
	SX330	円形	2.0×1.8×0.5		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX329に土壙上端を切られる。
	SX331	楕円形	2.5×1.2×0.5	甕体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。西部土壙壁の立ち上がりは弱い土壙底はやや丸みをもつ。
	SX332	楕円形	1.1×0.5×0.3	甕体部	埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX333を切る。
	SX333	楕円形	1.9×1.6×0.6	甕体部	埋土はA-c。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX332に土壙上端を切られるが、SX334を切る。
	SX334	楕円形	(1.3)×1.2×0.5		埋土はA-e。上層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底はやや丸みをもつ。SX333に切られる。
	SX335	隅丸長方形	2.0×1.3×0.5	甕3(12)	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底北端部に土器。弥生後期。
	SX336	円形	1.4×1.3×0.5	甕	埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底はやや丸みをもつ。下層上面に二重口縁甕の上部半個体。
	SX337	円形	1.6×1.5×0.45	甕3	埋土はB-a。上層は灰黒色粘質土。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX338を切る。
	SX338	円形	2.3×2.1×0.6		埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙上端をSX337に切られる。
	SX339	楕円形	1.6×1.3×0.55	甕底部	埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色粘質土のブロック。下層は暗灰色粘質土。庄内式期。
	SX340	隅丸長方形	3.0×1.7×0.4上0.65下	甕(46)	埋土はA-a。上層は暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底はほぼ平らであるが、北半部が1段下がる。下段土壙底に土器。2基に分かれる？
	SX341	楕円形	1.6×1.3×0.5	甕	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。北側土壙壁に段をもつ。土壙底に土器。
	SX342	不定形	2.8×2.4×0.55	甕3口縁と体部	埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く黄色・白黄色粘質土のブロック。庄内式期。
	SX343	楕円形	1.5×1.0×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸く終わる。
	SX344	楕円形	2.0×1.4×0.45		埋土はB-b。下層は黄色・暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。SX345を切る。
	SX345	不定形	3.0×(1.7)×0.5		埋土はA-a。上層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX344に切られる。
	SX346	楕円形	(1.4)×1.2×0.45	甕底部	埋土はB-b。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX347	楕円形	1.9×1.5×0.45		埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙北半部が一段下がる。土壙底はほぼ平ら。SX348を切る。

7 I	SX 348	楕円形	1.6×1.1×0.45	甕体部	埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く灰黒色粘質土。土壙上端をSX347に切られる。
6 J	SX 349	楕円形	1.0×0.6×0.35		埋土はC-b。埋土は暗茶褐色粘質土。土壙底は丸く終わる。
	SX 350	円形	1.1×1.0×0.35		埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 351	楕円形	1.2×1.0×0.4		埋土はB-b。下層は黄色・淡緑灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 352	円形	1.9×1.9×0.5	甕体部	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。土壙壁の立ち上がりは弱い。
	SX 353	隅丸方形	1.4×1.2×0.5		埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 354	楕円形	1.4×1.2×0.55	甕体部	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙南部が一段下がる。庄内式期。
	SX 355	楕円形	1.3×1.1×0.45	甕2 (38・39)	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX356を切る。
	SX 356	不定形	1.3×(1.1)×0.5		埋土はA-e。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く黄色・白黄色粘質土のブロック。SX355に切られる。
	SX 357	楕円形	2.3×1.1×0.4	甕体部と底部	埋土はC-b。埋土は暗茶褐色粘質土。庄内式期
	SX 358	円形	1.0×1.0×0.4	甕体部	埋土はB-b。下層は黄色・暗茶灰色粘質土のブロック。土壙底は丸く終わる。
	SX 359	隅丸長方形	1.5×0.9×0.2	甕	埋土はA-d。薄い中層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 360	円形	2.7×2.4×0.6	甕1個体	埋土はA-c。下層は黄色・淡緑灰色・黄灰色粘粘質土のブロック。甕は図化不能。
	SX 361	円形	0.8×0.7×0.4		埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 362	隅丸方形	1.4×1.3×0.8	甕2	埋土はA-a。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。下層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。庄内式期。
	SX 363	円形	2.4×2.2×0.4上 2.1×1.5×0.6下	甕2	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は二段に下がる。下段は楕円形を呈する。下段より庄内式甕(ほぼ完形・図化不能)。
	SX 364	不定形	2.1×1.9×0.4上 1.9×1.4×0.6下		埋土はA-c。下層は灰黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙は二段に下がる。
	SX 365	不定形	3.2×2.4×0.5		埋土はA-d。中層は茶褐色・黄褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙端部に淡緑灰色・灰黒色粘質土のブロック層あり。
7 K	SX 366	方形	0.9×0.9×0.4	甕体部	埋土はA-a。上層は黄色・暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 367	楕円形	1.7×1.1×0.5		埋土はA-d。薄い中層は黄色・暗茶灰色粘質土のブロック。SX368・369を切る。
	SX 368	隅丸方形	1.9×1.8×0.5		埋土はA-e。上層は黄色・茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。SX367に切られるが、SX369を切る。

7K	SX369	不定形	2.4×(1.5)×0.5		埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。SX367・368に切られる。土壙南部は調査地外。
	SX370	不定形	3.3×3.0×0.6	甕	埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。土壙底に小規模な凹凸あり。
	SX371	不定形	2.2×1.7×0.5		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に小規模な凹凸あり。
8I	SX372	楕円形	1.2×0.8×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。
	SX373	楕円形	1.7×1.3×0.4		埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。SX374を切る。
	SX374	楕円形	(1.0)×1.0×0.5		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。最下部に薄く黄灰色・灰黒色粘質土のブロック層。SX373に切られる。
	SX375	楕円形	1.4×1.1×0.45		埋土はA-a。上層は暗茶褐色・黄褐色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX376	楕円形	2.1×1.9×0.5		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。
8J	SX377	隅丸方形	1.7×1.6×0.45		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙壁の立ち上がりは弱い。SX378を切る。
	SX378	隅丸長方形	2.1×1.5×0.55	甕3	埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX377に切られる。
	SX379	楕円形	2.5×2.0×0.55		埋土はA-c。下層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX380	隅丸方形	0.9×0.8×0.3		埋土はA-a。上層は茶灰色・灰黄色粘質土のブロック。下層は黄色・茶灰色粘質土のブロック
	SX381	楕円形	0.8×0.7×0.15		埋土はB-a。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX382	楕円形	1.9×1.4×0.6	甕体部	埋土はA-c。中層は灰黒色粘質土。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙は一旦浅く掘り下げた後、中央を垂直に再度掘り下げる。SX383を切る。
	SX383	楕円形	(0.9)×0.6×0.25		埋土はC-c。埋土は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
8K	SX384	隅丸方形	2.5×2.4×0.55	甕体部破片	埋土はA-a。上層は黄色・黄灰色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
6E	SX385	方形	1.0×(0.6)×0.2		埋土はB-a。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX386を切る。土壙東部は調査地外。
7E	SX386	方形	1.0×0.8×0.3		埋土はA-a。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙上端をSX385に切られる。
6E	SX387	隅丸方形	1.0×(0.6)×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色粘質土のブロック。土壙東部は調査地外。
	SX388	円形	1.2×(0.7)×0.2		埋土はB-d。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙東部は調査地外。
7E	SX389	円形	2.0×1.8×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。

6E	SX390	楕円形	1.9×1.4×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX391を切る。
7E	SX391	隅丸方形	1.5×(1.4)×0.2	甕体部	埋土はB-d。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX392	楕円形	1.9×1.8×0.2		埋土はB-d。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
6E	SX393	楕円形	1.2×1.0×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
6F	SX394	円形	1.0×1.0×0.3		埋土はC-a。
	SX395	隅丸方形	2.7×2.4×0.2		埋土はA-a。上層は黄色・茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX396	円形？	1.1×1.1×0.2		埋土はC-a。SX397を切る。
	SX397	隅丸方形	1.9×1.9×0.3	甕体部	埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX396に切られる。
	SX398	不定形	2.6×1.5×0.3		埋土はA-e。上層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に凹凸あり。SX399を切る。
	SX399	不定形	2.7×1.9×0.2		埋土はB-b。下層は黄色・淡緑灰色・暗灰色粘質土のブロック。土壙の南部上端をSX398に切られる。
	SX400	方形	1.7×(0.9)×0.2		埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色粘質土のブロック。土壙東部は調査地外。
	SX401	方形	0.9×(0.7)×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰色粘質土のブロック。土壙東部は調査地外。
	SX402	方形	1.3×(0.7)×0.5		埋土はA-a。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。下層は黄色・淡緑灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙東部は調査地外。
	SX403	円形	1.0×0.9×0.3		埋土はA-e。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。
	SX404	楕円形	2.0×1.7×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX405	楕円形	1.9×(1.3)×0.4	甕体部	埋土はA-e。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙東部は調査地外。
	SX406	楕円形	1.1×0.8×0.3	甕3個体(13・26・49)	埋土はB-a。下層は黄色・淡緑灰色粘質土のブロック。下層上面から土器。弥生後期土器を含む。
	SX407	楕円形	1.1×0.9×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・灰色粘質土のブロック。
	SX408	隅丸方形	1.6×1.5×0.4		埋土はB-b。下層は黄色・暗灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX409	円形	1.1×0.9×0.2		埋土はC-c。黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX410	不定形	2.0×1.8×1.2	甕底部	埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色粘質土のブロック。最下部に黄色・白黄色粘質土ブロック層あり。土壙底は丸みをもつ。庄内式期。
	SX411	楕円形	1.7×1.5×0.2	甕底部	埋土はB-d。上層は黄色・暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。庄内式期。
7G	SX412	楕円形	1.8×1.6×0.2	甕体部	埋土はB-a。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層上面に土器。甕は口縁と底部を欠く。SX413・414を切る。庄内式期か？

7G	SX413	楕円形	(1.7)×1.5×0.3		埋土はB-d。上層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。SX412・417に切られるが、SX414を切る。
6G	SX414	楕円形？	(2.1)×(1.2)×0.4		埋土はC-c。埋土は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX412・413・415・417に切られる。
	SX415	楕円形	2.2×1.2×0.3		埋土はC-c。埋土は黄色・白黄色粘質土のブロック。少量の灰黒色粘質土を含む。SX416に切られるが、SX414を切る。
	SX416	楕円形	1.7×1.4×0.3		埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。SX415を切る。
	SX417	円形	1.1×1.0×0.5	甕(40)	埋土はB-c。下層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。中層にほぼ完形の甕。SX413・414を切る。布留式期。
	SX418	円形	1.3×1.1×0.3	甕体部	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX419を切る。
	SX419	隅丸長方形	4.2×3.1×0.5		埋土はC-c。埋土は白黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙底はほぼ平ら。SX418に切られる緩やかな凹凸をもつ。
	SX420	楕円形	1.7×1.1×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX421を切る。土壙東部は調査地外。
	SX421	楕円形	(2.5)×2.0×0.4		埋土はA-b。中層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。SX420に切られる。土壙東部は調査地外。
	SX422	隅丸長方形	2.1×1.3×0.5	甕体部	埋土はA-a。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX423	楕円形	1.6×1.3×0.25		埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
	SX424	円形	1.1×0.9×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
	SX425	隅丸長方形	1.2×0.8×0.35		埋土はA-d。中層は暗茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX426	楕円形	2.9×1.4×0.4		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く白黄色・暗灰色粘質土のブロック層。土壙底は丸みをもつ。
	SX427	円形	0.8×0.7×0.3		埋土はC-d。
	SX428	楕円形	3.4×1.9×0.45		埋土はB-a。黄色・暗褐色・暗灰色粘質土のブロック。土壙底に小さな凹凸あり。
	SX429	不定形	2.4×2.2×0.5		埋土はB-b。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に小さな凹凸あり。
	SX430	楕円形	1.7×1.6×0.35		埋土はA-d。中層は黄色・暗褐色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX431	楕円形	(1.5)×1.8×0.5		埋土はA-a。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層は白黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。土壙南部は調査地外。
	SX432	楕円形	1.4×1.2×0.4	甕(27)	埋土はA-c。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層上面に土器。SX433を切る。
	SX433	楕円形	(2.3)×1.5×0.5	甕底部	埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。上層・下層に土器。SX432に切られる。庄内式期。

5G	SX434	楕円形	(0.9)×0.8×0.3	甕	埋土はA-d。中層は黄色・暗褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX435を切る。土壙東部は調査地外。
	SX435	楕円形？	(1.3)×(0.7)×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX434に切られる。土壙東部は調査地外。
7D	SX436	楕円形	1.0×0.7×0.2		埋土はC-d。
	SX437	円形	0.8×0.7×0.2		埋土はC-b。
	SX438	方形	2.0×1.8×0.1		埋土はC-b。埋土は暗茶褐色系。
	SX439	円形？	1.4×(0.8)×0.1		埋土はA-c。下層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙北部は調査地外。
	SX440	円形	0.9×0.8×0.5	甕底部	埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色粘質土のブロック。下層に土器。弥生時代後期。
	SX441	楕円形	1.0×0.8×0.3		埋土はA-a。上層は黄色・茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・暗茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX442	楕円形	1.1×0.9×0.2	甕体部	埋土はB-d。上層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
	SX443	楕円形	1.5×(1.2)×0.3		埋土はB-d。上層は黄色・白黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。土壙東部は調査地外。
	SX444	楕円形	3.1×2.0×0.7		埋土はB-a。上層は暗灰色・灰黒色粘質土。下層は茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX445を切る。土壙底に凹凸あり。
	SX445	円形	1.3×(1.0)×0.2		埋土はC-c。埋土は黄色・茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。SX444に切られる。
	SX446	楕円形	1.5×1.2×0.3		埋土はA-a。上層は黄色・茶褐色粘質土のブロック。薄い下層は黄色･暗茶褐色粘質土のブロック。
	SX447	楕円形	1.7×1.5×0.3		埋土はA-a。上層は黄色・灰色粘質土のブロック。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX448・449を切る。
	SX448	隅丸方形	1.1×1.0×0.3		埋土はB-d。上層は黄色・茶褐色粘質土のブロック。土壙上端をSX447に切られる。
7E	SX449	円形	0.9×0.8×0.2		埋土はB-c。SX447に切られる。
	SX450	楕円形	1.4×1.2×0.5	甕3	埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。庄内式期。
	SX451	円形	1.0×1.0×0.2		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX452	楕円形	1.2×0.9×0.5	甕2	埋土はA-a。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
	SX453	楕円形	1.2×0.8×0.3		埋土はA-a。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色粘質土のブロック。
	SX454	円形	1.5×1.5×0.2		埋土はA-a。上層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX455	円形	1.0×0.9×0.4		埋土はB-d。上層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。

7E	SX 456	楕円形	1.4×1.2×0.3		埋土はA-c。下層は黄色・暗茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 457	楕円形	0.9×0.7×0.5	甕口縁	埋土はB-d。上層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。
	SX 458	円形	1.4×1.4×0.2		埋土はB-d。上層は黄色・茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 459	円形	0.9×0.8×0.5		埋土はA-a。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。下層は茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸く終わる。
	SX 460	円形	0.7×0.7×0.5		埋土はA-b。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。最下部に薄く黄色・白黄色粘質土のブロック層。
	SX 461	楕円形	1.4×1.3×0.2		埋土はB-d。上層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 462	楕円形	2.4×1.5×0.3		埋土はA-d。中層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 463	楕円形	1.1×1.0×0.1		埋土はC-c。土層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 464	楕円形	1.6×1.3×0.5	甕2	埋土はA-c。下層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。
7F	SX 465	楕円形	2.5×2.0×0.5	甕	埋土はA-d。中層は茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層上面に二重口縁の甕。
7E	SX 466	楕円形	1.7×1.1×0.4	甕口縁	埋土はB-a。下層は黄色・白黄色粘質土のブロック。
	SX 467	楕円形	1.4×1.3×0.6		埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。最下層に薄く黄色・白黄色粘質土のブロック。
7F	SX 468	楕円形	1.0×0.8×0.4	甕(33)	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に土器。
	SX 469	隅丸方形	1.3×1.2×0.6	甕2 (21・29)	埋土はA-d。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に接して土器。土壙底はやや丸みをもつ。
	SX 470	楕円形	1.4×0.8×0.6		埋土はA-b。中層は茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 471	不定形	1.8×1.7×0.5		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 472	隅丸方形	1.5×1.5×0.7	甕5 (14・15・28・34)	埋土はB-a。下層は黄色・淡緑灰色・灰黒色粘質土のブロック。脂肪酸分析を実施。
	SX 473	隅丸長方形	2.1×1.1×0.4	甕2個体	埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。最下部に淡緑灰色・灰色粘質土のブロック層。下層に完形に近い甕(復原及び実測不能)。
	SX 474	隅丸長方形	1.5×1.2×0.5		埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。
	SX 475	楕円形	1.5×0.9×0.2		埋土はB-d。上層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 476	楕円形	2.0×1.8×0.6	甕3体部破片	埋土はA-b。中層は黄色・灰色粘質土のブロック。下層上面と下層中に土器。
	SX 477	隅丸方形	1.7×1.4×0.5	甕2・壺底部(10)	埋土はB-a。下層は黄色・茶褐色粘質土のブロック。上層に土器。SX478を切る。弥生後期。

7F	SX478	円形	1.5×1.4×0.5	甕2	埋土はA-a。上層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。SX477に切られる弥生後期か？
	SX479	楕円形	1.2×1.0×0.4	甕体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX480	楕円形	2.1×1.6×0.5	甕体部破片	埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。土壙底に土器。
	SX481	隅丸三角形	1.8×1.7×0.5	甕2	埋土はA-b。中層は茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX482	不定形	2.3×1.3×0.5	甕2口縁と体部	埋土はA-b。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に土器。庄内式期。
	SX483	不定形	1.7×1.1×0.5	甕4	埋土はA-a。上層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・淡緑灰色粘質土のブロック。下層上面に土器。
	SX484	不定形	1.3×1.1×0.5		埋土はA-e。上層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。2基の土壙に分かれる？
	SX485	不定形	1.6×1.4×0.4	甕体部板材	埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層に板材。
7G	SX486	楕円形	1.7×1.1×0.1		埋土はC-c。土層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。
	SX487	隅丸長方形	2.0×1.8×0.2	甕体部	埋土はC-c。土層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX488	楕円形	1.2×1.0×0.4	甕(36)	埋土はB-a。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX489	円形	1.0×0.9×0.4	甕体部	埋土はA-a。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層上面に土器。SX490を切る。
	SX490	円形	1.1×0.8×0.2		埋土はA-a。上層は黄色・白黄色粘質土のブロック。下層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX489に切られる。
	SX491	楕円形	0.9×0.7×0.3	甕底部	埋土はB-b。下層は黄色・暗茶灰色粘質土のブロック。弥生後期？
8G	SX492	円形	1.5×1.3×0.45	甕2	埋土はA-d。中層は暗茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。
7G	SX493	不定形	2.7×1.7×0.4	甕2体部と底部	埋土はB-a。下層は白黄色・暗灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に土器。弥生後期か？
	SX494	楕円形	1.2×0.9×0.6	甕3(22)壺口縁	埋土はA-b。中層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。中層に土器。
	SX495	楕円形	1.4×1.1×0.3	甕2体部破片	埋土はB-c。下層に土器。
	SX496	円形	0.9×0.9×0.4	甕2体部破片	埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。最下部に薄く白黄色・灰黒色粘質土のブロック層。下層に土器。
	SX497	楕円形	0.7×0.6×0.3		埋土はA-e。上層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。
	SX498	円形	1.3×1.2×0.4		埋土はA-d。中層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX499	楕円形	0.9×0.6×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。下層は暗灰色粘質土層。
	SX500	円形	1.4×1.1×0.2	甕体部	埋土はB-b。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に土器。

7G	SX501	楕円形	1.6×1.1×0.4		埋土はB-b。黄色・暗灰色・暗褐色粘質土のブロック。SX502を切る。
	SX502	隅丸方形	1.6×1.1×0.2		埋土はC-d。SX501に切られる。
	SX503	楕円形	1.5×1.1×0.6	甕体部破片	埋土はA-a。上層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。下層は茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。最下層に薄く黒色粘質土層。
	SX504	不定形	1.2×1.1×0.25		埋土はB-d。上層は茶褐色・暗灰色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX505	円形	2.0×2.0×0.5	甕体部	埋土はA-a。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層は白黄色・灰黒色粘質土のブロック土壙底は丸みをもち、土壙壁は緩やかに立ち上がる。下層に土器。
	SX506	楕円形	2.2×1.1×0.55	壺(41)	埋土はB-c。下層上面に土器。
	SX507	楕円形	1.2×0.9×0.2		埋土はC-a。
	SX508	隅丸方形	1.1×0.9×0.3		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX509	楕円形	0.8×0.7×0.5		埋土はB-d。上層は茶灰色・暗褐色粘質土のブロック。
	SX510	長方形？	2.0×1.2×0.25		埋土はA-e。上層は黄色・茶灰色粘質土のブロック。土壙は東南隅が大きく突出する。
7H	SX511	方形	2.2×(1.1)×0.45	甕体部	埋土はA-a。上層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX512を切る。土壙南部は調査地外。庄内式期。
	SX512	楕円形	1.8×(1.4)×0.5		埋土はA-a。上層は黄色・白黄色粘質土のブロック。下層は黄色・茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。最下部に薄く灰黒色粘質土層。SX511に切られる。
	SX513	楕円形	1.9×1.4×0.5	甕2	埋土はA-d。中層は茶灰色・暗黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。甕のうち1点は上部半個体。
	SX514	不定形	1.7×1.4×0.4		埋土はB-c。SX515・516を切る。
	SX515	楕円形	1.1×0.7×0.2上 0.45下	甕2口縁と体部	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙北東側に段をもつ。SX514に切られる。土壙は2基に分かれる？
	SX516	楕円形？	2.0×(1.5)×0.4	甕体部壺底部	埋土はA-b。中層は黄色・暗茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。SX514に切られる。土壙南部は調査地外。
	SX517	円形	1.6×1.3×0.5		埋土はA-a。最上層に薄く暗灰色粘質土層。上層と下層には暗茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。
8D	SX518	隅丸方形	1.4×1.2×0.45	甕1個体(16)	埋土はA-a。上層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層は淡緑灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は東南部が一段下がる。下層中に完形の甕。脂肪酸分析を実施。
	SX519	不定方形	1.1×(0.7)×0.15		埋土はB-d。上層は黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。土壙北部は調査地外。

8D	SX 520	楕円形	2.7×2.1×0.5	甕体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX 521	円形	1.4×1.2×0.4	甕体部破片	埋土はA-c。下層は黄色・灰黄色粘質土のブロック。
	SX 522	楕円形？	(0.6)×0.8×0.4		埋土はB-b。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙北部は調査地外。
	SX 523	方形	1.1×1.1×0.5	甕4破片(53～55)	埋土はA-b。中層は暗黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。SX538を切る。
	SX 524	円形	1.5×1.4×0.65	甕4破片(52)	埋土はB-a。下層は黄色・灰黒色・淡緑灰色粘質土のブロック。土壙底に土器。上層に甕底部
	SX 525	楕円形	1.3×0.4×0.25	甕3口縁	埋土はC-a。脂肪酸分析実施。
8E	SX 526	楕円形	1.9×1.3×0.5	甕体部	埋土はA-b。中層は暗茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX 527	隅丸方形	2.0×2.0×0.7	甕体部	埋土はB-d。上層は黄色・茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。一部の床面上に淡緑灰色・暗灰色粘質土ブロック層。下層に土器。SX528を切る。
	SX 528	楕円形	(1.7)×1.6×0.5		埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。SX523・527に切られる。
	SX 529	隅丸方形	1.7×1.6×0.6	甕体部破片	埋土はA-d。中層は薄く、黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX 530	楕円形	1.0×0.7×0.45	甕体部破片	埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 531	隅丸長方形	1.3×1.1×0.15		埋土はC-c。黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 532	楕円形	1.9×1.5×0.3	甕口縁板材	埋土はA-b。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。最下部に薄く白黄色・暗灰色粘質土のブロック層。土壙底近くに土器と板材。
	SX 533	隅丸方形	3.3×2.4×0.65	甕底部2	埋土はA-b。中層は茶灰色・褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に土器。
	SX 534	楕円形	2.8×2.1×0.65	甕3(50)板材	埋土はA-d。中層は茶灰色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に板材と二重口縁甕・甕体部破片。
	SX 535	円形	1.5×1.4×0.45	甕2口縁部	埋土はA-c。下層は黄色・白黄色粘質土のブロック。
	SX 536	隅丸方形	1.5×1.3×0.5	鉢(35)	埋土はB-a。下層は茶灰色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。下層から土器。
	SX 537	円形	1.1×1.0×0.65		埋土はA-e。上層は茶灰色・白黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 538	隅丸長方形	2.2×1.5×0.6	甕2板材	埋土はA-d。中層は暗灰色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX 539	楕円形	1.7×1.1×0.45	板材	埋土はA-c。下層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX 540	半円形	1.1×0.4×0.35		埋土はB-c。土壙底は丸く終わる。
	SX 541	楕円形	2.1×1.6×0.5		埋土はA-b。中層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。
8F	SX 542	楕円形	2.0×1.6×0.6	甕体部	埋土はA-a。上層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。SX543・544を切る。

8E	SX543	楕円形	(1.0)×1.3×0.2	甕2体部	埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。上層と下層に土器。SX542に切られる。
8F	SX544	隅丸三角形？	1.5×1.3×0.4		埋土はA-b。中層は黄色・茶灰色・灰色粘質土のブロック。SX542に切られるが、SX545を切る。
8E	SX545	不定形	1.8×1.6×0.55	甕体部 板材	埋土はA-d。中層は茶灰色・暗灰色・灰黒色粘質土のブロック。最下部に薄く黄色・白黄色粘質土のブロック層。土壙底に土器・板材。
8F	SX546	楕円形	3.5×(1.7)×0.55		埋土はA-b。中層は暗黄色・暗灰色粘質土のブロック。土壙底の北部に白黄色・淡緑灰色粘質土のブロック層あり。土壙西部は調査地外。
	SX547	円形	0.8×0.7×0.4		埋土はA-d。中層は白黄色・暗褐色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸く終わる。
	SX548	楕円形	1.6×1.4×0.65	甕体部	埋土はA-a。上層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・茶褐色・灰黒色粘質土のブロック。最上部に薄く暗灰色粘質土層。
	SX549	楕円形	1.7×0.7×0.4	甕体部	埋土はA-d。中層は黄色・白黄色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
	SX550	楕円形	1.3×0.9×0.45	甕体部	埋土はA-d。中層は薄く、黄色・暗灰色粘質土のブロック。庄内式期。
	SX551	楕円形	1.9×1.3×0.3		埋土はA-a。上層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。下層は暗茶褐色・白黄色・暗灰色粘質土のブロック。
	SX552	楕円形	1.6×1.3×0.3		埋土はA-e。上層は黄色・暗褐色粘質土のブロック。SX553を切る。
	SX553	楕円形？	1.8×(1.3)×0.55		埋土はA-e。上層は黄色・茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。土壙上端をSX552に切られる。
	SX554	楕円形	2.9×1.5×0.6	甕3	埋土はA-d。中層は茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。下層に薄く白黄色・茶灰色粘質土のブロック。
	SX555	楕円形	2.0×1.2×0.55		埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX556	円形	1.1×1.0×0.45	甕体部破片	埋土はA-b。中層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。
	SX557	円形	1.4×1.2×0.6	甕2	埋土はA-d。中層は黄色・暗茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX558	楕円形	1.6×1.1×0.35	甕体部	埋土はB-c。下層に土器。
	SX559	楕円形	2.0×1.5×0.6	甕体部破片 板材	埋土はA-c。下層は暗褐色・灰黒色粘質土のブロック。SX561を切る。
	SX560	円形	1.2×1.1×0.4	甕 板材	埋土はB-b。下層は黄色・暗茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底に板材。
8G	SX561	楕円形	1.4×1.1×0.5		埋土はA-d。中層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。SX559に土壙上端を切られる。
	SX562	円形	2.2×2.2×0.5	壺(42) 甕(20)	埋土はC-c。下層に土器。SX563を切る。
	SX563	楕円形？	1.5×(0.8)×0.2	甕体部	埋土はC-c。SX562に切られる。
	SX564	楕円形	1.3×1.0×0.55		埋土はA-c。下層は黄色・白黄色・灰黒色粘質土のブロック。

8G	SX 565	円形	1.3×1.3×0.4		埋土はA-d。中層は黄色・白黄色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。
8H	SX 566	円形	2.4×(1.6)×0.5		埋土はA-d。中層は黄色・茶灰色・灰黒色粘質土のブロック。SX567を切る。土壙西部は調査地外。
	SX 567	楕円形	2.0×(1.2)×0.3		埋土はA-b。中層は暗灰色・灰黒色粘質土のブロック。SX506・566に切られる。
9D	SX 568	不定形	2.3×1.5×0.5	甕2個体	埋土はA-d。中層は茶褐色・暗灰色粘質土のブロック。下層に土器。
	SX 569	楕円形	1.9×1.5×0.45	甕3(23)	埋土はB-d。上層は黄灰色・暗灰色粘質土のブロック。下層上面に土器。SX570を切る。
	SX 570	円形?	1.5×(0.5)×0.3		埋土はB-b。下層は黄色・暗灰色粘質土のブロック。
9E	SX 571	円形	1.5×1.3×0.4	甕体部	埋土はA-b。
	SX 572	不定形	2.4×1.7×0.55	甕体部	埋土はA-a。上層は暗茶灰色・暗灰色粘質土のブロック。下層は黄色・灰黒色粘質土のブロック。土壙底は丸みをもつ。庄内式期。
	SX 573	方形	1.7×1.3×0.15上 0.6下	甕2 (17・25)	埋土はA-d。中層は黄色・白黄色・暗茶褐色粘質土のブロック。土壙底に土器。南側土壙壁に段をもつ。庄内式期。

付表3　三宅遺跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	胎土 焼成 色調	形態の特徴	技法・調整の特徴	備考
1	広口壺	口径18.2 器高35.9	小石含む やや軟 黄褐色	口縁端部は上下に拡張して面をつくる。体部は中央が大きく張り出す。口縁端部外面に4条、頸部に6条の凹線文、体部上半に波状文と直線文を交互に配する。	体部外面ヘラミガキ。 体部内面タテハケ。	SD01出土 底部中央に焼成後穿孔あり。
2	広口壺	口径16.0 残高22.8	小石含む 並 淡黄褐色	口縁部は一旦直立した後、大きく外反する。口縁端面に1条の凹線文。	体部外面タテハケ。 頸部と体部には明瞭な接合痕を残す。	SD01出土 底部を打ち欠く?
3	壺	口径10.8 器高22.6	小石含む 軟 淡黄灰色	口縁部は短く、わずかに外反する。体部は球形に近く幅広な底部をもつ。	口縁部ナデ。 体部はハケメ。 内底面に指頭圧痕。	SD01出土 底部中央に焼成後の穿孔あり
4	甕	口径12.0 推定高15.0	小石含む 並 淡赤褐色	単純口縁。口縁は強く外反する。体部中央に最大径をもつ。	体部内面は細かいハケメ。外面は粗いハケメ	SD01出土
5	甕	口径18.2 残高12.4	小石含む やや軟 茶褐色	単純口縁。口縁は緩やかに外反。体部の張りは弱い。	口縁部内面はヨコハケ 体部外面はタテハケ。	SD01出土
6	水差し	口径10.2 残高19.4	精良 良好 黄褐色	口縁端部はやや内湾し、体部は算盤玉を呈する。肩部に把手。脚台が付く? 口縁部外面に8条の凹線文	体部上半はハケメの後粗いミガキ。体部下半はていねいなミガキ。	SD01出土 脚台の剥離痕跡あり
7	脚	底径10.7 残高 3.8	小石含む 並 淡褐色	脚端部は上下に肥厚させ、端面に2条の凹線文。8か所に円孔。	内面はヘラケズリ。	第Ⅱ区包含層出土。黒斑あり

8	壺底部	底径 7.6 残高10.2	小石多量 軟 淡茶灰色	体部は大きく張り出す。	外面は粗いミガキ。	第Ⅱ区包含層出土。黒斑あり
9	甕底部	底径 5.5 残高 9.0	小石含む やや軟 黄褐色	体部は緩やかに立ち上がる	外面タテハケ。	第Ⅱ区包含層出土
10	壺底部	底径 6.2 残高 6.6	小石多量 軟 淡灰褐色	底部は完全な上げ底で、外方へ張り出す。	底部外面を強くナデる	ＳＸ477出土
11	壺底部	底径 5.4 残高 7.6	小石含む 軟 茶褐色	体部は大きく張り出す。底部外面中央が小さく凹む。	調整不明。	ＳＸ099出土
12	底部	底径 3.5 残高 4.4	小石含む 軟 淡灰黄色	底部外面中央が小さく凹む	調整不明。	ＳＸ335出土
13	甕	残口径15.8 残高22.6	小石含む やや軟 淡黄灰色	単純口縁。体部最大径は上位にもつ。小型の底部。	体部外面は左上がりのタタキ。体部内面はヘラケズリ。	ＳＸ406出土
14	甕	口径17.2 器高22.4	小石含む 良好 淡黄灰色	単純口縁の端部は丸く終わる。倒卵形の体部は中央に最大径をもつ。極小な底部はやや上げ底。	口縁端部は強いナデ。体部外面はタタキ。下半部はタタキの後ハケメ。体部内面は上端までハケメ。	ＳＸ472出土。口縁の一部を欠く煤の付着あり
15	甕	頸部径12.7 残高19.2	小石多量 並 暗茶褐色	体部は倒卵形。極小な底部	体部外面はタタキ。下半部はタタキの後ハケメ。体部内面はハケメ	ＳＸ472出土。煤の付着あり
16	甕	口径17.9 器高24.8	小石含む やや軟 淡灰黄色	単純口縁。倒卵形の体部は最大径を上位にもつ。極小な底部。	体部外面はタタキ。下半部はタタキの後ハケメ。体部内面はケズリ	ＳＸ518出土。内底面に有機物
17	甕	口径14.0 推定高22.7	小石含む 軟 暗茶褐色	単純口縁。倒卵形の体部は中央に最大径をもつ。極小な底部。	体部外面はタタキ。内面はハケメ。	ＳＸ573出土
18	甕	口径16.4 残高 8.5	小石含む 軟 淡黄灰色	単純口縁。口縁部は緩やかに外反する。	体部外面は粗いハケメ内面は細かいハケメ。	ＳＸ227出土
19	甕	口径15.0 残高 4.0	小石含む 軟 茶褐色	単純口縁。口縁部は直線的で、端部は上方にはね上げる。	体部内面は上端部までケズリ。	ＳＸ156出土
20	甕	口径15.8 残高11.5	小石含む 軟 淡黄褐色	単純口縁。体部は丸みをもつ。	体部外面はタタキ。内面は調整不明。	ＳＸ562出土
21	甕	口径16.5 残高11.1	小石含む 並 茶褐色	単純口縁。強く外反する口縁端は外方につまみ出して丸く終わる。体部は球形。	体部は内外面ともハケメ。	ＳＸ469出土
22	甕	口径15.8 残高16.0	小石含む 良 灰黄色	単純口縁。体部は倒卵形を呈する。	体部の内外面は細かいハケメ。内面下半はヘラケズリ。	ＳＸ494出土
23	甕	口径17.8 残高19.7	小石含む やや軟 暗灰褐色	単純口縁。倒卵形の体部は最大径を上位にもつ。	口縁端は強いナデ。外面はタタキ。内面はハケメ。	ＳＸ569出土。煤の付着あり

24	甕	口径22.0 残高 8.5	小石含む 軟 淡黄褐色	単純口縁。長めの口縁は直線的に外上方へ立ち上がる体部の張りは弱い。	口縁部タタキ出し。内面は上端までケズリ。	ＳＸ044出土。内面に有機物
25	甕	口径20.5 残高28.5	小石含む 並 暗灰褐色	単純口縁。口縁は緩やかに外反する。倒卵形の体部は最大径を上位にもつ。極小な底部。	体部は下半で分割整形体部は左上がりのタタキ。内面はナデ。	ＳＸ573出土。底面に焼成後の穿孔あり
26	甕	口径16.6 器高22.8	小石多量 軟質 黄褐色	単純口縁。体部上半に最大径をもつ。小さな底部。	体部外面は上半部がタタキ、下半はハケメ。内面はヘラケズリ。	ＳＸ406出土
27	甕	口径19.8 推定高24.6	小石多量 軟質 淡黄色	単純口縁。倒卵形の体部は中位に最大径をもつ。小さな底部。	体部外面はハケメ。内面調整は不明。	ＳＸ432出土
28	甕	口径23.6 残高13.6	小石含む 軟 淡黄褐色	単純口縁。口縁は直立ぎみで、端部は外方へややつまみ出す。	体部外面はタタキ。内面は調整不明。	ＳＸ472出土。外面に煤付着
29	甕	口径16.4 残高11.0	小石含む 軟 淡黄橙色	単純口縁。口縁部は緩やかに外反する。体部の張りは弱い。	体部の内外面はハケメ頸部は強いナデ。	ＳＸ469出土。外面に煤付着
30	甕	口径16.8 残高11.2	小石含む 軟	単純口縁。体部の張りは弱い。	体部外面はタタキ。内面はハケメ。	ＳＸ227出土
31	甕	底径 4.7 残高 6.8	小石含む 軟 淡黄灰色	底部のみ出土。平底状の小さな底部。	内底面はハケメ。外面の調整不明。	ＳＸ245出土
32	甕	口径16.4 残高10.8	小石含む 軟 淡黄橙色	単純口縁。体部は丸みが強い。	体部外面はハケメ。内面はヘラケズリ。	ＳＸ261出土
33	甕	口径15.6 残高 7.2	小石含む 軟	単純口縁。口縁端部は肥厚ぎみに丸く納める。体部は大きく張り出す。	体部外面は粗いハケメ	ＳＸ468出土
34	甕	口径19.2 残高 7.4	小石多量 軟 淡黄褐色	二重口縁。口縁端部は外反して丸く納める。体部は大きく張り出す。	体部外面は細かいハケメ。内面は粗いハケメ	ＳＸ472出土。外面に煤付着
35	鉢	口径18.0 残高 9.8	小石含む 軟 淡黄褐色	二重口縁。体部の張りは弱く、口縁部は大きく外方に張り出す。	体部外面はハケメ。内面はヘラケズリ。	ＳＸ536出土
36	甕	口径17.8 推定高20.4	小石含む 軟 淡黄褐色	二重口縁。倒卵形の体部は体部の上位に最大径をもつ極小な底部。	体部外面の上半部はタタキ、下半はハケメ。内面の調整は不明。	ＳＸ488出土。外面に煤付着
37	甕	胴径17.6 残高12.8	小石含む 並	甕体部のみ。倒卵形の体部極小な底部。	体部外面はタタキ。内面は調整不明。	ＳＸ062出土
38	甕	底径 3.2 残高 4.6	小石含む 軟 暗茶褐色	甕体部のみ。小さな底部から、体部は外上方に大きく張り出す。	体部外面はタタキ。	ＳＸ355出土
39	甕	口径20.4 残高 3.1	小石含む 並 暗茶褐色	口縁部のみ。緩やかに外反する口縁部の内面は波打つ	口縁部内面は強い横ナデ。	ＳＸ355出土
40	甕	口径15.9 残高21.8	小石含む 並 淡黄灰色	単純口縁の端部は内側に肥厚する。球形に近い体部は上位に最大径をもつ。	体部外面はハケメ。内面は頸部付近までヘラケズリ。	ＳＸ417出土。外面に煤付着

41	壺	口径14.0 残高15.1	小石含む 軟 淡赤黄色	丸みの強い体部から、口縁がやや外反ぎみに立ち上がる。口縁端部は丸く納める	体部内面は下から上へナデあげる。	ＳＸ506出土。口縁に黒斑
42	壺	口径13.3 残高 6.0	小石含む 軟 淡黄褐色	口縁は小さく外反し、端部は外方へ尖りぎみに納める	器面の残りが悪く、調整は不明。	ＳＸ562出土
43	壺	口径16.0 残高 8.2	小石少量 良 淡黄灰色	口縁部は中位から上部が大きく外反し、端部は面をもつ。	口縁部外面は弱いハケメ。	ＳＸ161出土
44	壺	口径15.2 残高 6.0	小石含む 軟	口縁は上半部が大きく外反し、端部は上方へつまみ上げる。	口縁部外面はヘラミガキ。	ＳＸ261出土
45	壺	底径 5.2 残高 5.3	小石含む 軟 黄褐色	底部のみ。体部は大きく張り出す。	器面の残りが悪く、調整不明。	ＳＸ244出土
46	甕	口径16.6 残高 7.6	小石含む 軟 黄灰褐色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、外上方へ立ち上がる。口縁の端部は尖りぎみに丸く納める。	体部外面はハケメ。体部内面はヘラケズリ。	ＳＸ340出土。外面に煤付着
47	甕	口径17.4 残高 6.8	小石含む 軟 赤茶褐色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、外上方へ立ち上がる。口縁の端部は尖りぎみに丸く納める。	外表面の調整は不明。体部内面はヘラケズリ	ＳＸ118出土
48	甕	口径12.6 残高 4.6	小石含む 軟 灰黄褐色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、外上方へ立ち上がる。口縁の端部は尖りぎみに丸く納める。	外表面の調整は不明。体部内面はヘラケズリ	ＳＸ329出土
49	甕	口径18.4 残高19.2	小石含む 軟 赤茶褐色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、外上方へ立ち上がる。口縁の端部は尖りぎみに丸く納める。体部は球形を呈する。	体部外面はハケメ？体部内面はヘラケズリ。	ＳＸ406出土
50	甕	口径29.6 残高24.5	小石含む やや軟 淡黄褐色	二重口縁。口縁は一旦鋭く外反した後、上方へ立ち上がる。体部は球形を呈する	体部外面はハケメ。口縁部内面はヘラミガキ体部内面は上端までヘラケズリ。	ＳＸ534出土。外面に煤付着
51	甕	口径26.0 残高14.5	小石含む 軟 黄褐色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、外上方へ立ち上がる。口縁の端部は尖りぎみに丸く納める。体部は球形を呈する。	体部外面はハケメ。内面の調整は不明。	ＳＸ277出土。外面に煤付着
52	甕	口径14.5 残高 5.6	小石含む 軟 淡黄褐色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、上方へ短く立ち上がる。体部の張りは弱い。	体部外面はタタキ。内面の調整は不明。	ＳＸ524出土。口縁部外面に煤付着
53	甕	口径 ？ 残高 3.1	小石含む 軟 淡灰黄色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、内傾して短く立ち上がる。	口縁部と頸部はナデ。	ＳＸ523出土
54	甕	口径15.8 残高 6.8	小石含む 軟 淡橙黄色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、外上方へ立ち上がる。口縁端は丸く納める。体部の張りは弱い。	体部外面はハケメ？内面はヘラケズリ。	ＳＸ523出土。器面の剥離が著しい

55	甕	口径17.3 残高 6.8	小石含む 軟 淡橙黄色	二重口縁。口縁部は一旦強く外反した後、外上方へ立ち上がる。口縁端は丸く納める。	体部外面はハケメ。内面はヘラケズリ。	SX523出土
56	甕	口径12.6 器高14.7	良 軟 白灰色	口縁部は細い頸部から外上方に立ち上がり、端部は内湾して尖りぎみに納める。体部は小さな球形を呈する頸部中央と肩部に1条の沈線。体部中央に円孔。	体部外面下半は回転ヘラケズリ。頸部と口縁部は回転ナデ。	SD17出土
57	甕	残口径10.2 残器高13.3	良 並 淡青灰色	口縁部は細い頸部から外上方に立ち上がる。なで肩の体部中央に円孔。頸部と肩部に1条の沈線。	体部外面の下半は、不定方向のヘラケズリ。肩部以上は回転ナデ。	SD17出土
58	甕	残口径 6.8 残器高12.2	良 並 灰色	口縁部は細い頸部から外上方に立ち上がる。なで肩の体部中央に円孔。	底部外面は回転ヘラケズリ。体部中央以上は回転ナデ。	SD17出土
59	短頸壺	口径 3.8 器高 6.1	良 堅 青灰色	なで肩の体部に短い直口。体部と口縁部の境は不明瞭	回転ナデ。肩部外面にカキメ。	SD17出土
60	短頸壺	口径 6.6 残高 8.2	良 堅 暗青灰色	肩の張った球形の体部。短い直口。体部中央に1条の沈線。	体部外面にカキメ。底部外面は不定方向のヘラケズリ。	SD17出土 体部中央外面に窯印あり
61	高杯	口径14.8 器高 8.3	小石多量 良 淡赤褐色	杯部は底部から口縁にかけてなだらかに立ち上がる。脚部は「ハ」字状に開く。	杯部内面は平滑に仕上げるが、底面にはヘラ当たりの痕跡を残す。外面はほぼ全面をヘラケズリ。	SD17出土
62	高杯	口径12.4 器高 8.9	良 不良 白灰色	杯部は半球形を呈し、「ハ」字状の脚が付く。脚端は水平化し、端部は面を作って下方につまみ出す。	杯部の外面下半は回転ヘラケズリ。	SD17出土
63	高杯	口径14.1 器高 8.8	良 堅 暗青灰色	杯部は平底で、口縁は緩やかに上方に立ち上がり、端部は小さく外反する。大きく外反する脚の端部は、上方につまみ上げ、面を作る杯部に1状の沈線。脚部に円孔2か所。	杯部の外底面にカキメ	SD17出土
64	高杯	口径13.5 器高10.0	良 堅 暗灰色	平底の杯部は浅く、口縁は上方に立ち上がる。脚は「ハ」字に開く。杯底部と口縁部の境に1条の沈線。	回転ナデ。	SD17出土 焼成時に大きく歪む
65	高杯	口径10.1 器高 8.8	良 堅 灰色	口縁部は、水平な底部からアクセントをつけて、外上方に立ち上がる。ラッパ状に開く脚は、端部を下方につまみ出して面を作る。脚の中央に2条の沈線。	回転ナデ。	SD14出土

66	高杯脚	脚径10.8 残高 8.6	良 良 灰色	長脚二段高杯の脚部のみ。脚は端部付近で大きく開く脚中央に沈線。長方形のスカシ窓３か所。	回転ナデ。	ＳＤ15出土
67	有蓋壺	口径 9.2 残高 8.1	良 堅 暗青灰色	口縁部のみ出土。直線的に外上方に立ち上がる口縁部は、受けを設けた後、端部を内傾させる。外面に２条の沈線文と波状文。	回転ナデ。波状文は、静止状態にて施文。	４号墳の南側包含層より出土
68	壺	口径31.4 残高13.2	良 堅 暗青灰色	口縁部のみ出土。直立して立ち上がる口縁部は、上方が内湾ぎみに大きく開く。２条の沈線文＋ヘラ描き平行線文１組を口縁上部の２か所に施文。	回転ナデ。ヘラ描き平行線文の間隔は一定せず、上段と下段は斜向方向を変える。	ＳＤ16出土
69	須恵器 壺	口径41.1 残高17.5	良 堅 青灰色	緩やかに外反する口縁部は端部がアクセントをつけて上方に立ち上がる。口縁部外面には、２条１組の沈線に画された文様帯２か所があり、波状文を施文する。	頸部外面にカキメ。体部外面には細かい平行タタキ。内面には同心円タタキ。	11Ｈ区包含層出土
70	須恵器 杯身	口径 9.5 器高 4.5	良 堅 暗青灰色	体部は底部から一旦短く外上方に立ち上がった後、口縁部はやや内傾する。体部と口縁部の境に１条の沈線	回転ナデ。	ＳＤ16出土
71	須恵器 杯身	口径10.3 器高 3.4	良 堅 灰色	口縁部は、平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる。	口縁部は回転ナデ。底部はヘラキリ未調整。	ＳＤ15出土
72	須恵器 杯蓋	口径14.0 残高 2.7	良 堅 暗灰色	天井部は低く、口縁部はやや外傾する。天井部と口縁部の境に段をもつ。	回転ナデ。	第Ⅱ区包含層出土
73	須恵器 杯蓋	口径12.2 残高 3.0	良 良 灰色	天井部は低く、口縁部は外傾する。端部は丸く納める天井部と口縁部の境に段をもつ。	回転ナデ。	４号墳攪乱層出土
74	須恵器 杯身	口径13.2 残高 4.1	良 良 灰色	立ち上がりは上方にのび、口縁端部は丸く納める。受部は短く、端部を外上方につまみ上げる。	底部外面はヘラケズリ	第Ⅱ区包含層出土
75	須恵器 杯身	口径12.0 残高 3.6	良 良 灰色	立ち上がりは短く内傾し、口縁端部は丸く納める。受部は外上方にのびる。	底部外面下半をヘラケズリ。	11Ｈ区出土
76	須恵器 杯身	口径12.2 残高 4.0	良 良 淡青灰色	立ち上がりは短く内傾し、口縁端部は丸く納める。受部ののびは少ない。	底部外面３分の１をヘラケズリ。	11Ｈ区出土
77	土師質 杯身	口径12.8 器高 4.3	不良 軟 橙褐色	立ち上がりは短く内傾し、口縁端部は丸く納める。受部は短く外上方にのびる。	底部外面下半をヘラケズリ。	ＳＨ01出土
78	土師器 椀	口径12.8 器高 4.6	小石含む 軟 暗茶褐色	体部は丸みをもち、口縁端部は内傾して丸く納める。	器表面の残りが悪く、調整不明。	ＳＨ01出土

79	土師器 椀	口径12.0 器高 4.4	小石含む 良 赤茶褐色	底部はやや扁平な丸底。口縁端部は尖りぎみに納める	口縁部を除く外面はヘラケズリ。内面はナデ	ＳＤ14出土
80	土師器 皿	口径14.5 器高 3.7	小石含む 並 赤茶褐色	底部は扁平で、口縁端部は尖りぎみに納める。	底部外面はヘラケズリ内面はナデ。	16Ｄ区包含層出土
81	須恵器 蓋	口径14.2 残高 1.2	良 良 灰色	口縁部内面に返りをもつ。返りと口縁の端部はほぼ水平。	回転ナデ。	11Ｆ区包含層出土
82	須恵器 蓋	口径16.8 残高 1.4	良 良 灰色	口縁部内面に返りをもつ。返りと口縁の端部はほぼ水平。天井部と口縁部の境に明瞭な段をもつ。	回転ナデ。	10Ｊ区包含層出土
83	須恵器 蓋	口径14.0 残高 2.3	良 良 灰色	天井部は水平で、口縁端部は内傾ぎみに下方へつまみ出す。	天井部外面はケズリ。他は回転ナデ。	第Ⅳ区包含層出土
84	須恵器 蓋	口径16.4 残高 1.8	良 良 灰色	天井部は水平で、口縁端部は下方へつまみ出す。	天井部外面はケズリ。他は回転ナデ。	ＳＤ20出土
85	須恵器 蓋	口径15.8 器高 2.2	良 並 灰色	低い天井部。口縁端部は短く下方につまみ出す。天井頂部に扁平な宝珠つまみが付く。	天井部外面はケズリ。他は回転ナデ。	16Ｆ区包含層出土
86	須恵器 蓋	口径16.0 残高 1.7	良 良 灰色	天井部は水平で、口縁端部は下方へつまみ出す。	天井部外面はケズリ。他は回転ナデ。	10Ｉ区包含層出土
87	須恵器 杯身	口径 9.4 器高 3.7	良 良 灰色	口縁部は、底部から外上方にのびた後、直立ぎみに上方に向い、端部が開く。	底部外面は回転ヘラキリ未調整。他は回転ナデ。	第Ⅱ区包含層出土
88	須恵器 杯身	口径12.5 器高 3.6	精良 やや軟 淡灰色	口縁部は外上方に直線的にのびる。口縁端は丸く納める。	底部外面はヘラキリ。他は回転ナデ。	ＳＸ05出土
89	須恵器 杯身	口径13.2 器高 4.4	良 良 灰色	口縁は丸みをもって外上方に立ち上がる。口縁端は丸く納める。	底部外面はヘラキリ。他は回転ナデ。	14Ｇ区出土
90	須恵器 杯身	口径12.6 器高 3.7	良 良 灰色	やや内湾ぎみに立ち上がる口縁の端部は丸く納める。底部外縁に高台が付く。	回転ナデ。張り付け高台。	第Ⅱ区包含層出土
91	須恵器 杯身	口径10.8 器高 4.2	良 良 灰色	口縁部は外上方にのび、端部は尖りぎみに納める。底部外縁に高台が付く。	回転ナデ。張り付け高台。	第Ⅴ区包含層出土
92	須恵器 杯身	口径13.8 器高 3.6	良 やや軟 淡灰色	口縁部は外上方へ直線的にのび、端部は丸く納める。底部外縁の内側に高台。	回転ナデ。張り付け高台。	ＳＤ22出土
93	須恵器 杯身	底径10.0 残高 2.8	良 良 淡青灰色	口縁部は外上方へ直線的にのびる。底部外縁の内側に高台。	回転ナデ。張り付け高台。	第Ⅱ区包含層出土
94	須恵器 杯身	底径 9.2 残高 2.8	良 良 灰色	口縁部は外上方へ直線的にのびる。底部外縁の内側に高台。	回転ナデ。張り付け高台。	ＳＸ05出土

95	須恵器 壺	底径 8.8 残高 2.8	良 良 灰色	「ハ」字に大きく開く高台の端部は左右に肥厚させ、面をつくる。	回転ナデ。張り付け高台。	11Ｆ区包含層出土
96	皿	口径15.6 器高 1.8	良 良 淡青灰色	口縁部は外上方へ直線的にのび、口縁端は内側に肥厚して丸く納める。	回転ナデ。	第Ⅵ区包含層出土
97	瓦器 皿	口径 8.0 器高 1.4	良 軟 暗灰色	口縁部は外上方に短くのびる。	口縁部ヨコナデ。	15Ｄ区包含層出土
98	瓦器 皿	口径 8.2 器高 1.6	良 軟 灰色	口縁部は外上方に短くのびる。	口縁部ヨコナデ。	15Ｄ区包含層出土
99	瓦器 椀	口径15.4 器高 5.3	良 やや軟 灰黒色	丸みの強い体部に断面三角形の高台が付く。口縁端部は尖りぎみに納める。内面と口縁部外面に暗文。	外面は口縁部のみヨコナデ。体部外面は未調整で、指頭圧痕を残す張り付け高台。	ＳＫ08出土
100	瓦質 羽釜	口径19.0 残高 5.6	良 並 灰黒色	体部はほぼ垂直にのび、口縁部外面に鍔がめぐる。	口縁部外面はヨコナデ体部外面は未調整。	ＳＫ04出土
101	瓦質 鍋	口径23.2 器高11.7	良 良 黒色	丸みの強い体部。口縁部は外上方へ立ち上がり、端部は上方につまみ上げる。	内面はナデ。体部外面の上半部に指頭圧痕を残す。	ＳＤ14上面出土
102	瓦質 鍋	口径26.2 残高 8.3	良 良 黒色	丸みの強い体部。口縁部は一旦横に張り出した後、上方に立ち上がる。口縁端部は外上方につまみ出し、上端に面をつくる。	内面はナデ。体部外面に指頭圧痕を残す。	第Ⅱ区包含層出土
103	土師器 皿	口径 8.6 器高 1.2	良 並 淡茶褐色	コースター形を呈する皿であり、口縁部は短く直立する。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	15Ｅ区包含層出土
104	土師器 皿	口径 7.2 器高 1.2	良 良 暗茶褐色	口縁部は短く外上方にのび底部と口縁部に境は不明瞭である。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	11Ｆ区包含層出土
105	土師器 皿	口径 9.8 器高 1.4	良 良 淡褐色	口縁部は短く外上方にのび底部と口縁部に境は不明瞭である。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	ＳＫ02出土
106	土師器 皿	口径 8.1 器高 1.6	良 良 淡褐色	口縁部は短く外上方にのび端部は内湾ぎみに納める。底部と口縁部の境は不明瞭である。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	ＳＸ06出土
107	土師器 皿	口径 8.2 器高 1.8	良 良 淡褐色	口縁部は外上方にのびた後大きく外反する。端部は丸く納める。器壁は薄く仕上げる。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	ＳＤ22出土
108	土師器 皿	口径 8.1 器高 1.6	良 良 淡赤褐色	口縁部は短く外上方にのび端部は丸く納める。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	ＳＸ06出土
109	土師器 皿	口径 8.2 器高 1.2	良 良 淡灰色	口縁部は緩やかに外上方にのび、底部と口縁部の境は不明瞭である。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	ＳＢ01柱穴出土

110	土師器 皿	口径 8.0 器高 1.4	良 やや軟 暗灰色	口縁部は緩やかに外上方にのび、底部と口縁部の境は不明瞭である。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	ＳＢ01柱穴出土
111	土師器 皿	口径13.6 器高 2.7	良 良 淡褐色	底部は丸みをもち、口縁端部は外反して丸く納める。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	第Ⅱ区包含層出土
112	土師器 皿	口径11.8 器高 2.8	良 良 淡褐色	口縁部は緩やかに外上方にのび、底部と口縁部の境は不明瞭である。口縁端部は上方に引き上げ、丸く納める。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	11Ｇ区包含層出土
113	土師器 皿	口径11.6 器高 2.8	良 良 淡赤褐色	口縁部は緩やかに外上方にのび、底部と口縁部の境は不明瞭である。口縁端部は上方に引き上げ、丸く納める。器壁は薄く仕上げる。	底部外面は未調整。他はヨコナデ。	11Ｇ区包含層出土
114	白磁 椀	底径 5.8 残高 2.8	良 堅 淡青灰色	底部外面は丸みをもつ。高台は内側を斜めに削り出す	高台部内面を除き施釉	ＳＤ16上層出土
115	白磁 椀	底径 5.8 残高 3.8	良 堅 白灰色	丸みを持った底部。削り出し高台。	高台部内面を除き施釉	15Ｆ区包含層出土
116	土師質 鍋	口径20.6 残高 5.1	良 堅 淡褐色	やや外上方に直立する口縁の端部は、外方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ。体部外面は平行タタキ。体部内面はハケメ。	第Ⅱ区包含層出土
117	土師質 鍋	口径22.5 残高10.8	良 堅 灰黄色	やや外上方に直立する口縁の端部は、外方に肥厚させる。体部は胴が張る。	口縁部はヨコナデ。体部外面は平行タタキ。体部内面はハケメと一部ヘラケズリ。	第Ⅱ区包含層出土
118	鏡形 土製品	全長 5.9 厚み 1.8	良 並 淡赤褐色	凸面鏡。ややいびつな周縁部は丸く納める。鏡背の中央部に鈕をもつ。	手ずくね整形。鈕部は鏡背側粘土の引き出し整形時のヒビ割れを鏡面に残す。	12Ｆ区ＳＤ15出土
119	鏡形 土製品	残長 4.1 厚み 2.1	良 並 淡黄褐色	凸面鏡。周縁部は丸く納める。鏡背の中央部に鈕をもつ。	手ずくね整形。鈕部は鏡背側粘土の引き出し整形時のヒビ割れを鏡面に残す。	12Ｆ区ＳＤ15出土
120	鏡形 土製品	残長3.8 厚み0.9	良 並 淡黄褐色	凸面鏡。周縁部は丸く納める。鏡背の中央部に鈕をもつ。鏡面の反りは弱い。	手ずくね整形。鈕部は鏡背側粘土の引き出し整形時のヒビ割れを鏡面に残す。	12Ｆ区ＳＤ15出土
121	鏡形 土製品	残長 5.9 厚み 2.2	良 並 淡黄褐色	凸面鏡。周縁部は丸く納める。鏡背の中央部に鈕をもつ。鏡面の反りは弱い。	手ずくね整形。鈕部は鏡背側粘土の引き出し整形時のヒビ割れを鏡面に残す。	12Ｆ区ＳＤ15出土
122	不明 土製品	残長 3.6 厚み 1.0	良 並 黄褐色	平面は半円形とみられる。平坦な２面は直角に接し、他の１面は凸面となる。詳細不明。	器表面はていねいに仕上げる。	12Ｆ区ＳＤ15出土
123	人形 土製品	残長 2.9 幅 1.9 厚み 1.9	良 良 暗赤褐色	円柱状の体部に小さな頭部がつく。頭部正面側がやや突出し、鼻をつくり出す。	手ずくね整形。頭部と頸部の整形には、一部でヘラの使用が想定さ	12Ｆ区ＳＤ15出土

123				鼻の左上には目とみる小さな凹みが認められる。	れる。	
124	舟形土製品	残長 3.4 幅 1.9 厚み 0.9	良 良 淡黄褐色	丸木舟模倣。へさき部は緩やかに上方へカーブし、中央付近に円孔が開く。舷側の立ち上がりは弱い。	手ずくね整形。	12F区SD15出土
125	円柱状土製品	残長 3.6 幅 2.7 厚み 1.1	良 良 淡茶褐色	中空の円柱の一端が皿状に凹む。破片出土であるため詳細不明。	手ずくね整形。	12F区SD15出土
126	椀形土製品	口径 3.7 残高 2.3	良 良 淡褐色	口縁端部は尖りぎみに丸く納める。底部は丸みをもつ	手ずくね整形。内面はナデ。外面は指オサエ	12F区SD15出土
127	椀形土製品	口径 3.6 残高 3.2	良 良 淡黄褐色	口縁端部は尖りぎみに丸く納める。筒形の体部。底部は丸みをもつ。	手ずくね整形。内面はナデ。外面は指オサエ	12E区SD15出土
128	不明土製品	残長 4.0 幅 1.8 厚み 1.5	良 良 淡褐色	円柱状の胴部。端部の一端が板状にのびる。破片出土であるため詳細不明。	手ずくね整形。	12E区SD15出土
129	土製紡錘車	直径 4.4 厚み 1.5	良 良 淡黄褐色	厚みのある円盤状を呈し、周縁部は丸く仕上げる。中央部に直径約8㎜の円孔。	上下両面ヘラキリ。周縁部はナデ。器表面に剥離痕多数。	第Ⅱ区東部包含層
130	土器片紡錘車	全長 3.2 幅 3.1 厚み 0.5	良 良 淡褐色	土器の破片を円盤状に整形し、中央に直径約5㎜の円孔を開ける。	土器片再利用。	第Ⅱ区包含層出土
131	円盤状土製品	直径 5.1 厚み 1.8	良 良 淡褐色	断面形は凸レンズ状を呈する。	手ずくね整形。ナデ仕上げ。	12F区SD15出土
132	銀環	全長 3.5 直径 0.7	淡い銀色	ドーナツ形を呈する円環の一部が、幅約3㎜の間隙をもつ。	銅芯銀張り。遺存状況が悪く、各所で銀が失われている。	11H区包含層出土
133	土製勾玉	全長 3.2 胴幅 1.0	良 良 淡灰黄色	C字状に湾曲する。頭部に比べ尾部の幅が狭い。頭部に小さな円孔。	手ずくね整形。孔は両面より穿孔。	12E区SD15出土
134	石製硯	全長 9.8 残幅 3.5 厚み 1.8	暗青黒色	丸みの強いやや縦長の硯。四隅を内側に削り込む。周縁の立ち上がりは短い。海は狭く、陸部から緩やかに落ち込む。	陸部と海の一部が磨滅	15D区包含層出土
135	石鏃	全長 2.5 厚み 0.3		凹基無茎鏃。基部の切れ込みは深い。断面はレンズ状を呈する。	周縁部は表裏両面ともていねいな押圧剥離を行う。	SX04出土
136	石鏃	全長 2.8 厚み 0.4		凹基無茎鏃。基部の切れ込みは深い。断面はレンズ状を呈する。	周縁部は表裏両面ともていねいな押圧剥離を行う。	SD13出土
137	石匙	残長 4.5 残高 1.7 厚み 0.4		横長の二等辺三角形を呈する。つまみ部を欠く。横断面はレンズ状を呈する。	刃部及び周縁部は、表裏両面ともていねいな押圧剥離を行う。	SD13出土
138	叩き石	全長13.5 幅 12.4 厚み 4.0		扁平な円形を呈する。	周縁の一部が特に磨滅しているほか、叩きによる剥離の集中か所も認められる。	14F区包含層出土

第4章　小西町田遺跡

第1節　はじめに

1．調査経過

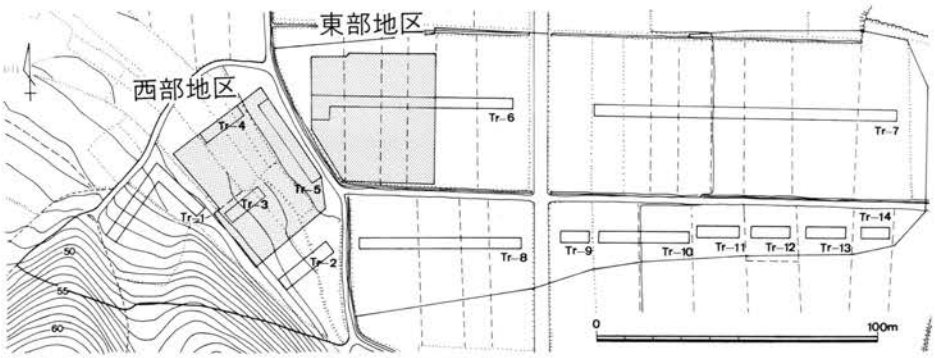
小西町田遺跡の発掘調査は、調査対象地が全長約320m・幅約90m・面積約23,400㎡という広範囲にわたるため、遺構・遺物の有無を確認することに重点をおいた試掘調査から開始した。試掘調査の掘削面積は2,000㎡に及ぶ。試掘調査の結果は、以下のとおりである。

Tr-1は、茶畑として利用されていた山腹の斜面地に設けたトレンチである。表土直下で黄褐色を呈する地山面となった。遺物は、須恵器や土師器が少量出土した。遺構は確認することができなかった。

Tr-2～Tr-5は、茶畑や畑として利用されていた山麓の緩斜面地に設けたトレンチである。Tr-2～Tr-4では、表土直下で黄褐色を呈する地山面となった。これらのトレンチのうちTr-3・Tr-4では須恵器や土師器とともに、多くのピットを確認した。また、Tr-5では、表土下に暗茶褐色土が厚く堆積しており、多量の須恵器・土師器を包含していた。

Tr-6・Tr-8は、水田として利用されていた沖積地に設けたトレンチで、山麓部に近い位置にあたる。耕作土・床土に続いて黄褐色を呈する地山面となった。Tr-6では、多数のピット・土坑・溝などの遺構や、弥生土器・土師器などの遺物を検出した。Tr-8では、遺物がわずかに出土したものの、顕著な遺構を検出することはできなかった。

Tr-7・Tr-9～Tr-14は、水田として利用されていた沖積地に設けたトレンチで、犀川右岸に近い位置にあたる。耕作土・床土に続いて黄褐色を呈する地山面となった。遺構状



第10図　試掘トレンチ配置図

の土色変化と遺物を若干確認した。

試掘調査の結果、Tr-3・Tr-4・Tr-5を中心とする地域とTr-6付近とに遺構・遺物の濃密な分布が認められた。このため、前者を西部地区、後者を東部地区として本調査を実施した。

東部地区については、6月8日から重機による拡張を行った。調査面積は1,920m²で、主として弥生時代末期から古墳時代にかけての遺構・遺物を検出した。

西部地区については、9月12日から重機による拡張を行った。調査面積は2,200m²で、主として平安時代の遺構・遺物を検出した。

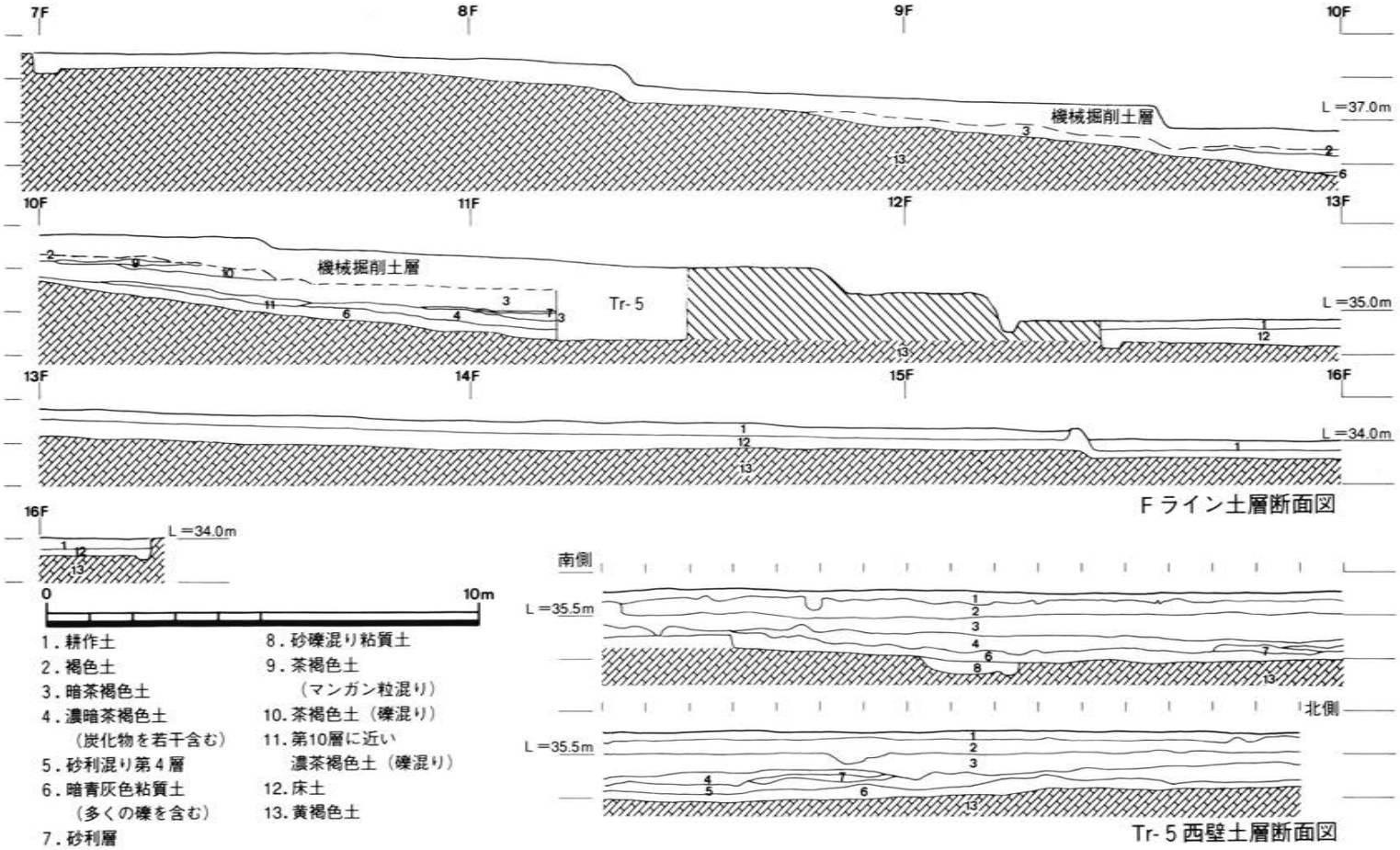
現地調査は12月でほぼ終了し、12月14日には現地説明会を開催した。すべての作業を終了し現地を撤収したのは1月13日である。

なお、本調査の地区割りは、国土座標に基づいた10m方眼を用いた。ラインの名称は、X＝-74,980をAラインとして南方向にアルファベットを付し、Y＝-71,960を0ラインとして東方向に算用数字を付した。地区名称は、北西側交点を地区名とした。

2．層　序

Fライン南壁及び11ライン付近東壁(Tr-5西側壁断面)の土層図を図示した(第11図)。南西からのびる山腹の傾斜は、7ライン付近で緩やかとなり、標高約38mを測る。耕作土直下で黄褐色の地山面となる。地山面は、11ライン付近の標高約34.5mを測る地域まで傾斜していく。11ライン付近は、土砂の堆積が2m程度あり、調査地内では最も厚い堆積状況を示している。耕作土・褐色土に続いて平安時代を中心とする須恵器・土師器を多量に包含する暗茶褐色土となる。黄褐色土地山面上には暗青灰色粘土が堆積しており、多くの弥生土器や古墳時代の土師器を包含する。12ライン付近以東の地域は、水田として利用されてきた地域で、耕作土・床土に続いて黄褐色粘質土の地山面となる。現地表下約0.4mで遺構面を検出した。このため遺構面は良好な状態ではなく、永年にわたって削平を受けてきているものと考えられた。実際、数十年以前に人力による耕地整理が行われ、遺物が出土したと聞く。特に南側から東側にかけての地区は、著しい削平により、遺構の状態は明確には把握できていない。

(三好博喜)



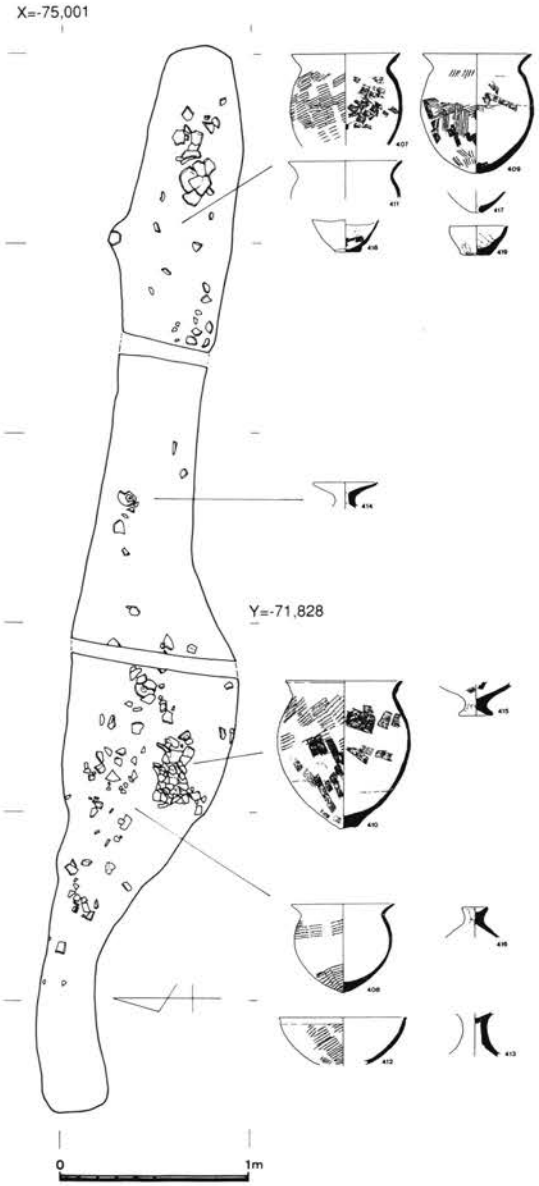
1．耕作土
2．褐色土
3．暗茶褐色土
4．濃暗茶褐色土
（炭化物を若干含む）
5．砂利混り第4層
6．暗青灰色粘質土
（多くの礫を含む）
7．砂利層
8．砂礫混り粘質土
9．茶褐色土
（マンガン粒混り）
10．茶褐色土（礫混り）
11．第10層に近い
濃茶褐色土（礫混り）
12．床土
13．黄褐色土

第11図　土層断面図

第2節　検　出　遺　構

1．東部地区（第13図）

現地表下約0.4mで遺構面を検出した。このため遺構面は良好な状態ではなく、永年にわたって削平を受けてきているものと考えられた。特に南側から東側にかけての地区は、著しい削平により、遺構の状態は明確には把握できていない。

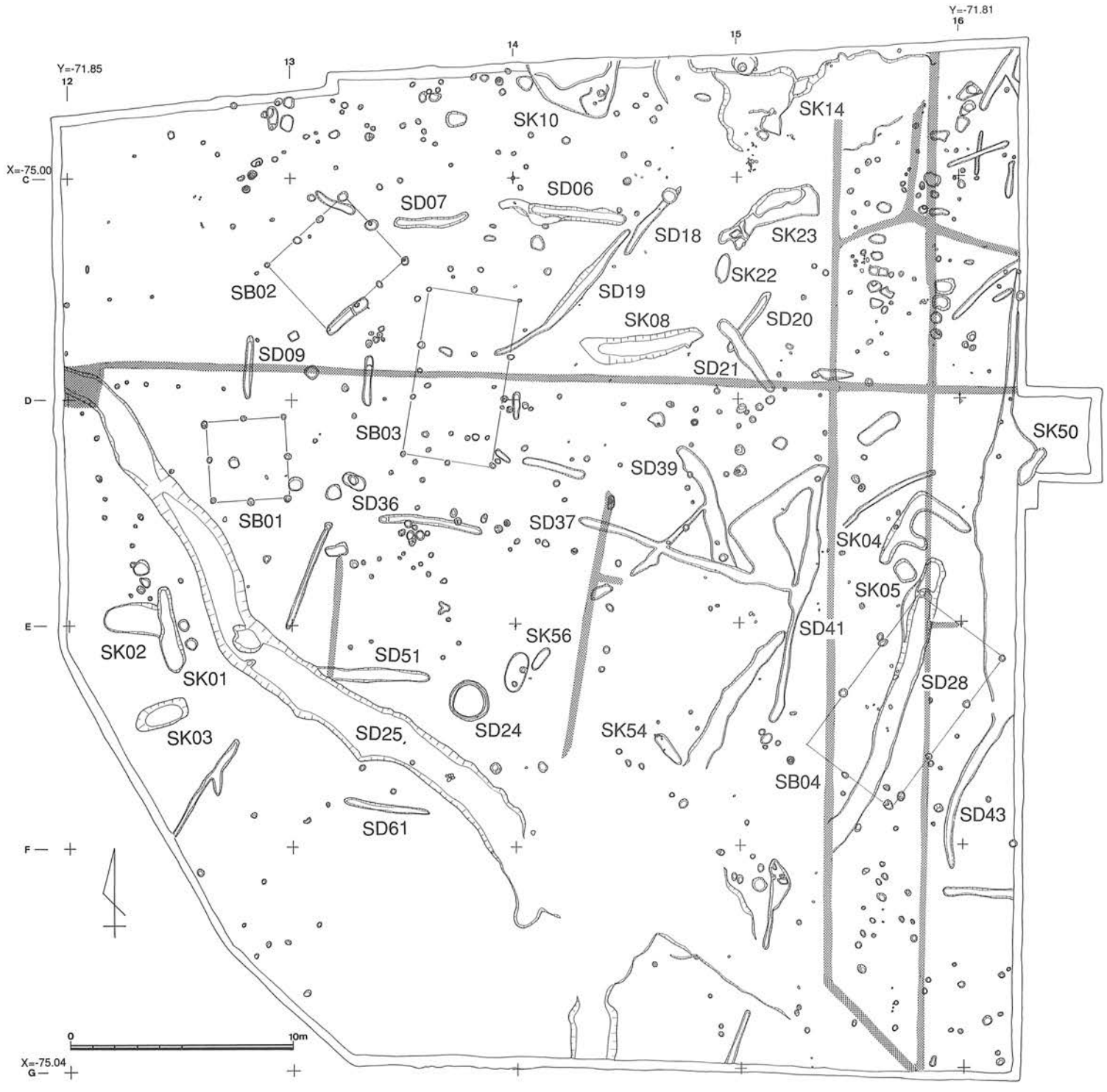


第12図　溝ＳＤ06遺物出土状況平面図（遺物　S=1/10）

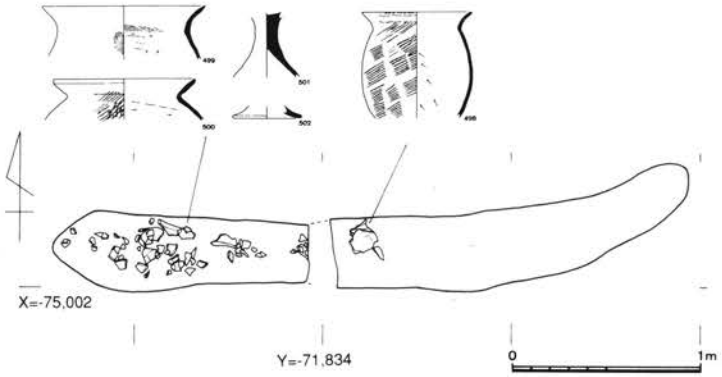
検出した遺構には溝や土坑、多数の柱穴などがある。溝や土坑については、不連続なものや不定形なものが多く、削平を受けた結果と考えられよう。総数400を越えるピットのなかには、掘立柱建物を構成する柱穴もあると思われる。ピット内から出土する土器は、周辺の遺構と同時期のものである。しかし、明確な建物跡は少ない。

（1）溝

溝ＳＤ06（第12図、図版第24）　14Ｃ地区で検出した東西方向の溝である。床形態は、平坦である。長さ約5.8m・幅0.6～0.9m・深さ0.3m程度を測る。埋土はやや黄褐色がかる暗黒褐色土である。炭化物も若干含まれている。遺物は土器片が整理箱１箱出土した。図示した個体は、13点である（407～419）。甕５点、高杯１点、小型器台１点、台付鉢１点、蓋１点、鉢１点、有孔鉢１点、椀１点、ミニチュア１点などがある。



第13図　東部地区遺構平面図

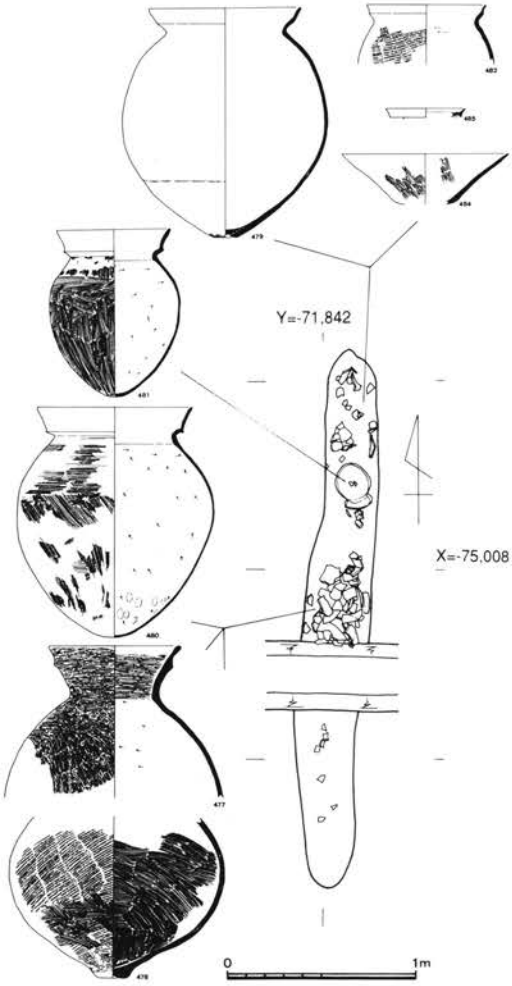


第14図　溝ＳＤ07遺物出土状況平面図(遺物　S=1/10)

溝ＳＤ07(第14図、図版第24)　13Ｃ地区で検出した東西方向の溝で東側でやや北に振る。長さ3.4m・幅0.4m・深さ0.2m程度を測る。床形態は船底状である。埋土は暗黒褐色土である。遺物は西側に集中していた。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、５点である(498～502)。甕３点、高杯１点などがある。

溝ＳＤ09(第15図、図版第24)　12Ｃ地区で検出した。長さ2.9m・幅0.9m・深さ0.2m前後の南北方向の溝である。埋土は暗黒褐色土である。現代の暗渠排水路によって一部攪乱されていた。遺物は北側で集中して出土した。遺物は土器片が整理箱１箱出土した。図示した個体は、９点である(477～485)。壺１点、甕５点、高杯１点、小型器台１点などがある。

溝ＳＤ18(図版第25)　14Ｃ地区で検出した溝である。長さ4.0m・幅0.3～0.4m・深さ0.2m程度を測る。埋



第15図　溝ＳＤ09遺物出土状況平面図
(遺物　S=1/10)

土は暗黒褐色土である。北側で土坑ＳＫ17と重複する。遺物は土器片が若干出土した。図示した個体は、甕１点(592)である。

溝ＳＤ19(図版第25)　14Ｃ・15Ｃ地区で検出した溝である。長さ8.3m・幅0.2～0.7m・深さ0.2m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、８点である(551～558)。甕４点、蓋１点、鉢１点などがある。

溝ＳＤ20(図版第23)　14Ｃ・15Ｃ地区で検出した溝である。溝ＳＤ21と重複する。長さ3.3m・幅0.4m・深さ0.2m程度を測る。埋土は２層で、黄褐色斑を含む暗黒褐色土のうえに薄く暗黒褐色土が載る。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、４点である(559～562)。甕２点、器台１点などがある。

溝ＳＤ21(図版第23)　14Ｃ・15Ｃ地区で検出した溝である。溝ＳＤ20と重複する。長さ4.0m・幅0.4～0.7m・深さ0.2m程度を測る。埋土は３層に分かれる。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、７点である(563～569)。甕２点、小型器台２点、鉢１点などがある。

溝ＳＤ24(図版第23)　11Ｅ地区で検出した輪状を呈する溝である。直径1.3m・幅0.2m・深さ0.1m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、１点(597)だけである。小破片のなかにはタタキを残す甕の体部や口縁部、二重口縁壺や広口壺の口縁部などがある。

溝ＳＤ25(図版第27)　調査区を西から南へ向けて流れる溝である。南側については、削平によって不明確となっている。明確な部分での規模は、幅約２m・深さ0.3m前後で、長さ30mにわたって明確に検出した。大まかな埋土は上層が0.1mから0.3m程度の暗黒褐色粘質土で、下層が0.2mから0.3m前後の砂の堆積がみられた。埋土中には弥生土器や土師器が包含されていた。遺物は土器片が整理箱２箱出土した。図示した個体は、23点である(337～358・634・635)。壺２点、甕３点、高杯２点、小型器台２点、蓋１点、有孔鉢１点、椀１点、土錘２点などがある。

溝ＳＤ28(図版第25)　15Ｄ・15Ｅ地区で検出した溝である。長さ14.0m・幅0.9～1.5m・深さ0.2m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。南側が不明瞭である。遺物は土器片が整理箱１箱出土した。図示した個体は、15点である(536～550)。甕７点、器台３点、台付鉢３点、蓋１点などがある。

溝ＳＤ36(図版第23)　13Ｄ地区で検出した東西方向の溝である。長さ4.7m・幅0.3m・深さ0.1m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が若干出土した。図示した個体は、蓋１点(598)だけである。

溝ＳＤ37(図版第26)　14Ｄ・15Ｄ地区で検出した溝である。長さ10.0m・幅0.3～0.5m・

深さ0.1m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は2点(594・595)で、器台(595)などがある。

溝ＳＤ39(図版第26)　14Ｄ・15Ｄ地区で検出した溝である。長さ5.0m・幅0.2～0.4m・深さ0.05m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、11点である(576～586)。甕6点、台付鉢1点、蓋1点、椀1点などがある。

溝ＳＤ41(図版第26)　15Ｄ・15Ｅ地区で検出した溝である。長さ11.8m・幅0.7～0.8m・深さ0.1m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が若干出土した。図示した個体はない。装飾をもつ壺の口縁部破片(629)がある。

溝ＳＤ43(図版第25)　16Ｅ地区で検出した溝である。長さ7.8m・幅0.4～0.5m・深さ0.05m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。北側が不明瞭である。遺物は土器片が少量出土した。小破片のなかには、内外面ハケ調整を施す甕の体部、外面タタキ・内面ハケ調整を施す甕の体部、擬凹線をもつ二重口縁甕などがある。

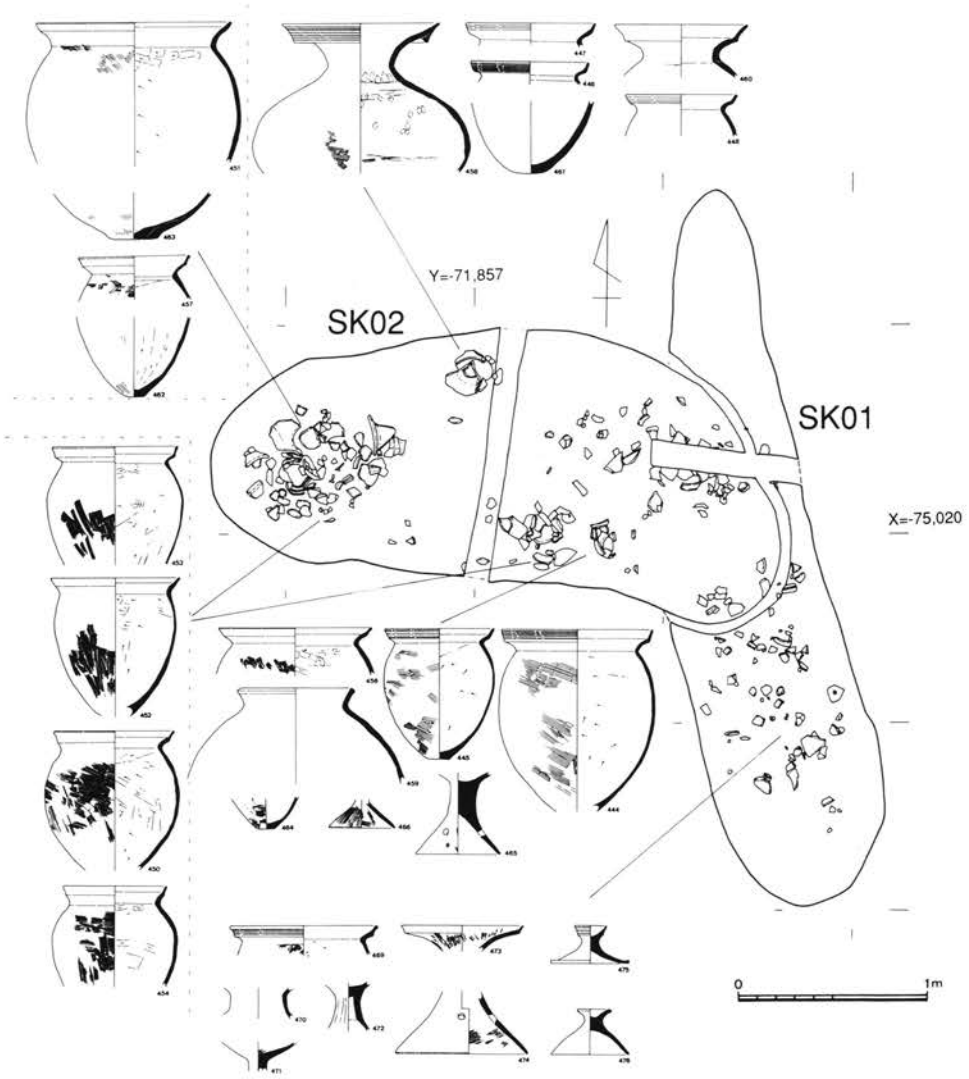
溝ＳＤ51(図版第23)　13Ｅ地区で検出した溝である。長さ5.0m・幅0.6m・深さ0.1m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、5点である(587～591)。甕2点、高杯1点、台付鉢1点、椀1点などがある。

(2)土坑

土坑ＳＫ01(第16図、図版第22)　12Ｄ・12Ｅ地区で検出した土坑である。土坑ＳＫ02と重複するが、暗褐色土が埋土となっており、平面や断面の土質観察では前後関係を識別することはできなかった。長さ3.9m・幅0.6～0.9m・深さ0.3m程度を測る。南北方向を主軸とする長楕円形の土坑である。床形態は船底状である。遺物は土器片が整理箱1箱出土した。図示した個体は、8点である(469～476)。壺1点、甕1点、高杯2点、器台1点、蓋2点などがある。

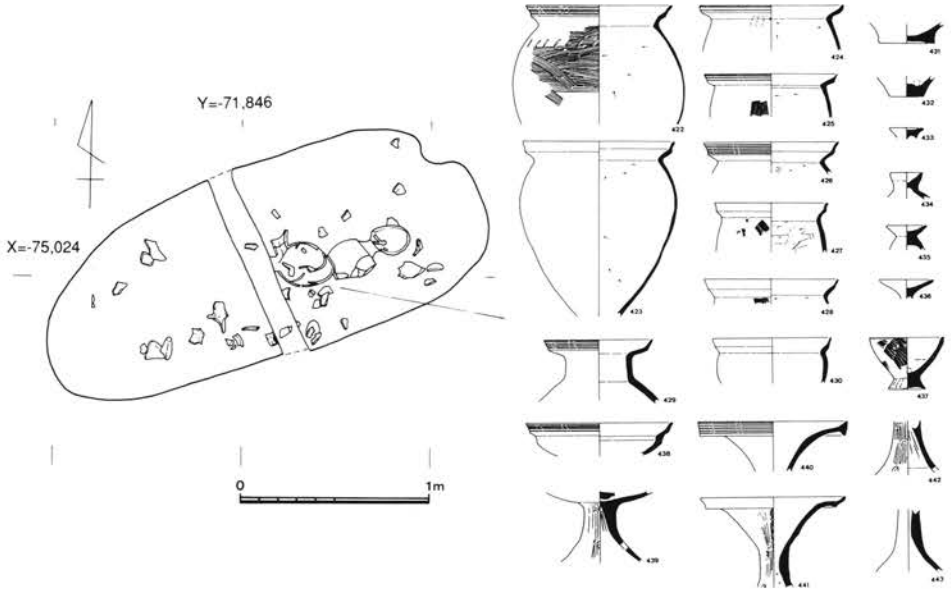
土坑ＳＫ02(第16図、図版第22)　12Ｄ・12Ｅ地区で検出した土坑である。土坑ＳＫ01と重複する。長さ3m前後・幅1.4m・深さ0.2mを測る。東西方向を主軸とする長楕円形の土坑で、床形態は船底状を呈している。埋土は暗褐色土である。遺物は整理箱1箱出土した。図示した個体は、25点である(444～468)。壺3点、甕14点、高杯1点、有孔鉢2点などがある。

土坑ＳＫ03(第17図、図版第22)　12Ｅ地区で検出した。長さ2.5m・幅1.1m・深さ0.3m程度を測る土坑である。東西方向を主軸とする長楕円形の土坑で、床形態は船底状を呈している。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が整理箱1箱出土した。図示した個体は、22点である(422～443)。壺1点、甕8点、高杯3点、器台2点、台付鉢1点、蓋4点などがある。



第16図　土坑ＳＫ01・土坑ＳＫ02遺物出土状況平面図(遺物　S=1/10)

土坑ＳＫ04(第18図、図版第21)　15Ｄ地区で検出した。「Ｆ」字状を呈する不定形な土坑で、床形態は船底状を呈している。あるいは複数の溝が重複していることも考えられる。しかし、埋土が暗黒褐色土のみであり、平面や断面の土質観察では確認はできていない。出土遺物の様相からすれば、差はほとんど認識できない。南北の長さ1.5m・東西の長さ1.2m・幅0.25m・深さ0.2m程度を測る。中央を南北に現代の暗渠排水路によって攪乱されていた。遺物は南北方向の溝内から多くが出土した。遺物は土器片が整理箱１箱出土した。図示した個体は35点である(372～406)。壺１点、甕16点、高杯２点、器台１点、台付鉢１点、蓋３点、鉢３点、有孔鉢１点、椀１点などがある。

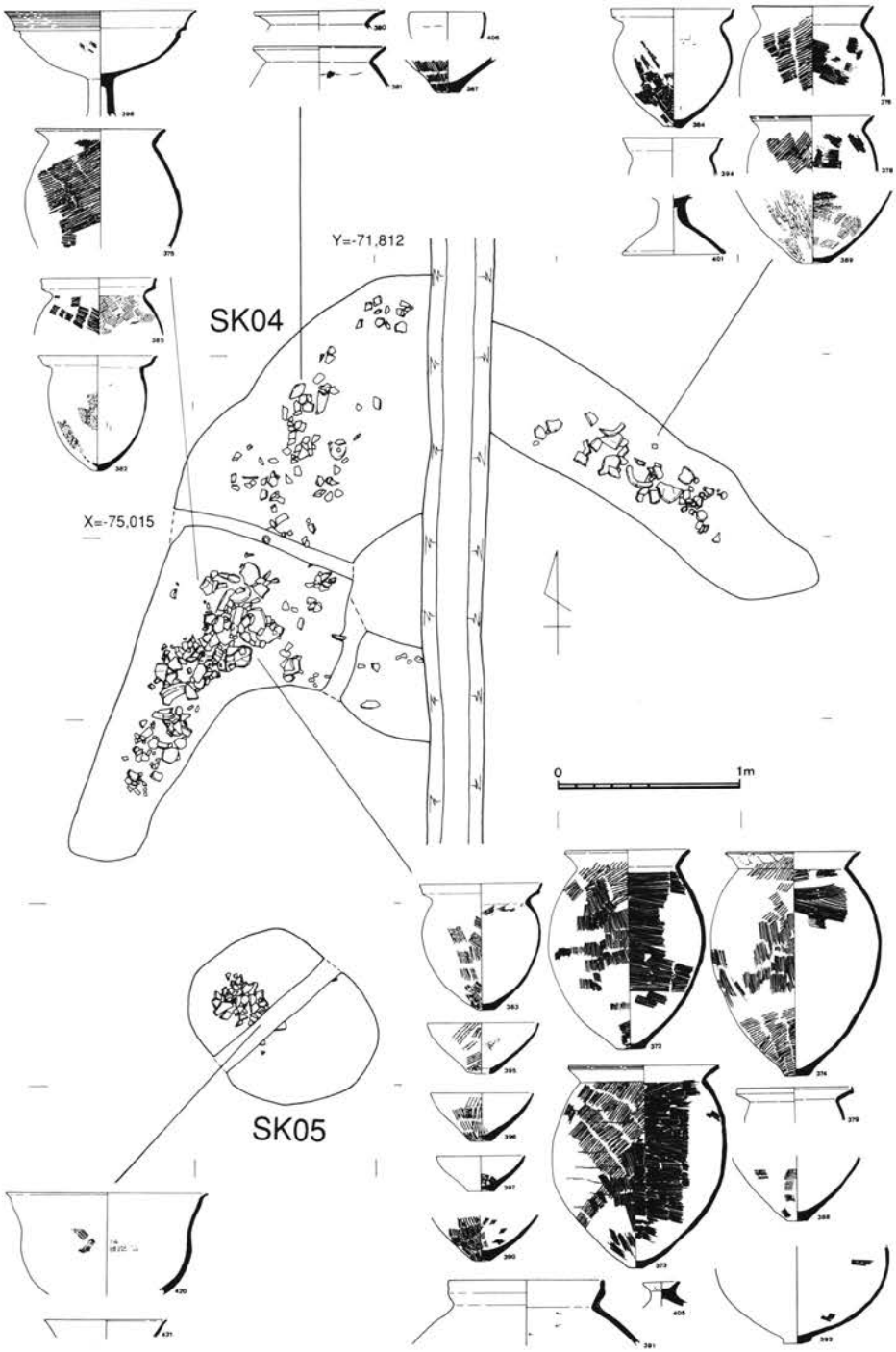


第17図　土坑ＳＫ03遺物出土状況平面図(遺物　S=1/10)

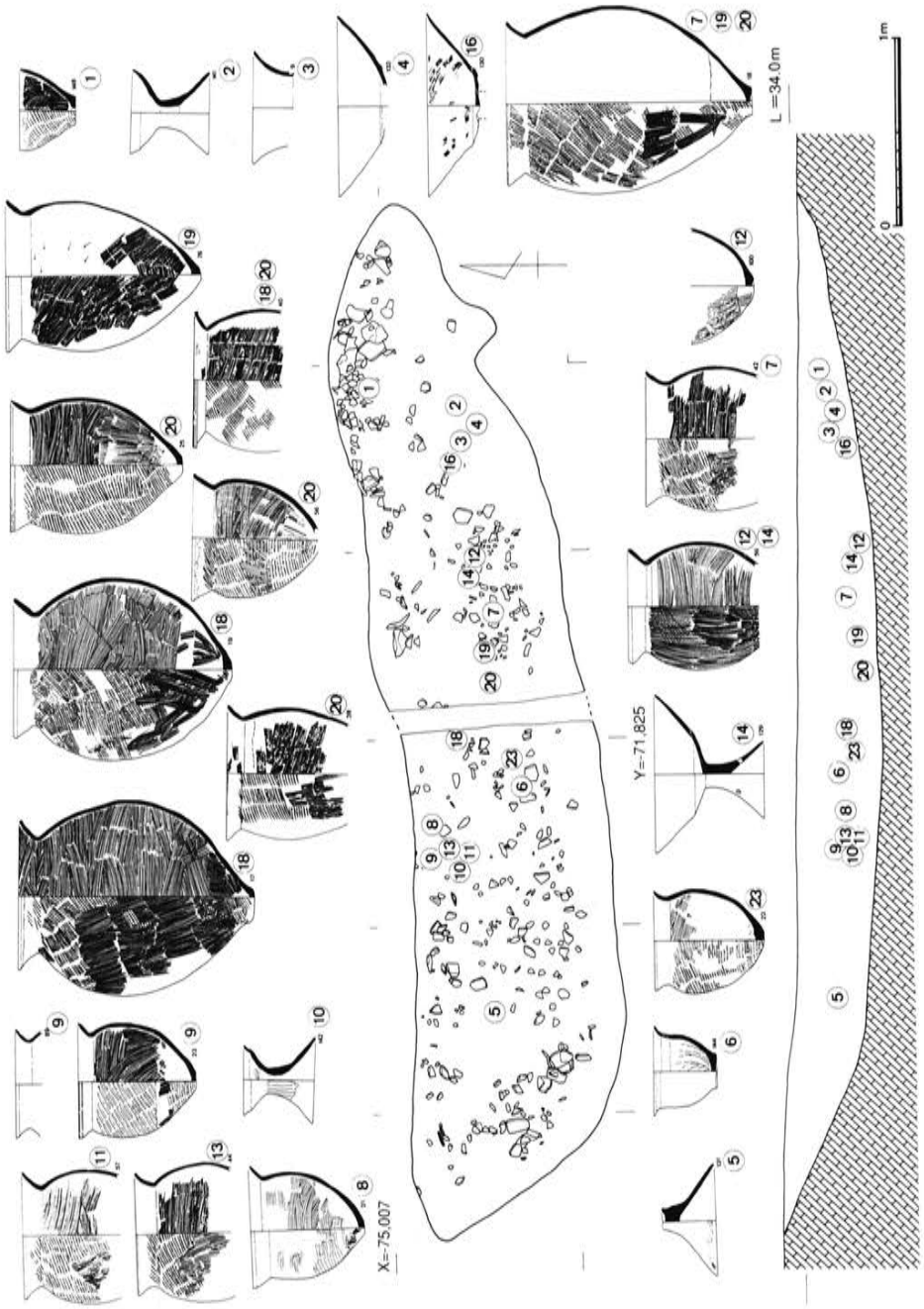
土坑ＳＫ05(第18図、図版第21)　15Ｄ地区で検出した。長さ1.1m・幅0.8m程度の隅丸方形を呈した土坑で、深さ約0.2m程度を測る。床形態は平坦である。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、鉢と椀である(420・421)。小破片のなかにはタタキを残す甕の底部片や二重口縁壺の口縁部片などもみられる。

土坑ＳＫ08(第19図、図版第20)　14Ｃ地区で検出した。長さ5.5m・幅0.8～1.2m・深さ0.5m程度を測る。床形態は船底状である。埋土は暗黒褐色土である。土坑内からは多量の土器が出土している。出土状況からみて、一括投棄された可能性が高い。遺物は土器片が整理箱12箱出土した。図示した個体は、159点である(1～155・630～633)。壺15点、甕74点、高杯７点、器台５点、小型器台３点、台付鉢１点、蓋１点、鉢５点、有孔鉢１点、椀１点、ミニチュア２点などがある。

土坑ＳＫ10(図版第21)　14Ｂ地区で検出した。調査地区外へと遺構が広がっているため、規模は不明である。深さは0.2m程度を測る。床形態は皿状である。埋土は２層で、上層は黒褐色土、下層が暗黒褐色土である。当初は、竪穴式住居跡かと思われたが、輪郭が不定形な点、壁面が傾斜し明確でない点、柱穴らしきものが確定できない点などから土坑とした。遺物は土器片が整理箱５箱出土した。図示した個体は、33点である(503～535)。壺９点、甕６点、高杯２点、器台２点、小型器台２点、台付鉢１点、蓋１点、鉢２点、椀１点などがある。



第18図　土坑ＳＫ04・土坑ＳＫ05遺物出土状況平面図（遺物　S=1/10）



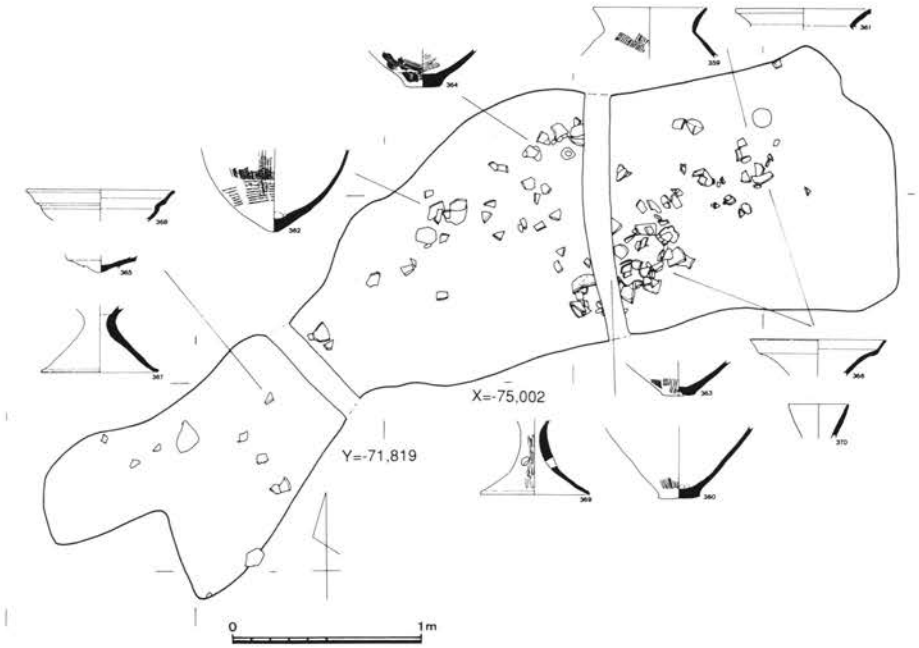
第19図　土坑ＳＫ08遺物出土状況平面及び立面図(遺物　S=1/10)

土坑ＳＫ14(図版第24)　14Ｂ･15Ｂ地区で検出した土坑である。東西10.0m･南北4.5m･深さ0.3m程度を測る浅い窪み状を呈している。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が整理箱10箱出土した。他の遺構と比べると高杯の出土量が際立っている。図示した個体は、192点である(156～336)。壺23点、甕48点、高杯40点、器台９点、小型器台４点、台付鉢９点、蓋４点、鉢７点、有孔鉢１点、椀１点、手焙り形土器１点、ミニチュア５点などがある。

土坑ＳＫ22(図版第20)　15Ｃ地区で検出した土坑である。長さ1.3m･幅0.6m･深さ0.1m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、１点(596)である。

土坑ＳＫ23(第20図、図版第20)　15Ｃ地区で検出した土坑である。長さ4.0m･幅0.8m～1.1m・深さ0.2m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、13点である(359～370)。壺１点、甕２点、高杯３点、器台２点、ミニチュア１点などがある。

土坑ＳＫ50(第21図、図版第23)　16Ｄ地区で検出した。長さ2.3m・幅0.5m・深さ0.1m程度を測る楕円形の土坑である。床形態は船底状である。埋土は黒褐色土である。遺物は土器片が整理箱１箱出土した。図示した個体は、12点である(486～497)。壺１点、甕５点、鉢２点、有孔鉢１点などがある。



第20図　土坑ＳＫ23遺物出土状況平面図(遺物　S=1/10)

第21図　土坑ＳＫ50遺物出土状況平面図(遺物　S=1/10)

土坑ＳＫ54(図版第24)　14Ｅ地区で検出した土坑である。長さ1.7m・幅0.5m・深さ0.05m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、６点である(570～575)。壺１点、甕３点、台付鉢１点、鉢１点などがある。

土坑ＳＫ56(図版第24)　14Ｅ地区で検出した土坑である。長さ1.2m・幅0.4m・深さ0.05m程度を測る。埋土は暗黒褐色土である。遺物は土器片が少量出土した。図示した個体は、甕１点(593)だけである。

(３)掘立柱建物跡

掘立柱建物跡ＳＢ01(図版第28)　12Ｄ地区で検出した。調査当初から確認していた明確な建物跡である。２間(1.74m)×２間(1.85m)の規模をもち、主軸線は座標北から西へ約４°振る。柱穴内から出土した土器から弥生時代末期から古墳時代初頭の建物跡と考えられる。

掘立柱建物跡ＳＢ02(図版第28)　13Ｃ・12Ｃ地区で検出した。梁間２間(４m)×桁行３間(4.7m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約48°振る。柱穴内から出土した土器から弥生時代末期から古墳時代初頭の建物跡と考えられる。

掘立柱建物跡ＳＢ03(図版第28)　15Ｅ・16Ｅ地区で検出した。２間(4.7m)×３間(8.5m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約39°振る。柱穴内から出土した土器から弥生時代末期から古墳時代初頭の建物跡と考えられる。

掘立柱建物跡ＳＢ04(図版第28)　13Ｃ・13Ｄ・14Ｃ地区で検出した。２間(4.1m)×３間(7.7m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約９°振る。柱穴内から出土した土器から弥生時代末期から古墳時代初頭の建物跡と考えられる。

２．西部地区(第22図)

山裾の緩斜面に位置しているため、高位置にあたる南西側の堆積は0.5m程度であるのに対して、低位置にあたる東側の堆積は、1.8mと土砂の堆積には大きな違いが認められた。東側の堆積層をみると、下層が青灰色粘質土層と砂利層との互層で、弥生土器や古墳時代の土師器を多量に包含していた。上層は暗茶褐色土で、調査区のほぼ全面に広がっており、平安時代の須恵器・土師器などを多量に包含していた。堆積層の厚さから考えると、山側から谷側にかけて、かなりの土砂の流出があったように思われる。地山は黄褐色粘質土で、検出遺構には溝や多数の柱穴がある。柱穴は総数500前後を数え、そのほとんどが奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物跡及び柵列である。建物跡の復原については、18棟程度の復原が可能である。比較的柱穴が密集し、出土遺物も多く、緑釉陶器や墨書土器なども出土した７Ｆ・８Ｆ・８Ｇを中心とした地区は、主要な建物が建てられていた地区と考えられる。この地区での建物跡の重複関係から少なくとも４期の建て替えがあったものと推察される。

(１)溝

８Ｄ・８Ｅ・９Ｅ・９Ｄ地区を中心として溝を11条検出した。大半が直線的に延び、長さは1.5mから6m以上のものまである。幅は0.3～0.5mである。振り角は、座標北から西へ34°～38°振るものが８条と最も多く、掘立柱建物跡の振り角とほぼ一致することや出土遺物から、掘立柱建物跡に伴う溝である。

溝ＳＤ2000　８Ｆ・８Ｇで検出した「コ」の字状を呈する溝である。幅0.8～1.5m・深さ0.1～0.2mを測る。溝内からは、多量の須恵器や土師器が出土している。

(２)土坑

土坑ＳＫ10ＨＰ-1098　10Ｈ地区で検出した土坑である。長辺約0.7m×短片約0.6mの隅丸方形状を呈しており、深さ約0.15mを測る。なかには拳大の川原石が散乱しており、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての土器(600)が出土した。

(３)掘立柱建物跡

掘立柱建物跡ＳＢ05(図版第31)　７Ｆ・８Ｆ・８Ｇ地区で検出した。梁間２間(約4.8m)×桁行５間(約10.5m)の規模をもち、主軸線は座標北から西へ約38°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ06(図版第30)　９Ｆ・９Ｇ地区で検出した。梁間２間(約４m)×桁行

第22図　西部地区遺構平面図

3間(約4.2m)の規模をもつ総柱建物跡である。主軸線は座標北から西へ約41°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ07　9Ｇ・9Ｈ・10Ｇ・10Ｉ地区で検出した。梁間1間(約3.8m)×桁行2間(約5.1m)の身舎に1間(約2.7m)×2間(約5.1m)の廂が北東側に取り付く。主軸線は座標北から西へ約39°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ08　9H・10H地区で検出した。梁間2間(約5.4m)×桁行2間(約5.8m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約51°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ09　10H・10Ｉ地区で検出した。梁間2間(約6.0m)×桁行2間以上(約5.6m以上)の規模をもち、主軸線は座標北から西へ約37°振る。一部の柱穴内から瓦器片が出土している。

掘立柱建物跡ＳＢ10(図版第29)　8Ｆ・7Ｆ地区で検出した。梁間2間(約4.6m)×桁行2間(約4.6m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約54°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ11(図版第29)　7Ｅ・7Ｆ・8Ｅ・8Ｆ地区で検出した。梁間2間(約4.5m)×桁行3間(約6.5m)の規模をもつ総柱建物跡である。主軸線は座標北から西へ約38°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ12(図版第30)　8Ｅ・8Ｆ・9Ｅ・9Ｆ地区で検出した。梁間2間(約4.5m)×桁行3間(約5.9m)の規模をもち、主軸線は座標北から西へ約38°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ13　9Ｇ・9Ｈ・10Ｇ・10H地区で検出した。梁間3間(約7.6m)×桁行3間(約8.2m)の規模をもつ総柱建物跡である。主軸線は座標北から東へ約50°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ14(図版第31)　9Ｉ・10H・10Ｉ地区で検出した。梁間1間(約3.1m)×桁行2間(約6.2m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約55°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ15(図版第29)　7Ｆ・8Ｅ・8Ｆ地区で検出した。梁間2間(約4.6m)×桁行4間(約7.3m)の規模をもち、主軸線は座標北から西へ約38°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ16(図版第29)　8Ｆ・8Ｇ地区で検出した。梁間2間(約4.3m)×桁行2間(約5.1m)の規模をもつ総柱建物跡である。主軸線は座標北から西へ約38°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ17　9Ｇ・9Ｉ・10Ｇ地区で検出した。梁間2間(約4.7m)×桁行4間(約9.1m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約54°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ18(図版第30)　7Ｆ・8Ｅ・8Ｆ・9Ｆ地区で検出した。梁間2間(約4.9m)×桁行3間(約7.9m)の身舎に南西側及び北東側の両面に1間(約2.7m)×3間(約7.9m)の廂が取り付く。主軸線は座標北から西へ約31°振る。一部の柱穴内から瓦器片が出土している。

掘立柱建物跡ＳＢ19(図版第31)　7Ｅ・7Ｆ・8Ｅ地区で検出した。梁間2間(約3.9m)×桁行2間(約5.1m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約52°振る。

掘立柱建物跡ＳＢ20(図版第31)　９Ｉ･10Ｈ･10Ｉ地区で検出した。梁間２間(約4.5m)×桁行２間(約5.5m)の規模をもち、主軸線は座標北から西へ約38°振る。一部の柱穴内から瓦器片が出土している。

掘立柱建物跡ＳＢ21　９Ｇ・９Ｈ・10Ｇ・10Ｈ地区で検出した。梁間２間(約5.3m)×桁行２間(約6.2m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約50°振る。一部の柱穴内から瓦器片が出土している。

掘立柱建物跡ＳＢ22　８Ｄ・８Ｅ・９Ｄ地区で検出した。梁間２間以上(約3.6m以上)×桁行３間(約7.6m)の規模をもち、主軸線は座標北から東へ約56°振る。一部の柱穴内から白磁片が出土している。

第３節　出　土　遺　物

１．小西町田遺跡の出土遺物

弥生土器・須恵器・土師器が大量に出土している。ほかに縄文時代の土器片及び石器が若干と、緑釉陶器・灰釉陶器や青磁・白磁、多数の土錘、鉄製品などがある。

弥生土器及び古墳時代初頭の土師器は、大半が東部地区の包含層もしくは遺構に伴って出土した。西部地区では、調査区北東側の低位部の包含層から出土している。

須恵器・土師器の大半は西部地区から包含層もしくは柱穴群の周囲及び柱穴内から出土しており、これらの柱穴が構成する建物群に伴う遺物と考えられる。

２．縄文時代の遺物

638は、胎土の状態から縄文土器と思われる土器の小破片である。断面かまぼこ状を呈する文様が連なり、早期の高山寺式土器の口縁部内面にみられる文様に似る。しかし、片面には施文が認められない。沈線を施したものの可能性もあり、時期は特定できない。

石器には石鏃２点、石錐１点、凹石１点、敲石兼擦石１点がある。986はTr-５暗茶褐色土上層から出土した石鏃である。安山岩系の石材を用いている。987は溝ＳＤ19の最下層から出土した石鏃である。石材はチャートである。985はチャート製の石錐である。先端部は磨滅が極めて進んでおり、意識的に酷使している。988は溝ＳＤ19から出土した凹石である。989は敲石兼擦石である。10Ｆ地区茶褐色土層から出土した。表裏面がよく磨滅しており、側面全体に敲打痕が残る。

3．弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺物

(1)土器の分類

出土した土器は弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての時期に限られており、遺構出土の土器を主体として一括して分類を行った。なお、遺物の実測にあたっては、小破片であっても可能なかぎり、図化に努めた。

壺形土器(第23図)

壺A　端面に擬凹線を施す二重口縁壺。

A１　頸部から内傾して立ち上がり、口縁上半で大きく外反したのち端部を上方へ拡張するもの(429・599)。完全に復原しえる資料がなく、全体の様相は明らかでない。

A２　頸部から外傾して立ち上がり、口縁上半で大きく外反したのち端部を上方へ拡張するもの。完全に復原しえる資料がなく、全体の様相は明らかでない(506)。

A３　頸部が「く」の字に屈曲し、外反してのびる口縁部の端面を下方向へ拡張するもの。体部は、中位に最大径をもつ扁球形に近いものである(458)。

壺B　口縁部端面にナデを施す二重口縁壺。

B１　頸部から外傾して立ち上がり、口縁上半で大きく外反したのち端部を上方へ拡張するもの(3・4・156・460・504・505・508)。完全に復原しえる資料がなく、全体の様相は明らかでない。

B２　頸部が「く」の字に屈曲し、外反してのびる口縁部の端面を下方向へ拡張するもの。体部は、中位に最大径をもつ扁球形に近いものである(503)。

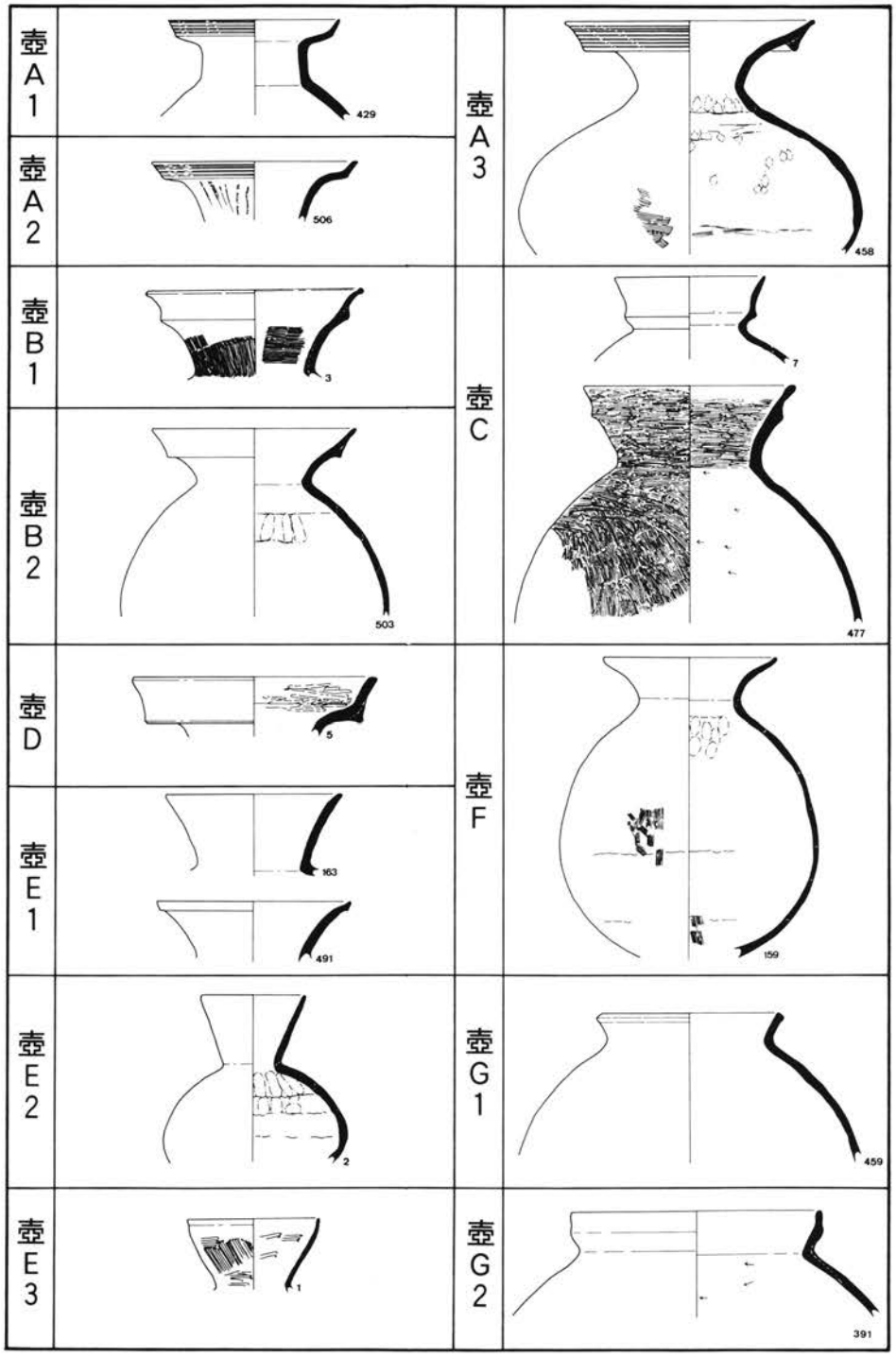
壺C　二重口縁壺。頸部から外傾して立ち上がり、口縁部上半をナデて鈍く屈曲させる二重口縁壺(6・7・216・477)。体部は、球形になるものと思われる。大型(477)と中型(6・7・216)のタイプがある。

壺D　二重口縁壺。頸部からやや外傾して立ち上がり、口縁部上半で大きく外反したのち、口縁端部を内湾させながら下方へも拡張する二重口縁壺(5・168)。口縁部端面は、ナデを施す。完全に復原しえる資料がなく、全体の様相は明らかでない。

壺E　頸部が「く」の字に屈曲し、外傾して開く口縁部をもつ。完全に復原しえる資料が少なく、全体の様相は明らかでない。口縁部の立ち上がりから、E１・E２・E３に分かれる。

E１　口縁部が頸部からのびるにつれて、外反していくもの(8・9・11・160・163・164・166・169・491・507)。169・491は、口縁端部外側を肥厚させている。

E２　頸部屈曲部から直線的にのびる口縁部をもつ(2・162・370・510・603)。中型のもの(162・510・603)と小型のもの(2・370)とがある。中型のタイプには、頸部に装飾



第23図　古式土師器分類図1（壺形土器　S=1/6）

をもつ突帯をめぐらすもの(510・603)がある。小型のタイプの体部は、中位に最大径をもつ算盤玉状を呈している。

E３　外傾して開く口縁部下半から口縁部上半部がやや内湾していく口縁部をもつ(1・526)。

壺F　体部から頸部が緩やかに外反するもので、内湾気味に納まる口縁の端部を摘み上げている。体部は球形に近い(159)。

壺G　頸部を「く」の字に屈曲させ、短い口縁部がつくもの。体部は、球形に近いと予想される。G１・G２に分かれる。

G１　外反する短い口縁部をもつ(459)。

G２　外反する短い口縁部の端部を短く直立させるもの(391)。

甕形土器(第24図)

甕A　擬凹線を施す二重口縁甕。「く」の字状に屈曲する頸部から口縁部が外傾して立ち上がり、端部を上方へ短く拡張するもの。体部は上半に最大径をもつ倒卵形で、底部は平底である。外面はハケメ調整、内面はヘラケズリ調整を行うものが通有である(422・444・445など)。

甕B　擬凹線を施さない二重口縁甕。形状からB１・B２に分かれる。

B１　甕Aの形態で、擬凹線を施さないもの(382・384・423・450・452・453など)。

B２　「く」の字状に屈曲する頸部から口縁部が外傾して立ち上がり、口縁端部を上方へ大きく拡張するもの。口縁部下半に鋭い稜をもつ。いわゆる「５」の字状口縁を呈するものである。口縁部端面にはナデを施す。体部は上半に最大径をもつ倒卵形で、底部は丸底である。外面はハケメ調整、内面はヘラケズリ調整を行うものが通有である(81・190・480・481・511・512・513・600)。

甕C　「く」の字状に屈曲する頸部から口縁部が外傾して立ち上がる。体部は、中位に最大径をもつ倒卵形を呈する。底部は不安定なものが多い。外面にタタキを残すものや、タタキの上にハケ調整を施す。内面の調整により二つのタイプに分かれる。

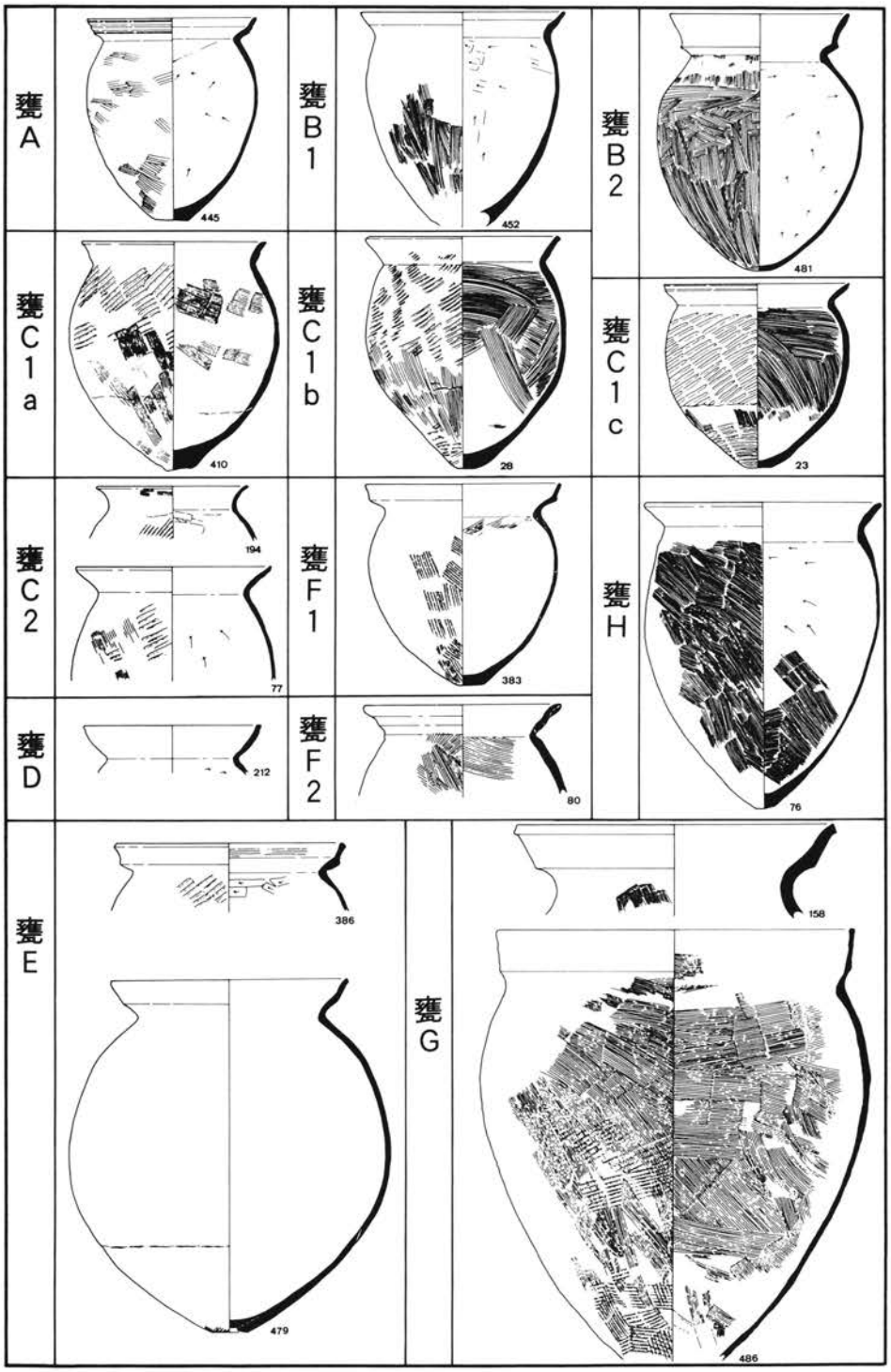
C１　内面にハケ調整を施す。口縁端部形状の差異により３タイプに分かれる。

1a　端面を丸く納めるもの(21・22・26・27・408・409・410・514など)。

1b　端面をナデて面をつくるもの(17・18・20・24・28・56・372・374・587など)。

1c　端面を摘み上げるもの(19・23・25・29・373・487・488など)。庄内式の甕にみられる端部摘み上げを意識したものであろう。

C２　内面にヘラケズリ調整を施す(77・194・197・516)。



第24図　古式土師器分類図２（甕形土器　S＝1/6）

甕D　「く」の字状に屈曲する頸部から口縁部が外傾して立ち上がり、口縁端部内面を肥厚させるもの。いわゆる布留式の甕である(212・213)。当遺跡では土坑ＳＫ14から細片が２点だけ出土しているが、他に明確な布留式の土器は出土しておらず、混入と考えてよいものである。

甕E　体部外面にタタキを残す二重口縁甕。内面はヘラケズリを行うものが多い(78・386・479・482・564)。

甕F　体部内外面ともにハケ調整を残す二重口縁甕。２タイプに分かれる。

Ｆ１　薄手のもの(383・385)。

Ｆ２　厚手のもの(80・554)。

甕G　外傾ないし直立する長い口縁部をもつ大型の甕(79・158・486・563)。

甕H　「く」の字状に屈曲する頸部から口縁部が外傾して立ち上がる。体部外面にハケ調整を施す。内面はヘラケズリを行うものが多い(76・83・205・451・582)。

高杯形土器(第25図)

高杯A　杯部の口縁端部を上方に拡張するもの。

Ａ１　擬凹線を施すもの(398・438・604)。

Ａ２　ナデを施すもの(277・368)。

高杯B　稜をもって立ち上がる杯部をもつもの。

Ｂ１　口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもの(129・130・133・275・276・484・528)。

Ｂ２　口縁部が上方に立ち上がった後、外反するもの(12)。

高杯C　椀状の杯部をもつもの(605・608)。

高杯D　皿状の杯部をもつもの(281)。

高杯脚部の分類

脚部については、形状から４分類した。

高杯脚A　脚柱部が中実であるもの(129・465)。

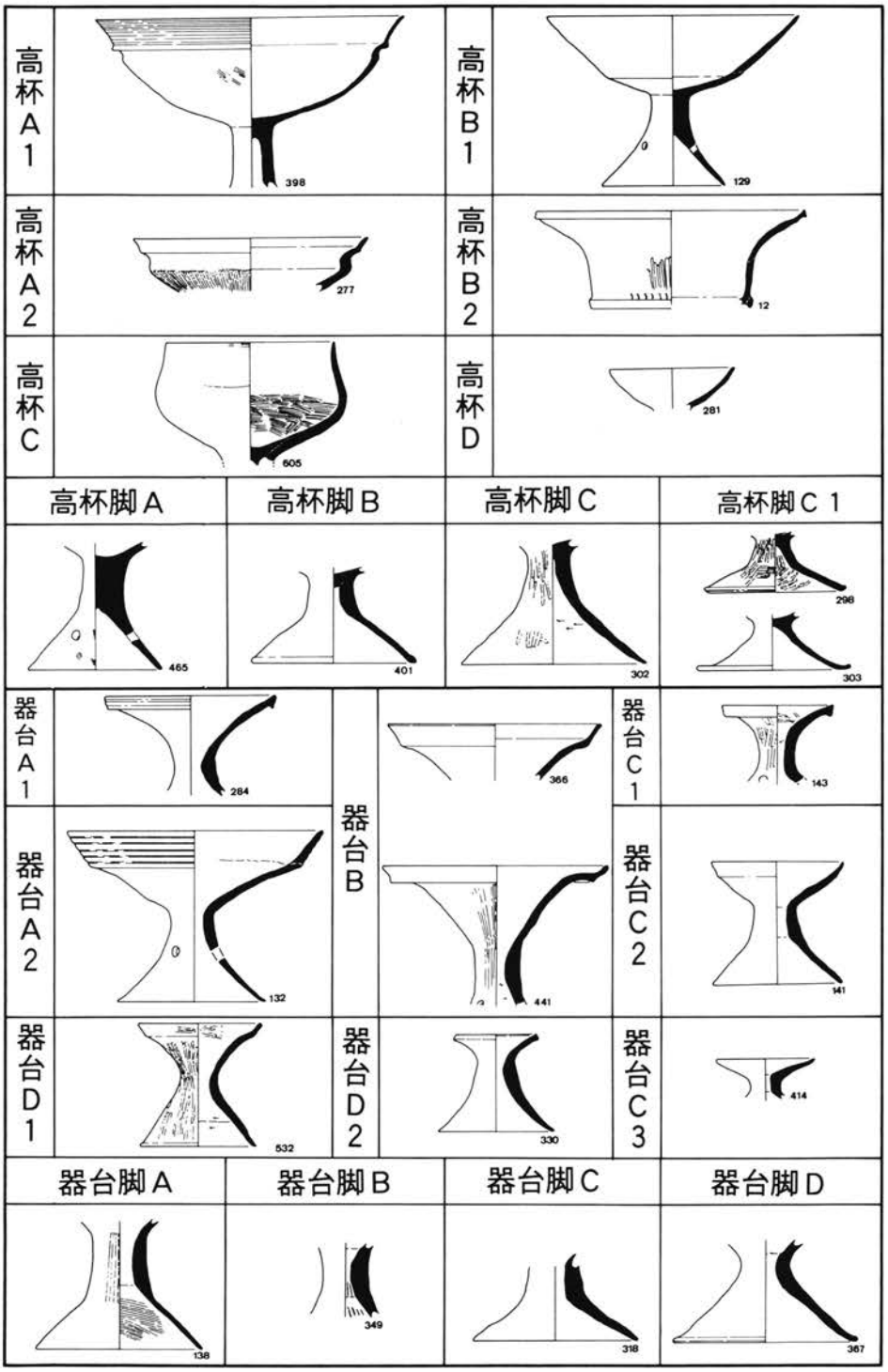
高杯脚B　脚柱部が中空で、脚柱部と裾部とが明確にされているもの(297・301・401など)。

高杯脚C　脚柱部が中空で、脚柱部と裾部とが明確でなくラッパ状に開くもの(302・348・609など)。

Ｃ１　形状Ｃのうち、脚高に比べ裾部が大きく開く低脚高杯(298・299・303など)。

器台形土器(第25図)

器台A　擬凹線を施すもの。



第25図　古式土師器分類図3（高杯形土器・器台形土器　S=1/6）

A１　口縁端部を下方に拡張するもの(284・440・529・594)。

A２　口縁端部を上方に拡張するもの(132・610)。

器台B　口縁端部を上方に拡張し、ナデを施すもの(157・283・366・441・473・549・561)。

器台C　小型器台。受け部から脚部にかけての貫通孔をもつ。

C１　口縁端部を下方に拡張するもの(143・485・567)。

C２　口縁端部を上方に拡張するもの(141・329・353・531)。

C３　口縁端部を丸く納めるもの(414)。

器台D　小型器台。脚部断面が「く」の字状を呈するもの。

D１　口縁端部を外上方に摘み上げるもの(142・331・352・532)。

D２　口縁端部を内上方に摘み上げるもの(330)。

器台脚部の分類

脚部については、形状から４分類した。

器台脚A　脚柱部が柱状を呈し、比較的長いもの(138・548・550)。

器台脚B　脚柱部が柱状を呈し、比較的短いもの(309・349)。

器台脚C　脚柱部に貫通孔をもつもの(312・318)。

器台脚D　脚柱部が「く」の字状を呈するもの(134・136・137・307・367・533)。

鉢形土器(第26図)

鉢A　分割成形技法に伴うもの(260・396・397・496)。

鉢B　口縁部が内湾ぎみに立ち上がるもの(147・258・259・418・527・569)。

鉢C　二重口縁をもつもの

C１　口縁端面に擬凹線を施すもの(606)。

C２　口縁端面にナデを施すもの(167・217・261・393・492・555・574)。

鉢D　外反する口縁部をもつもの(144・145・146・150・218・420・515)。

鉢E　有孔鉢。タタキ技法を用いないものもの(E１)とタタキを残すもの(E２)とがある。底面の状況から尖底(a)、丸底(b)、平底(c)、に分かれる。

E１a　尖底で、タタキ技法を用いないもの(262・467・468)。

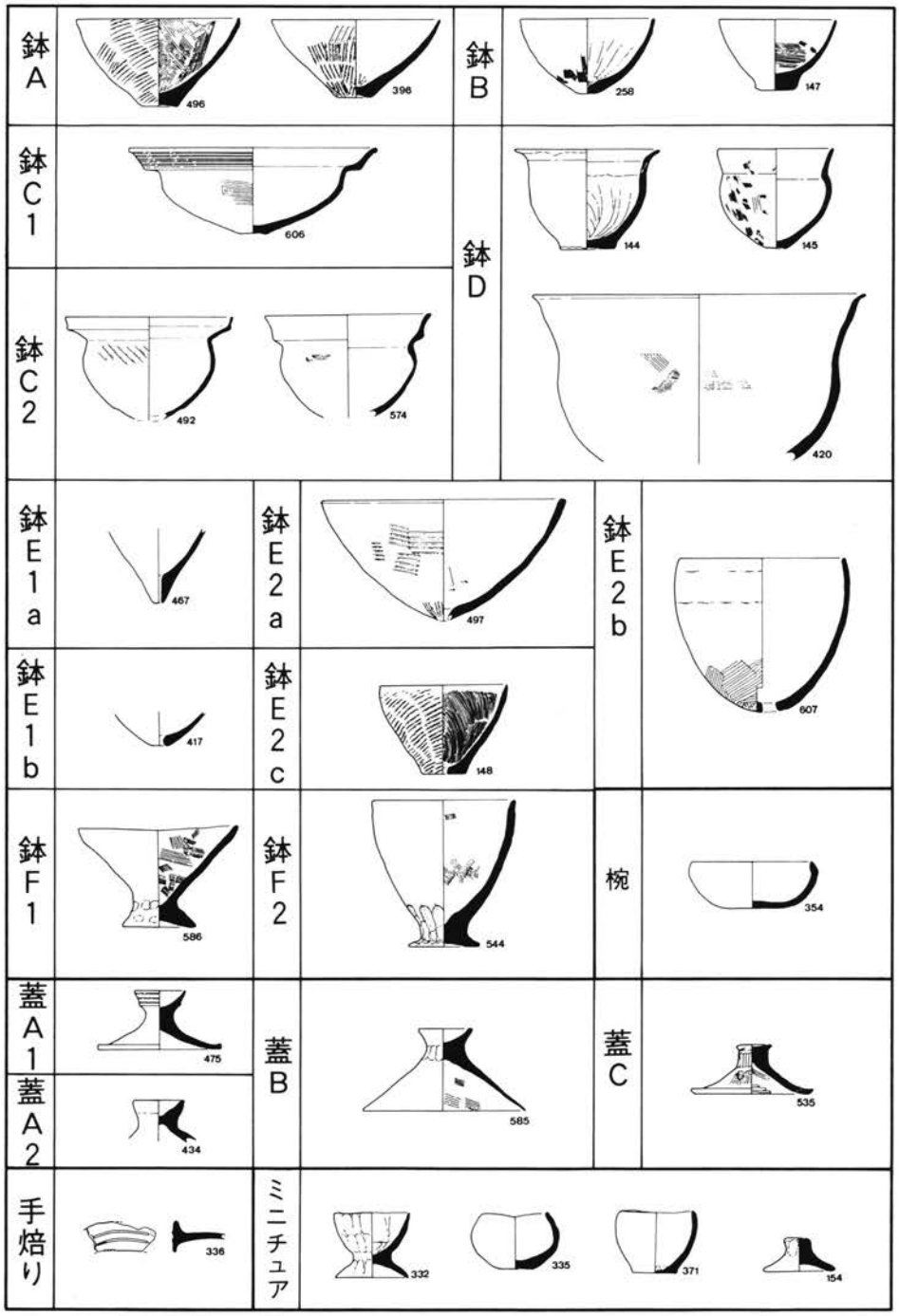
E１b　丸底で、タタキ技法を用いないもの(417)。

E２a　尖底で、タタキを残すもの(497)。

E２b　丸底で、タタキを残すもの(355・607)。

E２c　平底で、タタキを残すもの(148・395)。

鉢F　台付鉢形土器



第26図　古式土師器分類図４
（鉢形土器・椀形土器・蓋形土器・手焙り形土器・ミニチュア土器　S=1/6）

Ｆ１　直線的に立ち上がる口縁部をもつ(586・614・615)。

Ｆ２　内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ(437・544・545)。

蓋形土器(第26図)

蓋Ａ　摘み部を上方へ拡張するもの。

Ａ１　摘みに擬凹線を施すもの(263・475)。

Ａ２　摘みにナデを施すもの(434)。

蓋Ｂ　直線的に開く口縁部をもつもの(476・558・585・612・613)。613は小型で、有孔のものである。

蓋Ｃ　口縁部が外反するもの(149・535・598)。

椀形土器(第26図)

椀形を呈するものを一括した(152・280・354・406・412・421・534・584・589)。

ミニチュア土器(第26図)

手捏ねの土器で、各種の器形を模倣した小型の土器である。蓋形(154)、台付鉢(332)、鉢(155・334・335・371・419・616・617)などがある。

底部の分類

壺・甕・鉢の底部については、形状及び成形技法に係わると思われる属性により分類した。

形状Ａ　丸底・尖底もしくは底面を明確にもたない不明瞭な平底。

Ａ１　丸底

Ａ２　尖底

形状Ｂ　底面を明確にもつ平底。

Ｂ１　安定した平底をもつもの。

Ｂ２　凹み底をもつもの。

Ｂ３　底面を明確にもたない不明瞭な平底。

Ｂ４　底面が極めて狭く、不安定な平底をもつもの。

形状Ｃ　底面が突出する平底。

また、形状Ａ・Ｂ・Ｃには、以下の属性が認められる。

属性ａ　底面に顕著な属性の認められないもの。

属性ｂ　底面がドーナツ状を呈するもの。

属性ｃ　底面に小さな凹みを残すもの(属性ｂの一種)。

属性ｄ　底面にタタキ痕を残すもの。

(２)古式土師器の概要

土坑ＳＫ01出土遺物(469～476)　８点ある。壺１点、甕１点、高杯２点、器台１点、

蓋２点、裾部１点がある。これらのうち蓋２点については、全体の様相を明らかにできた。

甕には擬凹線を施す二重口縁甕Ａがあり、蓋にも擬凹線をもつ蓋Ａ１がある。また、擬凹線を施す二重口縁壺Ａ１の頸部もみられる。甕の底部形態は不明である。高杯には脚部形態Ｂがある。

土坑ＳＫ02出土遺物(444～468)　25点ある。壺３点、甕14点、高杯１点、有孔鉢２点、底部４点、裾部１点がある。これらのうち甕１点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には擬凹線をもつ二重口縁壺Ａ３と擬凹線を失った二重口縁壺Ｂ１、短頸壺Ｇ１がある。甕には擬凹線をもつ二重口縁甕Ａが５点と、擬凹線を失った二重口縁甕Ｂ１が８点、甕Ｈが１点ある。ほかに、尖底となる有孔鉢Ｅ１aが２点ある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ｂ１aが３点、Ｂ４が２点ある。高杯には、脚部形態Ａが１点ある。

土坑ＳＫ03出土遺物(422～443)　22点ある。壺１点、甕８点、高杯３点、器台２点、台付鉢１点、蓋４点、脚部１点、底部２点がある。これらのうち台付鉢１点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には擬凹線をもつ二重口縁壺Ａ１がある。甕には擬凹線を施す二重口縁甕Ａが４点、擬凹線を失った二重口縁甕Ｂ１が４点ある。高杯には擬凹線を施す二重口縁高杯Ａ１がみられる。器台には、擬凹線を施す二重口縁器台Ａ１と、擬凹線を施さない二重口縁器台Ｂとがある。ほかに、擬凹線を施さない蓋Ａ２がある。台付鉢にはＦ２がある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ｂ１aが２点ある。高杯脚部形態には、Ｂが１点、Ｃが１点ある。器台脚部形態には、Ａが１点ある。

土坑ＳＫ04出土遺物(372～406)　35点ある。壺１点、甕16点、高杯２点、器台１点、台付鉢１点、蓋３点、鉢３点、有孔鉢１点、椀１点、裾部１点、底部５点がある。これらのうち甕６点、鉢２点、有孔鉢１点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には短頸壺Ｇ２がある。甕には擬凹線を施す二重口縁甕Ａが１点と擬凹線を失った二重口縁甕Ｂ１が３点がある。タタキ痕を残す「く」の字状口縁甕にはＣ１aが１点、Ｃ１bが３点、Ｃ１cが５点あり、タタキ痕を残す二重口縁甕Ｅも１点ある。ほかに甕Ｆ１が２点ある。鉢には擬凹線を施さない二重口縁鉢Ｃ２のほかに、タタキ痕を残す鉢Ａが２点・有孔鉢Ｅ２cがある。高杯には擬凹線を施すＡ１がある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ｂ３が１点、Ｂ１bが５点、Ｂ１cが１点、Ｂ３が５点、Ｃ１aが１点ある。高杯脚部形態には、Ｂが２点ある。器台脚部形態には、Ｄが１点ある。

土坑ＳＫ05出土遺物(420・421)　鉢Ｄが１点と椀が１点である。完全に復原しえる資

料はない。小破片のなかにはタタキを残す甕の底部片や二重口縁壺の口縁部片などもみられる。

溝ＳＤ06出土遺物(407～419)　13点ある。甕５点、椀１点、鉢１点、有孔鉢１点、台付鉢１点、高杯１点、小型器台１点、蓋１点、ミニチュア１点がある。これらのうち甕３点、鉢１点、ミニチュア１点については、全体の様相を明らかにできた。

タタキメを残すものに、「く」の字状口縁甕Ｃ１ａが５点、鉢Ｂが１点ある。ほかに小型器台Ｃ３や有孔鉢Ｅ１bがある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ａ１が１点、Ａ２が１点、Ｂ４dが１点ある。鉢の底部形態には、Ｂ１aが１点ある。高杯脚部形態には、Ｂが１点ある。器台脚部形態には、Ｃが１点ある。

溝ＳＤ07出土遺物(498～502)　５点ある。甕３点、高杯１点、裾部１点がある。完全に復原しえる資料はない。

甕にはタタキメを残す「く」の字状口縁甕Ｃ１aが２点、Ｃ１cが１点ある。

高杯脚部形態には、Ａが１点ある。

土坑ＳＫ08出土遺物(1～155・630～633)　159点ある。壺10点、甕74点、高杯７点、器台５点、小型器台３点、台付鉢１点、蓋１点、鉢５点、有孔鉢１点、椀１点、ミニチュア２点、底部44点、装飾壺片５点がある。これらのうち甕15点、高杯１点、器台３点、鉢４点、有孔鉢１点、ミニチュア２点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には擬凹線を施さない二重口縁壺Ｂ１が２点、壺Ｃが２点、壺Ｄが１点ある。また、直口壺Ｅ１・Ｅ２・Ｅ３がある。630～633は、装飾を施す土器片である。630は櫛歯状工具で波状文や刺突文を施すもので、631・633は線描きしたものと思われる。632は、円形浮文をもつ。

甕には擬凹線を施す二重口縁甕Ａが１点あり、「５」の字口縁をもつ甕Ｂ２が１点ある。タタキ痕を残す「く」の字状口縁甕は、Ｃ１aが24点、Ｃ１bが24点、Ｃ１cが18点、甕Ｃ２が１点ある。タタキ痕を残す二重口縁甕Ｅも１点ある。ほかに甕Ｆ２が１点、甕Ｇが１点、甕Ｈが２点がある。

高杯では、稜をもつ高杯Ｂ１が３点ある。また、特異な形態をとるＢ２が１点ある。器台では、擬凹線をもつ二重口縁器台Ａ２が１点あり、小型器台にＣ１・Ｃ２・Ｄ１がある。鉢では、タタキ痕を残す有孔鉢Ｅ２cがある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ａ１が１点、Ａ２が１点、Ｂ４が７点、Ｂ４dが４点、Ａ３dが１点、Ｂ１aが14点、Ｂ１bが９点、Ｂ１cが６点、Ｂ２が６点、Ｂ３が９点、Ｂ３dが１点、Ｃ１aが１点、Ｃ１bが１点、Ｃ１cが２点ある。高杯脚部形態には、Ａが２点、

Bが１点、Ｃ１が１点ある。器台脚部形態には、Aが１点、Cが２点、Dが５点ある。

溝ＳＤ09出土遺物(477～485)　９点ある。壺１点、甕５点、高杯１点、小型器台１点、底部１点が出土した。これらのうち甕３点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には擬凹線をもたない二重口縁壺Cがある。甕には、「５」の字口縁をもつ甕Ｂ２が２点、タタキ痕を残す二重口縁甕Eとタタキ痕を残す「く」の字状口縁甕Ｃ１cがある。ほかに、高杯Ｂ１、小型器台の受け部がある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ａ１が２点、Ｂ１bが１点、Ｃ１bが１点ある。

土坑ＳＫ10出土遺物(503～535)　33点ある。壺９点、甕６点、高杯２点、器台２点、小型器台２点、台付鉢１点、蓋１点、鉢２点、椀１点、底部７点がある。これらのうち甕、鉢、椀、器台、蓋の各１点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には擬凹線を施す二重口縁壺Ａ２と擬凹線を失った二重口縁壺Ｂ１が３点・Ｂ２が１点ある。円形浮文をもつ壺が１点ある。また、直口壺Ｅ１・Ｅ２もある。甕には「５」の字状口縁甕Ｂ２が３点、タタキ痕を残す「く」の字状口縁甕Ｃ１aが２点、Ｃ２が１点である。高杯にはＢ１、器台には擬凹線をもつ二重口縁器台Ａ１、小型器台Ｃ２・Ｄ２がある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ａ１が１点、Ａ２が１点、Ｂ１ａが３点、Ｃ１aが２点、Ｃ１bが１点ある。高杯脚部形態には、Ｃが１点ある。器台脚部形態には、Ｄが１点ある。

土坑ＳＫ14出土遺物(156～336・618～628)　192点ある。壺11点、甕48点、高杯40点、器台９点、小型器台４点、台付鉢９点、蓋４点、鉢７点、有孔鉢１点、椀１点、手焙り形土器１点、ミニチュア５点、裾部３点、底部37点、装飾壺片12点がある。これらのうち鉢３点、器台３点、ミニチュア３点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には擬凹線を施さない二重口縁壺Ｂ１及び二重口縁壺Ｃ・Ｄ、直口壺Ｅ１・Ｅ２及び壺Ｆがある。また、装飾を施した土器片を12点図示した。ほとんどが壺の口縁部もしくは肩部にみられ、櫛歯状工具で波状文を施すものが多い(618・619・620・624・626・627)。621・625は竹管状工具による円形刺突を施す。161・628は円形浮文をもち、623は肩部に装飾突帯を施す。622は口縁内側に線刻したものである。

甕には擬凹線を施す二重口縁甕Ａが７点、擬凹線を施さない二重口縁甕Ｂ１が17点ある。タタキ痕を残す「く」の字状口縁甕は、Ｃ１aが７点、Ｃ１bが６点、Ｃ１cが３点、甕Ｃ２が２点ある。また、甕Ｄの小片が２点のほかに、「５」の字口縁をもつ甕Ｂ２が１点・甕Ｇ・甕Ｈがある。

高杯では擬凹線を施さない二重口縁高杯Ａ２と、稜をもつ高杯Ｂ１が２点、高杯Ｄが１点ある。器台には擬凹線を施す二重口縁器台Ａ１が１点と、擬凹線を施さない二重口縁器

台Bが2点、小型器台C2・D1・D2がある。鉢にはタタキ技法に伴う鉢Aと、擬凹線を施さない二重口縁鉢C2がある。また、蓋にも擬凹線を施す蓋A1がみられる。

壺や甕・鉢の底部形態では、A1が1点、A2が2点、B1aが16点、B1bが10点、B3が5点、C1aが5点、C1cが1点ある。高杯脚部形態には、Aが1点、Bが10点、Cが13点、C1が8点ある。器台脚部形態には、Bが1点、Cが3点、Dが6点ある。

溝SD18出土遺物(592)　擬凹線を失った二重口縁甕B1が1点ある。完全に復原しえる資料はない。

溝SD19出土遺物(551～558)　8点ある。甕4点、蓋1点、鉢1点、底部2点がある。これらのうち蓋1点については、全体の様相を明らかにできた。

甕には、擬凹線を失った二重口縁甕B1が3点とF2が1点ある。鉢にも擬凹線をもたない二重口縁鉢C2が1点ある。ほかに蓋Bがある。壺や甕・鉢の底部形態では、B1aが1点、B3が1点ある。

溝SD20出土遺物(559～562)　4点ある。甕2点、器台1点、裾部1点がある。完全に復原しえる資料はない。

甕2点は擬凹線を失った二重口縁甕B1である。器台にも擬凹線を失った二重口縁器台Bがみられる。

溝SD21出土遺物(563～569)　7点ある。甕2点、小型器台2点、鉢1点、底部2点がある。完全に復原しえる資料はない。

甕には、タタキ痕を残す二重口縁甕Eが1点と大型直立口縁甕Gが1点ある。小型器台には、Dや受け部がある。

壺や甕・鉢の底部形態では、B1aが1点、B1bが1点ある。器台脚部形態では、Dが1点ある。

土坑SK22出土遺物1点(596)　壺や甕・鉢の底部形態B1bが1点ある。完全に復原しえる資料はない。

土坑SK23出土遺物(359～371)　13点ある。壺1点、甕2点、高杯3点、器台2点、ミニチュア1点、底部4点がある。これらのうちミニチュア1点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には直口壺E2がある。甕にはタタキ痕を残す「く」の字状口縁甕C1a、C1cがある。高杯や器台には、擬凹線を消失した二重口縁をもつ高杯A2や器台B2がある。なお、362は、尖底をもつ甕の体部下半資料であり、体部中位付近に編物圧痕が認められる。

壺や甕・鉢の底部形態では、A2が1点、B1aが2点、B1bが1点ある。高杯脚部形態ではCが2点、器台脚部形態ではDが1点ある。

溝ＳＤ24出土遺物(597)　底面がドーナツ状を呈する平底の鉢１点だけである。小破片のなかにはタタキを残す甕の体部や口縁部、二重口縁壺や広口壺の口縁部などがある。

溝ＳＤ25出土遺物(337～356・634・635)　23点ある。壺２点、甕３点、高杯２点、小型器台２点、蓋１点、有孔鉢１点、椀１点、土錘２点、脚部３点、底部４点、装飾土器片１点がある。これらのうち椀１点、土錘２点については、全体の様相を明らかにできた。ＳＤ25は、一定期間流路として機能していたと考えられるため、遺物は混在しているものと予想される。

甕には、擬凹線を失った二重口縁甕Ｂ１、タタキ痕を残す「く」の字状口縁甕Ｃ１a、Ｃ１cがある。小型器台には受け部の小片がある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ｂ１aが１点、Ｂ１bが１点、Ｂ４dが１点、Ｃ１aが１点ある。高杯脚部形態では、Ｂが１点、Ｃが１点ある。器台脚部形態ではＢが１点ある。

土錘２点は、円筒状を呈するもので、この遺跡のなかでは、異質な形態をしている。

装飾を施した土器片が２点出土しているが、器種は不明である。634は線描きしたもので、なんらかの意匠がなされている。635は剥落した円形浮文である。

溝ＳＤ28出土遺物(536～550)　15点ある。甕７点、器台３点、台付鉢３点、蓋１点、底部１点がある。これらのうち台付鉢１点については、全体の様相を明らかにできた。

甕は、擬凹線を施す二重口縁甕Ａが３点、擬凹線を失った二重口縁甕Ｂ１が４点ある。器台には、擬凹線を失った二重口縁器台Ｂがある。台付鉢はＦ２が２点ある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ｂ１aが１点ある。器台脚部形態ではＡが２点ある。

溝ＳＤ36出土遺物(598)　蓋Ｃが１点だけである。完全に復原しえる資料はない。

溝ＳＤ37出土遺物(594・595)　器台１点、裾部１点がある。完全に復原しえる資料はない。器台は、擬凹線を施す二重口縁器台Ａ１である。

溝ＳＤ39出土遺物(576～586)　11点ある。甕６点、台付鉢１点、蓋１点、椀１点、底部２点がある。これらのうち台付鉢、蓋の各１点については全体の様相を明らかにできた。

甕には、擬凹線を施す二重口縁甕Ａが３点と、擬凹線を失った二重口縁甕Ｂ１が２点ある。ほかに甕Ｈが１点ある。台付鉢ではＦ１、蓋ではＢがある。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ｂ１aが２点ある。

溝ＳＤ41出土遺物(629)　装飾をもつ壺の口縁部破片が１点ある。

土坑ＳＫ50出土遺物(486～497)　12点ある。壺１点、甕５点、鉢２点、有孔鉢１点、底部３点がある。このうち甕、有孔鉢の各１点については、全体の様相を明らかにできた。

壺には直口壺Ｅ１がある。甕には、擬凹線を消失した二重口縁甕Ｂ１が１点、タタキ痕を残す「く」の字状口縁甕Ｃ１cが３点及びタタキ痕を残す大型直立口縁甕Ｇが１点ある。

鉢３点はタタキ痕を残す鉢Ａ・鉢Ｃ２・有孔鉢Ｅ２aで、鉢Ｃ２は擬凹線を消失した二重口縁鉢でもある。

壺や甕･鉢の底部形態では、Ｂ２が１点、Ｂ１aが１点、Ｂ１bが２点、Ｂ４dが１点ある。

溝ＳＤ51出土遺物(587～591)　５点ある。甕２点、高杯１点、台付鉢１点、椀１点がある。これらのうち甕１点については、全体の様相を明らかにできた。

甕２点はタタキ痕を残す「く」の字状口縁甕Ｃ１bとＣ１cである。

壺や甕・鉢の底部形態では、Ｂ１bが１点ある。高杯脚部形態にはＣ１が１点ある。

土坑ＳＫ54出土遺物(570～575)　６点ある。壺１点、甕３点、台付鉢１点、鉢１点などがある。完全に復原しえる資料はない。

壺には広口壺Ｇ１がある。甕３点は擬凹線を消失した二重口縁甕Ｂ１であり、鉢にも擬凹線をもたない二重口縁鉢Ｃ２がある。

土坑ＳＫ56出土遺物(593)　擬凹線を失った二重口縁甕Ｂ１が１点だけある。完全に復原しえる資料はない。

溝ＳＤ61出土遺物(636)　装飾をもつ壺の口縁部破片が１点ある。

土坑ＳＫ10Ｈ・Ｐ-1098出土遺物(600)　タタキ痕を残す二重口縁甕Ｂ２が１点ある。器形は、山陰系の二重口縁甕であり、体部には畿内系のタタキ技法を取り入れたと考えられる。

包含層出土遺物　包含層から出土した土器のうち、主として遺構出土遺物には見られない形態のものを図示した。

壺は擬凹線を施す壺Ａ１(599)のほかに口縁部や頸部に装飾をもつものがある(601～603)。高杯は、杯部が椀状を呈するもので、擬凹線を施す高杯Ａ１(604)と口縁端部をナデ引く高杯Ｃ(605・608)がある。また、脚部形態では形状Ｃ(609)がある。鉢には、二重口縁部に擬凹線を施す鉢Ｃ１(606)、タタキ痕を残す丸底の有孔鉢Ｅ２ｂ(607)がある。器台(610)は二重口縁部に擬凹線を施す器台Ａ２である。611は小型丸底壺で、遺跡の主要部分からは離れた位置に当たるTr-９から出土した。612・613は蓋Ｂである。612は小型のもので、綴じ穴が２孔穿たれている。614・615は台付鉢Ｆ１、616・617はミニチュアの鉢である。637は同心円状の文様をもつ。

（３）石器

土坑ＳＫ14から石器が３点出土している。990は磨製石錘である。土坑東側の暗黒褐色土層から出土した。991・992は土坑下層から出土した敲石もしくは擦石として用いられていたと思われる石製品の残欠である。

4．古墳時代後期～平安時代の遺物

出土した須恵器及び土師器の総量は、整理箱80箱にのぼる。包含層から出土したものが主体であり、接合の難しい状況ものが多い。ほかに緑釉陶器・灰釉陶器や青磁・白磁などがある。いずれも破片で飛散した状態のものが多い。また、土錘は各所から出土しているほか、鉄製品なども若干ある。

（1）須恵器の分類（第27図）

出土した須恵器の大半は、杯身、杯蓋、皿の類である。皿は、口径が器高の5倍程度以上あるものとした。

杯身は形態から、6分類した。

杯A　平高台のもの（717～737）。

杯B　輪高台をもち稜をもって立ち上がるもの。口径と器高の比率により、大きく3領域に分かれる。

B1　杯Bのうち口径が器高の2.5倍程度を越えない領域に集まるもの（771～776など）。

B2　杯Bのうち口径14.5cm以上、器高4.5cm以下の領域に集まるもの（815～820など）。

B3　杯Bのうち口径10.5～14.5cm、器高3.0～4.5cmの領域に集まるもの（753～767など）。

杯C　輪高台をもち丸みを帯びてほぼまっすぐに立ち上がるもの（739・751）。

杯D　ごく小型の杯（738）。

杯E　佐波理椀形の金属器を模倣したもの（824～829）。

杯F　金属製の椀を模倣したもの（821～823）。

杯G　受け部をもつもの（641～643）。

さらに、高台をもつものについては、形状から3分類した。

a　高台外端面が上がり内端面のみが接地するもの（738～745など）。

b　高台内端面が上がり外端面のみが接地するもの（746～751など）。

c　高台端面が平坦で全面が接地するもの（771～790など）。

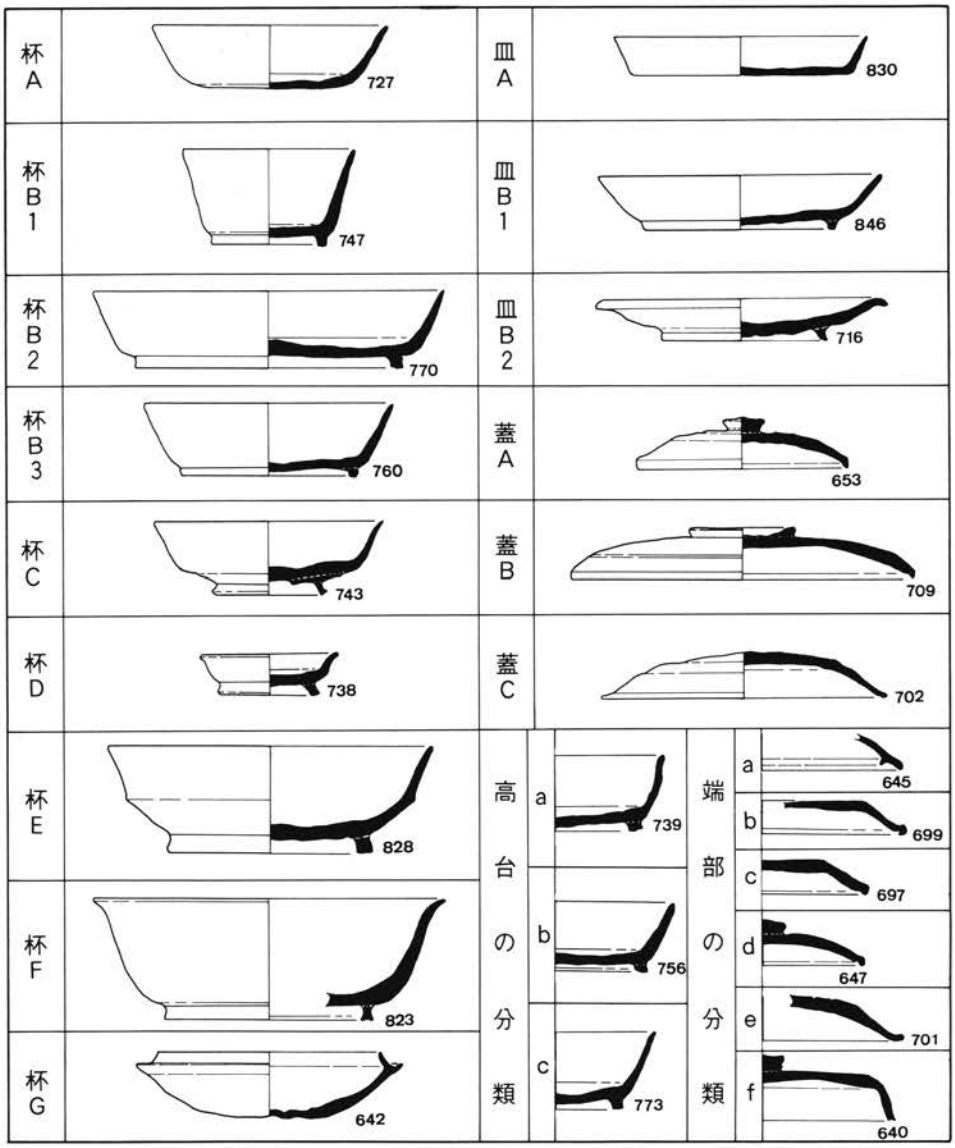
杯蓋は形態から、3分類した。

蓋A　宝珠摘みをもつもの（644～699）。

蓋B　輪状摘みをもつもの（708～712）。

蓋C　摘みをもたないもの（700～707）。

さらに、口縁端の納め方から5分類した。



第27図　須恵器分類図（S=1/4）

a　かえりをもつもの(644～646など)。

b　端部を折り返して鍵の手状にしたもの(699など)。

c　口縁端部内側に沈線をめぐらすもの(694～697など)。

d　口縁端部を折り曲げるもの(647～693など)。

e　口縁端部を摘み出すもの(700・701など)。

f　箱形にするものである(640)。

杯身・杯蓋ともに口径の大きさに対して、5分類した。

Ⅰ　口径21cm前後のもの。

Ⅱ　口径18cm前後のもの。

Ⅲ　口径15cm前後のもの。

Ⅳ　口径12cm前後のもの。

Ⅴ　口径9cm前後のもの。

Ⅲは形態から、2分類した。

ⅢA　高台をもたないもの(830～845)。

ⅢB　高台をもつもの。体部の形状により二つに分かれる。

B1　稜をもって立ち上がるもの(846・847)。

B2　緩やかに大きく開くもの(713～716)。

(2)出土須恵器の概要

蓋

蓋Aのうち、口縁端形態のaは7世紀末、fは古墳時代後期のものであり、主体となるのはb・c・dである。

蓋Aaは3点あり、いずれも小片である。推定口径もⅡ・Ⅲ・Ⅳと幅が広い。

蓋Afは1点ある。口径Ⅲの短頸壺の蓋である。

蓋Ab・c・dは、57点図示した。bは2点、cは4点、dは51点である。平らな天井部から下方に下がる口縁部をもつものや、天井部から口縁部にかけて丸みを帯びたものなどがある。口縁端部の形状にも下方に向けるものや「S」字状に屈曲させるものなどがある。

口径は、Ⅰが1点、Ⅱが3点、Ⅲが29点、Ⅳが23点、Ⅴが1点であり、ⅢとⅣとが主体をなしている。

蓋Bは9点ある。口縁端形態dが5点。口径は、Ⅱが5点で、比較的大きめである。

蓋Cは9点ある。口縁端形態cが2点、eが3点、dが2点である。口径はⅢが7点、Ⅳが2点である。

蓋Eは、口径Ⅴのものが1点ある。

杯

杯Aは21点図示した。平らな底部から明瞭な稜をもって口縁部が斜め上方へ直線的に開くものや、丸みを帯びた底部から連続的に口縁部が斜め上方へ直線的に開くものがある。718は口径Vで、口縁部が上方へ立ち上がる。蓋Aaに伴う7世紀末のものと思われる。

718を除く20点の口径は、Ⅲが4点、Ⅳが15点、不明が1点である。器高もほぼ3～4cmに集中している。

杯Bは87点図示した。高台形態では、aが7点、bが23点、cが57点ある。高台の位置には、底部の内側に設けるものと、底部の端に沿ってめぐるものがある。また、口縁部の立ち上がり傾斜に合わせて貼り付けられた高台もみられる。

87点の口径は、Ⅱが6点、Ⅲが15点、Ⅳが55点、Vが6点、不明が5点である。器高は、3～4.5cmが72点、4.5～6cmが10点、不明5点がある。

杯Cは3点図示した。口径Ⅳが3点ある。杯Bのうち底部と口縁部との境が丸みを帯び、口縁部が上方へ立ち上がるものである。

杯Eは6点図示した。口径Ⅱが3点、Ⅲが3点ある。金属製椀を模倣した杯である。体部中央に稜をもつか緩やかに屈曲するもので、口縁部が外反するものである。

杯Fは2点図示した。口径Ⅱが3点ある。金属製椀を模倣した杯である。口縁部が底部から緩やかに屈曲して立ち上がり、端部が外反するもの。

杯Dは1点図示した。口径Vが1点ある。

杯Gは3点図示した。陶邑編年のTK209前後の時期のものである。

皿

皿Aは16点図示した。平らな底部から口縁部が短く斜め上方へ直線的に開くもので、底部と口縁部との境に明瞭な稜をもつものと、もたないものとがある。口径は、Ⅱが1点、Ⅲが14点、Ⅳが1点ある。器高もほぼ2～3cmに集中している。

皿B1は2点図示した。口径はⅠとⅢである。皿B2は4点図示した。口径はⅢが3点、Ⅳが1点である。

高杯

855・856は高杯の脚部である。裾端部は「S」字状に屈曲して納まる。いずれも、裾径13cm・脚部高7.5cm程度を測る。855には杯底部に穿孔が行われている。

甕

857～860は甕である。857は口縁部が内径して短く立ち上がる。外面に平行タタキ痕、内面に清海波文を残す。858～860は、口縁部片である。口径22～24cmで、口縁端部を上下両方向に若干摘みだしている。

壺

861～867は、壺の口縁部である。長頸壺には、口縁端部を強く外反させ端部を上方へ摘み上げるものや、外反させたまま端部に面をなして納めるもの、外反させたまま端部の内側へ摘みだすものがある。868は短頸壺で、頸部から「く」の字状に外反して口縁部が短く納まる。861は算盤玉状を呈する長頸壺の体部である。873～878は壺の底部で、高台を持つものや無高台のものがある。

瓶類

869～871は平瓶で、872は横瓶、879は提瓶である。いずれも、口縁部片もしくは体部片で、全容は明らかでない。880～886は、双耳瓶である。880・881で体部下半が若干残る以外は、把手部分だけの小片であり、詳細は明らかでない。880·881·884·885は把手を粘土紐で橋状に成形したものである。882・883は粘土紐を突起状に短く貼り付けたものである。886は、「く」の字状に屈曲する肩部に板状の把手を貼り付け、穿孔を行うものである。

陶硯

硯には円面硯と風字硯及び転用硯がある。円面硯は３点出土している(888～890)。部位は異なるものの、胎土・焼成・色調ともに酷似することから、同一個体の可能性が高い。風字硯(891)は小型のもので、脚部と全体のほぼ半分を欠く。また、892～897は、杯Ｂの底部や蓋を硯として利用した転用硯である。

紡錘車

887は、須恵質の紡錘車でほぼ半分が残る。底部は平らで、断面半円状を呈している。現存重量は28.2ｇで、もともとの重量は60ｇ程度と予想される。

墨書土器

墨書土器は５点を確認している。蓋外面に墨書されたもの３点と、杯Ｂの底部内面に墨書されたもの１点、杯Ｂの底部外面に墨書されたもの１点である。いずれも墨書部分が薄く、部分的にしか残存していないため、文字の判読は困難である。

（３）出土土師器の概要

土師器は、須恵器同様包含層内から多量に出土した。しかし、全容を知りえる資料は少ない。31点を図示した。

椀

椀は17点を図示した。形態から３分類した。

椀Ａは、比較的広い底部にやや外傾して立ち上がる口縁部をもち、底部と口縁部との境が不明瞭なものとした。

椀Ｂは、比較的狭い底部から大きく外傾して立ち上がる口縁部をもち、底部と口縁部と

の境が不明瞭なものとした。

椀Cは、糸切り底部をもち、口縁部が外傾して立ち上がるものとした。

942は、丹後系黒色土器に近似した形態であるが、炭素吸着を行っていない。

皿

皿は6点を図示した。形態から2分類した。

皿Aは、比較的広い底部にやや外傾して立ち上がる口縁部をもち、底部と口縁部との境が不明瞭なものとした。

皿Bは、糸切り底部をもつものを一括した。

946は、灰釉陶器の皿を摸倣したとも考えられる平安時代中期のものである。947は、丹後系黒色土器に近似した形態であるが、炭素吸着を行っていない。

甕

甕は8点を図示した。全体の様相を明らかにすることはできなかった。単純「く」の字に外反し、外面にハケ調整を施すものが多い。

(4)出土瓦器の概要

4点図示した。958は、回転台成形を行い、輪状の高台を付けるものである。全体的に須恵器的な雰囲気を受けるが、外面にはミガキが認められる。959～961は、いずれも器高が低く、密なミガキが施されるもので、12世紀のものと思われる。

(5)出土陶磁器の概要

緑釉陶器、灰釉陶器、青磁、白磁がある。

緑釉陶器は、58点出土した。耳皿1点を除き、いずれも小破片であり、全容を明らかにすることはできなかった。口縁部片が18点、底部片が16点ある。硬質の素地に深緑色の釉のかかったのものと、軟質の素地に黄緑色の釉のかかったものとの大きく二分できる。硬質のものについては洛西周辺、軟質のものについては洛北周辺で生産されたものと思われる。高台はいずれも削り出しによる。ミガキを施した後、施釉している。

灰釉陶器は、27点出土した。いずれも破片であり、全体を明らかにすることはできなかった。口縁部片が10点、底部片が8点ある。高台はいずれも付け高台である。東海産のものが主体をなしているものと思われる。

青磁は4点、白磁は18点出土した。いずれも破片であり、全容を明らかにすることはできない。922・924は掘立柱建物跡を構成する同一柱穴内から出土した白磁で、同一個体の可能性が高い。

(6)出土土錘の概要

土錘は222点出土した。ほとんどが西部地区からの出土である。

土錘は、形態と予想される製作手法から５分類した。

土錘Ａ

最大径が中央部付近にある紡錘形を呈し、少量の粘土を手のひらで転がして成形したと予想されるもの。両端に面をもたないものを土錘Ａ１、面をもつものを土錘Ａ２とした。

土錘Ａは183点出土している（土錘Ａ１が161点、土錘Ａ２が22点）。土錘の主体をなすものである。長さ平均約40.6mm・直径平均約14.2mm・重量平均約7.1ｇの土錘である。

土錘Ｂ

体部に幾つかのうねりをもつもので、指で包み込みながら成形したと予想されるもの。

土錘Ｂは33点出土している。長さ平均約46.7mm・直径平均約20.8mm・重量平均約16ｇの土錘である。長さや直径では土錘Ａと大差はないが、重量では倍の重さをもつ。

土錘Ｃ

最大径が中央部付近にある紡錘形を呈し、多量の粘土を転がして成形したと予想されるもの。土錘Ｃは４点出土しているが、いずれも欠損している。長さ100mm・直径25mm・重量70ｇ程度の土錘と予想され、主体をなす土錘Ａに比べ遥かに大型の土錘と言える。

土錘Ｄ

円筒状を呈するものである。土錘Ｄは東部地区の溝ＳＤ25から２点が出土した（357・358）。長さ90mm・直径30mm・重量80ｇ程度の土錘である。西部地区では見られない形態であり、時代の異なる可能性がある。

（７）出土金属製品の概要

金属製品は26点図示した。いずれも西部地区から出土したもので、銅銭１点を除き、すべて鉄製品である。用途不明のものが多い。962～965は、刀子である。966～977は、角形を呈する釘状の鉄製品である。978は菱形を、979は長方形を呈し、利器の一部と思われる。980・981は板状の鉄製品で、一部穿孔も認められる。982は「Ｌ」字状、984は環状を呈する鉄製品である。983は、円盤の中心に軸の取り付けられた鉄製品である。639は銅銭で、文久永宝（1863～1867年）である。裏面には波文がある。

（三好博喜）

第4節　小　　結

小西町田遺跡では、東部地区で弥生時代後期末期から古墳時代初頭を中心とする時期、西部地区で奈良時代から平安時代を中心とする時期という2時期の遺構を検出することができた。東部地区で注意すべき点は、甕の製作技法に畿内弥生時代後期を特徴付ける「タタキ技法」が用いられていることである。これまで由良川中流域の綾部・福知山地域で出土した土器にタタキ技法が認められる割合は、非常に希薄であった。丹波山地を挟んで南側に位置する園部町曽我谷遺跡では、タタキ技法を用いた土器が大量に出土しており、「タタキ技法」の伝幡が丹波山地の南側までは確実に及んでいたことはすでに確認されていた。今回タタキ技法の伝幡が丹波山地を越えた小西町田遺跡で認められたことは、この遺跡が少なくとも弥生時代末期には畿内との関係において強い類縁関係にあったといえよう。あるいは、小西町田遺跡が畿内勢力の中丹地域進出時におけるひとつの拠点であったとも考えられる。このことはこの遺跡の背後にこの地域最古の古墳群である成山古墳が造営されていることからも類推することができよう。小西町田遺跡と成山古墳群とは、おそらく「村と墓」という関係なのであろう。

西部地区で検出した掘立柱建物跡は、出土遺物の年代から奈良時代から平安時代を中心とする時期と考えられる。これらの建物跡には度重なる建て替えの形跡が認められ、遺物の時期幅から、8世紀後半から12世紀にかけての少なくとも400年程度、なんらかの建物が建て続けられていたものと推定される。これらの建物跡の性格の一端を表わすと思われる出土遺物には、多量の須恵器・土師器に混じって出土した緑釉陶器・灰釉陶器・青磁・白磁などの陶磁器や硯・墨書土器などがある。遺物の様相からすれば、なんらかの公的な施設が置かれていた可能性が高い。

（三好博喜）

付表４　小西町田遺跡出土遺物観察表

(1)古式土師器

図版番号	実測番号	写真番号	口径	底径	調整　外	色調　外	胎土／出土地点／備考
器種		残存率	器高	属性	内	内	
土坑ＳＫ01出土遺物							
469	0-391		(19.3)		ハケ	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
甕	A	1／8	(3.9)		ケズリ	淡黄褐色	
470	0-390				?	淡黒灰色	密　小粒砂／—／—
壺	A 1	頸部	(4.0)		?	淡黄褐色	
471	0-393				?	淡黄褐色	密　中砂／—／—
高杯		杯部	(4.0)	脚B	ミガキ	黄褐色	
472	0-394				ケズリ	淡黄褐色	密　小粒砂　赤粒少
高杯		脚部	(6.5)	脚B	?	淡黄褐色	／—／—
473	0-114		16.0		ミガキ	淡赤褐色	密　小粒砂／
器台	B	受部1/2	(3.5)		ミガキ	淡灰白色	下層／—
474	0-392			(17.2)	?	淡黄褐色	密　中粒砂／—
		裾部1/5	(8.3)		ハケ	淡赤褐色	／円形透穴
475	0-113	4A-25	10.5	4.4	?	淡赤褐色	密　小粒砂／—／—
蓋	A 1	1／2	5.0		?	淡赤褐色	
476	0-112	4A-24	10.4	4.7	?	淡赤褐色	密　大粒砂　礫／—／—
蓋	B	1／2	6.0		?	赤褐色	
土坑ＳＫ02出土遺物							
444	0-122		20.0		ハケ	淡赤褐色	密　礫少／
甕	A	1／2	(24.1)		ケズリ	淡黄褐色	22D NO3／—
445	0-115	4A-82	14.4	2.7	ハケ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	A	2／3	17.3	底Ｂ１ａ	ケズリ	淡黄褐色	NO3／—
446	0-384		(15.5)		?	赤褐色	密　中粒砂／
甕	A	1／3	(2.8)		ケズリ	赤褐色	NO5下層／—
447	0-383		(17.2)		?	淡黄褐色	密　中砂／
甕	A	1／5	(2.9)		ケズリ	茶褐色	NO5下層　22D／—
448	0-381		(14.8)		?	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	A	1／5	(5.5)		?	黄褐色	NO5下層／—
449	0-380		(14.2)		?	黒褐色	密　大粒砂　礫／
甕	B 1	1／5	(5.5)		ケズリ	赤褐色	22D／—
450	0-123	4A-78	15.8		ハケ	淡赤褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	上半	(18.5)		ケズリ	淡赤褐色	22D NO2 NO3／—

451	0-121		26.0	ハケ	淡黄褐色	密　小粒砂　赤粒少／
甕	H	1／2	(18.6)	ケズリ	淡橙褐色	22E22D写真NO1／—
452	0-124	4A-79	17.0	ハケ	淡黄褐色	密　中粒砂　赤粒少／
甕	B 1	上半	(18.1)	ケズリ	淡黄褐色	22D NO2 NO3／—
453	0-128		(16.6)	ハケ	黒褐色	密　中粒砂／
甕	B 1	1／4	(15.5)	ケズリ	淡黄褐色	22D NO2 NO3／—
454	0-118		(13.4)	ハケ	黒褐色	密　中粒砂　赤粒少／
甕	B 1	1／5	(13.3)	ケズリ	淡黒褐色	22D NO2 NO3／—
455	0-119		(14.4)	?	茶褐色	密　小粒砂少／
甕	B 1	1／4	(5.5)	ケズリ	淡茶褐色	22D／—
456	0-120		(20.2)	ハケ	淡黄褐色	密　礫少　赤粒／
甕	B 1	1／4	(6.5)	ケズリ	淡黒褐色	NO3／—
457	0-382		(14.6)	ハケ	淡黄褐色	密　中砂／
甕	B 1	1／10	(5.5)	ケズリ	赤褐色	NO2／刺突文
458	0-129		21.0	ミガキ？	淡黄褐色	密　中砂／
壺	A 3	1／2	(19.7)	ナデ	淡茶褐色	NO1 NO2 NO5下層／—
459	0-125		(15.0)	?	黄褐色	密　礫少／
壺	G 1	1／3	(12.6)	?	黒灰色	NO3／—
460	0-385		(17.2)	?	淡橙褐色	密　小粒砂／
壺	B 1	1／5	(6.8)	?	淡黄褐色	NO5下層／—
461	0-379		3.0	?	淡黄褐色	密　大粒砂　礫／
		底部	(9.5)　底B 1 a	?	黄褐色	NO5下層／—
462	0-376		2.5	ハケ？	黒褐色	密　大粒砂　礫／
		底部	(10.6)　底B 4	ケズリ	淡黄褐色	NO2／—
463	0-378		6.5	ハケ？	赤褐色	密　大粒砂　礫／
		底部	(6.0)　底B 1 a	?	淡黒褐色	NO2　22E22D／—
464	0-377			ハケ	黒褐色	密　大粒砂　礫／
		底部	(4.1)　底B 4	?	淡赤褐色	NO3／—
465	0-126		11.0	ハケ？	淡黄褐色	密　中粒砂／
高杯		脚部	(10.9)　脚A	?	黄褐色	NO3／円形透穴3
466	0-127		8.7	ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂　赤粒少／
		裾部	(3.8)	ハケ	淡橙褐色	NO3／—
467	0-117			?	淡灰白色	密　小粒砂／
有孔鉢	E 1 a	底部	(6.0)	?	淡橙褐色	22D／孔径0.5cm
468	0-116			?	淡黄褐色	密　小粒砂／
有孔鉢	E 1 a	底部	(2.5)	?	淡黄褐色	22D／孔径0.8cm

土坑ＳＫ03出土遺物

422	0-130	4A-77	19.4	ハケ	淡赤褐色	密　大粒砂　礫／
甕	A	上半	(15.7)	ケズリ	淡黄褐色	／肩部に刺突

423	0-142		20.2		?	淡橙褐色	密　大粒砂　礫／
甕	B 1	1／2	(23.0)		ケズリ	淡橙褐色	—／—
424	0-135		(19.4)		ハケ	黒褐色	密　中粒砂／
甕	A	1／5	(5.9)		ケズリ	赤褐色	—／—
425	0-134		(18.0)		ハケ	淡黄褐色	密　中粒砂／
甕	A	1／4	(5.7)		ケズリ	淡灰白色	—／—
426	0-133		(18.0)		?	淡赤褐色	密　小粒砂　赤粒／
甕	A	1／5	(4.0)		ケズリ	淡赤褐色	—／—
427	0-417		(15.0)		ハケ	淡赤褐色	密　中砂／
甕	B 1	1／8	(6.4)		ケズリ	淡橙褐色	—／—
428	0-138		(18.0)		ハケ？	淡黒褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／4	(3.2)		ケズリ	淡黒褐色	—／—
429	0-132		14.6		?	淡赤褐色	密　小粒砂　赤粒少／
壺	A 1	1／2	(8.0)		ケズリ	淡赤褐色	—／—
430	0-137		(15.8)		?	淡茶褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／8	(6.0)		ケズリ	淡橙褐色	—／—
431	0-140			7.4	?	灰白色	密　大粒砂　礫／
		底部	(2.5)	底B 1 a	?	淡黒灰色	—／—
432	0-141			4.6	?	黄褐色	密　中粒砂／
		底部	(2.5)	底B 1 a	?	淡黄褐色	—／—
433	0-423			4.6	ナデ	淡黄褐色	密　中砂／
蓋		摘み部					—／—
434	0-421			4.2	ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
蓋	A 2	摘み部			?	淡黒灰色	—／—
435	0-422			5.2	ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
蓋		摘み部			ナデ	淡黄褐色	—／—
436	0-424			(7.0)	ナデ	黄褐色	密　小粒砂／
蓋		摘み部					—／—
437	0-131		(10.0)	4.6	ハケ	淡赤褐色	密　小粒砂　赤粒少／
台付鉢	F 2	1／4	6.9		?	赤褐色	—／—
438	0-139		(19.4)		?	黄褐色	—／—
高杯	A 1	杯部1/12	(4.3)		?	淡黄褐色	／接合部にハケ
439	0-418				ミガキ	淡黄褐色	やや密 小粒砂 赤粒／
高杯		脚部	(9.3)	脚C	ハケ	淡黄褐色	／円形透穴
440	0-136		(20.0)		?	淡黄褐色	密 小粒砂／—
器台	A 1	受部1/4	(6.7)		?	淡黄褐色	／—
441	0-314		19.0		ミガキ	淡赤褐色	密 小粒砂 赤粒／—
器台	B	受部	(12.5)	脚A	?	赤褐色	／円形透穴3
442	0-419				?	黒褐色	やや密 小粒砂／
		脚部	(7.5)		?	黒褐色	／円形透穴3

443	0-420				?	淡黄褐色	やや密　小粒砂
高杯		脚部	(8.2)	脚B	?	淡黄褐色	赤粒少／—／—

土坑ＳＫ04出土遺物

372	0-143	4A-75	17.0	4.0	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中砂／
甕	Ｃ１ｂ	90％	27.3	底Ｂ１ｂ	ハケ	淡黒褐色	NO1／0-155
373	0-160	4A-73	20.4	2.0	タタキ＋ハケ	淡黄灰色	密　中砂／
甕	Ｃ１ｃ	80％	28.3	底Ｂ４	ハケ	淡灰白色	NO1／—
374	0-151	4A-74	18.0	3.6	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中砂／
甕	Ｃ１ｂ	80％	30.8	底Ｂ１ｃ	ハケ	淡橙褐色	NO1／—
375	0-337		17.6		タタキ	淡茶褐色	密　中砂／
甕	Ｃ１ｂ	2／3	(16.4)		?	淡灰白色	NO1 NO2／—
376	0-146		(16.6)		タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ａ	1／4	(12.5)		ハケ	淡灰白色	東　畔／—
377	0-330		(15.2)		?	赤褐色	密／—／—
甕	Ａ	1／8	(5.8)		?	赤褐色	
378	0-333		(17.0)		タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
甕	Ｃ１ｃ	1／4	(7.9)		ハケ	淡灰白色	東／—
379	0-331		15.7		?	橙褐色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ｃ	2／3	(4.7)		?	黒灰色	NO1／—
380	0-334		(18.0)		?	淡灰白色	密　小粒砂少／
甕	Ｃ１ｃ	1／4	(2.6)		?	淡灰白色	NO2／—
381	0-328		(18.0)		?	橙褐色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ｃ	1／5	(5.6)		?	淡橙褐色	NO2／—
382	0-321		(16.4)		ハケ	黒灰色	密　小粒砂／
甕	Ｂ１	1／4	15.9	底Ｂ３	ハケ？	灰白色	NO1 NO2／—
383	0-144		(16.6)	1.8	ハケ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	Ｆ１	50％	17.3	底Ｂ４	ハケ	淡灰白色	NO1／0-154
384	0-148		(17.0)	2.3	ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	Ｂ１	1／4	16.3	底Ｂ４	ハケ	淡茶褐色	東／—
385	0-145		16.2		ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	Ｆ１	1／2	(7.7)		ハケ	灰白色	NO1　NO2／—
386	0-332		(19.4)		タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
甕	Ｅ	1／8	(5.8)		ケズリ	淡橙灰色	—／—
387	0-150			3.7	タタキ	淡灰白色	密　小粒砂／
		底部	(4.7)	底Ｂ１ｂ		淡灰白色	NO2／—
388	0-336			3.0	タタキ	橙褐色	密　中砂／
		底部	(9.0)	底Ｂ４	?	橙褐色	NO1／—
389	0-335			4.2	ミガキ	黒褐色	密　小粒砂少／
		底部	(10.0)	底Ｂ１ｂ	ハケ	淡灰黒色	東／—

390	0-149			2.4	タタキ	淡灰白色	密　中砂／
		底部	(6.1)	底Ｂ４	ハケ	淡灰色	NO1／375底部？
391	0-147		(21.6)		?	淡橙灰色	密　中粒砂／
壺	Ｇ２	1／6	(8.7)		ケズリ	淡灰白色	NO1／—
392	0-156			4.0	?	淡灰白色	密　中砂／
		底部	(13.5)	底Ｃ１ａ	ハケ	淡黒褐色	NO1／—
393	0-326		(10.8)		?	淡赤褐色	密　中砂／—／—
鉢	Ｃ２	1／4	(6.3)		?	淡赤褐色	
394	0-329		(13.6)		?	淡橙褐色	密　中砂／
甕	Ｂ１	1／3	(5.2)		?	灰白色	東／—
395	0-153	4A-88	(16.0)	3.7	タタキ	淡橙褐色	密　中砂／
有孔鉢	Ｅ２ｃ	40%	7.0		ハケ	淡黄褐色	NO1／孔径10mm
396	0-152	4A-91	14.3	3.0	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
鉢	Ａ	60%	6.5	底Ｂ１ｂ	ハケ？	淡灰色	NO1／—
397	0-157	4A-89	12.4	3.5	?	淡橙褐色	密　小粒砂／
鉢	Ａ	95%	5.0	底Ｂ１ｂ	ハケ	淡灰色	NO1／—
398	0-158		26.8		?	淡橙褐色	密／NO1　NO2
高杯	Ａ１	杯部	(14.5)	脚Ｂ	?	淡灰白色	／円形透穴　0-161
399	0-319			(13.8)	?	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
		裾部1/5	(5.3)		?	淡灰褐色	
400	0-320				?	淡橙褐色	—／—／—
器台		脚部	(6.0)	脚Ｄ	?	淡橙褐色	
401	0-159			14.0	?	灰白色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(8.0)	脚Ｂ	?	灰白色	東／—
402	0-324			4.8	?	橙褐色	密　小粒砂／—／—
蓋		摘み部	(3.0)		?	橙褐色	
403	0-327			5.2	?	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
蓋		摘み部	(3.0)		?	淡橙褐色	
404	0-325			8.0	ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
台付鉢		脚部	(3.6)		ハケ	淡黒灰色	
405	0-323			5.0		淡黄褐色	密　中砂／
蓋		摘み部	(3.6)			淡灰白色	NO1／—
406	0-322		10.2		?	淡橙褐色	密　小粒砂／
椀		上半	(3.8)		?	淡橙褐色	NO2／—

土坑ＳＫ05出土遺物

420	0-386		(27.8)		ハケ	淡灰白色	密　砂少／—／—
鉢	Ｄ	3／4	(14.0)		ハケ	淡灰白色	
421	0-387		(16.8)		?	淡赤褐色	密　砂少／—／—
椀		1／8	(2.5)		?	淡灰白色	

溝ＳＤ06出土遺物

407	0-165		14.6		タタキ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ａ	上半	(12.2)		ハケ	淡黒褐色	NO1／—
408	0-375	4A-85	(13.6)		タタキ	淡黄褐色	密　中粒砂／
甕	Ｃ１ａ	80％	11.7	底Ａ２	ナデ	淡橙褐色	NO4／—
409	0-168	4A-10	(14.2)		タタキ＋ハケ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ａ	70％	15.8	底Ａ１	ハケ	淡黄褐色	NO1／—
410	0-166	4A-3	15.6	2.5	タタキ＋ハケ	茶褐色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ａ	70％	19.6	底Ｂ４ｄ	ハケ	淡赤褐色	NO3／—
411	0-374		(15.0)		?	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ａ	1／4	(5.0)		?	淡黄褐色	NO1／—
412	0-373		(17.0)		タタキ	淡赤褐色	密　中粒砂／
椀		1／4	(6.3)		?	淡灰黒色	NO4／—
413	0-372				?	淡黄褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(5.8)	脚Ｂ	?	淡黄褐色	NO4／—
414	0-163		8.4		ミガキ？	灰白色	密　小粒砂／
小型器台	Ｃ３	受部	(3.9)	脚Ｃ	ミガキ？	淡黄褐色	NO2／—
415	0-164			4.0	ハケ	灰白色	密　中砂／
台付鉢		脚部	(4.4)		ハケ	淡黄褐色	NO3／—
416	0-371			3.0	?	灰白色	密　小粒砂／
蓋		上半	(4.1)		?	灰白色	NO4／—
417	0-370				?	淡黄褐色	密　小粒砂／
有孔鉢	Ｅ１ｂ	底部	(2.9)		?	淡灰白色	NO1／孔径8mm
418	0-162	4A-105	8.9	3.5	ナデ	黒褐色	密　小粒砂／
鉢	Ｂ	100％	4.3	底Ｂ１ａ	ハケ	黒褐色	NO1／—
419	0-167			4.0	ナデ	黄褐色	密　小粒砂／
ﾐﾆﾁｭｱ鉢		下半	(4.0)		ナデ	黄褐色	NO1／—

溝ＳＤ07出土遺物

498	0-169		(14.8)		タタキ	淡橙褐色	密　大粒砂　礫／
甕	Ｃ１ａ	1／5	(14.0)		ハケ？	淡黒灰色	NO1／端部を刻む
499	0-171		(21.6)		タタキ　ハケ	淡茶褐色	密　中砂／
甕	Ｃ１ａ	1／5	(6.7)		ハケ？	淡橙褐色	NO2／—
500	0-170		19.0		タタキ	黄褐色	密　大粒砂　礫／
甕	Ｃ１ｃ	1／2	(5.3)		ハケ？	淡灰白色	NO2／—
501	0-389				?	赤褐色	密　小粒砂　赤粒／
高杯		脚部	(8.8)	脚Ａ	?	赤褐色	NO2／—
502	0-388			(9.0)	?	淡灰白色	密　中粒砂／—／—
		裾部1/4	(1.6)		?	淡黄褐色	

土坑ＳＫ08出土遺物

001	0-23		11.3		ミガキ	赤褐色	密／東上層　下層
壺	Ｅ３	1／2	(6.0)		ミガキ？	赤褐色	西下層／—
002	0-3	4A-84	8.8		ミガキ？	淡橙褐色	密　小粒砂多／
壺	Ｅ２	上半	(14.2)		ナデ	黒褐色	東下層／—
003	0-109		18.0		ハケ	淡灰褐色	密　中粒砂／
壺	Ｂ１	1／2	(7.5)		ハケ	淡灰黒色	東上層　東下層／—
004	0-448		(18.6)		ナデ　ハケ	灰白色	密　小粒砂少／
壺	Ｂ１	1／9	(3.8)		ナデ	淡橙褐色	西下層／—
005	0-63		(20.8)		ハケ	淡黄褐色	密　大粒砂　礫／
壺	Ｄ	1／3	(5.0)		ナデ	淡黄褐色	西上層／—
006	0-453		10.0		ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂／
壺	Ｃ	1／6	(3.0)		ナデ	淡黄褐色	西上層／—
007	0-5		12.8		ナデ	淡灰白色	密　中砂／
壺	Ｃ	3／4	(7.4)		ナデ	淡灰黒色	東上層／—
008	0-8		14.0		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂少／
壺	Ｅ１	1／2	(4.0)		ナデ	淡灰白色	東最下層／—
009	0-16		14.8		ナデ	淡橙褐色	やや密　中粒砂／
壺	Ｅ１	2／3	(5.5)		ナデ	淡橙褐色	NO3／—
010	0-99				？	赤褐色	やや密　中粒砂／東上層
壺		体部	(9.3)		？	灰白色	東下層／頸部に装飾
011	0-76		14.4		ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
壺	Ｅ１	1／2	(8.4)		ナデ	淡灰白色	東下層／—
012	0-2		(22.8)		ミガキ	淡灰白色	やや密　小粒砂多／
高杯	Ｂ２	杯部	(8.4)		ナデ	橙褐色	東上層／頸部に刺突
013	0-55			4.8	？	淡橙褐色	密　小粒砂／
		底部	(11.8)	底Ｃ１ａ	ハケ	黒褐色	東上層　東下層／—
014	0-461			4.9	？	淡黄褐色	密　中粒砂／
		底部	(4.4)	底Ｃ１ｂ	ハケ	淡灰色	東下層／—
015	0-483			4.8	タタキ	濃茶褐色	密　小粒砂／
		底部	(4.1)	底Ｃ１ｃ	ハケ	淡灰白色	東下層／—
016	0-56			4.4	ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
		底部	(29.7)	底Ｃ１ｃ	ハケ	黒褐色	西下層／—
017	0-100	4A-71	20.0	4.0	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　大粒砂　礫／
甕	Ｃ１ｂ	90％	31.3	底Ｂ１ｃ	ハケ	淡灰白色	NO18　西下層／0-77
018	0-106	4A-69	21.6	3.6	タタキ＋ハケ	黄褐色	密　大粒砂／東最下層
甕	Ｃ１ｂ	70％	32.4	底Ｂ１ｂ	ハケ	橙褐色	NO7,19,20　／0-43,0-52
019	0-105	4A-72	18.2	2.5	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　中粒砂少／
甕	Ｃ１ｃ	80％	29.0	底Ｂ４	ハケ	淡橙褐色	NO18／—

020	0-104	4A-70	19.0	4.5	タタキ	淡橙褐色	密　中粒砂少　赤粒／
甕	C 1 b	70%	29.5	底B 1 c	ハケ	淡橙褐色	東下層／0-53
021	0-37	4A-7	16.4	1.8	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂　赤粒少／
甕	C 1 a	100%	15.1	底B 4	ハケ	淡橙褐色	NO8／口縁楕円
022	0-64	4A-8	13.4		タタキ	淡黄褐色	密　中粒砂少／
甕	C 1 a	100%	14.6	底A 1	ハケ　ナデ	淡灰白色	NO23／—
023	0-65	4A-9	15.8	2.4	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　中粒砂／
甕	C 1 c	100%	15.7	底B 4 d	ハケ	黄褐色	NO9／—
024	0-45		(17.4)	4.4	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	50%	23.2	底B 1 a	ハケ	淡灰白色	東下層　東最下層／—
025	0-69	4A-109	17.8	(3.3)	タタキ＋ハケ	橙褐色	密　中粒砂／NO20
甕	C 1 c	70%	22.0	底B 1 a	ハケ	淡黄褐色	東下層　東最下層／—
026	0-107	4A-81	16.4	2.7	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　小粒砂　赤粒／
甕	C 1 a	70%	19.1	底B 4 d	ハケ	淡灰白色	—／—
027	0-108	4A-6	17.0	1.5	タタキ	黒褐色	密　中粒砂多／
甕	C 1 a	100%	19.7	底B 3 d	ハケ	赤褐色	西上層　下層／—
028	0-20	4A-4	16.0	1.5	タタキ＋ハケ	赤褐色	やや密　小粒砂多／
甕	C 1 b	90%	19.7	底B 4 d	ハケ	黒褐色	東下層／—
029	0-13	4A-80	(15.2)	2.8	タタキ＋ハケ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 c	70%	16.8	底B 4	ハケ	淡黒灰色	東最下層／—
030	0-70		19.0		タタキ	灰白色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／2	(11.1)		ハケ	淡黄褐色	NO12／—
031	0-101		17.0		タタキ	黄褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	上半	(13.1)		ハケ	黄褐色	下層／—
032	0-86		(20.4)		タタキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／3	(13.5)		ハケ	淡灰色	東上層／—
033	0-75		17.6		タタキ	淡黄褐色	密　小粒砂／西最下層
甕	C 1 c	2／3	(17.3)		ハケ	淡黄褐色	西上層　西下層／—
034	0-110		(18.4)		タタキ	橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／3	(11.8)		ハケ	淡灰白色	東上層　東下層／—
035	0-25		17.6		タタキ	淡黄褐色	やや密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／2	(8.0)		?	淡黄褐色	西上層　西下層／—
036	0-62		(21.0)		タタキ	灰白色	密　小粒砂多／
甕	C 1 a	1／4	(10.6)		ハケ	灰白色	西上層／—
037	0-89		(18.2)		タタキ	橙褐色	密　中粒砂／
甕	C 1 b	1／6	(11.0)		ハケ	橙褐色	東最下層／—
038	0-440		(17.4)		タタキ＋ハケ	淡黄褐色	密　中粒砂／西最下層
甕	C 1 a	1／2	(16.2)		ハケ	淡灰白色	NO20　西下層／—
039	0-97		19.0		タタキ＋ナデ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	上半	(15.0)		ハケ	淡灰黒色	西上層／0-102

040	0-442		(18.0)	タタキ	淡黄褐色	密　中粒砂／
甕	C 1 b	1／5	(11.8)	ハケ	灰白色	NO18 NO20／—
041	0-94		(19.0)	タタキ	淡茶褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／4	(10.5)	ハケ	淡灰白色	東／—
042	0-72		(18.0)	タタキ＋ハケ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／3	(15.2)	ハケ	橙褐色	NO7／—
043	0-79		17.6	タタキ＋ハケ	橙褐色	密　小粒砂少／
甕	C 1 c	2／3	(14.3)	ハケ	黒褐色	東下層　東最下層／0-84
044	0-66		16.4	タタキ＋ハケ	淡黄褐色	密　中粒砂／東最下層
甕	C 1 b	2／3	(13.0)	ハケ	淡灰白色	NO13　東下層／—
045	0-81		14.2	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
甕	C 1 a	1／2	(14.6)	ハケ	淡灰色	下層　東最下層／—
046	0-87		(18.2)	タタキ	濁橙褐色	やや密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／3	(10.8)	?	濁黄褐色	西最下層／—
047	0-12		19.3	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 c	3／4	(11.0)	ハケ	淡橙褐色	下層／0-24
048	0-82		17.0	タタキ	淡橙褐色	密　中粒砂／東上層
甕	C 1 c	7／8	(8.4)	ハケ	淡灰白色	東下層　最下層／0-85
049	0-14		(18.2)	タタキ	淡橙褐色	やや密　中粒砂／
甕	C 1 b	1／3	(8.0)	?	淡橙褐色	東上層／—
050	0-48		(20.4)	タタキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／3	(6.6)	ハケ	灰白色	東上層／—
051	0-44		(18.8)	タタキ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／4	(6.4)	?	淡橙褐色	下層／—
052	0-90		(18.4)	タタキ	淡茶褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／4	(5.0)	ハケ	淡灰色	下層／—
053	0-9		(19.2)	タタキ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	C 1 c	1／4	(6.0)	ハケ	淡灰白色	東下層／—
054	0-29		(19.2)	タタキ	橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／4	(5.1)	ハケ	淡灰白色	西下層／—
055	0-447		(17.2)	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／4	(5.6)	ハケ	淡灰白色	NO14／—
056	0-67		17.0	タタキ＋ハケ	橙褐色	密　中砂／
甕	C 1 b	60％	(16.7)	ハケ	橙褐色	NO20／—
057	0-57		17.4	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　中砂／
甕	C 1 b	3／4	(13.2)	ハケ	黒褐色	NO11 西下層／—
058	0-441		(16.4)	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　中粒砂／
甕	C 1 a	1／2	(12.8)	ハケ	灰白色	西下層／—
059	0-42		15.6	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　中粒砂／NO12 NO14
甕	C 1 c	1／2	(17.4)	ハケ	淡灰白色	東最下層／—

060	0-78		16.0		タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
甕	C 1 a	1／2	(11.1)		ハケ	淡灰白色	東下層／—
061	0-22		(17.6)		タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　中粒砂／
甕	C 1 a	1／3	(10.5)		ハケ	淡灰黒色	西下層／—
062	0-46		(17.0)		タタキ	淡橙褐色	密　大粒砂　礫少／
甕	C 1 c	1／2	(7.0)		ハケ	淡黒灰色	東最下層／—
063	0-28		(17.8)		タタキ	淡赤褐色	密　中砂／
甕	C 1 a	1／2	(8.5)		ハケ	淡黒灰色	西下層　西最下層／—
064	0-47		(16.8)		タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　小粒砂／—／—
甕	C 1 c	1／3	(8.6)		ハケ	淡灰白色	
065	0-26		(15.4)		タタキ	濁黄褐色	やや密　中粒砂多／
甕	C 1 a	1／3	(7.9)		?	黄褐色	西最下層／—
066	0-80		16.4		タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／2	(7.3)		ナデ	淡黒灰色	東上層　東下層／—
067	0-83		(15.2)		タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／3	(6.5)		ハケ	淡橙褐色	東下層　東最下層／—
068	0-473		18.0		タタキ	淡黄褐色	密　中粒砂／
甕	C 1 c	1／4	(5.1)		?	淡黄褐色	西下層／—
069	0-50		(17.2)		タタキ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	C 1 c	1／4	(4.7)		ハケ	淡灰白色	東下層／—
070	0-474		16.0		タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中砂／
甕	C 1 a	1／4	(7.1)		?	淡灰白色	西最下層／—
071	0-93		(17.8)		タタキ	淡橙褐色	密　大粒砂／—／—
甕	C 1 c	1／3	(7.0)		ハケ	淡橙褐色	
072	0-92		(15.8)		タタキ	淡黒灰色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／4	(4.2)		ハケ	淡橙褐色	東下層／—
073	0-482		(15.0)		タタキ	淡黄褐色	密　中粒砂／
甕	C 1 a	1／2	(3.9)		ハケ	淡黒灰色	西下層／—
074	0-10		17.8		タタキ	灰白色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	3／4	(3.0)		?	灰白色	東上層／—
075	0-467		16.0		ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／4	(3.2)		ナデ	淡橙褐色	西上層／—
076	0-103	4A-76	20.2		ハケ	赤褐色	密　小粒砂　礫少／
甕	H	90％	26.0	底A 2	ケズリ　ハケ	赤褐色	東最下層　NO19／—
077	0-60		16.8		タタキ＋ハケ	黄褐色	密　中砂／
甕	C2	上半	(9.7)		ハケ？	黄褐色	西下層／—
078	0-27		(16.6)		タタキ＋ハケ	淡灰白色	密　中粒砂／
甕	E	1／3	(8.2)		ナデ？	淡橙褐色	西下層／—
079	0-49		(29.0)		タタキ＋ハケ	橙褐色	やや密　中粒砂多／
甕	G	1／4	(12.5)		?	橙褐色	東下層／—

080	0-91		16.8		ハケ	橙褐色	やや密　小粒砂／
甕	F 2	3／4	(7.5)		ハケ	暗橙褐色	東下層　東最下層／—
081	0-59		(17.0)		ハケ	淡橙褐色	密　細砂／
甕	B 2	3／5	(6.6)		ケズリ	淡橙褐色	西下層／—
082	0-481		(17.2)		?	濁赤褐色	やや密　小粒砂／
甕	A	1／12	(3.2)		?	濁赤褐色	東下層／—
083	0-1	4A-86	14.0	3.2	ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	H	80％	13.0	底B 1 b	?	淡橙褐色	西上層／—
084	0-88		13.2		ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 c	1／2	(7.8)		ハケ	淡灰白色	東下層　東最下層／—
085	0-61		13.0		タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂／
甕	C 1 c	3／4	(11.3)		ハケ	淡黄褐色	西上層　西下層／—
086	0-15		(14.0)		タタキ	淡灰白色	密　中砂／
甕	C 1 a	3／8	(6.2)		?	淡灰白色	東上層／—
087	0-11		(11.6)		タタキ	淡黄褐色	やや密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／6	(5.5)		ハケ	淡茶褐色	東最下層／—
088	0-450		(14.0)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／5	(3.6)		ナデ	淡黄褐色	東最下層／—
089	0-468		14.8		?	淡黄褐色	やや密　中粒砂／
甕	C 1 c	1／2	(3.3)		?	淡黄褐色	東最下層　NO9／—
090	0-451		14.6		ナデ	淡灰色	密　小粒砂少／
甕	C 1 a	1／4	(5.1)		ハケ	淡灰白色	東下層／—
091	0-458			2.8	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂／
		底部	(18.7)	底B 4	ナデ	淡黒灰色	下層　東上層／—
092	0-18			4.0	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中砂／
		底部	(17.5)	底B 1 a	ハケ	淡黒褐色	東上層　東最下層／—
093	0-449			4.2	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂／
		底部	(10.0)	底B 1 a	ハケ	淡茶褐色	東下層／—
094	0-111			2.2	タタキ＋ハケ	淡赤褐色	密　小粒砂少／
		底部	(14.2)	底B 4	ハケ	淡橙褐色	東下層　東最下層／—
095	0-31			4.4	タタキ	赤褐色	密　中粒砂／
		底部	(7.8)	底B 1 c	ハケ	灰白色	西最下層／—
096	0-32			2.4	タタキ	茶褐色	やや密　中粒砂多／
		底部	(8.4)	底B 3	?	黄褐色	西最下層／065の底部？
097	0-459			3.6	タタキ	淡赤褐色	密　中粒砂／
		底部	(5.0)	底B 4	ハケ	淡黒灰色	西下層　東最下層／—
098	0-462			4.8	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂／
		底部1/4	(4.3)	底B 1 a	ハケ	淡灰白色	西下層／—
099	0-460			5.0	?	淡赤褐色	密　中粒砂／
		底部1/2	(7.7)	底B 1 c	ハケ	淡赤褐色	東下層　東／—

100	0-472		2.1	ハケ	淡黄褐色	密　中粒砂／
		底部	(8.4)　底B２	ナデ	淡黄褐色	東最下層　NO12／—
101	0-443		4.0	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂／東下層
		底部	(18.3)　底B１a	ハケ	灰白色	東上層　下層／—
102	0-33		(4.0)	ハケ	橙褐色	密　小粒砂／
		底部1/3	(7.0)　底B１a	ハケ	淡灰黒色	西上層／—
103	0-17		3.3	タタキ	橙褐色	やや密　小粒砂多／
		底部	(7.5)　底B１c	？	淡橙褐色	東上層／—
104	0-471		2.2	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂　赤粒少／
		底部1/2	(7.9)　底B３	ハケ	淡黒灰色	西最下層／—
105	0-54		4.0	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
		底部2/3	(5.0)　底B１a	ハケ	茶褐色	東下層／—
106	0-478		3.8	タタキ	茶褐色	密　中粒砂／
		底部	(3.6)　底B１c	ハケ	淡灰白色	東下層／—
107	0-466			タタキ	淡赤褐色	密　中粒砂／
		底部	(4.0)	ナデ	淡灰白色	東下層／—
108	0-488		4.1	タタキ	淡赤褐色	密　小粒砂／
		底部	(4.0)　底B１a	ハケ	淡黒灰色	東下層／—
109	0-36		3.0	タタキ	淡黒灰色	密　小粒砂／
		底部	(3.6)　底B３	？	淡灰色	西下層／—
110	0-489		2.2	タタキ	淡赤褐色	密　小粒砂／—／—
		底部	(3.5)　底B４d	ハケ	淡黒灰色	
111	0-476		3.9	タタキ	淡黄褐色	密　中粒砂／
		底部	(4.2)　底B１b	？	淡黄褐色	東上層　東下層／—
112	0-96		3.7	タタキ	淡茶褐色	密　中粒砂／
		底部	(3.2)　底B１b	？	淡黒灰色	東上層／—
113	0-485		3.5	タタキ	黒褐色	密　中粒砂少／
		底部1/2	(3.1)　底B４	ハケ	淡灰色	最下層　NO18／—
114	0-30		3.7	タタキ	灰白色	密　細砂／
		底部	(3.4)　底B１b	？	淡黒灰色	西上層／—
115	0-465		3.8	タタキ	淡黄褐色	密　中粒砂／—／—
		底部	(2.8)　底B１b	ハケ	淡黒灰色	
116	0-469		3.4	タタキ	淡赤褐色	密　中粒砂／
		底部	(2.6)　底B１a	ナデ	淡黄褐色	東下層／—
117	0-480		3.8	タタキ	淡橙褐色	密　中粒砂／
		底部	(2.8)　底B１b	ハケ	淡灰白色	東下層／—
118	0-51		4.3	タタキ	灰白色	密　小粒砂／
		底部	(2.8)　底B１b	ナデ	灰白色	東下層／—
119	0-484		1.8	タタキ	赤褐色	密　小粒砂／
		底部2/3	(2.0)　底B３	ナデ	淡灰色	東下層／—

120	0-475			4.4	ケズリ　ハケ	濃茶褐色	密　中粒砂／
		底部1/3	(5.3)	底B２	ハケ	茶褐色	東最下層／—
121	0-464			1.8	タタキ	淡茶褐色	密　中粒砂／
		底部	(2.2)	底B３	?	淡灰色	東最下層　NO14／—
122	0-470			4.2	タタキ	淡赤褐色	密　小粒砂／
		底部1/2	(1.6)	底B１a	?	淡黒灰色	西上層／—
123	0-486			1.9	タタキ	淡赤褐色	密　中粒砂／—／—
		底部	(2.6)	底B３	?	淡灰黒色	
124	0-21			1.5	ハケ	黄褐色	やや密　中粒砂／
		底部	(5.3)	底B２	?	淡黒灰色	東下層／—
125	0-487			2.8	タタキ＋ハケ	淡赤褐色	密　小粒砂／
		底部	(2.0)	底B３	ハケ	黒褐色	東下層／—
126	0-477			1.7	ハケ	淡赤褐色	密　中粒砂／
		底部	(4.4)	底B３	ハケ	淡灰白色	東下層　東最下層／—
127	0-34			3.0	ハケ	橙褐色	密　小粒砂／
		底部	(3.0)	底B２	?	灰白色	西下層／—
128	0-490			2.6	ハケ	淡赤褐色	密　中粒砂／
		底部	(2.1)	底B３	?	淡灰白色	東下層／—
129	0-38	4A-12	21.6	11.0	?	赤褐色	やや密　小粒砂多／
高杯	B１	90％	14.5	脚A	?	赤褐色	NO14／円形透穴3
130	0-7		24.8		ハケ	淡黄褐色	密　中砂少／
高杯	B１	杯部	(7.0)		ハケ	淡黄褐色	NO16／—
131	0-40	4A-94		15.6	ナデ	淡灰白色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(7.2)	脚C１	ナデ	淡橙褐色	NO5／—
132	0-68	4A-13	21.9	13.2	?	黄褐色	密　中粒砂／
器台	A２	80％	15.0	脚D	?	黄褐色	東上層／円形透穴3
133	0-71		24.0		?	赤褐色	やや密　小粒砂／
高杯	B１	杯部	(6.6)		?	赤褐色	NO4／—
134	0-4			9.0	ミガキ？	赤褐色	やや密　小粒砂／
器台		脚部	(6.6)	脚D	?	赤褐色	東下層／—
135	0-454			8.4	ナデ	淡灰色	密　中粒砂／—／—
台付鉢		1／3	(2.3)		ハケ	濃黒灰色	
136	0-445			(7.6)	ミガキ	淡灰白色	密　中砂少／
器台		脚部	(5.5)	脚D	ケズリ　ナデ	淡黄褐色	下層／—
137	0-444			(9.0)	ミガキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
器台		脚部	(7.0)	脚D	ナデ	淡茶褐色	西下層／—
138	0-58			(14.2)	ミガキ？	淡黄褐色	密　中粒砂少／
器台		脚部1/4	(11.0)	脚A	ハケ	淡黄褐色	西上層／—
139	0-456				ミガキ	淡灰白色	密　小粒砂少／
高杯		脚部	(6.0)	脚A	ハケ	淡灰白色	西下層／円形透穴3

140	0-457				?	淡橙褐色	密　小粒砂少／
高杯		脚部	(4.8)	脚B	?	淡橙褐色	西下層／—
141	0-308	4A-14	11.0	11.0	?	淡橙褐色	密　小粒砂　赤粒少／
小型器台	C 2	90%	10.5	脚C	?	淡灰白色	NO2／—
142	0-309	4A-15	9.3	(11.0)	ケズリ後ナデ	淡灰白色	密　小粒砂少／
小型器台	D 1	80%	9.4	脚D	ミガキ　ナデ	淡灰白色	NO10／—
143	0-455		9.5		ミガキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
小型器台	C 1	受部	(6.8)	脚C	ミガキ	淡橙褐色	西上層／円形透穴3
144	0-73	4A-22	12.0	4.6	ナデ	淡灰白色	密　中粒砂／
鉢	D	100%	8.5	底B 1 b	ナデ	淡灰白色	NO6／—
145	0-98	4A-23	9.9	1.5	ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
鉢	D	1／2	8.4	底B 2	ナデ	橙褐色	
146	0-39	4A-101	8.8	3.4	ハケ	灰色	密　小粒砂／—／—
鉢	D	100%	6.9	底B 2	ナデ	淡黄褐色	
147	0-19		(10.0)	3.4	?	淡黄褐色	密　小粒砂／
鉢	B	1／3	5.0	底B 1 a	ハケ	淡灰白色	東上層／—
148	0-74	4A-21	11.0	3.8	タタキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
有孔鉢	E 2 c	100%	7.8		ハケ	黄褐色	NO1／孔径0.8cm
149	0-463		12.2		?	淡赤褐色	やや密　小粒砂／
蓋	C	1／4	(3.0)		?	淡赤褐色	西下層／—
150	0-6		(10.3)		ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂／
鉢	D	1／3	(5.0)		ナデ	淡橙褐色	最下層／—
151	0-35			3.7	ハケ	灰白色	密　小粒砂少／
		底部	(3.2)	底B 1 a	ナデ	灰白色	西上層／—
152	0-452		10.6		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
椀		1／8	(4.1)		ナデ	淡灰白色	西下層／—
153	0-479			4.2	?	淡黄褐色	密　中粒砂／
		底部	(3.5)	底B 1 a	?	淡黄褐色	西上層／—
154	0-446		(6.2)	2.4	ナデ	淡灰白色	密　中粒砂／
ﾐﾆﾁｭｱ蓋		60%	3.0		ナデ	淡黄褐色	東下層／—
155	0-41	4A-103	6.3	3.3	ナデ	淡橙褐色	密　中粒砂少／
ﾐﾆﾁｭｱ鉢		80%	5.0		ナデ	淡橙褐色	東下層／—
630	0-627				?	灰白色	密／
壺		部分	(3.0)		?	灰白色	東上層／刺突　波状文
631	0-630				ナデ	淡黄褐色	密／
壺		部分	(1.6)		ナデ	灰白色	西上層／陰刻文
632	0-629				ナデ	淡橙褐色	密／
壺		部分	(2.7)		ナデ	淡橙褐色	西下層／円形浮文
633	0-628				?	灰白色	密　小粒砂多／
壺		部分	(4.5)		?	赤褐色	／内面陰刻

溝ＳＤ09出土遺物

477	0-313	4A-11	18.0		ミガキ	橙褐色	密　小粒砂少／
壺	C	上半	(20.1)		ミガキ ケズリ	黒灰色	NO3／—
478	0-311			4.0	タタキ	灰白色	密　小粒砂／
		底部	(21.5)	底Ｃ１ｂ	ハケ	黒灰色	NO3／—
479	0-316		20.0	3.3	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	E	50％	30.4	底Ｂ１ｂ	?	淡黄褐色	NO1／—
480	0-312	4A-1	20.5		ハケ	淡茶褐色	密　細砂／
甕	Ｂ２	80％	30.5	底Ａ１	ケズリ	淡黄褐色	NO3／—
481	0-310	4A-2	15.2		ハケ	淡黄褐色	密　細砂／
甕	Ｂ２	50％	22.0	底Ａ１	ケズリ	赤褐色	NO2／—
482	0-356		(15.8)		タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	E	1／4	(8.0)		ケズリ	淡灰白色	NO1／—
483	0-315		(16.0)		タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ｃ	1／5	(6.2)		ナデ	黒褐色	
484	0-318		22.6		ミガキ	淡橙褐色	密　細砂／
高杯	Ｂ１	杯部1/5	(6.2)		ミガキ	淡橙褐色	NO1／—
485	0-357		(10.6)		?	淡赤褐色	密　小粒砂少／
小型器台		受部1/4	(1.2)		?	淡赤褐色	NO1／—

土坑ＳＫ10出土遺物

503	0-338		(17.4)		?	淡赤褐色	密　小粒砂／
壺	Ｂ２	1／5	(16.0)		?	淡赤褐色	東／—
504	0-174		(19.2)		?	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
壺	Ｂ１	1／6	(3.5)		?	淡橙灰色	
505	0-177		(16.0)		ハケ	灰白色	密　小粒砂／—／—
壺	Ｂ１	1／2	(7.9)		ナデ	灰白色	
506	0-181		(17.2)		ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
壺	Ａ２	1／5	(5.2)		ナデ	淡黄褐色	壁際／刻線文
507	0-186		(16.4)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
壺	Ｅ１	1／3	(4.0)		ナデ	黄褐色	
508	0-339		(13.0)		ナデ　ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／
壺	Ｂ１	1／7	(5.1)		ナデ　ハケ	淡灰白色	壁際／—
509	0-182				ナデ	橙褐色	密　小粒砂／
壺		頸部	(4.4)		ナデ	淡橙褐色	／円形浮文
510	0-175		(14.0)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
壺	Ｅ２	1／2	(5.9)		ナデ	淡灰白色	／頸部に装飾
511	0-350		(21.8)		?	淡黄褐色	密　小粒砂多／—／—
甕	Ｂ２	1／10	(7.0)		?	淡黄褐色	

512	0-344		(25.8)		?	灰白色	密　小粒砂少／—／—
甕	B 2	1／5	(9.2)		ケズリ	灰白色	
513	0-345		(27.6)		?	淡赤褐色	密　小粒砂／
甕	B 2	1／12	(7.8)		ケズリ	橙褐色	東／—
514	0-179	4A-5	12.6		タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
甕	C 1 a	95％	22.5	底A 2	ハケ	淡灰白色	東／—
515	0-172		10.0		ハケ	淡灰白色	密　小粒砂／
鉢	D	1／2	(12.5)	底A 2	ハケ	淡灰白色	東／—
516	0-180		(12.0)		タタキ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	C 2	1／4	(4.6)		ケズリ	淡灰白色	東／—
517	0-343		(13.8)		タタキ	淡橙褐色	密　中砂／—／—
甕	C 1 a	1／7	(6.8)		?	淡灰色	
518	0-353			4.2	ミガキ	淡灰白色	密　中砂／
		底部	(3.4)	底B 1 a	?	淡灰白色	東／—
519	0-178			5.2	ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂／
		底部	(2.5)	底C 1 a	ハケ	黒灰色	東／—
520	0-349			5.5	?	淡黄褐色	密　中粒砂／
		底部	(2.5)	底C 1 a	?	淡黒灰色	東下層／—
521	0-354				?	淡茶褐色	密　小粒砂／
		底部	(7.0)	底A 1	ケズリ	淡茶褐色	東／—
522	0-342			5.4	タタキ	淡橙褐色	密　中砂／
		底部	(2.2)	底C 1 b	?	淡黒灰色	壁際／—
523	0-352			3.3	?	淡赤褐色	密　小粒砂／—／—
		底部	(1.7)	底B 1 a	?	淡灰白色	
524	0-341			5.8	?	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
		底部	(2.5)	底B 1 a	?	淡灰色	
525	0-185			10.0	ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
台付鉢		脚部	(6.5)		ナデ	橙褐色	
526	0-176		(12.0)		?	淡橙褐色	密　小粒砂／
壺	E 3	1／3	(4.0)		?	淡橙褐色	東土器溜り／—
527	0-173		(11.8)		?	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
鉢	B	1／3	5.5	底A 1	?	淡橙褐色	
528	0-340		(26.0)		ミガキ	淡黄褐色	密　小粒砂少／—／—
高杯	B 1	杯部1/4	(6.4)		ミガキ	淡黄褐色	
529	0-351		(17.4)		?	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
器台	A 1	受部1/4	(5.4)		?	黄褐色	
530	0-346				?	明赤褐色	密　大粒砂　礫／
高杯		脚部	(6.2)	脚C	?	赤褐色	／円形透穴6
531	0-184		10.0		ミガキ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
小型器台	C 2	受部	(9.2)	脚C	ミガキ	淡灰白色	壁際／—

532	0-183	4A-93	10.5	9.8	ミガキ	橙褐色	密　小粒砂／
小型器台	D 2	95％	10.6	脚D	ミガキ　ケズリ	淡橙褐色	壁際／—
533	0-187			(14.4)	?	淡赤褐色	密　小粒砂／
器台		脚部	(8.3)	脚D	?	淡灰白色	東／円形透穴3
534	0-348		(12.0)		ハケ	灰白色	密　中粒砂／
椀		1／6	3.0		ハケ	淡灰白色	壁際／—
535	0-347		(9.1)	3.0	ミガキ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
蓋	C	100％	4.2		ミガキ	灰白色	東下層／—

土坑ＳＫ14出土遺物

156	0-543		(16.9)		ナデ	黄褐色	密　小粒砂多／
壺	B 1	1／4	(5.2)		ナデ	淡黄褐色	下層／—
157	0-247		(18.8)		ナデ	淡灰白色	密／
器台	B	受部1/3	(4.0)		ナデ	淡橙褐色	埋土上層／0-231
158	0-542		(27.0)		ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂多／
甕	G	1／6	(8.0)		?	灰白色	最下層　西上層／—
159	0-194		(14.6)		ハケ	淡黄褐色	密　中砂／
壺	F	40％	(25.2)		ナデ	淡黄褐色	上層　下層／—
160	0-548		(16.2)		?	灰白色	密　小粒砂少／
壺	E 1	1／5	(5.7)		?	灰白色	東黒褐色／刻線文？
161	0-254				ナデ	黄褐色	密　小粒砂／
壺		頸部	(3.0)		ナデ	淡灰白色	壁際／円形浮文
162	0-199		(13.0)		ナデ	淡黄褐色	密／
壺	E 2	1／4	(7.3)		ナデ	淡黄褐色	東黒褐色土／—
163	0-193		15.0		ナデ	淡黄褐色	密　細砂多／
壺	E 1	2／3	(7.0)		ナデ	灰白色	下層　埋土／—
164	0-237		15.0		ナデ	濁黄褐色	密　小粒砂／
壺	E 1	1／2	(6.6)		ナデ	濁黄褐色	最下層　暗黒褐色土／—
165	0-567				ミガキ？	淡橙褐色	密　細砂多／
壺		頸部1/3	(4.7)		?	灰白色	東黒褐色／—
166	0-235		(13.2)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂少／
壺	E 1	1／4	(5.7)		ナデ	淡黄褐色	東暗褐色土／—
167	0-189		(12.8)		?	淡黄褐色	密　小粒砂／
鉢	C 2	1／4	(4.0)		?	淡灰白色	精査／—
168	0-549		(14.2)		?	黄褐色	密　小粒砂少／
壺	D	1／4	(4.8)		ナデ　ケズリ	灰白色	最下層／—
169	0-190		(13.4)		?	黄褐色	密　小粒砂／—／—
壺	E 1	1／4	(6.0)		?	淡黄褐色	
170	0-207		(17.5)		?	淡黒褐色	やや密　小粒砂／
甕	A	1／12	(8.2)		?	淡赤褐色	—／—

171	0-216		(16.0)	ハケ	淡茶褐色	密／—／—
甕	A	1／6	(8.3)	ケズリ	濁黄褐色	
172	0-256		14.6	?	濁赤褐色	密　細砂多／
甕	A	上半	(6.2)	?	濁赤褐色	最下層／—
173	0-551		(19.7)	ナデ	淡赤褐色	密　小粒砂／
甕	A	1／8	(3.0)	ナデ	淡赤褐色	東黒褐色／—
174	0-206		(18.0)	?	淡黄褐色	やや密　小粒砂／
甕	A	1／5	(4.0)	?	濁黄褐色	—／—
175	0-556		(16.8)	ナデ	灰白色	密　小粒砂／
甕	A	1／5	(3.1)	ナデ	淡黄褐色	東黒褐色／—
176	0-251		(16.6)	?	淡赤褐色	密　小粒砂少／
甕	A	1／7	(2.9)	?	淡赤褐色	—／—
177	0-244		19.6	ハケ	淡茶褐色	密　中砂／
甕	B 1	1／4	(9.4)	ケズリ	淡茶褐色	上層／—
178	0-536		19.0	ハケ	濁赤褐色	密　小粒砂多／
甕	B 1	1／2	(9.1)	ケズリ	濁赤褐色	埋土上層／—
179	0-208		(15.0)	?	濁黄褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	3／8	(7.5)	ケズリ	淡灰色	埋土／—
180	0-537		(17.0)	ハケ	濁黄褐色	密　小粒砂多／
甕	B 1	1／5	(6.0)	?	赤褐色	—／—
181	0-233		(18.4)	?	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／7	(6.4)	ケズリ	淡黄褐色	埋土／—
182	0-215		(14.6)	?	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／4	(5.6)	ケズリ？	淡黄褐色	埋土／—
183	0-221		(18.4)	?	淡茶褐色	密　中砂少／
甕	B 1	1／4	(4.4)	ケズリ	淡赤褐色	最下層／—
184	0-559		(17.0)	ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／4	(4.4)	ケズリ	淡黒灰色	—／—
185	0-553		(15.0)	ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／4	(3.5)	ナデ	淡黄褐色	上層　東黒褐色／—
186	0-540		(18.0)	?	淡赤褐色	密　小粒砂多／
甕	B 1	1／5	(3.1)	?	淡黄褐色	最下層　西／—
187	0-205		(17.2)	?	淡黒褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／9	(3.2)	?	濁茶褐色	埋土／—
188	0-555		(15.2)	ナデ	橙褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／8	(3.5)	ケズリ？	淡橙褐色	東黒褐色／—
189	0-226		(20.2)	ハケ	淡茶褐色	密　中砂少／
甕	B 1	1／4	(5.0)	ケズリ	淡黄褐色	西上層／—
190	0-191		(18.8)	ハケ	淡黄褐色	密　細砂／
甕	B 2	1／8	(6.2)	?	淡灰白色	下層／—

191	0-558		(14.2)	ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／4	(3.9)	ナデ	灰白色	最下層／—
192	0-574		(20.0)	タタキ	茶褐色	密　小粒砂多／
甕	C 1 a	1／4	(5.9)	?	淡灰黒色	上層／—
193	0-220		(15.4)	タタキ	淡赤褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／6	(5.7)	?	淡黄褐色	最下層／—
194	0-538		(12.8)	タタキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	C 2	1／4	(4.8)	ケズリ	淡黄褐色	東黒褐色／—
195	0-545		(21.0)	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂多／
甕	C 1 b	1／7	(5.1)	?	灰白色	東黒褐色／—
196	0-201		(16.3)	タタキ	淡赤褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 c	3／8	(4.4)	?	淡橙褐色	東黒褐色土／—
197	0-209		(15.6)	タタキ	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	C 2	1／4	(3.0)	ハケ？	淡橙褐色	（中）下層／—
198	0-219		(10.3)	タタキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／8	(7.1)	ハケ	淡灰白色	最下層／—
199	0-197		(15.4)	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／5	(8.4)	ハケ	淡橙褐色	東黒褐色土／—
200	0-544		(15.0)	タタキ	灰白色	密　小粒砂少／
甕	C 1 a	1／4	(7.1)	ハケ	灰白色	下層／—
201	0-232		(21.4)	タタキ	黒褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 b	1／10	(5.1)	?	淡黄褐色	上層／—
202	0-561		(13.7)	ハケ	黒褐色	密　細砂多／
甕	C 1 a	1／8	(6.2)	ハケ	灰色	東黒褐色／—
203	0-230		(15.2)	?	濁赤褐色	密　大粒砂　礫／
甕	C 1 a	1／4	(7.6)	?	濁赤褐色	西／—
204	0-229		(18.2)	?	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 c	1／10	(5.4)	ハケ	淡灰白色	下層／—
205	0-188		(16.8)	ハケ	淡黄褐色	密　細砂／
甕	H	1／6	(5.7)	ケズリ？	淡灰白色	精査／—
206	0-227		(17.0)	?	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／5	(5.5)	?	淡茶褐色	下層／—
207	0-192		(16.8)	?	淡橙褐色	密　小粒砂／
甕	C 1 c	1／5	(4.3)	ハケ	淡黒灰色	下層／—
208	0-210		(16.6)	?	淡灰白色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／8	(6.1)	?	淡黄褐色	下層／—
209	0-554		(17.4)	ナデ	灰白色	密　小粒砂／
甕	C 1 a	1／8	(3.9)	ナデ？	灰白色	下層／—
210	0-248		(17.4)	?	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
甕	C 1 b	1／9	(5.2)	?	淡黒灰色	

211	0-250		(17.8)	?	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
甕	C 1 a	1／5	(3.5)	?	淡黄褐色	
212	0-550		(14.9)		淡黄褐色	密　細砂多／
甕	D	1／8	(4.2)	ケズリ	淡黄褐色	東暗黒褐色／—
213	0-568		(15.4)	ナデ	灰白色	密／
甕	D	1／16	(2.5)	ナデ	淡橙褐色	下層／—
214	0-253		(13.0)	?	茶褐色	やや密　小粒砂／
甕	B 1	1／6	(3.3)	?	淡黄褐色	壁際／—
215	0-552		(12.2)	ナデ	黒褐色	密　小粒砂／
甕	B 1	1／8	(4.6)	ケズリ	赤褐色	最下層／—
216	0-204		(12.8)	ナデ	淡茶褐色	密　小粒砂／—／—
壺	C	1／7	(3.8)	ケズリ	淡灰白色	
217	0-557		(11.4)	ナデ	淡茶褐色	密　小粒砂少／
鉢	C 2	1／4	(4.2)	ナデ　ケズリ	淡茶褐色	西上層／—
218	0-546		(11.2)	ケズリ	灰白色	密　小粒砂多／
鉢	D	1／7	(5.3)	ケズリ	灰白色	東暗黒褐色／—
219	0-539			ハケ	淡橙褐色	密／—／—
甕		体部1/4	(7.2)	ハケ？	淡灰白色	
220	0-575		4.8	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
		底部	(6.2)　底C 1 a	ハケ	淡灰黒色	最下層／—
221	0-582		5.2	ミガキ	灰白色	密　小粒砂／
		底部	(7.1)　底C 1 c	ハケ	淡黄褐色	下層／—
222	0-585		5.2	?	淡灰白色	密　小粒砂／
		底部	(2.7)　底C 1 a	ハケ	濁黄褐色	上層／—
223	0-601		4.6	?	灰白色	密　小粒砂／
		底部	(1.3)　底C 1 a	ナデ	淡黒灰色	東黒褐色／—
224	0-565		4.7	タタキ	黄褐色	密　小粒砂／
		底部	(2.2)　底C 1 a	?	黄褐色	東暗黒褐色／—
225	0-577		4.7	?	灰白色	密　中砂／
		底部	(3.3)　底C 1 a	ハケ？	黒灰色	東黒褐色／—
226	0-596		6.8	?	濁黄褐色	密　小粒砂少／
		底部	(2.3)　底B 1 a	?	淡灰白色	東暗黒褐色／—
227	0-594		4.0	タタキ？	濁黄褐色	密　小粒砂多／
		底部	(1.5)　底B 1 a	?	黒褐色	東暗黒褐色／—
228	0-600		3.4	ケズリ	淡黄褐色	密　小粒砂少／
		底部	(1.3)　底B 1 a	ハケ	黒褐色	東黒褐色／—
229	0-583			?	淡黄褐色	密　小粒砂多／
		底部	(10.3)　底A 1	ケズリ	淡茶褐色	下層／—
230	0-573		1.8	タタキ	灰白色	密／
		底部	(4.6)　底B 3	ハケ	淡黒灰色	下層／—

231	0-569			ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂／
		底部	(3.2)　底A２	ハケ	淡黒灰色	下層／—
232	0-598			ハケ	淡黄褐色	密　小粒砂少／
		底部	(2.6)　底A２	ハケ	淡黒灰色	東黒褐色／—
233	0-224		5.0	タタキ＋ハケ	黄褐色	密　小粒砂／
		底部	(8.5)　底B１b	ハケ	淡茶褐色	最下層／—
234	0-586		2.0	タタキ＋ナデ	淡茶褐色	密　小粒砂／
		底部	(3.9)　底B３	ナデ？	淡黄褐色	最下層／—
235	0-578		3.5	タタキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
		底部	(3.2)　底B１b	？	橙褐色	最下層／—
236	0-589		3.8	タタキ	淡黄褐色	やや密　細砂多／
		底部	(2.0)　底B１b	ナデ？	淡黄褐色	東暗黒褐色／—
237	0-571		2.9	タタキ	赤褐色	密　小粒砂／
		底部	(2.2)　底B３	ナデ	淡黄褐色	最下層／—
238	0-587		4.3	タタキ＋ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
		底部	(2.4)　底B１a	ナデ	淡灰黒色	精査／—
239	0-564		4.7	タタキ	黄褐色	密　中砂／
		底部	(3.6)　底B１a	？	淡茶褐色	東黒褐色／—
240	0-599		3.8	タタキ	黄褐色	密　小粒砂少／
		底部	(2.2)　底B１b	ハケ	黄褐色	東暗黒褐色／—
241	0-590		3.4	タタキ	茶褐色	密　小粒砂少／
		底部	(3.0)　底B１a	ナデ	茶褐色	東暗黒褐色／—
242	0-580		4.8	ハケ＋ミガキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
		底部	(5.1)　底B１b	ハケ	淡灰色	最下層／—
243	0-579		3.3	ハケ	濁茶褐色	密　小粒砂多／
		底部	(4.1)　底B１a	ケズリ	暗茶褐色	埋土／—
244	0-576		3.5	？	濁赤褐色	やや密　大粒砂　礫／
		底部	(4.9)　底B１a	？	濁赤褐色	下層／—
245	0-588		3.8	？	淡黄褐色	やや密　細砂多　赤粒／
		底部	(3.0)　底B１b	？	淡黄褐色	東黒褐色／—
246	0-572		4.1	ナデ	黄褐色	密　小粒砂／
		底部	(2.1)　底B１a	ナデ	黄褐色	精査／—
247	0-602		2.4	ナデ	灰白色	密／—／—
		底部	(1.5)　底B１a	ハケ	灰白色	
248	0-593		2.8	？	淡赤褐色	密　中粒砂／—／—
		底部	(1.9)　底B１b	？	淡赤褐色	
249	0-584		4.2	ハケ	淡茶褐色	密　小粒砂／
		底部	(1.7)　底B１a	ハケ	淡黒灰色	最下層／—
250	0-566		3.6	ケズリ？	淡茶褐色	密／—／—
		底部	(3.2)　底B１a	ケズリ？	茶褐色	

251	0-603			4.0	ケズリ	淡赤褐色	密　中粒砂／
		底部	(2.4)	底B１a	ナデ	淡橙褐色	埋土下層／—
252	0-581			3.5	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
		底部	(2.1)	底B１b	?	淡黄褐色	最下層／—
253	0-595			3.6	?	濁赤褐色	やや密　大粒砂　礫／
		底部	(1.9)	底B１a	?	濁赤褐色	東黒褐色／—
254	0-570			3.8	ナデ	黄褐色	密　小粒砂／
ﾐﾆﾁｭｱ鉢		底部	(2.1)		ナデ	淡灰黒色	下層／—
255	0-597			2.6	?	濁黄褐色	密　細砂多／—／—
		底部	(2.3)	底B１b	?	淡黄褐色	
256	0-591			2.5	ハケ	淡赤褐色	密　小粒砂少／
		底部	(2.5)	底B１a	ナデ	淡灰黒色	壁際／—
257	0-592			2.0	ハケ	濁茶褐色	密　小粒砂多／
		底部	(3.0)	底B３	ナデ	淡黄褐色	東暗黒褐色／—
258	0-239		(11.2)	1.5	ハケ	淡灰白色	密　中砂／
鉢	B	80％	6.4	底B３	ナデ	淡灰白色	暗黒褐色土／—
259	0-213		(10.0)	2.9	?	淡黄褐色	やや密　小粒砂／
鉢	B	60％	6.0	底B１a	?	淡黄褐色	—／—
260	0-211	4A-90	14.0	3.4	ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
鉢	A	90％	6.0	底B１b	ナデ	灰白色	埋土　下層／—
261	0-560		(14.8)		?	淡赤褐色	やや密　小粒砂多／
鉢	C２	1／10	(6.3)		?	淡赤褐色	最下層／—
262	0-563			2.6	?	黄褐色	密　小粒砂／
有孔鉢	E１a	底部	(3.2)		?	黄褐色	精査／孔径13mm
263	0-252			5.6	ナデ	淡黄褐色	密／—／—
蓋	A１	上半	(4.2)		ナデ	淡黄褐色	
264	0-245			4.0	ナデ	淡黄褐色	密／
蓋		上半	(4.8)		ナデ	灰白色	西／—
265	0-518			3.1	?	黄褐色	密　小粒砂／
蓋		上半	(4.9)		?	淡黒灰色	暗黒褐色／—
266	0-223			4.5	ナデ	淡橙褐色	密／
蓋		2／3	(5.0)		ハケ	淡灰白色	最下層／—
267	0-255			8.6	ナデ	黄褐色	密　小粒砂／
台付鉢		脚部	(6.5)		ナデ	茶褐色	壁際／—
268	0-514			6.7	?	淡黄褐色	密　小粒砂多／
台付鉢		脚部	(2.4)		?	淡黄褐色	東黒褐色／—
269	0-533				?	赤褐色	密　小粒砂　赤粒／
台付鉢		脚部	(4.2)		?	赤褐色	15B精査／—
270	0-515				?	赤褐色	密　小粒砂　赤粒少／
台付鉢		脚部	(2.9)		?	赤褐色	東暗黒褐色／—

271	0-528			(4.8)	?	赤褐色	密　小粒砂／
台付鉢		脚部	(4.9)		?	赤褐色	最下層／—
272	0-534				?	黄褐色	密　中粒砂　赤粒少／
台付鉢		脚部	(3.9)		?	淡黄褐色	東暗黒褐色／—
273	0-222			7.2	ナデ	黄褐色	密　小粒砂少／
台付鉢		脚部	(4.0)		ナデ	黄褐色	最下層／—
274	0-530			4.2	?	淡赤褐色	密　小粒砂　赤粒少／
台付鉢		脚部	(3.2)		?	淡橙褐色	—／—
275	0-257		25.4		?	濁黄褐色	密　小粒砂／最下層
高杯	B 1	杯部	(7.4)		?	濁黄褐色	東暗黒褐色土　下層／—
276	0-517		(21.4)		?	灰色	密　小粒砂／
高杯	B 1	杯部1/6	(7.6)		?	淡橙褐色	最下層／—
277	0-217		(20.0)		ミガキ	茶褐色	密／—／—
高杯	A 2	杯部1/7	(4.5)		?	淡茶褐色	
278	0-519				ミガキ	淡赤褐色	密　小粒砂少／
高杯		杯部	(3.0)		ミガキ	淡黄褐色	埋土最下層／—
279	0-532				?	赤褐色	密　小粒砂　赤粒／
高杯		杯部	(5.1)		?	赤褐色	東黒褐色／—
280	0-246		(10.5)		?	淡赤褐色	密　細砂／
椀		1／4	(3.4)		?	淡赤褐色	東暗黒褐色土／—
281	0-541		10.5		?	淡黄褐色	密　中砂少／—／—
高杯	D	杯部3/4	(3.7)		?	淡黄褐色	
282	0-520				ハケ	淡黄褐色	密　赤粒少／—／—
高杯		杯部	(4.7)		ハケ	淡赤褐色	
283	0-547		(16.6)		ミガキ	淡茶褐色	密　中粒砂／
器台	B	受部1/7	(5.1)		ナデ？	灰白色	最下層／—
284	0-527		(14.6)		?	赤褐色	密　細砂　赤粒／
器台	A 1	受部1/4	(8.6)		?	赤褐色	東　東黒褐色／—
285	0-513				?	黄褐色	密　赤粒少／
高杯		脚部	(7.8)	脚B	?	黄褐色	下層／円形透穴3
286	0-494				ミガキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(4.5)	脚C	?	淡黄褐色	東暗黒褐色／円形透穴3
287	0-499				?	淡黒灰色	密　中粒砂　赤粒少／
高杯		脚部	(5.3)	脚C	?	淡黒灰色	暗黒褐色／—
288	0-524				ハケ	淡灰色	密　中粒砂少／
高杯		脚部	(4.5)	脚C 1	ハケ	茶褐色	—／—
289	0-523				?	赤褐色	密／暗黒褐色土
高杯		脚部	(7.8)	脚C	?	赤褐色	／円形透穴3 杯部穿孔
290	0-501				?	赤褐色	密　小粒砂　赤粒／
高杯		脚部	(5.0)	脚B	?	赤褐色	東暗黒褐色／—

291	0-507			?	淡黄褐色	密　中粒砂／
高杯		脚部	(4.6)	脚C 1	?	淡茶褐色	暗黒褐色／—
292	0-509			?	淡黄褐色	密　細砂／
高杯		脚部	(3.9)	脚C	ケズリ	淡黄褐色	東暗黒褐色／—
293	0-495			?	淡黄褐色	密　小粒砂多／
高杯		脚部	(6.5)	脚B	?	淡黄褐色	埋土上層／—
294	0-503			?	淡黄褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(6.0)	脚B	?	淡黄褐色	最下層／—
295	0-512			ミガキ	暗茶褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(4.0)	脚C 1	?	暗茶褐色	最下層／—
296	0-508			?	濁赤褐色	密　赤粒多／
台付鉢		脚部	(3.9)		?	濁赤褐色	東暗黒褐色／—
297	0-196		(12.4)		?	淡黄褐色	密　細砂／
高杯		脚部3/8	(8.6)	脚B	?	淡黄褐色	東黒褐色土／—
298	0-202		11.5		ミガキ	淡黄褐色	密／
高杯		脚部	(5.0)	脚C 1	ミガキ	淡灰色	東黒褐色／—
299	0-241		11.6		ハケ	淡黄褐色	密／
高杯		脚部	(5.2)	脚C 1	ナデ	橙褐色	東黒褐色土／—
300	0-502		(9.1)		?	淡黄褐色	密／
高杯		脚部	(3.9)	脚C 1	?	淡黄褐色	埋土／—
301	0-243		(13.0)		ミガキ	淡黄褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部1/4	(9.8)	脚B	ナデ	淡黄褐色	上層／—
302	0-238		15.4		ミガキ	灰白色	密／—／—
高杯		脚部	(10.6)	脚C	ケズリ　ナデ	灰白色	
303	0-218		(13.0)		?	淡黄褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(5.0)	脚C 1	?	淡黄褐色	埋土／—
304	0-511				?	橙褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(5.1)	脚A	?	黄褐色	西上層／—
305	0-531				?	淡灰白色	密　細砂／
高杯		杯部	(5.1)		?	淡灰白色	暗黒褐色／杯部穿孔
306	0-498				?	淡橙褐色	密　小粒砂　赤粒少／
高杯		脚部	(4.9)	脚B	?	淡黄褐色	東暗黒褐色／—
307	0-521		(9.5)		ハケ	黄褐色	密／
器台		脚部	(6.9)	脚D	ケズリ	黄褐色	東黒褐色／—
308	0-493		(11.8)		?	淡黄褐色	密　小粒砂多／
高杯		脚部	(7.0)	脚C	?	淡黄褐色	埋土／—
309	0-506				ミガキ	淡灰白色	密　小粒砂／
器台		脚部	(5.2)	脚B	ハケ	淡黒灰色	中　下層／円形透穴3
310	0-504				ミガキ	淡黄褐色	密　中粒砂／
器台		脚部	(5.0)	脚D	?	淡灰白色	／円形透穴4

311	0-510				?	黄褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(4.5)	脚C	?	黄褐色	東暗黒褐色／—
312	0-198			(9.4)	ミガキ	淡茶褐色	密／
小型器台	C	脚部3/8	(7.6)	脚C	ナデ	淡茶褐色	東黒褐色土／—
313	0-491			(11.9)	?	淡橙褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(7.7)	脚C	?	淡灰白色	東黒褐色／—
314	0-505				?	赤褐色	密　小粒砂／
器台		脚部	(5.8)	脚D	?	赤褐色	中　下層／円形透穴4
315	0-497				?	淡灰白色	密／
高杯		脚部	(6.7)	脚C	?	淡灰白色	東暗黒褐色／—
316	0-522				ミガキ	赤褐色	密／赤粒少／
高杯		脚部	(4.8)	脚C	?	茶褐色	東黒褐色／—
317	0-526			9.6	?	赤褐色	密　小粒砂　赤粒／
高杯		脚部	(6.7)	脚C	?	赤褐色	下層／—
318	0-234			(14.0)	?	濁赤褐色	密　小粒砂／
器台		脚部1/4	(7.6)	脚C	?	淡茶褐色	上層／—
319	0-525				ミガキ	黄褐色	密　小粒砂少　赤粒／
高杯		脚部	(7.1)	脚B	?	黄褐色	暗黒褐色／杯部穿孔
320	0-535				?	黄褐色	密　小粒砂　赤粒少／
高杯		脚部	(8.1)	脚B	?	淡灰白色	東黒褐色／—
321	0-496				ミガキ	濁黄褐色	密　小粒砂／
高杯		脚部	(3.9)	脚B	ケズリ	濁黄褐色	東黒褐色／杯部穿孔
322	0-228			(19.0)	ミガキ	灰白色	密　小粒砂少／
高杯		脚部1/4	(5.5)	脚C 1	ハケ	淡灰色	（中）下層／円形透穴4
323	0-500				?	淡黄褐色	密　小粒砂／
器台		脚部	(4.2)	脚D	?	淡黄褐色	東暗黒褐色／—
324	0-249			(15.4)	?	黄褐色	密　小粒砂／
		裾部1/5	(2.0)		?	濁黄褐色	上層／—
325	0-242			(13.5)	ミガキ	淡黄褐色	密　細砂／
高杯		脚部1/4	(8.9)	脚C	ナデ	黄褐色	埋土上層／円形透穴4
326	0-225			(13.6)	ミガキ	淡黄褐色	密／
高杯		脚部1/4	(8.2)	脚C	ハケ	黄褐色	最下層／円形透穴3
327	0-529			(10.5)	?	淡橙褐色	密　小粒砂　赤粒少／
		裾部1/3	(3.7)		?	淡黄褐色	—／—
328	0-516			(13.0)	?	赤褐色	密　小粒砂　赤粒／
		裾部	(13.0)		?	赤褐色	下層／—
329	0-240		9.8	(10.8)	?	濁赤褐色	密　細砂少／
小型器台	C 2	80％	(11.0)	脚C	?	濁赤褐色	暗黒褐色土 最下層／—
330	0-492		(6.8)	(9.8)	?	淡赤褐色	密／
小型器台	D 2	60％	8.3	脚D	?	淡赤褐色	東黒褐色／—

331	0-195		(11.4)	(10.0)	?	赤褐色	密　小粒砂／
小型器台	D 1	60％	10.1	脚D	?	赤褐色	下層／—
332	0-236		(6.5)	(6.2)	ナデ	淡黒褐色	密／
ﾐﾆﾁｭｱ台付鉢		60％	5.5		ナデ	淡黒褐色	暗黒褐色土／—
333	0-562				ナデ	灰白色	密　小粒砂／
ﾐﾆﾁｭｱ鉢		1／3	(3.9)		ナデ	灰白色	暗黒褐色／—
334	0-214		(8.0)	3.2	ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
ﾐﾆﾁｭｱ鉢		50％	5.0		ナデ	淡黄褐色	
335	0-212	4A-102	(5.6)	2.7	ナデ	淡茶褐色	密／—／—
ﾐﾆﾁｭｱ椀		70％	4.8		ナデ	淡黄褐色	
336	0-203				?	淡黒灰色	密　細砂多／
手焙り		一部	(2.3)		?	淡黄褐色	東黒褐色／浮線文
618	0-620				ナデ	灰白色	密／
壺		部分	(3.7)		ナデ	淡黒灰色	最下層／両面波状文
619	0-618				?	黄褐色	密　小粒砂／
壺		部分	(4.0)		?	黒灰色	東黒褐色土／陰刻文
620	0-631				?	茶褐色	密　小粒砂／
壺		部分	(3.5)		?	茶褐色	最下層／内面波状文
621	0-619				ナデ	茶褐色	密　中粒砂／
壺		部分	(4.0)		ナデ	淡黒灰色	東黒褐色土／竹管文
622	0-622				?	黄褐色	密　小粒砂／
壺		部分	(2.3)		?	黄褐色	（中）下層／内面刻み
623	0-625				?	茶褐色	密　小粒砂／
壺		部分	(2.6)		?	淡黒灰色	東暗黒褐色土／陰刻文
624	0-621				?	橙褐色	密／
壺		部分	(1.8)		?	灰白色	下層／陰刻文
625	0-626				ナデ	濃灰色	密／
壺		部分	(1.3)		ナデ	濃灰色	精査／円孔　竹管文
626	0-617				?	灰白色	密　礫／
壺		部分	(2.5)		?	灰色	下層／波状文
627	0-623				?	黄褐色	密　中砂／
壺		部分	(2.3)		?	黄褐色	最下層／陰刻文
628	0-624				?	淡黄褐色	やや密　小粒砂／
壺		部分	(2.2)		?	淡黄褐色	埋土／円形浮文

溝ＳＤ18出土遺物

592	0-258		(21.4)		ナデ	淡茶褐色	密　小粒砂多／
甕	B 1	1／8	(4.6)		ナデ	淡黒褐色	—／—

溝ＳＤ19出土遺物

551	0-263		17.0		ハケ	淡黄褐色	密　中粒砂／—／—
甕	Ｂ１	3／4	(11.2)		ケズリ	淡黄褐色	
552	0-414		(19.6)		?	淡灰色	やや密　小粒砂／
甕	Ｂ１	1／8	(7.4)		?	淡黄褐色	—／—
553	0-259		(14.8)		?	淡茶褐色	密　小粒砂／
甕	Ｂ１	1／5	(4.7)		ケズリ	淡灰白色	下層／—
554	0-261		(15.6)		ハケ	橙褐色	密　大粒砂　礫／
甕	Ｆ２	1／6	(7.3)		ケズリ＋ハケ	淡灰黒色	—／—
555	0-260		(13.6)		?	淡橙褐色	密　小粒砂／
鉢	Ｃ２	1／7	(6.6)		ケズリ？	淡灰白色	下層／—
556	0-415			3.2	?	赤褐色	やや密　小粒砂多／
		底部	(3.1)	底Ｂ１ａ	?	淡茶褐色	—／—
557	0-416			4.3	ハケ	淡黄褐色	密　小粒砂／
		底部1/2	(7.6)	底Ｂ４	ケズリ	淡橙褐色	—／—
558	0-262		(13.3)	4.1	?	淡黄褐色	密　大粒砂　礫／
蓋	Ｂ	1／10	5.4		?	淡灰白色	—／—

溝ＳＤ20出土遺物

559	0-264		(20.6)		ハケ	淡灰白色	やや密　小粒砂多／
甕	Ｂ１	1／3	(13.6)		ケズリ	黄褐色	—／—
560	0-408		(19.8)		ハケ	淡茶褐色	やや密　中粒砂多／
甕	Ｂ１	1／4	(5.5)		?	淡橙褐色	—／0-267
561	0-407		(20.0)		ナデ	淡灰白色	やや密　中粒砂多／
器台	Ｂ	受部1/14	(39.0)		ナデ	灰白色	—／—
562	0-409			(12.0)	?	淡黄褐色	密／—／—
		裾部1/3	(2.5)		?	淡黄褐色	

溝ＳＤ21出土遺物

563	0-266				ハケ	淡黄褐色	やや密　小粒砂／
甕	Ｇ	1／10	(4.0)		?	淡灰白色	北／—
564	0-427		(16.5)		タタキ	灰白色	やや密　中粒砂／
甕	Ｅ	1／6	(7.4)		?	淡橙褐色	—／—
565	0-426			2.5	ハケ	赤褐色	密　中粒砂／—／—
		底部	(4.0)	底Ｂ１ａ	?	淡黒灰色	
566	0-269			3.9	タタキ	淡黒褐色	密　小粒砂／
		底部	(6.6)	底Ｂ１ｂ	ハケ	淡灰白色	南／—
567	0-268		(10.8)		?	黄褐色	密　大粒砂　赤粒少／
小型器台		受部1/4	(1.8)		ハケ	淡黄褐色	—／—／—

568	0-425				ミガキ	淡橙褐色	密　小粒砂／
小型器台	D	脚部	(5.5)	脚D	ハケ	淡橙褐色	北　中央／円形透穴3
569	0-265		(9.2)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂少／
鉢	B	1／3	(5.3)		ハケ	淡灰白色	東／—

土坑ＳＫ22出土遺物

596	0-306			4.2	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
		底部	(3.7)	底Ｂ１ｂ	?	淡黒灰色	

土坑ＳＫ23出土遺物

359	0-433		(15.0)		タタキ	淡橙褐色	密　中粒砂／
甕	Ｃ１ａ	1／4	(6.7)		?	淡灰白色	Ｅ／—
360	0-437			5.4	ハケ	淡黄褐色	密　中粒砂／
		底部	(9.8)	底Ｂ１ａ	?	淡黒灰色	Ｄ／—
361	0-428		(17.6)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	Ｃ１ｃ	1／5	(2.9)		ナデ	淡灰白色	Ｅ／—
362	0-438	部分			タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂少／
		底部	(10.9)	底Ａ２	ナデ	淡茶褐色	Ｂ／編物圧痕
363	0-434			4.4	タタキ	淡橙褐色	密　中粒砂／
		底部2/3	(4.7)	底Ｂ１ｂ	?	淡灰色	Ｄ／—
364	0-435			(4.6)	ハケ	黒褐色	密　中粒砂／
		底部1/3	(5.0)	底Ｂ１ａ	ハケ	黒褐色	Ｃ／—
365	0-432				?	黄褐色	密　小粒砂／
高杯		杯部	(2.2)	脚Ｃ	?	淡灰白色	Ａ／—
366	0-430		(17.8)		ナデ	淡橙褐色	やや密　小粒砂／
器台	Ｂ	受部1/2	(4.9)		ナデ	淡灰白色	Ｄ　Ｅ／—
367	0-436			(14.8)	?	橙褐色	やや密　中粒砂多／
器台		脚部1/6	(8.9)	脚Ｄ	ナデ	灰白色	Ａ／透穴なし
368	0-429		(19.2)		ナデ	淡黄褐色	やや密　小粒砂／
高杯	Ａ２	杯部1/7	(4.1)		ナデ	淡黄褐色	Ａ／—
369	0-439			(14.4)	ミガキ	淡橙褐色	密　中粒砂　礫少／
高杯		脚部1/3	(9.9)	脚Ｃ	ナデ	淡橙褐色	Ｄ／円形透穴3
370	0-431		(8.0)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
壺	Ｅ２	1／2	(4.6)		ナデ	淡橙褐色	Ｄ　Ｅ／—
371	2-35	4A-104	6.2	5.4	ナデ	淡黄褐色	密　中砂／
ﾐﾆﾁｭｱ鉢		100％	5.4		ナデ	淡茶褐色	15C／—

溝ＳＤ24出土遺物

597	0-369			3.0	?	淡黄褐色	密　中砂／
鉢		底部	(2.3)		?	黒灰色	中央／—

溝ＳＤ25出土遺物

337	0-614		(15.6)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂／
壺		1／12	(1.1)		ナデ	淡黄褐色	23E粘土／円形浮文
338	0-613				ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂／
壺		頸部	(3.2)		ナデ	淡黄褐色	23E粘土／頸部に装飾
339	0-280		(18.0)		ナデ	橙褐色	密　小粒砂少／
甕	Ｂ１	1／5	(3.4)		ナデ	淡橙褐色	粘土層／—
340	0-274		(18.0)		？	淡黄褐色	密　小粒砂少／
甕	Ｃ１ａ	1／8	(3.5)		ハケ？	淡灰白色	粘土層／—
341	0-604		(18.0)		ナデ	淡黄褐色	密　小粒砂　赤粒／
甕	Ｃ１ｃ	1／4	(2.6)		ナデ	淡黄褐色	中央トレ青灰色粘土／—
342	0-271			5.0	？	淡茶褐色	密　中粒砂多／
		底部	(3.4)	底Ｃ１ａ	ハケ	淡黒灰色	Ｄ区／—
343	0-611			3.6	タタキ	黄褐色	密／
		底部	(3.0)	底Ｂ１ｂ	ハケ	黄褐色	22Ｄ／—
344	0-272			3.0	タタキ	黄褐色	密　小粒砂　赤粒／
		底部	(2.2)	底Ｂ４ｄ	ハケ	淡黒灰色	粘土層／—
345	0-273			3.2	？	黒灰色	密　小粒砂多／
		底部	(3.4)	底Ｂ１ａ	？	黄褐色	Ｄ区／—
346	0-605				粗いミガキ	黄褐色	密　小粒砂多／
		脚部	(9.3)		ナデ	黄褐色	粘土層／—
347	0-607				ミガキ？	濁赤褐色	密／
		脚部	(7.4)		ナデ	濁赤褐色	Ｃ区／—
348	0-606				ナデ	淡赤褐色	密／
高杯		脚部	(8.1)	脚Ｃ	ナデ	淡赤褐色	Ｄ区／—
349	0-609				？	黒灰色	密　赤粒／
器台		脚部	(6.5)	脚Ｂ	？	赤褐色	Ｃ区／—
350	0-608				ミガキ？	淡黄褐色	密　細砂／
高杯		脚部	(8.1)	脚Ｂ	ナデ	淡赤褐色	Ｄ区／—
351	0-278			(9.0)	ナデ	淡橙褐色	密　細砂／
		脚部1/3	(3.5)		ハケ	淡橙褐色	粘土層／—
352	0-276		(12.0)		？	赤褐色	密　細砂　赤粒／
小型器台		受部1/8	(1.7)		？	赤褐色	Ｅ区／—
353	0-275		(12.0)		？	橙褐色	密　小粒砂／
小型器台		受部1/8	(2.8)		？	橙褐色	Ｆ区／—
354	0-277	4A-19	10.3	5.5	ナデ	淡橙褐色	密　細砂／
椀		95％	4.0		ナデ	淡灰白色	Ｃ区／—
355	0-610			2.2	タタキ	黄褐色	密　小粒砂／
有孔鉢	Ｅ２ｂ	底部	(2.8)		ナデ	淡茶褐色	北トレ青灰色粘土／—

356	0-612			4.6	ナデ	黄褐色	密　小粒砂／
蓋		摘み部	(2.6)		ナデ	黄褐色	F区／—
634	0-279					黄褐色	密　細砂／
高杯？		部分			？	淡橙褐色	F区／刻線文
635	0-615					淡黄褐色	密／—
円形浮文		部分					粘土層／円形浮文

溝ＳＤ28出土遺物

536	0-289		(17.0)		ハケ	淡茶褐色	密　小粒砂　赤粒／
甕	Ｂ１	1／4	(12.6)		ケズリ	淡橙褐色	中央　北　南／—
537	0-395		(16.0)		ハケ	茶褐色	密　小粒砂　赤粒少／
甕	Ｂ１	1／12	(3.8)		ケズリ	淡茶褐色	中央／—
538	0-396		(16.0)		ハケ	茶褐色	密　小粒砂　赤粒／
甕	Ｂ１	1／10	(9.5)		ケズリ	淡黄褐色	畔　中央／—
539	0-283		(18.4)		？	赤褐色	密　小粒砂／
甕	Ｂ１	1／5	(2.9)		？	淡黄褐色	中央／—
540	0-282		(12.8)		？	淡黄褐色	密　小粒砂／
甕	Ａ	1／3	(4.9)		ナデ	淡黄褐色	中央／—
541	0-281		(17.4)		ハケ？	淡黄褐色	密　細砂／
甕	Ａ	1／8	(7.1)		ケズリ	淡黄褐色	中央／—
542	0-288		15.8		ハケ？	赤褐色	密　小粒砂／
甕	Ａ	2／3	(11.4)		ケズリ	赤褐色	中央　南／肩部に刺突
543	0-284			3.6	？	淡黄褐色	密　小粒砂／
		底部	(3.2)	底Ｂ１ａ	ハケ	黒灰色	南／—
544	0-286	4A-16	(12.0)	5.8	？	淡黄褐色	密　礫／
台付鉢	Ｆ２	50％	12.5		ハケ	赤褐色	中央／—
545	0-285		(14.6)		ハケ	淡赤褐色	密　中砂／
台付鉢	Ｆ２	1／4	(7.4)		ケズリ	赤褐色	中央／—
546	0-397			5.0	ユビオサエ	淡黄褐色	密　小粒砂／
台付鉢		脚部	(3.0)		ハケ	淡黄褐色	北／—
547	0-398				ナデ	淡黄褐色	密　中砂／
蓋		部分	(3.5)		？	赤褐色	南／—
548	0-400				ミガキ	淡灰白色	密　小粒砂　赤粒／
器台		脚部	(11.0)	脚Ａ	ケズリ	淡黄褐色	中央／—
549	0-287		(15.2)		？	赤褐色	密　小粒砂／
器台	Ｂ	受部1/2	(3.6)		？	赤褐色	中央　北／—
550	0-399				？	淡赤褐色	密　赤粒多／
器台		脚部	(9.0)	脚Ａ	ケズリ	淡黄褐色	北／—

溝ＳＤ36出土遺物

598	0-303		(11.0)		ナデ	淡赤褐色	密　小粒砂／—／—
蓋	C	1／3	(4.0)		ナデ	灰白色	

溝ＳＤ37出土遺物

594	0-355		(23.6)		?	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
器台	A 1	1／10	(2.5)		?	淡橙褐色	
595	0-302			(14.0)	ミガキ	黒褐色	密　小粒砂／
		裾部1/8	(6.0)		ケズリ　ハケ	淡黄褐色	南／円形透穴

溝ＳＤ39出土遺物

576	0-291		(19.0)		ハケ	淡黒灰色	密　中粒砂／
甕	A	1／4	(7.5)		ケズリ	淡黒灰色	／肩部に刺突
577	0-298		(17.4)		?	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
甕	A	1／8	(2.9)		?	淡黒灰色	
578	0-290		(21.0)		ハケ	淡黄褐色	密　中粒砂／—
甕	A	2／5	(14.0)		ケズリ	淡黄褐色	／肩部に刺突
579	0-405			3.5	ハケ	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
		底部	(14.0)	底Ｂ１ａ	ケズリ	淡黄褐色	
580	0-297		(18.0)		?	淡赤褐色	密　小粒砂／—／—
甕	B 1	1／6	(2.6)		?	淡黒灰色	
581	0-406			3.8	ハケ	淡橙褐色	密　大粒砂　礫
		底部	(23.5)	底Ｂ１ａ	ケズリ	淡黒灰色	赤粒少／—／—
582	0-292		16.5		?	淡黒灰色	密　中砂／—／0-296
甕	H	1／2	(13.0)		ケズリ？	淡黒灰色	
583	0-293		(13.8)		ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂／—／—
甕	B 1	1／4	(6.6)		ケズリ	淡黄褐色	
584	0-404		(8.8)		?	黄褐色	やや密　小粒砂／
椀		1／5	(4.1)		?	淡黄褐色	—／—
585	0-295	4A-18	14.0	4.4	?	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
蓋	B	1／2	7.0		ハケ	淡黄褐色	
586	0-294	4A-17	13.6	6.3	?	淡赤褐色	密　小粒砂／—／—
台付鉢	F 1	1／2	9.7		ハケ	淡黄褐色	

溝ＳＤ41出土遺物

629	0-270				?	淡橙褐色	密　小粒砂／
壺		部分			?	灰白色	北／刻線文

土坑ＳＫ50出土遺物

486	0-367		(30.6)		タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂／—／—
甕	G	1／10	(37.0)		ハケ	淡茶褐色	
487	0-359		(16.0)	4.6	タタキ	淡赤褐色	密　中砂／—／—
甕	C 1 c	1／4	18.6	底B 1 a	?	橙褐色	
488	0-358		14.8		タタキ＋ハケ	淡灰白色	密　小粒砂少／—／—
甕	C 1 c	1／2	(18.4)		ハケ	淡灰白色	
489	0-368		17.4		タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
甕	C 1 c	2／3	(10.8)		ハケ	淡黄褐色	
490	0-365		(14.0)		?	黄褐色	密　小粒砂／—／—
甕	B 1	1／4	(4.1)		?	淡黄褐色	
491	0-360		16.4		?	淡灰白色	密　小粒砂／—／—
壺	E 1	1／2	(5.2)		?	淡黄褐色	
492	0-364		(14.0)		タタキ？	淡黄褐色	密　小粒砂／—／—
鉢	C 2	1／3	(8.7)		?	淡黄褐色	
493	0-366			(3.0)	タタキ＋ハケ	淡茶褐色	密　中粒砂／—／—
		底部	(11.5)	底B 2	ハケ	淡茶褐色	
494	0-363			5.0	?	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
		底部	(3.8)	底B 1 b	?	灰白色	
495	0-362			3.0	タタキ	淡橙褐色	密　小粒砂／—／—
		底部	(2.7)	底B 4 d	ハケ	黒灰色	
496	0-317	4A-20	14.0	3.3	タタキ	淡灰白色	密　中砂／—／—
鉢	A	100%	7.4	底B 1 b	ハケ	淡灰白色	
497	0-361		(20.4)		タタキ	灰白色	密　中砂／—
有孔鉢	E 2 a	1／4	(10.2)		ハケ？	淡灰白色	／孔径10mm

溝ＳＤ51出土遺物

587	0-301		(14.0)	3.4	タタキ＋ハケ	淡橙褐色	密　中粒砂／—／—
甕	C 1 b	60%	23.3	底B 1 b	ハケ	淡黒灰色	
588	0-403		(17.0)		タタキ	黄褐色	やや密　中粒砂多／
甕	C 1 c	1／5	(4.1)		?	黄褐色	—／—
589	0-300		(14.0)		ミガキ？	淡橙褐色	密　中粒砂／
椀		1／4	(5.4)		?	淡灰白色	—／—
590	0-402				?	黄褐色	密　中粒砂多／
高杯		脚部	(4.2)	脚C 1	?	黄褐色	—／—
591	0-401				?	淡黒褐色	やや密　中粒砂／
台付鉢		脚部	(3.8)		?	淡橙褐色	—／—

土坑ＳＫ54出土遺物

570	0-305		(13.0)		ナデ	黄褐色	密　中粒砂／
壺	Ｇ１	1／8	(7.3)		ナデ	橙褐色	—／—
571	0-304		(20.0)		ナデ	淡灰白色	密　中粒砂／
甕	Ｂ１	1／8	(4.3)		ケズリ	淡黒灰色	—／—
572	0-411		14.9		?	赤褐色	粗　小粒砂　赤粒／
甕	Ｂ１	1／2	(5.2)		ケズリ	赤褐色	—／—
573	0-410		(16.0)		ナデ	橙褐色	密　小粒砂／
甕	Ｂ１	1／6	(3.8)		ナデ	淡灰白色	—／—
574	0-413		(13.7)		ミガキ？	淡茶褐色	密　赤粒／
鉢	Ｃ２	1／3	(8.6)		ナデ？	淡橙褐色	—／—
575	0-412				?	赤褐色	粗　小粒砂　赤粒／
台付鉢		脚部	(4.1)		?	赤褐色	—／—

土坑ＳＫ56出土遺物

593	0-299		(16.0)		ハケ	淡褐色	密　赤粒多／
甕	Ｂ１	1／6	(6.3)		ケズリ	淡橙褐色	—／—

溝ＳＤ61出土遺物

636	0-616		(31.6)		ナデ	黄褐色	密　小粒砂／—
壺		部分	(1.4)		ナデ	淡灰白色	／円形浮文　刻み

包含層出土遺物

599	2-65		(18.0)		?	淡赤褐色	密　小粒砂　赤粒少／
壺	Ａ１	100％	(7.4)		ミガキ	淡赤褐色	9F／—
600	0-307	4A-110	18.4		タタキ	淡茶褐色	密　小粒砂／
甕	Ｂ２	上半	(18.5)		ケズリ	淡赤褐色	Ｐ-1098／—
601	2- 25		(16.6)		?	濁赤褐色	密　中粒砂／Tr-5南西
壺		1／6			?	濁赤褐色	暗茶褐色土中層／装飾
602	2-81				?	黄褐色	密　中粒砂／Tr-5北西
壺		頸部	(5.4)		?	黄褐色	暗青灰色砂礫層／陰刻文
603	2- 22				ナデ	淡橙褐色	密　中砂／Tr-6拡張
壺	Ｅ２	1／6	(7.2)		ナデ	淡灰黒色	南西壁面／肩部に装飾
604	2-54		18.0	(15.4)	ハケ	茶褐色	密　赤粒／
高杯	Ａ１	60％	14.7	脚Ｃ	ハケ	茶褐色	10E　茶褐色土／—
605	2-50		(14.4)		?	淡茶褐色	密　赤粒／10F　暗茶褐
高杯	Ｃ	杯部	(10.0)		ハケ	淡茶褐色	色土（地山上）／—
606	2- 9	4A-87	20.6	2.3	ハケ？	灰白色	密　小粒砂多／
鉢	Ｃ１	50％	7.3	底Ｂ２	?	灰白色	東部地区／—

607	2-12	4A-83	13.2		タタキ	淡灰白色	密　小粒砂多／
有孔鉢	E 2 b	80％	12.6		?	淡灰白色	Tr-6溝付近／—
608	2-75		(16.6)		?	淡赤褐色	密／
高杯	C	杯部1/10	(8.1)		?	赤褐色	Tr-6拡張／—
609	2-72			(14.2)	?	淡赤褐色	密／
高杯		脚部1/4	(15.9)	脚C	ハケ	淡黄褐色	Tr-6拡張／円形透穴
610	2-58		(22.0)		?	赤褐色	密　赤粒／10F
器台	A 2	受部1/3	(15.5)		?	赤褐色	茶褐色土／円形透穴4
611	2-27			3.7	ナデ	赤褐色	密／
小型丸底壺		1／2	(6.2)	底B 1 a	ナデ	黒灰色	Tr-9／—
612	2-34	4A-107	6.2	1.4	ナデ	淡灰白色	密　小粒砂／14E
蓋	B	100％	2.7		ナデ	淡黒灰色	灰褐色土上層／円孔2
613	2-68		(13.6)	3.8	?	黄褐色	密　小粒砂／
蓋	B	60％	6.3		?	黄褐色	22E（東）茶褐色土／—
614	2-66		(18.8)	6.8	?	赤褐色	密　小粒砂／
台付鉢	F 1	60％	10.0		?	赤褐色	9E　茶褐色土／—
615	2-51	4A-92	12.6	3.5	ナデ	淡灰白色	密　小粒砂／
台付鉢	F 1	80％	6.2		ナデ	淡橙褐色	10F　青灰色粘土／—
616	2-37		(7.4)	2.6	ナデ	淡橙褐色	密　小粒砂／
ﾐﾆﾁｭｱ		70％	5.9		ナデ	淡茶褐色	15B　精査／—
617	2-44	4A-106	4.4	3.0	ナデ	赤褐色	密／
ﾐﾆﾁｭｱ		100％	5.0		ナデ	赤褐色	8E　褐色土／—
637	2-83				?	茶褐色	やや密　小粒砂多／
壺		部分	(3.0)		?	暗茶褐色	14E　灰褐色土／同心円
638	2-82				?	茶褐色	密　大粒砂多／
縄文土器		部分	(5.0)		?	茶褐色	8D／沈線

(2)須恵器観察表

図版番号	実測番号	写真番号	器種	残存率	口径	底径	外	調整・手法	胎土	焼成	出土地点	備考
					器高	色調	内					
640	1-001				(14.0)		回転ヘラケズリ		良好		8G	
蓋	A f Ⅲ			40％	3.5	灰白色	回転ナデ		堅固		荒掘り	
641	1-156				(11.6)		回転ナデ／	ヘラケズリ	良好		Tr-1	
杯	G Ⅳ			1／12	(3.3)	灰白色	回転ナデ		堅緻			
642	1-298				(12.0)		回転ナデ		良好		14E	
杯	G Ⅳ			60％	3.6	灰白色	回転ナデ		堅固		砂礫層	
643	1-300	4A-66			9.0	6.0	回転ナデ		良好		Tr-17	自然釉
杯	G V			90％	2.9	黒灰色	回転ナデ		堅緻			

644	1-212			(11.0)		回転ナデ		細砂	Tr-5北西	
蓋	A	a	Ⅳ	1／6	(1.4)	青灰色	回転ナデ		堅緻	暗茶褐色土上層	
645	1-183			(15.0)		回転ナデ		良好	Tr-5南東	
蓋	A	a	Ⅲ	1／6	(2.0)	青灰色	回転ナデ		堅緻	暗茶褐色土中層	
646	1-211			(18.2)		回転ナデ		良好	Tr-5	
蓋	A	a	Ⅱ	1／8	(2.0)	青灰色	回転ナデ		堅緻	褐色砂礫層	
647	1-062			10.6		回転ナデ		良好	9F	
蓋	A	d	Ⅳ	1／4	2.4	青灰色	回転ナデ		堅緻	褐色土	
648	1-003			(10.8)		回転ナデ		良好	9F	自然釉
蓋	A	d	Ⅳ	80％	2.2	灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
649	1-154			(11.0)		回転ナデ		良好	Tr-5	
蓋	A	d	Ⅳ	1／4	2.1	灰色	回転ナデ		堅緻	暗茶褐色土下層	
650	1-292			(13.0)		回転ナデ		良好	11F	自然釉
蓋	A	d	Ⅳ	50％	2.9	黒灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
651	1-237			(13.2)		回転ナデ		良好	9F	自然釉
蓋	A	d	Ⅳ	1／2	2.6	濃青灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
652	1-002	4A-42		13.2		回転ナデ		良好	9F	
蓋	A	d	Ⅳ	80％	1.7	青灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
653	1-129	4A-44		11.0		回転ナデ		良好	7F	
蓋	A	d	Ⅳ	100％	2.7	青灰色	回転ナデ	ナデ	堅緻	SD2000西	
654	1-274			(10.4)		回転ナデ		良好	8F	自然釉
蓋	A	d	Ⅴ	40％	2.5	青灰色	回転ナデ	ナデ	堅緻	SD2000西	
655	1-059			11.2		回転ナデ		良好	12F	
蓋	A	d	Ⅳ	1／4	2.2	濃青灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
656	1-112	4A-41		13.2		回転ナデ		良好	10F	
蓋	A	d	Ⅳ	90％	2.7	濃青灰色	回転ナデ		堅緻	暗茶褐色土	
657	1-113	4A-40		13.2		回転ナデ		良好	7E8E	
蓋	A	d	Ⅳ	95％	2.3	青灰色	回転ナデ		堅緻	褐色土（法面）	
658	1-064			13.4		回転ナデ		良好	7F	
蓋	A	d	Ⅳ	80％	2.0	青灰色	回転ナデ		堅緻	荒掘り	
659	1-060			11.3		回転ナデ		良好	9F	
蓋	A	d	Ⅳ	1／4	2.0	濃青灰色	回転ナデ	ナデ	堅緻	茶褐色土	
660	1-177			11.6		回転ナデ		良好	Tr-5北西	自然釉
蓋	A	d	Ⅳ	1／3	2.3	灰色	回転ナデ		堅緻	暗茶褐色土	
661	1-054	4A-43		12.3		回転ナデ		良好	7E8E	
蓋	A	d	Ⅳ	95％	1.3	青灰色	回転ナデ		堅緻	褐色土	
662	1-236			13.4		回転ナデ		良好	9F	自然釉
蓋	A	d	Ⅳ	90％	2.5	青灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
663	1-234			13.4		回転ナデ		良好	7F	
蓋	A	d	Ⅳ	70％	2.4	灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
664	1-048			(13.6)		回転ナデ		良好	9F	
蓋	A	d	Ⅲ	1／4	2.8	青灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
665	1-271			(11.4)		回転ナデ		良好	8F	自然釉
蓋	A	d	Ⅳ	40％	2.7	青灰色	回転ナデ		堅緻	SD2000西	

666	1-010		11.8		回転ナデ	良好	10F	自然釉
蓋	A d Ⅳ	40%	2.3	灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
667	1-238		(12.6)		回転ナデ	良好	9F	自然釉
蓋	A d Ⅳ	40%	2.3	黒灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	茶褐色土	
668	1-109	4A-36	13.7		回転ナデ	良好	7F	
蓋	A d Ⅲ	95%	2.5	濃青灰色	回転ナデ	堅緻		
669	1-004		13.8		回転ナデ	良好	10F	自然釉
蓋	A d Ⅲ	1／3	2.2	灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	漆付着
670	1-197		14.2		回転ナデ	良好	Tr-5南東	
蓋	A d Ⅲ	1／2	2.2	青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
671	1-130	4A-37	13.6		回転ナデ	良好	8F	
蓋	A d Ⅲ	100%	2.3	青灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000西	
672	1-286		13.8		回転ナデ	良好	10F	自然釉
蓋	A d Ⅲ	80%	2.2	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	漆付着
673	1-301		(13.8)		回転ナデ	良好	7E	自然釉
蓋	A d Ⅲ	1／4	2.6	灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	SD2000A	
674	1-116	4A-33	13.8		回転ナデ	良好	9E　暗茶褐色土	
蓋	A d Ⅲ	95%	2.3	青灰色	回転ナデ	堅緻	(地山上)	
675	1-284		(14.0)		回転ナデ	良好	10F	漆多量に
蓋	A d Ⅲ	30%	(2.7)	灰色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	付着
676	1-131	4A-34	14.0		回転ナデ	良好	8F	
蓋	A d Ⅲ	90%	2.4	青灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	SD2000西	
677	1-293		(14.1)		回転ナデ	良好	12F	
蓋	A d Ⅲ	40%	2.1	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
678	1-051		(14.2)		回転ナデ	良好	10F	
蓋	A d Ⅲ	1／4	2.3	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
679	1-050		14.2		回転ナデ	良好	9F	自然釉
蓋	A d Ⅲ	1／2	1.9	濃青灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	茶褐色土	
680	1-011		(14.2)		回転ナデ	良好	9F	
蓋	A d Ⅲ	60%	2.6	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土	
681	1-049		(14.2)		回転ナデ	良好	8F	
蓋	A d Ⅲ	50%	2.2	青灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	茶褐色土	
682	1-014		(14.2)		回転ナデ	良好	9F	
蓋	A d Ⅲ	60%	2.0	灰色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
683	1-138	4A-35	14.4		回転ナデ	良好	8F	
蓋	A d Ⅲ	95%	2.2	濃青灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	SD2000A	
684	1-136	4A-32	14.4		回転ナデ	礫少	10E	
蓋	A d Ⅲ	100%	3.0	灰白色	回転ナデ	堅緻	青灰色粘土写	
685	1-057		14.4		回転ナデ	良好	10F	自然釉
蓋	A d Ⅲ	40%	2.1	灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
686	1-005		14.4		回転ナデ	良好	8F	
蓋	A d Ⅲ	70%	2.0	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土	
687	1-007		14.6		回転ナデ	良好	8F	
蓋	A d Ⅲ	70%	2.1	赤褐色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	

688	1-047			(14.6)		回転ナデ		良好	9F	
蓋	A d Ⅲ	1／4		2.5	青灰色	回転ナデ	ナデ	堅緻	茶褐色土	
689	1-235			15.4		回転ナデ		良好	9F	
蓋	A d Ⅲ	60％		2.5	灰白色	回転ナデ		堅固	茶褐色土	
690	1-299			(15.6)		回転ナデ		良好	Tr-11	漆付着
蓋	A d Ⅲ	40％		(1.8)	濃青灰色	回転ナデ	ナデ	堅緻		
691	1-305			15.8		回転ナデ		良好	9F	自然釉
蓋	A d Ⅲ	1／2		1.9	青灰色	回転ナデ		堅緻	暗茶褐色土	
692	1-239			(16.8)		回転ナデ		良好	9F	漆付着
蓋	A d Ⅱ	30％		2.5	淡黒灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
693	1-148	4A-27		19.4		回転ナデ		良好	Tr-5南東	
蓋	A d Ⅰ	80％		2.9	灰色	回転ナデ	ナデ	堅固	暗茶褐色土中層	
694	1-015	4A-38		13.6		回転ナデ		良好	9F	
蓋	A c Ⅳ	80％		2.8	青灰色	回転ナデ		堅固	茶褐色土	
695	1-273			(13.0)		回転ナデ		良好	8F	自然釉
蓋	A c Ⅳ	1／8		2.7	青灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
696	1-137	4A-39		13.5		回転ナデ		良好	8F	
蓋	A c Ⅳ	95％		3.0	青灰色	回転ナデ		堅緻	SD2000AB西	
697	1-008			16.8		回転ナデ		良好	8E	
蓋	A c Ⅱ	60％		2.4	灰白色	回転ナデ		軟弱		
698	1-272			(14.0)		回転ナデ		良好	8G	自然釉
蓋	A d Ⅲ	1／3		2.3	青灰色	回転ナデ		堅緻	SD2000BC	漆付着
699	1-232			15.2		回転ナデ		良好	7F	
蓋	A b Ⅲ	50％		(1.7)	濃灰色	回転ナデ		堅緻		
700	1-166			(13.7)		回転ナデ		良好	Tr-5北西	
蓋	C e Ⅲ	1／6		(2.0)	灰色	回転ナデ		堅緻	暗茶褐色土中層	
701	1-013			14.8		回転ナデ		良好	8G	
蓋	C e Ⅲ	1／3		(2.5)	灰色	回転ナデ		堅固	荒掘り	
702	1-110	4A-29		15.2		回転ナデ		良好	8G	
蓋	C c Ⅲ	70％		2.5	青灰色	回転ナデ		堅固	暗茶褐色土	
703	1-111	4A-30		16.0		回転ナデ		良好	10H10I	
蓋	C c Ⅲ	90％		2.0	灰白色	回転ナデ		堅固		
704	1-231			15.2		回転ナデ		良好	7F	
蓋	C e Ⅲ	1／4		2.1	青灰色	回転ナデ		堅緻		
705	1-283			13.4		回転ナデ		良好	10I	
蓋	C d Ⅳ	30％		2.1	青灰色	回転ナデ		堅緻	荒掘り	
706	1-012	4A-31		15.8		回転ナデ		良好	8G	
蓋	C d Ⅲ	95％		2.2	灰色	回転ナデ		堅固	茶褐色土	
707	1-277			14.6		回転ナデ		良好	8G	自然釉
蓋	C d Ⅲ	70％		1.7	黒灰色	回転ナデ		堅緻	茶褐色土	
708	1-275			17.5		回転ナデ		良好	8F	自然釉
蓋	B d Ⅱ	40％		2.6	淡茶褐色	回転ナデ	ナデ	堅緻	SD2000A	
709	1-254			(18.0)		回転ナデ		良好	9F	
蓋	B d Ⅱ	20％		2.7	淡茶褐色	回転ナデ	ナデ	堅緻	茶褐色土	

710	1-285		(17.4)		回転ナデ	良好	10F	
蓋	B d Ⅱ	1／4	4.1	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
711	1-233		(17.4)		回転ナデ	良好	7F	
蓋	B d Ⅱ	30％	2.5	青灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
712	1-253	4A-28	18.2		回転ナデ	良好	9D	漆付着
蓋	B d Ⅱ	60％	3.0	灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	暗茶褐色土	
713	1-270		15.4		回転ナデ	良好	8G	
Ⅲ	B 2 Ⅲ	40％	1.6	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
714	1-101		15.0		回転ナデ	良好	8G	
Ⅲ	B 2 Ⅳ	30％	2.3	灰色	回転ナデ	軟弱	茶褐色土	
715	1-114	4A-26	15.6		回転ナデ	良好	9G	
Ⅲ	B 2 Ⅲ	100％	2.3	灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	褐色土	
716	1-115		(15.5)		回転ナデ	良好	9G	
Ⅲ	B 2 Ⅲ	30％	2.1	青灰色	回転ナデ	堅緻		
717	1-291		10.0		回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	11F	
杯	A Ⅴ	1／2	3.4	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
718	1-258		11.6		回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	
杯	A Ⅳ	80％	3.3	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	SD2000西	
719	1-099		(11.8)	9.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	
杯	A Ⅳ	40％	3.3	灰色	回転ナデ	堅固	SD2000A	
720	1-097		11.8	8.9	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	自然釉
杯	A Ⅳ	30％	3.0	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
721	1-241		(12.0)		回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	A Ⅳ	1／3	3.3	灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
722	1-098		12.0	8.4	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	A Ⅳ	1／3	3.1	灰白色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
723	1-095			11.8	回転ナデ	良好	9F	
杯	A	40％	3.5	灰白色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
724	1-290		(12.3)		回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	11G	
杯	A Ⅳ	1／3	3.5	青灰色	回転ナデ	堅緻		
725	1-102		12.4	9.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	7F	
杯	A Ⅳ	50％	3.4	灰白色	回転ナデ	堅固	SD2000西	
726	1-259		(12.4)		回転ナデ	良好	8F	
杯	A Ⅳ	1／3	3.2	灰白色	回転ナデ	堅固	SD2000AB西	
727	1-041		(12.4)		回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	漆付着
杯	A Ⅳ	40％	3.3	灰白色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	

728	1-289			(12.6)		回転ナデ	良好	10F	
杯	A	Ⅳ	1／3	3.7	黄褐色	回転ナデ	軟弱	茶褐色土	
729	1-242			12.6		回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	A	Ⅳ	1／2	3.5	灰白色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
730	1-280	4A-52		12.7		回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	10I	
杯	A	Ⅳ	1／2	4.0	灰白色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
731	1-139	4A-51		13.0		回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	7F	
杯	A	Ⅳ	80％	3.7	灰白色	回転ナデ	堅固	SD2000西	
732	1-260			(13.2)		回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	8F	漆付着
杯	A	Ⅳ	1／4	3.3	灰白色	回転ナデ／ナデ	堅緻	SD2000A	
733	1-044			(13.4)	10.3	回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	7E8E	
杯	A	Ⅳ	1／3	3.4	灰色	回転ナデ	堅固	褐色土	
734	1-279			13.5		回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	10E	
杯	A	Ⅲ	1／2	3.3	灰白色	回転ナデ	堅固	青灰色粘土	
735	1-240			(13.8)		回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	A	Ⅲ	60％	3.4	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
736	1-174			(14.0)		回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-5北西　暗茶 褐色土最下層	
杯	A	Ⅲ	30％	4.0	灰白色	回転ナデ	軟弱		
737	1-245			(15.8)		回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	砂多	9F	自然釉
杯	A	Ⅲ	1／3	3.5	暗灰色	回転ナデ	堅緻		
738	1-281	4A-67		7.0	5.4	回転ナデ	良好	10F	
杯	D a	Ⅴ	90％	2.2	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
739	1-076			(11.2)	8.5	回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	8F	自然釉
杯	C a	Ⅳ	40％	4.0	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土	
740	1-024			13.1	9.7	回転ナデ	良好	8F	自然釉
杯	B3 a	Ⅳ	40％	3.5	灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
741	1-027			13.3	8.0	回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	10F	
杯	B3 a	Ⅳ	80％	3.4	茶褐色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土	
742	1-087			(12.0)	(7.0)	回転ナデ	良好	10F	漆付着
杯	B a	Ⅳ	1／4	5.6	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
743	1-157			12.0	6.0	回転ナデ	良好	Tr-5北西　暗茶	
杯	B3 a	Ⅳ	30％	3.9	濃青灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土最下層	
744	1-025			13.4	9.2	回転ナデ／ ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	B3 a	Ⅳ	1／3	4.0	灰白色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	

745	1-108		(13.6)	9.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	10E	
杯	B3a　Ⅲ	40%	3.8	灰白色	回転ナデ	堅固	青灰色粘土	
746	1-122	4A-62	8.9	5.5	回転ナデ	良好	7E8E	自然釉
杯	B1b　Ⅴ	60%	5.1	灰白色	回転ナデ／ナデ	堅緻	褐色土（法面）	
747	1-251		9.0	6.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	B1b　Ⅴ	1／4	5.1	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
748	1-294		10.2	6.2	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	西部	
杯	B1b　Ⅴ	1／4	4.7	青灰色	回転ナデ	堅緻		
749	1-069		(10.7)	6.6	回転ナデ	良好	9F	
杯	B1b　Ⅳ	50%	4.3	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
750	1-083		(11.0)	(7.2)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	B1b　Ⅳ	1／3	4.5	青灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
751	1-094		(12.0)	(8.8)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	
杯	C　b　Ⅳ	1／3	3.9	青灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000西	
752	1-092		(12.0)	(9.0)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	
杯	B3c　Ⅳ	1／3	3.7	青灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000A	
753	1-075		(12.0)	(9.0)	回転ナデ／ヘラケズリ　ナデ	良好	8F	
杯	B3b　Ⅳ	30%	3.3	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
754	1-127	4A-55	12.4	8.2	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	7E8E	
杯	B3c　Ⅳ	90%	3.7	灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土（法面）	
755	1-215		(12.5)	(8.7)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	砂粒	Tr-1	
杯	B3b　Ⅳ	1／3	4.1	青灰色	回転ナデ	堅緻		
756	1-028		12.5	9.6	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	7F	
杯	B3b　Ⅳ	50%	3.7	灰白色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
757	1-151		12.5	8.4	回転ナデ	良好	Tr-5南東	
杯	B3b　Ⅳ	1／3	3.7	灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
758	1-081		(12.6)	(8.0)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	B3b　Ⅳ	40%	3.2	濃青灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
759	1-124	4A-56	12.7	8.8	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	11F	
杯	B3b　Ⅳ	70%	3.4	濃灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土	
760	1-216		(12.9)	9.3	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-5北西	
杯	B3b　Ⅳ	60%	3.9	青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土	

761	1-017			13.0	8.4	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8G	
杯	B3b	Ⅳ	1／3	3.8	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
762	1-071			(13.2)	8.4	回転ナデ／ヘラケズリ　ナデ	礫少	8G	
杯	B3b	Ⅳ	1／3	4.2	青灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
763	1-070			(13.2)	8.6	回転ナデ	良好	10F	底面に爪形
杯	B3b	Ⅳ	1／3	3.7	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
764	1-033			13.4	9.2	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	漆付着
杯	B3b	Ⅳ	70%	3.9	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土	
765	1-126	4A-53		13.5	10.1	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	11F	
杯	B3b	Ⅲ	100%	4.4	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	暗茶褐色土	
766	1-220			(13.8)	(9.2)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-1	
杯	B3b	Ⅲ	1／4	4.0	青灰色	回転ナデ	堅緻		
767	1-224			(13.8)	10.3	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-8	
杯	B3b	Ⅲ	30%	3.9	淡青灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	包含層	
768	1-020			15.6	10.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	底面に爪形
杯	B2b	Ⅲ	30%	3.9	灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
769	1-296			16.8	12.2	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	西部	
杯	B2b	Ⅱ	50%	4.1	灰色	回転ナデ	堅緻		
770	1-249			18.4	14.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9E	
杯	B2b	Ⅱ	60%	4.1	赤褐色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
771	1-128	4A-65		10.1	7.1	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	底面に爪形
杯	B1c	Ⅴ	90%	4.2	紫灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土	
772	1-264			(10.2)	6.6	回転ナデ	良好	8F	自然釉
杯	B1c	Ⅴ	1／3	5.3	黒灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
773	1-247	4A-64		10.6	7.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9D	自然釉
杯	B1c	Ⅳ	80%	4.2	青灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
774	1-123	4A-61		(10.7)	6.7	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	11F	自然釉
杯	B1c	Ⅳ	40%	4.9	灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土	漆付着
775	1-265			(10.7)	6.6	回転ナデ	良好	8F	自然釉
杯	B1c	Ⅳ	40%	4.4	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
776	1-016	4A-63		11.0	6.6	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	10F	
杯	B1c	Ⅳ	80%	4.8	灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	

777	1-218			(11.4)	(8.0)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-5	底面に爪形
杯	B3c	Ⅳ	1／3	3.8	青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土	
778	1-074			(11.4)	(9.2)	回転ナデ／ヘラケズリ　ナデ	良好	8F	
杯	B3c	Ⅳ	40%	3.7	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
779	1-266			(11.6)	7.8	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	自然釉
杯	B3c	Ⅳ	40%	4.0	黒灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
780	1-171			(11.9)	(9.0)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-5北西	
杯	B3c	Ⅳ	1／2	3.5	青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土下層	
781	1-079			12.0	9.4	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	10H10I	
杯	B3c	Ⅳ	40%	4.1	青灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
782	1-179			(12.0)	(8.5)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-5南東	
杯	B3c	Ⅳ	1／4	4.0	灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
783	1-082			(12.0)	8.4	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	礫少	8G	
杯	B3c	Ⅳ	1／3	3.9	濃青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
784	1-250			(12.0)	(8.2)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9D	
杯	B3c	Ⅳ	1／3	3.5	灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
785	1-019	4A-58		12.0	8.6	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	B3c	Ⅳ	80%	3.0	黒灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土	
786	1-029	4A-54		12.3	9.8	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	
杯	B3c	Ⅳ	80%	3.9	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
787	1-214			12.4	9.3	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-5	
杯	B3c	Ⅳ	1／3	4.0	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	暗茶褐色土	
788	1-073			(12.4)	(9.2)	回転ナデ／ヘラケズリ　ナデ	良好	9F	
杯	B3c	Ⅳ	40%	3.5	濃青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
789	1-034			12.5	9.2	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	10H10I	
杯	B3c	Ⅳ	1／3	3.4	淡青灰色	回転ナデ／ナデ	堅固	荒掘り	
790	1-032			12.6	8.6	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	
杯	B3c	Ⅳ	60%	3.9	灰白色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
791	1-246	4A-59		12.6	9.2	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9D	
杯	B3b	Ⅳ	90%	3.8	赤褐色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	

792	1-118	4A-57	12.6	9.4	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	10E	
杯	B3c　Ⅳ	100％	3.9	濃灰色	回転ナデ	堅緻	青灰色粘土 写	
793	1-085		(12.6)	9.2	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	10F	自然釉
杯	B3c　Ⅳ	1／3	3.7	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
794	1-078		(12.6)	9.4	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	自然釉
杯	B3c　Ⅳ	40％	3.3	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
795	1-252		12.8	9.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	B3c　Ⅳ	1／3	4.0	灰色	回転ナデ	堅固	褐色土	
796	1-125	4A-60	12.8	7.3	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	10H10I	
杯	C　c　Ⅳ	50％	3.6	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻		
797	1-067		(13.0)	(9.1)	回転ナデ／ヘラケズリ　ナデ	良好	9F	底面に爪形
杯	B3c　Ⅳ	1／2	3.3	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
798	1-180		(13.0)	9.6	回転ナデ	良好	Tr-5南東	自然釉
杯	B3c　Ⅳ	1／4	3.9	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
799	1-090		(13.0)	(8.0)	回転ナデ	良好	9F	
杯	B3c　Ⅳ	1／3	3.7	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
800	1-205		(13.0)	(9.5)	回転ナデ	良好	Tr-5	
杯	B3c　Ⅳ	1／4	3.7	淡茶褐色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土上層	
801	1-086		(13.0)	(8.8)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	7E8E	
杯	B3c　Ⅳ	1／3	3.6	青灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
802	1-030		13.2	9.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	
杯	B3c　Ⅳ	30％	4.0	灰色	回転ナデ	軟弱	茶褐色土	
803	1-077		(13.2)	9.8	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	
杯	B3c　Ⅳ	40％	3.8	灰色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
804	1-104		13.2	9.0	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	8F	自然釉
杯	B3c　Ⅳ	1／3	3.7	青灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000西	
805	1-035		13.2	9.6	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	7F	
杯	B3c　Ⅳ	1／3	3.6	青灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
806	1-295		(13.4)	(9.7)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	砂粒	西部	
杯	B3c　Ⅳ	1／4	3.6	青灰色	回転ナデ	堅緻		
807	1-080		13.4	9.4	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	9F	
杯	B3c　Ⅳ	40％	3.4	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	

808	1-227		(14.2)	(9.6)	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	7F	
杯	B3c Ⅲ	1／3	3.5	灰色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
809	1-072		(14.3)	10.4	回転ナデ／ヘラケズリ ナデ	良好	11F	
杯	B3c Ⅲ	1／3	4.0	濃青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
810	1-152		(14.5)	(10.5)	回転ナデ	良好	Tr-1	
杯	B3c Ⅲ	1／3	4.0	灰白色	回転ナデ	軟弱		
811	1-093		(15.6)	(10.4)	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	9F	
杯	B2c Ⅲ	1／4	3.8	灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
812	1-106	4A-48	15.4	9.8	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	9F	漆付着
杯	B c Ⅲ	100%	5.2	灰白色	回転ナデ	軟弱	暗茶褐色土	
813	1-068		(15.4)	(10.2)	回転ナデ／ヘラケズリ ナデ	良好	7F	
杯	B c Ⅲ	40%	5.0	青灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
814	1-084		14.8	9.4	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	砂粒	10F	
杯	B3c Ⅲ	1／3	4.4	濃青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
815	1-088		(15.8)	(10.4)	回転ナデ	良好	9F	
杯	B2c Ⅲ	1／4	3.8	灰色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
816	1-267		(16.0)	12.8	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	8F	
杯	B2c Ⅲ	40%	3.8	青灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000西	
817	1-021		17.0	12.4	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	8F	
杯	B2c Ⅱ	30%	3.7	灰色	回転ナデ／ナデ	堅固	茶褐色土	
818	1-117	4A-49	17.0	13.4	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	10E	高台に編み物圧痕
杯	B2c Ⅱ	100%	3.6	灰白色	回転ナデ	堅固	青灰色粘土 写	
819	1-228		(17.4)	(13.6)	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	礫少	7F	
杯	B2c Ⅱ	1／4	3.8	灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土	
820	1-248		(18.6)	(15.0)	回転ナデ	良好	9F	
杯	B2c Ⅱ	1／3	4.3	淡茶褐色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
821	1-023		(17.2)	(11.0)	回転ナデ	良好	9F	
杯	F c Ⅱ	1／3	5.7	灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
822	1-018		16.2	8.0	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	8F	
杯	F c Ⅲ	30%	6.0	灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
823	1-036		(18.6)	(11.0)	回転ナデ	良好	9F	
杯	F c Ⅱ	1／6	6.4	灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
824	1-091		(14.6)	(9.4)	回転ナデ	良好	8F	
杯	E c Ⅲ	1／4	5.5	青灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000西	

825	1-226			(15.2)	(9.2)	回転ナデ／	良好	7F	自然釉
						ヘラ切り　ナデ			
杯	E	c	Ⅲ	1／6	9.2	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000西	
826	1-120	4A-46		(15.6)	8.4	回転ナデ／	良好	10I	
						ヘラ切り　ナデ			
杯	E	c	Ⅲ	40％	5.4	灰色	回転ナデ	堅緻	
827	1-107			17.1	11.0	回転ナデ／	良好	7E8E	
						ヘラ切り　ナデ			
杯	E	b	Ⅱ	50％	5.0	灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	褐色土（法面）
828	1-119	4A-47		(17.3)	10.8	回転ナデ／	良好	7E8E	自然釉
						ヘラ切り　ナデ			
杯	E	c	Ⅱ	40％	5.7	灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土（法面）
829	1-132	4A-45		17.6	10.0	回転ナデ／	良好	10D	
						ヘラ切り　ナデ			
杯	E	c	Ⅱ	90％	5.6	灰色	回転ナデ　ナデ	堅緻	青灰色粘土
830	1-244			13.4		回転ナデ／	良好	9F	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅳ	80％	2.1	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土
831	1-229			14.0		回転ナデ／	良好	7F	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅲ	80％	2.5	灰白色	回転ナデ	堅固	SD2000西
832	1-263			14.0		回転ナデ／	良好	8F	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	a	Ⅲ	80％	2.4	灰白色	回転ナデ	堅固	SD2000西
833	1-261			(14.0)		回転ナデ	良好	8F	
Ⅲ	A	a	Ⅲ	1／4	2.2	淡黒灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000A
834	1-225			14.4		回転ナデ／	良好	7F	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅲ	1／3	2.4	灰色	回転ナデ	軟弱	
835	1-045			(14.8)		回転ナデ／	良好	9F	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅲ	40％	2.5	灰白色	回転ナデ／ナデ	堅固	茶褐色土
836	1-042			(15.0)	12.0	回転ナデ／	良好	8E	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅲ	1／3	2.4	灰白色	回転ナデ	軟弱	
837	1-096			15.2	12.8	回転ナデ／	良好	9F	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅲ	1／4	2.7	灰白色	回転ナデ　ナデ	堅固	褐色土
838	1-100			(15.2)	12.5	回転ナデ／	良好	8F	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅲ	1／4	2.7	青灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000A
839	1-038	4A-50		15.2	12.0	回転ナデ／	良好	9F	漆付着
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅲ	60％	2.4	灰白色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土
840	1-037			(15.4)		回転ナデ／	良好	9F	
						ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A	b	Ⅲ	1／3	2.9	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土

841	1-243		(15.4)		回転ナデ／	良好	9F	
					ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A b Ⅲ	50％	2.2	灰色	回転ナデ	堅固	茶褐色土	
842	1-230		15.6		回転ナデ	良好	7F	
Ⅲ	A b Ⅲ	1／4	2.9	黒灰色	回転ナデ	堅緻		
843	1-040		(15.6)	12.0	回転ナデ／	良好	10F	
					ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A b Ⅲ	1／4	2.6	灰白色	回転ナデ	軟弱	茶褐色土	
844	1-039		(15.6)	13.2	回転ナデ／	良好	9F	
					ヘラ切り			
Ⅲ	A b Ⅲ	1／4	2.1	青灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	茶褐色土	
845	1-043		(16.8)	14.0	回転ナデ／	良好	9F	
					ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	A b Ⅱ	1／3	1.9	灰白色	回転ナデ	堅固	褐色土	
846	1-121		(14.9)	10.0	回転ナデ／	良好	10I	
					ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	B1b Ⅲ	40％	3.0	灰白色	回転ナデ／ナデ	軟弱		
847	1-031		(20.0)	(16.0)	回転ナデ／	良好	10F	漆付着
					ヘラ切り　ナデ			
Ⅲ	B1b Ⅰ	1／4	3.5	灰色	回転ナデ／ナデ	堅固	茶褐色土	
848	1-255	4A-110	(13.0)		回転ナデ	良好	9F	
蓋	C d Ⅳ	1／3	1.0	青灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	墨書土器
849	1-142	62A-4	(17.4)		回転ナデ	良好	Tr-5北西	
蓋	A d Ⅱ	1／8	(1.9)	灰白色	回転ナデ	堅固	暗茶褐色礫層	墨書土器
850	1-140	62A-5	(13.0)		回転ナデ	良好	8F	
蓋	A d Ⅳ	1／12	(1.0)	灰色	回転ナデ	堅固	荒掘り	墨書土器
851	1-141	62A-6		(10.0)	回転ナデ／	良好	8F	
					ヘラ切り　ナデ			
杯	B c	1／6	(0.8)	灰色	回転ナデ	堅固	SD2000西	墨書土器
852	1-143	4A-109	13.0	11.5	回転ナデ／	砂粒	Tr-5北西	底面に爪形
		62A-3			ヘラ切り　ナデ			
杯	B3c Ⅳ	70％	3.8	灰色	回転ナデ	堅固	暗茶褐色土	墨書土器
853	1-168		(7.7)		回転ナデ	良好	Tr-1	
蓋	E Ⅴ	1／12	2.0	灰白色	回転ナデ	堅固	第2層拡張	
854	1-169	4A-68	10.6	7.5	回転ナデ／	良好	Tr-5南東	
					ヘラ切り　ナデ			
壺	b	60％	5.4	灰色	回転ナデ	堅緻	暗灰色礫層	
855	1-276			(12.8)	回転ナデ	良好	8F	有孔
高杯		脚	(8.2)	黒灰色	回転ナデ	堅緻	SD2000C東	
856	1-165			(12.6)	回転ナデ	砂粒	Tr-5北西	
高杯		脚	(8.1)	灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
857	1-278		(14.4)		タタキ	良好	8F	
甕		30％	34.5	濃青灰色	当て具痕	堅緻	茶褐色土	
858	1-175		(22.8)		回転ナデ	良好	Tr-5北西　暗茶	
甕		1／6	(5.0)	灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土最下層	

859	1-257		20.6		タタキ	良好	9F	
甕			(5.7)	淡青灰色	当て具痕	堅緻	茶褐色土	
860	1-199		(23.6)		回転ナデ	良好	Tr-5南東	
甕		1／4	(7.0)	灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土上層	
861	1-302		11.4		回転ナデ	良好	7F	自然釉
壺		口縁部	(7.7)	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	褐色土	
862	1-046		11.8		回転ナデ	良好	8F	
壺		口縁部	(7.5)	淡黒灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
863	1-161		(9.7)		回転ナデ	砂粒	Tr-2	
壺		1／4	(2.8)	灰色	回転ナデ	堅緻	第3層	
864	1-103		8.8		回転ナデ	良好	9F	自然釉
壺		口縁部	5.6	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
865	1-308				回転ナデ	良好	9F	自然釉
壺			(6.1)	灰白色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
866	1-297		7.5		回転ナデ	良好	西部	
壺		口縁部	(6.4)	灰色	回転ナデ	堅緻		
867	1-164		7.1		回転ナデ	良好	Tr-5北西	
壺		1／2	(4.7)	暗赤褐色	回転ナデ	堅固	暗茶褐色土中層	
868	1-282		(11.6)		回転ナデ	良好	10F	自然釉
壺		1／6	(4.4)	淡青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
869	1-288		8.8		回転ナデ	良好	10-?	自然釉
平瓶		口縁部	(5.8)	灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
870	1-176		(6.5)		回転ナデ	良好	Tr-5	自然釉
平瓶		1／2	(5.5)	青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土上層	
871	1-306		9.1		回転ナデ	良好	10F	自然釉
平瓶		上部	(6.1)	灰白色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土	
872	1-303		10.4		回転ナデ	良好		自然釉
横瓶		口縁部	(5.1)	灰色	回転ナデ	堅緻		
873	1-219			(5.7)	回転ナデ／ヘラ切り　ナデ	良好	Tr-5	
壺		1／3	(2.7)	青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土	
874	1-307			13.5	回転ナデ・ケズリ／ヘラ切り　ナデ	礫	8F	
底部			(9.7)	濃灰色	回転ナデ	堅緻	荒掘り	
875	1-026			8.0	回転ナデ	良好	10F	自然釉
壺		底部	(3.8)	黒灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
876	1-191			(11.3)	回転ナデ	良好	Tr-5	
壺		1／4	(2.5)	紫灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
877	1-189			7.4	回転ナデ	良好	Tr-5	
壺		底部	(3.4)	灰色	ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
878	1-022			7.4	回転ナデ／糸切り　ナデ	良好	9F	
壺		1／2		黒灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	

879	1-309				回転ナデ	良好	8F	自然釉
提瓶		一部	(14.4)	灰白色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
880	1-304				回転ナデ	良好	8F	自然釉
双耳瓶		1／3	(17.4)	灰色	回転ナデ	堅緻	ピット写真	
881	1-310			(11.6)	回転ナデ	良好	9F	
双耳瓶		一部	(8.0)	灰白色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
882	1-311				回転ナデ	良好	9F	
双耳瓶		一部	(5.1)	淡赤褐色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	耳破損
883	1-314				回転ナデ	良好	8G	
双耳瓶		一部	(4.7)	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	耳破損
884	1-315				回転ナデ	良好	9F	自然釉
双耳瓶		一部	(6.5)	灰白色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
885	1-312				回転ナデ	良好	10F	自然釉
双耳瓶		一部	(3.4)	灰白色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
886	1-313				回転ナデ	良好	11F	自然釉
双耳瓶		一部	(4.8)	灰白色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
888	1-133	62A-8				良好	10F	
円面硯				灰色		堅緻	茶褐色土	
889	1-134	62A-9				良好	9F	
円面硯				灰色		堅緻	暗茶褐色土	
890	1-135	62A-10				良好	9F	
円面硯				灰色		堅緻	暗茶褐色土	
891		62A- 7	(5.1)		ナデ	良好	Tr-5北	
風字硯			(1.9)	淡灰色	ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
892	1-061		(14.4)		回転ナデ	良好	9E	転用硯？
蓋 A d Ⅲ		3／8	(1.7)	青灰色	回転ナデ	堅緻	茶褐色土	
893	1-172			(10.6)	回転ナデ	良好	Tr-5北西	転用硯？
杯 B a		1／3	(2.2)	青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土下層	
894	1-144		(9.3)	(6.0)	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	Tr-5	底面に爪形
杯 B 1c Ⅴ		1／6	3.6	青灰色	回転ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	
895	1-213			(9.6)	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	Tr-3	転用硯？
杯 B c		1／6	(1.5)	灰色	回転ナデ	堅緻	包含層	
896	1-159			(10.6)	回転ナデ	良好	Tr-2	転用硯？
杯 B c		1／4	(1.6)	青灰色	回転ナデ	堅緻	第3層	
897	1-209			(9.8)	回転ナデ／ヘラ切り ナデ	良好	Tr-5南東	転用硯？
杯 B c		1／3	(1.8)	灰色	回転ナデ／ナデ	堅緻	暗茶褐色土中層	

(3)土師器・瓦器

図版番号	遺物番号	写真番号	口径	底径	調整 外	色調 外	出土地点	胎土 ／
器種		残存率	器高		内	内		器形の特徴
927	2-45	4A-98	13.0		ナデ	赤褐色	8F	密　赤粒
椀	A	100%	3.5		ナデ	赤褐色	茶褐色土	／—
928	2-55	4A-100	13.4	9.8	ナデ	赤褐色	10E	密　赤粒
椀	A	90%	3.3		ナデ	淡赤褐色	青灰色粘土 写	／—
929	2-46	4A-99	13.6		ナデ	淡茶褐色	8G	密　小粒砂
椀	A	80%	3.7		ナデ	淡灰白色	荒掘り	／—
930	2-60		(12.6)	(10.2)	ナデ	赤褐色	9F	密／—
椀	A	1／4	(3.1)		ナデ	赤褐色	茶褐色土	
931	2-40		(13.0)		ケズリ後ナデ	赤褐色	7F	密　赤粒
椀	A	1／3	2.9		ナデ	赤褐色	茶褐色土	／—
932	2-33		(13.0)		ナデ	赤褐色	9E	密　小粒砂少
椀	A	1／12	2.9		ナデ	赤褐色	茶褐色土	／—
933	2-17		(12.4)	9.0	ナデ	赤褐色	Tr-5北西	密／—
椀	A	1／6	3.2		ナデ	赤褐色	暗茶褐色土下層	
934	2-31		(13.0)	(10.0)	ナデ	赤褐色	9E	密／—
椀	A	1／4	2.3		ナデ	赤褐色	茶褐色土	
935	2-49		(13.0)		ナデ	淡赤褐色	8F	密／—
椀	B	1／4	3.4		ナデ	淡赤褐色	茶褐色土	
936	2-59		(14.2)	(11.0)	ナデ	淡黄褐色	9F	密／—
椀	A	1／3	3.0		ナデ	淡黄褐色	茶褐色土	
937	2-38		(13.0)		ナデ	赤褐色	7E	密／—
椀	A	1／3	3.2		ナデ	赤褐色	褐色土	
938	2-32		(13.2)		ナデ	淡赤褐色	9E	密／—
椀	A	1／5	2.9		ケズリ	淡赤褐色	茶褐色土	
939	2-79	4A-96	14.0		ナデ	黄褐色	10F	密／—
椀	A	100%	3.5		ナデ	黄褐色	茶褐色土	
940	2-39		(12.0)	6.0	ナデ	赤褐色	7F	密／—
椀	B	1／3	3.3		ハケ	赤褐色	荒掘り	
941	2-78	4A-97	13.4		ナデ	黄褐色	8G	密／—
椀	A	100%	3.5		ナデ	黄褐色	茶褐色土	
942	2-47		(14.0)	(7.0)	ナデ	淡赤褐色	8G	密　赤粒／
椀	C	1／5	4.5		ナデ	淡赤褐色	茶褐色土	糸切り底
943	2-80	4A-95	16.6		ナデ	淡黄褐色	7F	密／—
椀	B	100%	5.0		ナデ	淡黄褐色	褐色土	

944	2-53		9.6		?	淡茶褐色	10I	密／—
皿	A	80%	1.4		?	淡茶褐色	荒掘り	
945	2-52		9.0		ナデ	淡茶褐色	10I	密／—
皿	A	70%	1.7		ナデ	淡茶褐色	荒掘り	
946	2-30		(13.6)	6.1	ナデ	灰白色	8G	密／
皿	B	70%	2.5		ナデ	灰白色	茶褐色土	糸切り底
947	2-43		(10.2)	4.8	ナデ	淡赤褐色	8F	密／
皿	B	1／3	2.7		ナデ	淡赤褐色	茶褐色土	糸切り底
948	2-21		(9.0)	(6.2)	ナデ	淡赤褐色	Tr-4	密／
皿	B	1／2	1.5		ナデ	淡赤褐色	暗茶褐色土	糸切り底
949	2-61		(9.0)	5.3	ナデ	淡桃褐色	9D	密／
皿	B	70%	1.5		ナデ	淡桃褐色	茶褐色土	糸切り底
950	2-74		15.6		?	淡茶褐色	Tr-4	密　中粒砂
甕		1／2	(6.2)		?	淡赤褐色	包含層	／—
951	2-18		(15.0)		ハケ	赤褐色	Tr-5北西	密／—
甕		1／8	(5.0)		ナデ	赤褐色	暗茶褐色土下層	
952	2-41		(17.0)		ハケ	淡茶褐色	8F	密／—
甕		1／2	(5.3)		ナデ	暗茶褐色	茶褐色土	
953	2-11		(29.0)		ハケ	淡黄褐色	Tr-1	密／—
甕		1／5	(9.1)		?	淡黄褐色	第2層拡張	
954	2-29		(16.8)		ハケ	淡茶褐色	7F	密／—
甕		1／3	(7.2)		ナデ	茶褐色	SD2000西	
955	2-13		(15.0)		ハケ	淡茶褐色	Tr-5北西	密／—
甕		1／4	(4.8)		ケズリ	淡茶褐色	暗茶褐色土下層	
956	2-42		(16.0)		ハケ	淡赤褐色	8G	密／—
甕		1／3	(5.7)		ナデ	暗茶褐色		
957	2-62		(17.8)		ハケ	赤褐色	9F	密　赤粒少
甕		1／6	(5.9)		ケズリ	赤褐色	茶褐色土	／—
958	2-67		(18.6)	(12.2)	ナデ	灰黒色	9D	密／—
瓦器		1／4	(6.1)		ナデ	灰白色	褐色土	
959	2-56		(17.0)	(8.6)	?	黒灰色	11F	密／—
瓦器		1／9	5.0		?	黒灰色		
960	2-57		(16.0)	7.0	?	黒灰色	10I	密／—
瓦器		1／8	4.5		?	黒灰色	荒掘り	
961	2-77		(13.6)		ナデ	淡黒灰色	10H-10I	密／—
瓦器		1／6	(4.6)		ミガキ	淡黒灰色	荒掘り	

（4）緑釉陶器

図版番号	遺物番号	接合関係	出土地点		胎土	釉色調	部位	底部状態	備考
898	52	○	8G	褐色土	軟質	薄緑色	口縁部		
898	55	○	8G	褐色土	軟質	薄緑色	口縁部		
898	56	○	10E	暗茶褐色土	軟質	薄緑色	口縁部		
898	1	○	8E	P-2061	軟質	薄緑色			
899	51		8G	褐色土	軟質	薄緑色	口縁部		
900	54	×		暗茶褐色土	軟質	黄緑色	口縁部		
900	7	×	8F	褐色土	軟質	黄緑色	口縁部		
901	41		8G	荒掘り	硬質	濃緑色	底部	施釉	
902	47		11F	茶褐色土	硬質	薄緑色	底部	施釉	
902	50	△	11F	暗茶褐色土	硬質	薄緑色	底部	施釉	
902	53	△	11F	暗茶褐色土	硬質	薄緑色	底部	施釉	
902	44	△	Tr-5南東	暗茶褐色土上部	硬質	薄緑色	底部	施釉	
903	45		11F	茶褐色土	硬質	暗緑色	底部	施釉　蛇目高台	
904	49		8F	暗茶褐色土	硬質	薄緑色	底部	施釉　輪高台	
905	46		西部地区		硬質	薄緑色	底部	無施釉　輪高台	
906	48		9E	暗茶褐色土	硬質	暗緑色	底部	施釉　輪高台	
907	43		Tr-5	包含層	硬質	薄緑色	底部	施釉　輪高台	
908	57		西部地区		硬質	濃緑色	底部	施釉	
909	42		10F	茶褐色土	硬質	薄緑色	底部	施釉	
910	58		Tr-5		硬質	濃緑色	耳皿	施釉　回転糸切り	分析NO100
口径（長）11.2cm・口径（短）9.0cm、器高3.8cm、底径5.0cm　写真番号62A-1									
	23		8F	褐色土	硬質	濃緑色	口縁部		分析NO30
	40		8G		軟質	黄緑色			分析NO99
	2	◎？	10-?	茶褐色土	軟質	緑色（橙斑）	底部	施釉	
	3		8F	褐色土	硬質	薄緑色			
	4	○？	8F	暗茶褐色土	軟質	薄緑色	口縁部		
	5	×？	8F	荒掘り	軟質	黄緑色			
	6		7F		軟質	黄緑色	底部	施釉	
	8		11F	茶褐色土	硬質	濃緑色			
	9	×？	8F	褐色土	軟質	黄緑色	口縁部		
	10		10F	青灰色粘土	硬質	薄緑色			
	11	◎？	9E	暗茶褐色土	軟質	緑色（橙斑）			

	12		10F	暗褐色土	軟質	薄緑色	底部	施釉　輪高台	
	13	◎？	9E	暗茶褐色土	軟質	緑色（橙斑）			
	14		10F	褐色土	軟質	黄緑色	口縁部		
	15	×？	8F	荒掘り	軟質	黄緑色	口縁部		
	16	◎？	10F	茶褐色土	軟質	緑色	口縁部		
	17		Tr-5	暗茶褐色土上層	硬質	薄緑色	口縁部		
	18	○？	10F	暗茶褐色土	軟質	薄緑色	口縁部		
	19		8F		軟質	黄緑色	口縁部		
	20	◎？	10E	茶褐色土	軟質	緑色（橙斑）	口縁部		
	21		10E	茶褐色土	硬質	薄緑色	底部	施釉	
	22		10E	茶褐色土	硬質	明濃緑色			
	24		8F		軟質	黄緑色			
	25		9F	暗茶褐色土	硬質	明濃緑色			
	26		Tr-5	暗茶褐色土上層	硬質	薄緑色	口縁部		
	27		Tr-5	暗茶褐色土	硬質	暗緑色	口縁部		
	28		9F		硬質	薄緑色			
	29		11G	茶褐色土	硬質	薄緑色			
	30		10F	暗褐色土	軟質	緑色			
	31		Tr-5	暗茶褐色土上層	硬質	薄緑色			
	32		Tr-5南東	暗茶褐色土上層	軟質	黄緑色			
	33		Tr-5	暗茶褐色土上部	硬質	薄緑色			
	34		7E-8E	褐色土（法面）	硬質	暗緑色	口縁部		
	35		9F		硬質	明濃緑色			
	36		10E	暗茶褐色土	硬質	明濃緑色			
	37		10E	茶褐色土	軟質	黄緑色			
	38		10E	茶褐色土	硬質	薄緑色			
	39		Tr-5	暗茶褐色土	硬質	薄緑色			
	59		11 H		軟質	緑色			

（5）灰釉陶器

図版番号	遺物番号	出土地点		部位	備考
911	21	9F	褐色土	口縁部	
912	19	8F	暗茶褐色土	口縁部	
913	20	10C	暗茶褐色土	口縁部	
914	24	10E	茶褐色土	底部	付け高台
915	25	8F	荒掘り	底部	付け高台
916	23	11F	茶褐色土	底部	付け高台
917	26	11F	茶褐色土	底部	付け高台
918	17	8F	茶褐色土	底部	付け高台
919	22	7F	荒掘り	底部	付け高台
920	18	11F	茶褐色土	底部	付け高台
	1	7F	荒掘り	口縁部	
	2	8G	SD2000B		
	3	8F	茶褐色土	口縁部	
	4	10F	茶褐色土	口縁部	
	5	11G	暗茶褐色土	口縁部	
	6	10E	茶褐色土		
	7	11F			
	8	8F	暗茶褐色土	口縁部	
	9	11F	茶褐色土		
	10	11F	茶褐色土		
	11	10E	茶褐色土	底部	付け高台
	12	10H-10I			
	13	9E	褐色土		
	14	10F	茶褐色土		
	15	11F		口縁部	
	16	9E	茶褐色土		
	27	7F	P-2105	口縁部	

（6）青磁・白磁

図版番号	遺物番号	写真番号	出土地点		部位	種類	備考
921	20		Tr-5	包含層	口縁部	白磁	
922	18	62 A -11	9I	P -1001	口縁部	白磁	
923	17		10I		口縁部	白磁	
924	19	62 A -12	9I	P -1001	底部	白磁	
925	22		14E	灰褐色土	底部	白磁	
926	21		10E	褐色土	皿口縁部	白磁	
	1		9E	褐色土	底部	青磁	
	2		9F			青磁	
	3		9E	褐色土		青磁	
	4		9E	褐色土		青磁	
	5		9D	P -2187		白磁	
	6		9F	褐色土		白磁	
	7		9E	暗茶褐色土	口縁部	白磁	
	8		9E	暗茶褐色土	口縁部	白磁	
	9		10F		口縁部	白磁	
	10		Tr-5南東	褐色砂礫層	口縁部	白磁	
	11		10E	茶褐色土	口縁部	白磁	
	12		9E	茶褐色土	口縁部	白磁	
	13		11F			白磁	
	14		Tr-5北西	褐色砂礫層		白磁	
	15		9F	褐色土		白磁	
	16		9F			白磁	

(7)土錘

図版番号	遺物番号	出土地点		型式	長 (mm)	幅 (mm)	孔径 (mm)	重さ (g)	備考
357	220	SD25	E区	D	(94)	29	5	(83.5)	
358	221	SD25	F区	D	89	27	5	72.6	
993	145	8G		A1	25	18	4	6.1	
994	127	8G		A1	28	15	3	5.1	
995	37	8G		B	31	19	4	5.8	
996	151	8F	茶褐色土	A1	32	17	3	7.9	
997	147	8F	荒掘り	A1	47	15	4	8.6	
998	27	Tr-5	暗茶褐色土中層	A1	49	12	3	6.3	
999	59	10E	茶褐色土	A2	52	13	4	7.0	
1000	53	9F	暗茶褐色土	A1	(61)	13	4	(9.1)	
1001	56	8F	茶褐色土	A1	60	14	4	8.4	
1002	205	7F	荒掘り	C	(92)	28	7	(63.5)	
1003	144	8F	茶褐色土	C	(65)	24	6	(32.2)	
1004	66	9E	茶褐色土	A1	66	18	4	(16.6)	
1005	68	8F	茶褐色土	B	61	22	6	25.6	
1006	91	9D	茶褐色土	A2	56	17	5	11.8	
1007	75	9D	茶褐色土	A2	50	16	5	11.5	
1008	74	9F	茶褐色土	A2	50	20	5	19.7	
1009	150	9F	茶褐色土	A1	47	17	6	10.4	
1010	88	10F	茶褐色土	B	46	17	6	9.6	
1011	36	10E	暗茶褐色土	B	53	26	7	28.5	
1012	83	11F	茶褐色土	B	51	26	8	29.4	
1013	173	10E	茶褐色土	B	50	23	7	21.7	
1014	47	8G		A1	45	24	6	18.5	
1015	92	10F	(畔) 茶褐色土	B	46	22	8	16.9	
1016	19	Tr-5北西	褐色砂礫層	B	48	18	5	10.6	
1017	25	Tr-5南東	暗茶褐色土中層	A1	41	20	5	12.2	
1018	4	Tr-5	暗茶褐色土	A1	41	21	6	12.2	

1019	76	9D	茶褐色土	B	37	19	6	11.3	
1020	155	8G		A1	30	11	3	2.6	
1021	116	10F	茶褐色土	A1	35	10	3	3.2	
1022	57	10F	茶褐色土	A1	36	10	4	3.2	
1023	20	Tr-5北西	褐色砂礫層	A1	35	10	3	3.3	
1024	26	Tr-5南東	暗茶褐色土上部	A1	38	12	3	4.8	
1025	77	8F	荒掘り	A1	40	11	4	4.0	
1026	158	8F	荒掘り	A1	41	9	4	2.9	
1027	129	8G	茶褐色土	A1	44	10	4	3.2	
1028	159	11G	茶褐色土	A1	44	10	4	3.7	
1029	174	8F	茶褐色土	A1	47	10	4	3.9	
1030	40	西部上		A1	49	11	3	4.9	
	1	Tr-5北西	暗茶褐色土上層	A1	41	18	4	10.8	
	2	Tr-5	包含層	A1	37	11	4	3.8	
	3	Tr-5	包含層	B	47	27	7	21.1	
	5	Tr-5	暗茶褐色土上層	A1	44	11	3	4.7	
	6	Tr-5	暗茶褐色土上部	A1	33	18	4	7.5	
	7	Tr-5北西	暗茶褐色土下層	A1	(43)	19	6	(13.6)	分析No31
	8	Tr-5南東	褐色砂礫層	A1	38	13	4	5.9	
	9	Tr-5南東	褐色砂礫層	A1	(28)	12	4	(3.7)	
	10	Tr-5	暗茶褐色土上層	A1	50	14	3	7.3	
	11	Tr-5	暗茶褐色土上層	B	42	24	7	15.2	
	12	Tr-5南東	暗茶褐色土中層	A1	48	16	4	10.2	
	13	Tr-5	暗茶褐色土上層	B	47	20	7	12.7	
	14	Tr-5	褐色砂礫層	A1	(37)	12	4	(5.5)	
	15	Tr-1		A2	40	18	3	(8.1)	
	16	Tr-3	包含層	A1	38	13	4	5.2	
	17	Tr-5北西	暗茶褐色土中層	A1	(42)	14	5	(4.1)	
	18	Tr-5北西	暗茶褐色土中層	A2	49	20	4	(15.5)	分析No32
	21	Tr-5北西	暗茶褐色土上部	A1	33	16	4	7.3	
	22	Tr-5北西	暗茶褐色土上部	A1	40	14	4	6.3	

23	Tr-5北西	暗茶褐色土上部	A1	(38)	10	4	(3.2)	
24	Tr-5北西	暗茶褐色土上部	A1	(26)	10	3	(1.7)	
28	Tr-5	暗茶褐色土中層	A1	47	15	5	9.7	
29	Tr-5	暗茶褐色土中層	B	44	18	6	11.8	
30	Tr-5		B	(19)	(22)	(7)	(3.6)	
31	Tr-5北西	褐色砂礫層	B	(32)	(19)	(5)	(3.6)	
32	8F	SD2000AB西	B	49	19	6	14.6	
33	8G	SD2000BC	B	45	18	6	10.0	
34	7E-8E	褐色土	A1	38	16	5	7.6	
35	7F	SD2000西	B	55	18	5	14.5	
38	10D	茶褐色土	A1	31	16	4	6.1	
39	8G		A1	51	12	3	5.4	
41	?		A1	40	14	5	5.2	
42	9F	茶褐色土	A1	(50)	16	5	(8.6)	
43	9E	茶褐色土	A1	40	17	3	7.9	
44	10F	茶褐色土	B	48	19	6	16.1	
45	11F	茶褐色土	B	41	21	6	13.9	
46	8G	茶褐色土	A1	35	16	5	6.9	
48	9G	褐色土	A2	48	16	5	9.8	
49	11F	茶褐色土	B	50	20	7	16.7	
50	9F	褐色土	A2	53	20	5	17.0	
51	9F	茶褐色土	A2	(41)	14	5	(7.2)	
52	7E	荒掘り	A1	38	18	4	9.6	
54	11F	茶褐色土	B	50	21	6	19.5	
55	8F	茶褐色土	A2	37	13	5	5.9	
58	8F	茶褐色土	A1	36	15	4	6.3	
60	9D	茶褐色土	A1	45	15	4	8.3	
61	9D	茶褐色土	A2	45	14	4	7.2	
62	8G	荒掘り	A1	38	15	3	6.2	
63	10F	茶褐色土	A1	44	11	3	3.7	
64	10E	茶褐色土	A1	45	13	4	6.0	

65	11F	茶褐色土	A1	(35)	10	4	(2.8)	
67	8F	茶褐色土	A1	41	15	4	7.2	
69	?		A1	36	9	4	2.2	
70	10F	茶褐色土	A2	31	13	4	5.3	
71	?		A1	46	12	4	4.5	
72	10E	茶褐色土	A1	43	10	4	3.4	
73	8F	茶褐色土	B	43	18	6	(8.5)	
78	9F	茶褐色土	B	45	22	6	17.8	
79	7F	荒掘り	A2	48	(26)	6	(16.3)	
80	9F	茶褐色土	A1	(41)	25	5	(13.4)	分析No33
81	9F	暗茶褐色土	A1	(38)	20	5	(12.0)	
82	10F		B	46	20	6	13.6	
84	10F		A1	36	17	4	7.3	
85	8G		A1	37	13	4	4.5	
86	11F	茶褐色土	A1	42	11	4	4.8	
87	8F	茶褐色土	A1	43	33	4	(5.7)	
89	西部		A1	39	13	4	5.4	
90	Tr-5	暗茶褐色土	A1	40	15	4	7.8	
93	9E	茶褐色土	A1	48	12	4	5.6	
94	8G		A1	43	13	4	5.7	
95	11F		B	41	18	7	(8.4)	
96	9D	茶褐色土	B	46	21	5	18.4	
97	8F	荒掘り	A1	40	9	4	2.7	
98	8G		A1	43	16	4	9.3	
99	10F	茶褐色土	A1	46	14	4	6.6	
100	8F	茶褐色土	A1	47	12	4	5.4	
101	西部上法面		B	46	24	8	11.7	分析No34
102	8F	茶褐色土	A1	42	10	4	3.8	
103	7F	荒掘り	C	(52)	24	6	(25.9)	
104	9D	茶褐色土	A1	32	21	4	7.7	
105	11G	茶褐色土	A1	(36)	24	6	13.4	分析No35

	106	10F	茶褐色土	A1	29	10	3	2.4	
	107	8F	茶褐色土	A1	(25)	9	4	1.6	
	108	9F	茶褐色土	A1	43	20	6	13.7	
	109	9F	茶褐色土	A1	(28)	13	4	3.6	
	110	Tr-5	暗茶褐色土層	A2	(39)	18	4	10.2	
	111	Tr-5北西	暗茶褐色砂礫層	A2	(31)	11	3	3.8	
	112	8F	茶褐色土	A2	34	14	3	5.4	
	113	8F	荒掘り	A1	35	11	4	3.1	
	114	8G	茶褐色土	C	(45)	26	7	(23.1)	
	115	9D	茶褐色土	A1	22	15	3	4.0	
	117	8G		A1	36	14	5	5.9	
	118	8G		A1	(26)	17	7	3.8	
	119	10F	茶褐色土	B	(46)	19	5	11.5	
	120	10G	茶褐色土	A2	(34)	20	5	8.4	分析No36
	121	10I	荒掘り	A1	37	20	5	11.1	
	122	8G		A1	42	12	4	5.3	
	123	8F	茶褐色土	A1	37	17	4	9.1	
	124	9E	茶褐色土	A1	44	11	5	3.8	
	125	9F	茶褐色土	A2	45	12	5	6.2	
	126	8G		A1	32	15	3	5.5	
	128	8G		A1	(37)	11	5	3.3	
	130	7F	荒掘り	A1	40	15	3	8.1	
	131	8F	荒掘り	A1	37	19	4	10.0	
	132	8F	荒掘り	A1	(35)	17	6	(7.5)	分析No37
	133	8F	荒掘り	A1	43	14	3	6.6	
	134	9E	茶褐色土	A1	40	17	4	(9.0)	
	135	7F	茶褐色土	A1	32	15	4	6.2	
	136	8F	褐色土	A2	42	19	7	(8.2)	分析No38
	137	8F	茶褐色土	A1	38	9	4	3.1	
	138	西部上		A1	41	12	4	5.0	
	139	7F	荒掘り	A1	(33)	11	4	(2.2)	

140	8F	褐色土	A1	48	11	4	4.2	
141	8F	茶褐色土	A1	47	9	4	3.7	
142	Tr-5北西	暗茶褐色土最下層	A1	37	14	4	7.2	
143	9D	茶褐色土	A1	32	13	3	4.3	
146	8F	茶褐色土	A1	47	11	4	4.4	
148	8G		A1	29	15	5	4.8	
149	8F		A1	(41)	13	3	(5.6)	
152	8G		A1	43	9	4	3.7	
153	8F	茶褐色土	B	50	17	6	11.2	
154	8F	荒掘り	A1	31	12	4	3.7	
156	9D	茶褐色土	A1	(36)	16	6	(7.8)	
157	8E	茶褐色土	A1	35	15	4	6.3	
160	10F	茶褐色土	A1	35	14	4	5.7	
161	11F	茶褐色土	A1	(38)	11	5	(3.8)	
162	9D	茶褐色土	A1	39	13	4	6.2	
163	Tr-5北西	暗茶褐色土	B	36	16	4	8.6	
164	8F	荒掘り	A1	33	17	4	7.7	
165	10E	茶褐色土	A1	34	11	3	4.2	
166	8G		A1	35	14	4	4.9	
167	8F	茶褐色土	A1	34	12	4	3.9	
168	8F	茶褐色土	A1	40	9	3	2.9	
169	8G	茶褐色土	A1	44	16	4	5.6	
170	10E	茶褐色土	A1	(23)	12	4	(2.2)	
171	7F	荒掘り	A1	(32)	10	5	(1.7)	
172	8G		A1	(30)	16	4	(4.0)	
175	8G	茶褐色土	A1	36	16	4	7.4	
176	9F	茶褐色土	A1	50	17	5	12.9	
177	8G		A1	38	19	6	11.3	
178	10F		A1	(37)	12	5	(3.3)	
179	8G	茶褐色土	A2	49	14		9.9	
180	10H-10I	荒掘り	A1	40	20	6	12.2	

181	8F		A1	42	10	4	3.5	
182	10E	茶褐色土	A1	46	10	4	3.9	
183	10E	茶褐色土	A1	42	13	3	6.0	
184	8F	荒掘り	B	(43)	27	7	(22.3)	
185	9F	茶褐色土	A1	51	18	5	11.7	
186	8G		A1	44	11	4	3.4	
187	9F	茶褐色土	A1	33	9	4	2.4	
188	10E	茶褐色土	B	52	26	7	27.7	
189	10D	茶褐色土	A1	35	19	4	10.7	
190	8F	荒掘り	A1	(40)	14	4	6.6	
191	10I		A2	47	21	5	15.3	
192	8G		A1	(44)	11	4	(3.0)	
193	7F	荒掘り	A1	43	9	4	3.0	
194	8F	茶褐色土	A1	41	14	5	4.9	
195	8G		A1	31	17	4	7.1	
196	9F	褐色土	A1	40	10	5	3.4	
197	8F	荒掘り	A1	34	10	3	2.9	
198	8G		A1	30	13	4	3.9	
199	8G		A1	(25)	12	3	(2.2)	
200	8G		A1	(21)	12	5	(1.9)	
201	9F	茶褐色土	A1	(30)	18	5	(3.9)	
202	8G		A2	(36)	20	4	(13.0)	分析No39
203	9F	茶褐色土	A1	44	27	6	(18.2)	
204	8F	茶褐色土	A1	(30)	20	7	(10.2)	分析No40
206	10H	P-1021	A1	57	29	6	31.9	
207	9F	P-2047	A1	69	22	5	32.6	
208	8F	P-2176	A1	37	17	4	8.3	
209	8F	P-2153	A1	(44)	13	4	(6.3)	
210	9G	P-1038	A1	35	14	3	5.6	
211	8E	P-2082	A1	47	15	4	10.2	
212	7E	P-2124	A1	50	15	4	9.6	

	213	8F	P-2153	Al	29	16	4	7.5	
	214	8F	P-2153	Al	42	13	3	5.2	
	215	9G	P-1091	Al	(60)	14	5	(9.6)	
	216	8E	P-2061	Al	32	14	3	5.4	
	217	10H	P-1056	Al	(26)	(13)	3	(3.2)	
	218	7E	P-2031	Al	30	(12)	4	(2.3)	
	219	8E	P-2078	Al	(27)	9	4	(2.4)	
	222	7F	褐色土	Al	54	17	4	15.0	

第5章　総　　括

第1節　8次区間調査成果

近畿自動車道敦賀線建設に伴う埋蔵文化財調査は、昭和54年度から京都府教育委員会が実施し、昭和56年度からは京都府教育委員会により設立された当調査研究センターが引き継いで調査を実施している。兵庫県多紀郡丹南町から京都府福知山市に至る延長約41.2km（近舞線7次区間）の埋蔵文化財調査は、昭和60年度に京都府側の現地調査を終了し、各年度の発掘調査概要や発掘調査報告書を刊行している。

京都府福知山市から舞鶴市に至る延長22.7km（近敦線8次区間）の調査は、昭和61年度から平成元年度まで、近敦線関係遺跡年次調査一覧（付表5）のとおり実施した。ここでは主な遺跡について簡単に紹介し、近敦線8次区間調査のまとめとしたい。

平山城跡・平山東城跡は、高城城の支城で、15～16世紀に築かれた連郭式・単郭式の山城である。郭内には、礎石建物跡・柵列・土坑・石組状遺構等を検出し、特に平山城南東の丘陵斜面に設けられた14条の畝状竪堀は、頂部の横堀と相俟って当時の防御施設の堅固さをうかがうことができ、中丹地域の中世山城を知る上で貴重な資料となった。

野崎古墳群は、平野部に築かれた5～6世紀の古墳群で、全長約26mの前方後円墳1基・円墳5基からなる。近辺には、茶臼山古墳や上杉1号墳といった全長50m級の前方後円墳が築かれており首長墓クラスの系譜がみられる。野崎1号・5号墳の周溝には比較的遺存状況の良好な埴輪が出土し、数少ない中丹地域の埴輪を知る上で貴重な資料となった。

福垣北古墳群は、総数120基を数える以久田野古墳群に北接する11基からなる古墳群で、方墳2基・円墳5基の調査を実施した。今回の調査でこれらの古墳群が以久田野古墳群の一支群と考えられ、以久田野古墳群の範囲が若干北西に広がること、築造時期が5世紀前半から始まり、7世紀まで存続することなどが明らかとなった。

福垣城館跡は、犀川左岸の段丘を見下ろす丘陵端部に築かれた山城である。『丹波志』によると大槻馬之助の居城とあり，礎石建物跡を有する郭や周囲を固める堀切及び横堀・土橋等を検出した。存続時期は14世紀前半及び15世紀後半から16世紀と推察される。

小西町田遺跡は、弥生時代末期から古墳時代初頭・平安時代の集落跡である。特に9世紀を中心とする平安時代の遺構では10数棟の掘立柱建物跡を検出し、緑釉陶器片50点以上・灰釉陶器・青磁・白磁・硯・墨書土器などが出土し、官衙的施設の可能性が考えられ

付表5　近敦線関係遺跡年次調査一覧

番号	遺跡名	所在地	調査年度	調査面積m²	資料 情報(号)	資料 概報(冊)	資料 報告書(冊)
15	平山城跡	綾部市七百石町	61 62	1500 2300	25	24	14
16	平山東城跡	綾部市七百石町	61	1000	23	24	14
17	野崎古墳群	綾部市高槻町	61	6基	25	24	17
14	鍛冶屋谷古墓	綾部市七百石町	61	40		31	
7	小西町田遺跡	綾部市小西町	62	5000	27	31	18
4	小貝遺跡	綾部市小貝町	62	1400	27	31	
10	福垣城館跡	綾部市豊里町	62	500		31	
11	福垣北古墳群	綾部市豊里町	62 63	4基 3基	28・30	31・36	17
9	三宅遺跡	綾部市豊里町	62 63	5500 3000	31	31・36	18
8	三宅4号墳	綾部市豊里町	62	1基		31	
5	私市円山経塚	綾部市私市町	62	1基	30・31	31・36	
5	私市円山古墳	綾部市私市町	63	1基	32・33		
6	馬場池東方遺跡	綾部市私市町	63	1200	32	36	
12	舘2号墳	綾部市舘町	63	1基		36	
13	赤田遺跡	綾部市位田町	63	1500	29	36	
2	興遺跡	福知山市興	63 元	2000 1200	32・33	36・37	17
3	観音寺遺跡	福知山市観音寺	63 元	1400 4000	32	36・37	17
21	火柴原古墳	福知山市石原	63	1基		36	
19	西山城館	福知山市観音寺	元	100	33	37	
20	古谷古墳	福知山市観音寺	元	1基			
22	奥大石古墳群	綾部市上杉町	元	3基	34	37	
23	ヌクモ古墳群	福知山市石原	元	2基	33	37	

情　報；京都府埋蔵文化財情報
概　報；京都府遺跡調査概報
報告書；京都府遺跡調査報告書

る。犀川を挟んで対岸の小字「ミヤケ」地名との関係等興味深い。

三宅遺跡は、犀川右岸の段丘上に立地する。弥生時代中期の方形周溝墓、古墳時代初頭の土壙群、三宅古墳群の4基の周溝、中世の掘立柱建物跡等を検出した。特に土壙群は、総数573基を数え、大規模な墓壙群もしくは粘土採掘穴と考えられる。墓壙群とすれば中丹地域の一般集落の共同墓地を知る上で貴重な資料である。

私市円山古墳は、標高94mの丘陵上に立地し、福知山・綾部盆地を一望に見渡せる高所に位置している。古墳は10mの造り出しをもつ全長81mの大円墳であることが判明した。外表施設では、三段築成で人頭大の葺石が約145,000個、円筒埴輪や朝顔型埴輪が約1,500個樹立していたものと推定される。主体部は3基検出し、2段墓壙内に組合式木棺を安置し、棺の一部を粘土で被覆していた。墓壙内からは、甲冑・胡籙・鉄刀・鉄剣・農工具・鏡・玉類等多数の副葬品が出土した。特に胡籙は金装で遺存状況がよく、また甲冑は三角

板革綴短甲・冑・肩甲・頸甲・漆塗革製草摺のセットで検出している。この古墳は、5世紀中葉に築造され、中丹地方の方墳文化圏の中で突如出現した大円墳であり、副葬品から大和政権と密接な関係にある首長墓と考えられる。

小貝遺跡は、私市円山古墳の立地する丘陵裾部、由良川中流域の段丘上に位置する。ほ場整備等による削平が著しいが、弥生時代後期の方形周溝墓1基、奈良時代の掘立柱建物跡1棟・集石遺構・柵列等を検出し、長期にわたる集落(墓域)の存続が認められた。

赤田遺跡は、位田町北西部の山間部に立地し、東には南北朝期の城跡とされる高城山が位置する。階段状の平坦地(郭)が見られたことから、当初城館跡として調査を開始したが、郭状の平坦地には遺構・遺物はなく、谷部傾斜地から古墳時代の竪穴式住居跡2基を検出した。住居跡は、東側壁面にカマドをもち、伴出する須恵器から6世紀後半と考えられる。

興遺跡・観音寺遺跡は、由良川によって形成された沖積地の縁辺部に位置し、自然堤防状の微高地上に立地している。弥生時代中期、鎌倉～室町時代の遺構・遺物を検出し、青野遺跡や青野西遺跡とともに中丹地域の由良川自然堤防上に位置する集落遺跡として貴重な成果を得た。特に弥生時代中期の大溝からは層位的に多量の遺物が出土し、由良川中流域の土器編年を知る上で貴重な資料となった。また分銅形土製品や簪等が出土している。

ヌクモ古墳群は、丘陵尾根の稜線上に10数基からなる古墳群で、古墳2基の調査を実施した。1号墳は、一辺約25m級の方墳で2基の埋葬主体部(木棺直葬)を検出し、鉄刀・鉄鉾・鉄斧・刀子等の武具・工具類が副葬されていた。2号墳は、一辺約10mの方墳で1基の埋葬主体部を検出している。組合式箱式棺とみられる棺内は比較的遺存状況がよく、礫床上面に盤龍鏡1面・玉類・竪櫛等が出土した。鏡は、鏡背の文様に一対の龍と虎が見返る状態で描かれており(龍虎)、他に類例がない。築造時期は5世紀前半と考えられる。

奥大石古墳群は、丘陵尾根筋の先端部に築かれた一辺約11mの3基の方墳からなる古墳群である。1号墳の埋葬主体部は、礫敷の棺床に組合式木棺を安置したものと思われ、鉄剣・鉄刀が一振りずつ出土した。2号墳からは、組合式木棺・割竹形木棺を安置する2基の埋葬主体部を検出し、組合式木棺では蛇行剣・鉄鏃が、割竹形木棺からは石製臼玉・竪櫛・針状の鉄製品が出土した。特に蛇行剣(全長70cm)は全国でも40余例が知られるだけで、京都府内では初例である。古墳群の築造時期は、5世紀前半期と考えられる。

終わりに、近畿自動車道敦賀線路線帯において、綾部市私市円山古墳では極めて貴重な成果が得られたことから、地元の方々をはじめとして、綾部市・京都府教育委員会、日本道路公団大阪建設局・同福知山工事事務所等の御努力により、現状保存されることになった。関係機関の御理解に深く感謝したい。

(水谷壽克)

第２節　三宅遺跡の土壙群について

近年、各地で大規模な発掘調査が増加し、おびただしい数の土壙が限定された範囲に密集して検出される事例が相次いでいる。密集する土壙に関して注意が払われるようになったのは1973～1975年に実施された大阪府高槻市狐塚古墳群[注18]の調査が最初であり、600基にのぼる古墳時代後期の土壙群が検出されている。その後、大阪府内では同時期の類似遺構の検出が相次いでいる。以下、代表的な遺跡として大阪府では堺市長曽根遺跡[注19](738基)・同市菱木下遺跡[注20](380基)・同市万崎池遺跡[注21](460基)・同市大和川今池遺跡[注22](200基)・富田林市新家遺跡[注23](440基)・寝屋川市讃良条里遺跡[注24](350基)で類似遺構が報告されている。その他、奈良県安堵町東安堵遺跡[注25](228基－弥生時代後期後半)・滋賀県野洲町夕日ヶ丘北遺跡[注26](158基－古墳後期後半)・鳥取県淀江町福岡遺跡[注27](265基－弥生時代中期後葉)等でも類似遺構の検出が報告されている。京都府内の類似遺構検出例としては、京北町上中遺跡[注28](38基－弥生末～古墳前期)・亀岡市太田遺跡[注29](46基－弥生前期)・綾部市興遺跡[注30](39基－弥生中期)・野田川町寺岡遺跡[注31](29基－弥生後期～古墳前期)が知られ、これに三宅遺跡調査例が加わる。

このような土壙群の機能に関しては、土壙墓[注32]・粘土採掘坑[注33]などの評価に分かれているのが現状である。多くの遺跡は土壙墓と捉えられているが、上中遺跡と福岡遺跡では粘土採掘坑と推論されている。

三宅遺跡においても同様な密集土壙群を検出したことから、以下その内容を記述する。三宅遺跡では、第Ⅲ・第Ⅳ調査区に集中して土壙が分布し検出数は573基を数えたが、調査地は限定された範囲であるため、調査地外にはまだ数多くの土壙が存在すると考えられる。土壙群は段丘でも低位となる海抜約35m付近に分布し、北東から南西に緩やかに下がる傾斜面部で検出している。

土壙の平面形はさまざまな形態が認められるが、楕円形・円形・隅丸方形を呈するものが多数を占める。このうち楕円形は全体の約40％を占める。その他の形態として、隅丸長方形・方形・長方形・半円形・隅丸三角形・不定形がわずかながら認められる。楕円形土壙の規模は長径0.7～3.4mの範囲内であるが、1.6m前後の規模を測るものが多い。また、深さにおいては10～70cmの範囲内にあり、30～50cmのものが多数を占める。円形土壙においては直径が0.8～1.6mが多数を占め、ピークは1.1m付近にある。土壙の断面形は、土壙壁の立ち上がりが緩やかな法面をもつものが多く、わずかながら直立的に立ち上がるものも認められるが、袋状に土壙壁上部がオーバーハングする例は認められない。

土壙の埋土は黄色・茶褐色・暗灰色・灰黒色の粘質土が基本であり、それぞれが単一の埋土を形成する例は少ない。大多数の土壙の埋土は２～８層前後と多層にわたる例が多い。また、埋土には単純層も認められるが、多くは粘質土ブロックが多少なりとも混在してい

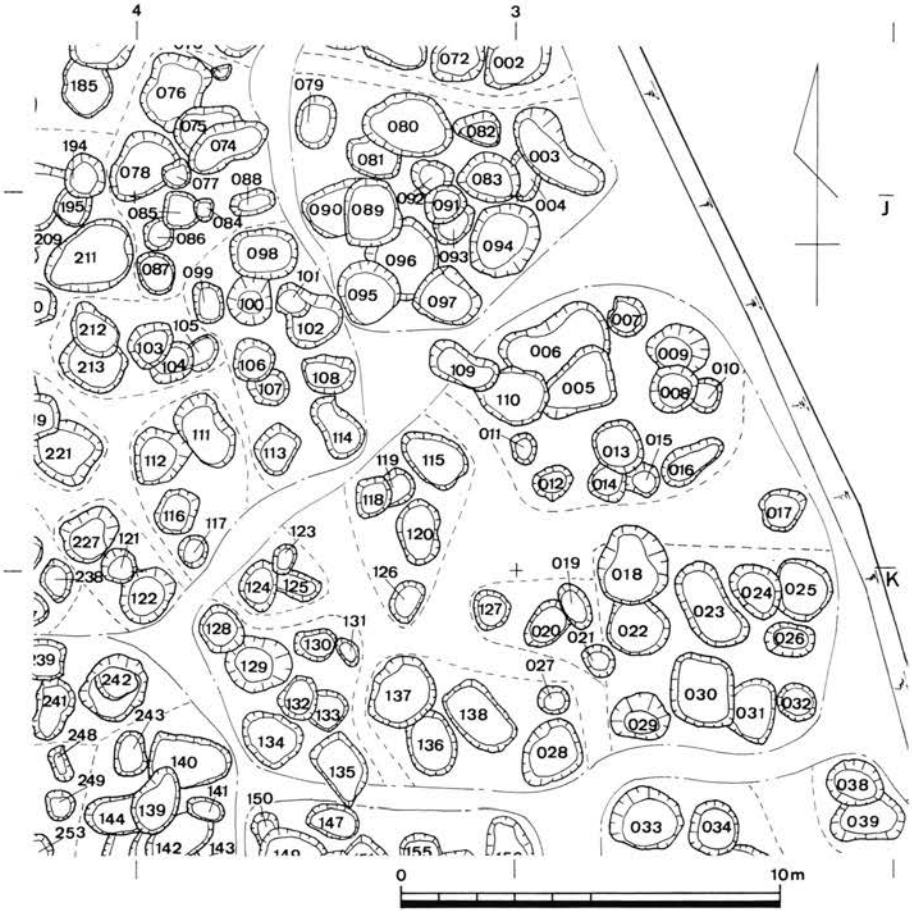
る。埋土中に含まれる粘質土ブロックは調査地周辺に広がる地山の基盤土層であり、黄色系粘質土は土壙が分布する第Ⅲ・第Ⅳ地区、茶灰色系粘質土は第Ⅱ調査区の南部に認められる。また、黒色系の粘質土は土壙群分布域外周辺に堆積が認められるクロボク土と考えられる。土壙分布域の遺構面上には暗灰色系の砂質土が自然堆積するが、土壙内に混入する例はあまり認められない。土壙埋土に存在するブロック状の粘質土は土壙の掘削に伴う排土であり、土壙内に自然堆積層がほとんど認められないことは、人為的に短期間で埋め戻されたことを意味しよう。また、土壙群の分布域に存在しない茶褐色系粘質土が土壙埋土に含まれることは、土壙を埋める段階で意図的に選別された土が他所から持ち込まれたと考えられる。

土壙には遺物の伴わないために、時期を特定できないものが多い。遺物の出土をみた土壙は全体のおよそ40％であり、弥生時代後期・古墳時代後期・鎌倉時代に属するものもあったが大多数は庄内併行期であり、極めて短期間に数多くの土壙が掘られている。土壙に伴って出土した土器には甕・壺・鉢があり、このうち甕の出土が90％以上と圧倒的多数を占める。土器には完形品のほか、口縁の一部や底部を欠く土器も数多い。また、ＳＸ573出土の甕(25)は底部に焼成後の穿孔が認められる。その他、少数例であるが土壙内の底部付近から板状の木製品の出土もみている。

土壙群の分布は黄色系粘質土が広がる低地部に限られ、第Ⅲ調査区西部を南北に流れる溝ＳＤ11を西限とし、東は丘陵裾の台地縁辺部までの間である。また、東限とした台地縁辺部には小規模ではあるが溝ＳＤ12が存在する。南北方向に関しては調査範囲外にさらに広く分布することは明白であるが、全容についてうかがうことが現時点ではできない。土壙群の分布はＳＤ11の東岸部にまで密集して存在するが、ＳＤ11以西には１基の土壙の分布も認められない。また、土壙群が分布する地山の黄色系粘質土はＳＤ11以西にも広がっていることから、土壙群とＳＤ11は密接な関連をもって存在していることは明らかである。

土壙は一定範囲内に無秩序に分布するのではなく、空閑地を間に挟みながら小さな群を構成している。小群は1.5m前後の幅をもつ通路状の空閑地によって区画され、およそ10数か所に群の構成が認められる。さらに小群内は支線通路状の空閑地により数基～10数基の土壙からなる小単位に細分可能である。

三宅遺跡検出の土壙がすべて同一の性格であるとはいえないが、土壙の規模と形状・人為的な埋め戻し行為の存在・出土遺物・土壙群と流路(ＳＤ11)の関連性・土壙群の群構成など、三宅遺跡検出の土壙群には墓と考えうる諸特徴が認められる。また、これまでみてきた三宅遺跡検出の土壙群の内容は、先に挙げた複数遺跡でいくつか共通する特徴が認められる。以下、類似点を列挙してみたい。



第28図　土壙墓群構成図

土壙の立地　土壙は低地で検出される傾向にあり、地山に粘土層が存在する(全遺跡)。

土壙の形状　土壙の平面形は楕円形・円形・方形・長方形など、整った形の志向が認められ、アメーバー状の極めて不定形な形態はほとんど存在せず、土壙壁は直立もしくは緩やかな立ち上がりをもつ(全遺跡)。粘土採掘坑の場合、良質の粘土が得られれば土壙壁からも採取することから、袋状土坑・不定形土坑となることが多い。袋状土坑は福岡遺跡と上中遺跡に検出例があり、福岡遺跡では粘土採掘坑群と捉えられている。

人為的な埋め戻し　土壙埋土には粘土ブロックが含まれ、主たる埋土を形成するものも存在する。また、多くの遺跡例に自然堆積層があまり認められないことは、短期間のうちに土壙を埋め戻す必要性があったと考えられる。この場合、土壙を埋葬施設と捉えるならば短期間の埋め戻し行為も合致しよう。ただ、夕日ヶ丘遺跡では大半の土壙の上層部に自然堆積層の存在が認められたが、墓に伴う木製蓋の腐朽による盛り土の落ち込みに伴うものと推察されている。

一方、粘土採掘坑においても埋め戻し行為の存在をみる考えもある。福岡遺跡では、良質の粘土を得ようとすれば多量の排土が発生し、最も効果的な排土処理に不用土坑が利用されたと想定されている。

土壙の分布状況　土壙は無秩序に分布することなく、墓道状の空閑地を挟んでいくつかの小群による構成が認められる(東安堵遺跡・菱木下遺跡・狐塚古墳群・新家遺跡・池田遺跡)。また、小群内は空閑地によってさらに細分が可能となる。長曽根遺跡では小群内に2基1対か単独の土壙による最小単位の存在から、これを家族的な血縁集団墓のまとまりと考えられている。また、土壙群には流路が伴うことが多く、土壙群の一片を画する状況にある(狐塚古墳群・長曽根遺跡・池田遺跡・新家遺跡・千代川遺跡・興遺跡)。

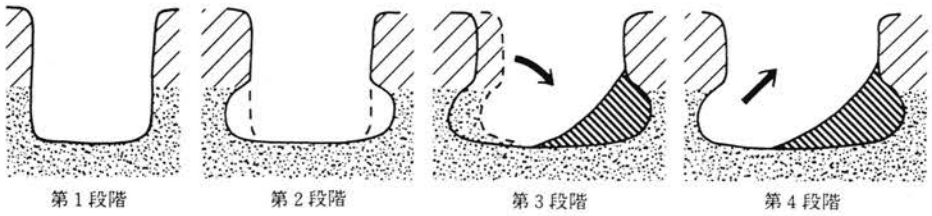
三宅遺跡では、粘土層が広がるＳＤ11以西に土壙が存在せず、さらに長曽根遺跡においては粘土層が存在しない地点にも土壙群が広がるほか、壙底が粘土層下の砂礫層も掘り込む土壙も存在する。このような事例は、粘土採掘坑の可能性を明らかに否定するものであろう。

多くの遺跡では、特に密集状態にないところでは土壙が切り合うことが少ない。このことは常に土壙の位置が意識されていた結果であり、地上に盛り土等の指標物が存在したか、あるいは土壙が長期間にわたって完全に埋まらなかった状況が想定できる。多くの土壙は短期間に埋め戻されていることから、墓に伴う盛り土が存在したと考えるのが妥当であろう。また、粘土採掘に伴う通路を考える上で埋没した土坑を常に迂回することは合理的でなく、長期にわたって一定の通路を確保する必然性がないことは明らかである。

出土遺物　多くの遺跡例では土壙内から遺物が出土することが少なく、半数近くの土壙から土器の出土をみているのは、三宅遺跡・東安堵遺跡・夕日ヶ丘遺跡等である。また、三宅遺跡・東安堵遺跡は時期も一致し、甕の出土比率が特に高く、板状木製品の出土をみることも共通することは注目すべき事実である。これは両遺跡に同様な思考・慣習が存在したとみることも可能であろう。土壙内から木製品の出土をみるその他の遺跡として、東安堵遺跡・夕日ヶ丘遺跡から板状・杭状木製品、福岡遺跡・群馬県藪田東遺跡から木製掘削具(掘り棒等)の出土が報告されている。狐塚古墳群では一部の土壙で木製蓋の使用が推定されており、板材が出土する土壙を考える上で注目すべき見解である。

特殊な遺物として、興遺跡では土壙内から壺棺[注34]や副葬品とみられる木製簪が出土し、墓としての性格を強めている。

自然化学的分析　三宅遺跡と興遺跡では土壙の性格を明らかにするため、土壙埋土の脂肪酸分析を実施している。三宅遺跡では第Ⅲ調査区ＳＸ472・518・525の3基で実施した土壌脂肪酸分析では、土壙内埋土から高等動物由来のステロールが土壙外資料に比べ高い



第29図　粘土採掘坑掘削模式図(藪田東遺跡報告書より転載)

価で検出された。また、興遺跡土壙群でも三宅遺跡と同様な分析結果が出ている。このような分析結果から、三宅遺跡・興遺跡の土壙は「墓」としての性格が強く、土壙墓と認定された。

以上、密集土壙群の諸特徴で共通する類似点をみてきたが、全遺跡で全く同じ状況・内容が認められたわけではないが、かなりの共通項が存在することは事実である。なかでも、土壙の群構成の必然性・計画的な分布域の設定・恒常的な通路の存在・土壙の形状及び出土遺物などの特徴は、「墓」と捉えうる内容を多数含むものである。また、土壌分析においても土壙を墓と認定されたことは決定的な根拠となろう。

各地で検出された密集型土壙墓群は、平面形が整った長方形を呈するものが少なく、楕円形もしくは円形を呈するものが多数を占める。また、土壙内に木棺の痕跡を認めないことから、多くの土壙は基本的に木棺を用いない無棺埋葬であったと考えられる。ただ、興遺跡で壺棺が検出されたほか、三宅遺跡のＳＸ183・221の土層観察で木棺の存在を示す土層堆積が看取されたことから、一部で棺を使用した埋葬があった可能性も残る。

多くの密集型土壙墓が築かれる弥生時代末から古墳時代の墓制のうち支配者層・有力家族層は、立地・規模・形態・副葬品など一般庶民層とは明らかに異なる状況にある。三宅遺跡等にみられる小群によって形成される密集型土壙墓群は、数百基にものぼる各土壙間に歴然とした優劣格差が認められない。また、副葬品とみられるものも少量の土器程度である。密集型土壙墓群が一般庶民層だけで形成された墓であることが明らかになったことは、集団内に階層毎に異なった墓域の設定があったことを如実に物語っている。また、庶民の墓地は集落周辺でも比較的低地に設定された状況が、多数の遺跡の事例からうかがわれる。遠く離れた各遺跡で墓制が共通する事実は、同様な思想に基づく習俗が広範囲にわたって行われたことを物語ろう。

今回、各遺跡を比較検討していく段階で、「墓」と捉えられない土壙群の存在も明らかとなった。平安時代の粘土採掘坑が検出された群馬県藪田東遺跡(注35)では、「竪坑底部の粘土の採掘(第１段階)→壁部分の粘土の採掘(第２段階)→採掘坑の拡張及び旧坑の埋め戻し

(第３段階)→拡張部分の粘土採掘(第４段階)」を示し、この作業の連続的な繰り返しが基本的な粘土採掘の方法と考えられた。土壙の多くが袋状土壙となる福岡遺跡や上中遺跡例、アメーバー状に広がる不定形土壙が検出された寺岡遺跡例などは、形態や立地の点で墓や貯蔵穴とは考えにくい。これらは藪田東遺跡例にみる粘土採掘過程に共通する類似点が認められる。福岡遺跡や上中遺跡例は藪田東遺跡の２～３段階、寺岡遺跡例は４段階に相当するとみられ、これらの土坑群は粘土採掘坑と考えてよかろう。

(竹原一彦)

第３節　小西町田遺跡の総括

１．小西町田遺跡の古式土師器

(１)出土土器群の区分

土器が出土した遺構は約30か所ある。それぞれの遺構の間で時間的前後関係を示す重複した遺構は極めて少なく、遺構出土の土器群がもつ要素を手掛かりとして編年作業を行うことにする。しかし、遺構のほとんどが土坑及び溝であり、それぞれの遺構の性格に違いがあることが予想される。また、出土する土器量にも大きな差が認められ、土器群自体が正確に当時の生活実態を反映しているとは考えがたい。以下では、それぞれの遺構出土の土器群がもつ共通した要素をもとに枠組みを構築し、そこから時間的変化を読み取ることにする。

編年作業の標識として、擬凹線を施す土器群と、タタキ技法を取り入れた土器群とに大別できる。擬凹線をもつ土器群は、弥生時代後期の丹後系土器群の系譜を引くもので、タタキ技法を取り入れた土器群は、畿内第Ⅴ様式の流れを引くものとして整理することができる。時期的には、前者が先行し、後者が後出する。以上の観点から当遺跡の遺構出土の土器群の整理を試みる(付表６)。

なお、掲載した土器資料には小破片をも含むため、口縁部の残存率を基準に、残存率1/4以上のものにつては１個体と数え、残存率1/4未満のものについてはあまり重要視はしなかった。

小西町田Ⅰ期

タタキ技法を取り入れた土器群の影響を全く受けず、擬凹線を施す土器群ないし擬凹線を消失した段階の土器群が主体をなす段階を小西町田Ⅰ期とする。主な遺構として土坑ＳＫ02・土坑ＳＫ03・溝ＳＤ19・溝ＳＤ20・溝ＳＤ28・溝ＳＤ39・土坑ＳＫ54などがある。

壺は点数が少ない。擬凹線を施す二重口縁壺Ａが主体で、短頸壺Ｇがある。甕は23点あ

		壺													甕												高杯					器台			小型器台					鉢							有孔鉢					台付鉢		蓋				手焙り	椀	ミニチュア
		A1	A2	A3	B1	B2	C	D	E1	E2	E3	F	G1	G2	A	B1	B2	C1a	C1b	C1c	C2	D	E	F1	F2	G	H	A1	A2	B1	B1	D	A1	A2	B	C1	C2	C3	D1	D2	A	B	C1	C2	D	E1a	E1b	E2a	E2b	E2c	F1	F2	A1	A2	B	C			
		二重口縁・擬凹線	二重口縁・擬凹線	二重口縁・擬凹線	二重口縁・ナデ	二重口縁・ナデ	二重口縁・ナデ	二重口縁・ナデ	くの字口縁	くの字口縁	くの字口縁	くの字口縁	くの字口縁短頸壺	二重口縁短頸壺	二重口縁・擬凹線	二重口縁・ナデ	山陰系二重口縁	くの字外タタキ内ハケ	くの字外タタキ内ハケ	くの字外タタキ内ハケ	くの字外タタキ内ケズリ	布留傾向	二重口縁タタキ	二重口縁ハケ	二重口縁ハケ	大型直立口縁	くの字ハケ	二重口縁・擬凹線	二重口縁・ナデ	杯形	杯形	椀形	二重口縁・擬凹線	二重口縁・擬凹線	二重口縁・ナデ	受部	貫通孔	貫通孔	貫通孔	くの字	くの字	分割技法	内湾口縁	二重口縁・擬凹線	二重口縁・ナデ	外反口縁	劣底	丸底	タタキ・丸底	タタキ・劣底	タタキ・平底	直線的	内湾的	二重口縁・擬凹線	二重口縁・ナデ	笠形	裾開き			
小西町田Ⅰ期	SK01														○																				1																		1		1				
	SK02			1	○								1		3	5											1																				2														
	SK03	1													2	2												○					1		1																		1			1					
	SD18															○																																												
	SD19															1									○																				○											○			
	SD20															2																				○																								
	SD28														2	1																				1																	2	○						
	SD37																																○																											
	SD39														2	1											1																									1					1			○	
	SK54												○			1																																				○								
	SK56															○																																												
小西町田Ⅱ期古相	SK14				1		○	1	4	1		1			1	9	○	3	○	1	2	○				○	○		○	1		1	1		1			1		1	1		1	2		2	○	1				○				1				○	1	5
	SK04													○	○	3		1	3	4			○	2					1														2			1					1	○			○					1	
	SK08				1		1	1	3	1	1				○		1	23	21	18	1		1		1	1	2			3	1			1			1	1		1				1			4					1	○						1		○	2
	SK50								1							1				3						○																1		1				1												
	SK10		○		1	○			1	1	1						○	1			1									1			1					1			1			1								○						1		○	
	SK23									1								1		○									1						1																										1
	SD41																																																											1
	SD61																																																											1
Ⅱ期新相	SD06																	5																					1								1						○			○				1	1
	SD07																	○		1																																									
	SD09						1										2			○			2							○						1																										
	SD21																						○			○										1								1																	1	
	SD51																		1	○																																○							1	
時期不明	SD36																																																									1			
	SK10HP-1098																1																																												
	SK05																																													1													1	
	SK22																																																											
	SD24																																								○																				
	SD25															○		○		1																2															1				○					1	

		底部形態												高杯脚形態				器台脚形態				装飾付土器
		A1	A2	B3	B3d	B1a	B1b	B1c	B2	B4	B4d	C1a	C1b	C1c	脚A	脚B	脚C	脚C1	脚A	脚B	脚C	脚D
		丸底	劣底	不明瞭平底	不明瞭平底タタキ	平底・	平底・ドーナツ状	平底・ヘソ状	凹み底	平底不安定	平底不安定タタキ	突出底	突出底・ドーナツ状	突出底・ヘソ状	柱実	くの字状	ラッパ状	低脚高杯	長柱状	短柱状	貫通孔	くの字
小西町田Ⅰ期	SK01	1														2						
	SK02	2				3				2					1							
	SK03	3				2										1	1		1			
	SD18	18																				
	SD19	19				1				1												
	SD20	20																				
	SD28	28				1													2			
	SD37	37																				
	SD39	39				2																
	SK54	54																				
	SK56	56																				
小西町田Ⅱ期古相	SK14	14	1	2	5		16	10					5		1	1	10	13	8		1	3	6	13
	SK04	4			1			5	1		5		1				2						1	
	SK08	8	1	1	9	1	14	9	6	6	7	4	1	1	2	2	1		1	1		2	5	5
	SK50	50					1	2		1		1												
	SK10	10	2	2			3						2	1				1				1	2	2
	SK23	23		1			2	1										2					1	
	SD41	41																						1
	SD61	61																						1
Ⅱ期新相	SD06	6	1	1			1					1					1					1		
	SD07	7														1								
	SD09	9	2					1						1										
	SD21	21					1	1															1	
	SD51	51						1										1						
時期不明	SD36	36																						
	SK10HP-1098	1098																						
	SK05	5																						
	SK22	22						1																
	SD24	24						1																
	SD25	25					1	1				1	1				1	1			1			4

＊　○印は、口縁残存率1/4未満の個体。　＊＊　装飾付土器については、破片数を数えた。

付表６　遺構出土古式土師器器種及び形態別出土点数表

り、擬凹線を施す甕Ａと擬凹線を消失した甕Ｂ１とが22点、「く」の字口縁にハケを施す甕Ｈが２点を数える。甕では甕Ａ(38%)と甕Ｂ１(54%)とが他を圧倒している。高杯では、擬凹線を施す高杯Ａ１が１点ある。器台では、擬凹線を施す器台Ａ１が１点と擬凹線を消失した甕Ｂが３点ある。鉢は、二重口縁で擬凹線を消失した鉢Ｃ２が１点、尖底の有孔鉢Ｅ１aが２点、台付鉢Ｆが４点ある。蓋には蓋Ａと蓋Ｂとがあり、４点を数える。ミニチュアは確認できていない。

底部形態では、12点すべてが平底の形態をとっている。器高に比べて底部が小さく、不安定な平底をもつものが多い。高杯脚部形態では、底脚高杯Ｃ１だけを欠いている。器台脚部形態では、長めの柱状を呈する脚Ａだけがみられる。

小西町田Ⅱ期

タタキ技法を取り入れた土器群が他を圧倒し、主体をなす段階を小西町田Ⅱ期とする。Ⅱ期は、Ⅰ期の主体であった擬凹線や擬凹線を消失した段階の土器群の影響を残す古相と、そこから脱却する新相とに分離できる可能性が高い。

Ⅱ期古相　Ⅰ期の主体であった擬凹線や擬凹線を消失した段階の土器群の影響を残す段階である。主な遺構として、土坑ＳＫ04・土坑ＳＫ08・土坑ＳＫ10・土坑ＳＫ14・土坑ＳＫ23・土坑ＳＫ50などがある。壺は22点ある。Ⅰ期の主体であった擬凹線を施す壺及び二重口縁壺はなくなり、「く」の字状口縁壺が主体となる。甕は105点を数える。この段階の指標としたタタキ技法を取り入れた甕は84点あり、甕全体の80%を占める。擬凹線を施す甕は１点(１%)、擬凹線を消失した甕は13点(12%)とⅠ期に比べると激減する。特に、擬凹線を施す甕は消滅段階にある。この段階から山陰系の甕が認められるようになる。高杯や器台でも擬凹線を施すものは残るものの、主体は他の形態に移る。高杯では、稜をもって立ち上がる杯形態のものが全体の60%程度を占める。器台では新たに小型器台が出現し、全体の60%程度を占めるようになる。鉢では、Ⅰ期にみられた二重口縁鉢は全体の20%程度を占めるにすぎない。いわゆる分割成形技法に伴うタタキ技法を取り入れたものが通常の鉢や有孔鉢に出現し、全体の40%程度を占めるようになる。蓋にも擬凹線を施すものが認められる。主体は裾開きの蓋である。この段階に各種のミニチュアが出現する。また、円形浮文や装飾突帯・ヘラ描きや櫛描きなどの装飾を施す土器も出現する。

底部形態でも多様化が認められる。ひとつは丸底化が顕著になることであり、丸底及び尖底・不明瞭な平底をも含めると全体の20%程度を占める。ひとつは、突出底の出現であり、全体の10%程度を占める。タタキ技法に伴って出現する底部形態である。主体は平底ではあるが、いわゆるドーナツ底が目立つようになる。ヘソ状に残るものをも含めると、底部の30%程度に認められる。やはり、タタキ技法に伴って出現する底部形態である。高

杯脚形態では、底脚高杯が出現する。器台脚形態では、小型器台の出現に伴って貫通孔形態や断面「く」の字形態のものが急増する。

Ⅱ期新相　Ⅱ期古相に認められた擬凹線や擬凹線を消失した段階の土器群が存在しない段階である。主な遺構として、溝ＳＤ06・土坑ＳＫ07・溝ＳＤ09・溝ＳＤ21・土坑ＳＫ14・溝ＳＤ51がある。他の段階と比較するには全体的に出土量が少ない。傾向だけをみると、器種構成は擬凹線や擬凹線を消失した段階の土器群が存在しない点を除き、Ⅱ期古相と比べて大きな変化はない。底部形態は丸底化が進み、丸底及び尖底が全体の40％程度を占めている。

（２）小西町田各期の土器と青野西式土器[注36]

小西町田Ⅰ期では、擬凹線を施す土器もしくは擬凹線を失った土器の段階として抽出した。青野西Ⅰ式期に併行する時期であるが、青野西Ⅰ式期にはタタキを残す甕や底脚高杯・小型器台といった新しい要素を共存している。小西町田Ⅰ期は、青野西Ⅰ式期に新しい要素が入る前の段階と考えたい。

なお、青野西Ⅰ式全体を通じてタタキを残す土器の存在が知られてはいるが、数は少ない。土器の製作技法としてタタキ技法が定着する前に持ち込まれていたものと理解しておきたい。

小西町田Ⅱ期古相は、タタキ技法が突如出現し、Ⅰ期の土器群を圧倒する時期である。青野西遺跡では、「丹後系を主体とする土器群に庄内式期とされる畿内系の土器が加わり始めてから、次第に後者が前者を圧倒していき、最後に布留式にとって替わられる。」というように漸次変化していくと捉えている。小西町田遺跡では、畿内系の土器の出現と同時に丹後系の土器群を凌駕してしまっており、漸次変化とは認めがたい。また、擬凹線は小西町田Ⅱ期古相でほとんど消滅する段階にある。擬凹線は青野西Ⅱ式古相でもほとんど消滅する段階にあたり、両者はほぼ併行する時期としてよい。したがって、小西町田Ⅱ期古相は、青野西Ⅰ式の新しい段階から青野西Ⅱ式古相にあたる。

周辺地域で当該期のタタキ技法をもつ畿内系の土器が大量に出土した遺跡に園部町曽我谷遺跡がある。おそらく、タタキ技法の伝播は局地的に定着し、拡散していったのであろう。由良川流域においては、小西町田遺跡に局地的に定着し、漸次近隣集落へと拡がっていったと考えたい。

小西町田Ⅱ期新相としたもののなかの溝ＳＤ09には山陰系の二重口縁甕Ｂ２がある。この甕には、底部内面に指頭圧痕を明瞭に残すものがあり、ハケの施し方にも布留式の甕に近似する要素が認められるものがある。青野西Ⅱ期新相においても同様の傾向が認められ、両者をほぼ併行する時期としたい。

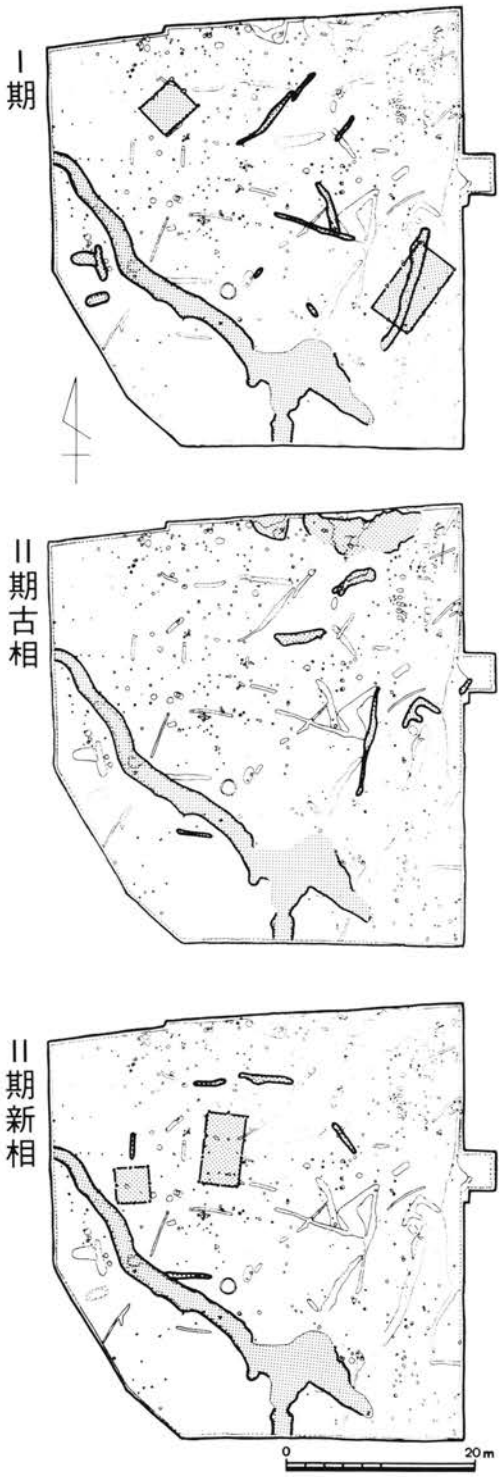
付表７　甕及び鉢の器種別対応底部形態点数表

		甕													鉢				
		A	B1	B2	C1a	C1b	C1c	C2	D	E	F1	F2	G	H	A	B	C1	C2	D
		二重口縁・擬凹線	二重口縁・ナデ	山陰系二重口縁	くの字外タタキ内ハケ	くの字外タタキ内ハケ	くの字外タタキ内ハケ	くの字外タタキ内ケズリ	布留傾向	二重口縁タタキ	二重口縁ハケ	二重口縁ハケ	大型直立口縁	くの字ハケ	分割技法	内湾口縁	二重口縁・擬凹線	二重口縁・ナデ	外反口縁
底A1	丸底			2	2											1			
底A2	尖底				2									1					1
底B3	不明瞭平底		1													1			
底B3d	不明瞭平底タタキ				1														
底B1a	平底	1				1	2									3			
底B1b	平底・ドーナツ状					3				1				1	4				1
底B1c	平底・ヘソ状					3													
底B2	凹み底																1		2
底B4	平底不安定		1		1		3				1								
底B4d	平底不安定タタキ				2	1	1												
底C1a	突出底																		
底C1b	突出底・ドーナツ状																		
底C1c	突出底・ヘソ状																		

(３)甕Ｃ１の器形について

壺・甕・鉢のうち、口縁部から底部の形態までを知りうる資料は、甕31点、鉢14点の合計45点ある(付表７)。甕のなかでも甕Ｃ１が22点と圧倒的に多い。ここでは、小西町田遺跡で重要な位置を占めているタタキを残す甕Ｃ１の口縁部形態と底部形態の関係についてみていくことにする。

甕Ｃ１は口縁部の形態から、端部を丸く納める甕Ｃ１a、端部に面取りを施す甕Ｃ１b、端部を摘み上げる甕Ｃ１cに分類した。甕Ｃ１aは８点、甕Ｃ１bは８点、甕Ｃ１cは６点ある。底部形態はさまざまあるが、一定の傾向が認められる。丸底や尖底、不明瞭極小平底を呈する底部は、甕Ｃ１aにのみ認められ、甕Ｃ１a底部形態の約63％を占める。甕Ｃ１aでは外に不安定な小平底がある。ドーナツ状平底は、甕Ｃ１bにのみ認められ、同種のへ



第30図　東部地区遺構変遷図

ソ状平底をも含めると甕Ｃ１b底部形態の約75％を占める。甕Ｃ１bでは外に安定した平底や不安定な小平底がある。不安定な小平底は甕Ｃ１cで占める割合が約67％と高い。甕Ｃ１cでは外に安定した平底がある。以上のことから、甕Ｃ１aには底Ａや底Ｂ３が対応し、甕Ｃ１bには底Ｂ１が対応する傾向が強く認められる。

甕Ｃ１bに特徴的に認められるドーナツ状平底は、畿内第Ｖ様式の土器にしばしば用いられる底部形態であり、比較的古い要素である。甕Ｃ１cには平底のものが認められるが、器高に比べ極端に小さな平底のものが多く、器形の上では丸底化へ向かっている。甕Ｃ１aには丸底や尖底という比較的新しい要素が確実に伴い、明確な平底を呈するものはなくなる。この時期、底部が丸底化することを念頭におけば、タタキを残す甕Ｃ１においては甕Ｃ１b→甕Ｃ１c→甕Ｃ１aという形態的な変化が予想される。しかし、出土状況においては混在した状態のものが多く、確認はできていない。

（４）土器区分からみた遺構の配置

これまでは、器種構成から時期区分を行ってきた。ここでは、この時期区分に基づいて遺構の配置を検討する（第30図）。

小西町田Ⅰ期とした遺構は、11か所を数える。土坑が5基と溝が6条ある。比較的規模の大きい土坑ＳＫ01・土坑ＳＫ02・土坑ＳＫ03が流路を挟んで南側に位置しており、重複する土坑も認められる。小西町田Ⅰ期の土器群も細分できることを示している。小型の土坑ＳＫ54や土坑ＳＫ56及び溝ＳＤ18・溝ＳＤ19・溝ＳＤ20は、北からほぼ45°前後東ないし西へ振れており、意図的に構築されたものである。残る溝ＳＤ28・溝ＳＤ37・溝ＳＤ39も北から東西へ大きく振れるものである。

小西町田Ⅱ期古相とした遺構は、8か所を数える。土坑が6基と溝が2条ある。土坑ＳＫ08・土坑ＳＫ10・土坑ＳＫ14は北から東へ大きく振れるものである。残る土坑ＳＫ23・土坑ＳＫ50・土坑ＳＫ04・溝ＳＤ41・溝ＳＤ61は、ほぼ北方向もしくは直交する方向に近い振れ方を示している。

小西町田Ⅱ期新相とした遺構は、溝が5条ある。溝ＳＤ06・溝ＳＤ07・溝ＳＤ09・溝ＳＤ51は、はぼ北方向もしくは直交する方向に近い振れ方を示している。溝ＳＤ21だけが大きく西へ振っている。

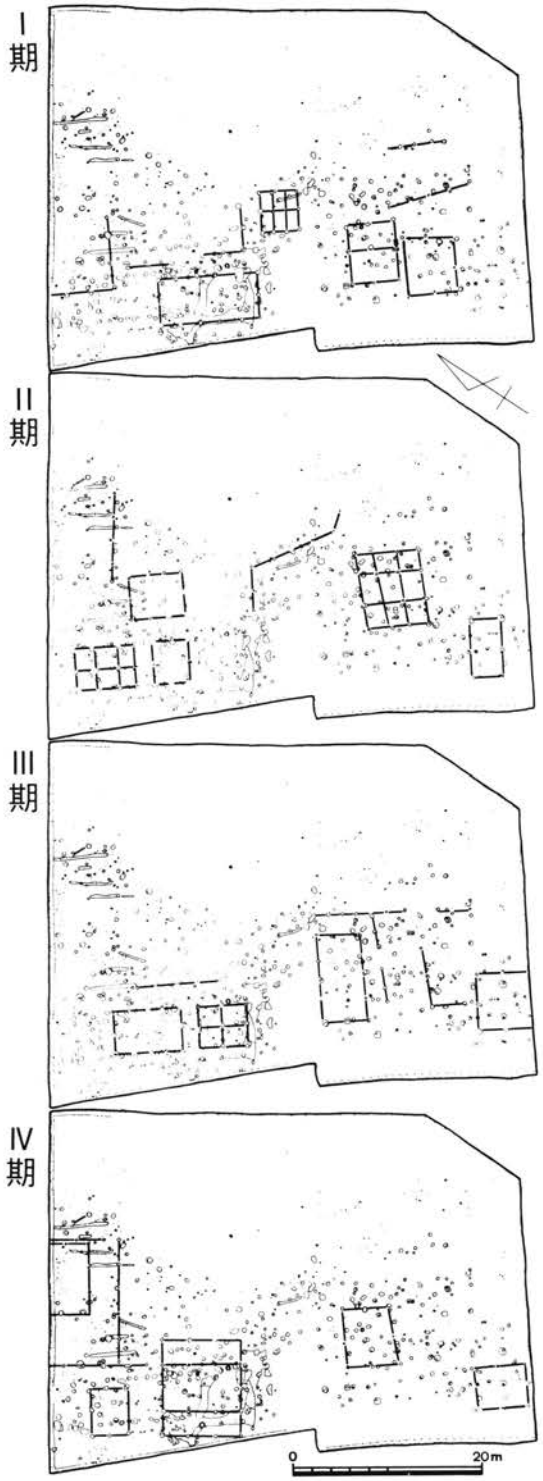
小西町田遺跡の弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての遺構の主軸方向の傾きは、北方向もしくは直交する方向を中心として、古い時期には大きく振る傾向が強く、新しい時期にしたがって、北方向もしくは直交する方向に向く割合が高くなると言える。

（5）小西町田遺跡と成山古墳群

この地域で最古とされている古墳に、成山2号墳・3号墳がある[注37]。位置的には小西町田遺跡の背後に迫る丘陵上に当たる。成山3号墳第2主体部出土の土器には、竹管状工具による円形刺突を施したり、肩部にキザミメを施した突帯をめぐらす壺や、タタキを残す土器がある。

いずれの手法も、小西町田Ⅱ期古相からみられる手法であり、成山3号墳の築造はこの時期に当たる。近接した位置関係からみても成山古墳の造営に際して、小西町田遺跡の集団が重要な位置を占めていたと考えられる。園部町曽我谷遺跡[注38]に定着したタタキ技法に代表される畿内的な土器を駆使する集団が園部地域最古の黒田古墳[注39]の成立の契機となったのと同じ動きであったのであろう。しかし、一方が畿内的な前方後円墳を築造したのに対し、この地域が在地的な古墳形成にとどまったのには、地域集団内に何らかの課題が残されていたものと思われる。

おそらく、同時期の遺跡である青野西遺跡で検出された周溝墓ＳＸ49[注40]が前方後方形の周溝墓という墓制を採用していることに表されるように、由良川中流域では地域集団の合一が発展途上にあったのであろう。



第31図　西部地区遺構変遷図

2．小西町田遺跡の掘立柱建物跡

(1)弥生時代後期末から古墳時代初頭の掘立柱建物跡

復原した4棟は、それぞれの主軸方向の振れ角から、座標北からわずかに振る建物跡ＳＢ01と建物跡ＳＢ04、座標北から東へ45°前後振れる建物跡ＳＢ02と建物跡ＳＢ03に分かれる。当該期の各遺構の主軸方向を各時期毎に見ると、Ⅰ期の溝ＳＤ18・溝ＳＤ19・溝ＳＤ20・土坑ＳＫ54・土坑ＳＫ56などの主軸方向と建物跡ＳＢ02・建物跡ＳＢ03の主軸方向が、Ⅱ期新相の土坑ＳＫ06・土坑ＳＫ07・溝ＳＤ09・溝ＳＤ51などの主軸方向と建物跡ＳＢ01・建物跡ＳＢ04の主軸方向が、それぞれほぼ一致している。このことから、建物跡ＳＢ02･建物跡ＳＢ03はⅠ期、建物跡ＳＢ01･建物跡ＳＢ04はⅡ期新相にそれぞれ比定できる。

(2)奈良時代から平安時代の掘立柱建物跡

西部地区で復原した18棟の掘立柱建物跡は、同地区から出土した遺物から8世紀後半から12世紀にかけて存続していたものである。7Ｆ・8Ｆ・8Ｇを中

心とした地域をみると、出土した遺物の量も多く、緑釉陶器・灰釉陶器・墨書土器の出土も集中し、中心的な掘立柱建物があったことをうかがわせている。掘立柱建物の柱穴も多数あり、溝ＳＤ2000付近では、建物跡ＳＢ05・建物跡ＳＢ10・建物跡ＳＢ16・建物跡ＳＢ18の４棟が重複している。これらのことから、400年余りの期間に少なくとも４期にわたる建て替えが想定できる。ここでは柱穴内の遺物、主軸方向などから４期の建物配置を試みた(第31図)。

Ⅰ期(８世紀～９世紀)　建物跡ＳＢ05・建物跡ＳＢ06・建物跡ＳＢ07・建物跡ＳＢ08

Ⅱ期(９世紀～10世紀)　建物跡ＳＢ10・建物跡ＳＢ11・建物跡ＳＢ12・建物跡ＳＢ13・建物跡ＳＢ14

Ⅲ期(10世紀～11世紀)　建物跡ＳＢ09・建物跡ＳＢ15・建物跡ＳＢ16・建物跡ＳＢ17

Ⅳ期(11世紀～12世紀)　建物跡ＳＢ18・建物跡ＳＢ19・建物跡ＳＢ20・建物跡ＳＢ21・建物跡ＳＢ22

(３)西部地区検出掘立柱建物跡の性格

西部地区で出土した須恵器の多くは、篠窯跡群に酷似した胎土であるとの分析報告を受けている。篠窯跡群[注41]は、丹波国府や国分寺など周辺に製品を供給することから始まり、長岡京や平安京への一大供給地へと急激に発展していく。小西町田遺跡出土の大量の須恵器の多くが篠窯跡群の製品の可能性が非常に高いとすれば、掘立柱建物跡群の性格についてもある程度推測できるものと思われる。

西部地区で須恵器の出土量が急激に増加するのは、８世紀末頃であり、篠窯跡群が急激に発展していく契機を得たのとほぼ同時期である。この時期以後、大量消費に対応するため、丹波国が生産・流通機構を掌握して行ったと考えられている[注42]。小西町田遺跡へもたらされた須恵器もこうした公の流通機構に乗ったものと予想される。また、篠原形須恵器の出土例をみると、官衙遺跡・寺院関係遺跡・交通の要衝に位置する遺跡・中心集落遺跡に目立つ[注43]。これらの要素を検討することによって、掘立柱建物跡群の性格に迫ってみたい。

何鹿郡内での大規模な掘立柱建物跡群を検出した遺跡として、青野南遺跡がある[注44]。青野南遺跡の掘立柱建物跡群は７世紀のもので、掘形は大型の隅丸方形を呈し、磁北に近い振り角をもつ大規模な掘立柱建物跡や柵列で構成されることから、何鹿郡の郡衙跡に想定されている。しかし、同遺跡での奈良時代から平安時代の建物跡群については不明である。青野南遺跡と比較すると、小西町田遺跡では、地形的な制約があり、方位に乗った建物配置とはなっていない。掘形の規模も貧弱であり、建物配置も規則的と言いがたい。これらのことから、青野南遺跡に続く郡衙跡とするには無理がある。また、寺院に直接関連するような出土遺物も認められず、積極的に寺院関係遺跡とする根拠はない。

可能性があるのは、交通の要衝に位置する中心集落遺跡であろう。犀川を南下し由良川へと出れば、水上交通を利用することが可能である。陶硯や墨書土器の存在から知識階層に、緑釉陶器・灰釉陶器・磁器の存在から富裕階層に通じるものがある。また、数多く出土した土錘や紡錘車などの日常品は、この地に根ざした生活が行われていたことを物語るものである。傾斜地であることや日照・風向きなど、比較的条件の悪い丘陵北側の斜面地に建物群が位置するのには、水害を避ける、耕地面積を確保するなどの目的があったからなのであろう。建物跡の性格を強いて言えば、豪族居宅跡もしくは初期荘園の荘家跡の可能性が考えられる。

3．胎土分析の結果から

便宜的に土坑ＳＫ01・土坑ＳＫ02・土坑ＳＫ03・土坑ＳＫ08出土資料を弥生土器、溝ＳＤ09出土資料を土師器として分析を依頼した。分析の結果は付編に掲載したとおりである。ここでは、分析の結果を時期区分と対応させることにする。

小西町田Ⅰ期とした土坑ＳＫ01・土坑ＳＫ02・土坑ＳＫ03出土資料の胎土は、それぞれＡ群・Ｂ群・Ｃ群に大きく分かれ、なかでも占める割合のやや多いＡ群が地元のものであろうと報告されている。この時期は、丹後系の擬凹線や擬凹線を消失した段階の土器が主流であり、Ｂ群・Ｃ群などは丹後方面の胎土の可能性が強い。外部地域からの搬入品の可能性をもつと指摘を受けた資料No.26は、土坑ＳＫ02から出土した高杯の小片であり、型式分類が困難な部位である。

小西町田Ⅱ期古相とした土坑ＳＫ08では、資料数が少ないものの、ほとんどが地元のＡ群に属している。Ｂ群は１点で、Ｃ群は全く見られない。タタキ技法という新たな土器製作技法がもたらされ、地元産の粘土での土器作りが盛んになった結果と考えられる。また、不明と分類されたもののなかにタタキを残す甕Ｃがあり、新たな地域との交流が生まれたものと思われる。この時期には、丹後系の擬凹線や擬凹線を消失した段階の土器が激減する。Ⅰ期でみられた丹後方面との盛んな交流が衰え、畿内方面や山陰方面との交流が盛んになるのであろう。

小西町田Ⅱ期新相とした溝ＳＤ09では、明確に２群に分れるとの結果が出された。Ｂ群としてくくられたものは、タタキを残す土器が主体である。小西町田Ⅰ期及びⅡ期古相までのＡ群に重なるものであり、地元の胎土である。一方、Ａ群とされたものはすべて山陰系の二重口縁甕Ｂ２であり、山陰地域からもたらされたものである。山陰方面との交流が依然盛んな時期であったといえよう。

（三好博喜）

注１　竹原一彦ほか「近畿自動車道舞鶴線関係遺跡昭和62年度発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概報』第31冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1988

注２　竹原一彦ほか「近畿自動車道舞鶴線関係遺跡昭和63年度発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概報』第36冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1989

注３　①梅原末治「舘弥生式土器遺跡」（『京都府史蹟勝地調査會報告』第２冊　京都府）1920

②綾部市史編さん委員会『綾部市史』上巻　綾部市　1976

③中村孝行「舘遺跡発掘調査概報」（『綾部市文化財調査報告』第16集　綾部市教育委員会）1989

注４　脂肪酸分析は㈱ズコーシャ総合化学研究所に依頼した。詳細な分析結果は既報告書に付載されているので、そちらを参照されたい。なお本報告では、分析資料のうち土壙NoをＳＫ415→ＳＸ472・ＳＫ497→ＳＸ518・ＳＫ505→ＳＸ525に変更している。

「私市円山古墳・興遺跡・三宅遺跡・日光寺遺跡に残存する脂肪の分析」（『京都府遺跡調査報告書』第17冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1992

注５　綾部市を中心とする地域では７世紀代の竪穴式住居跡は「竈を置く一辺の半分が蹴込まれた形」と形容された住居跡の検出が多く、「青野型住居跡型」の名称が与えられた。

中村孝行「青野遺跡第５次発掘調査概報」（『綾部市文化財調査報告』第９集　綾部市教育委員会）1982

注６　岩田　実『荒神塚古墳調査報告』(綾部史談考古資料集第２輯　綾部史談会）　1962

注７　①注３-②による

②平良泰久・奥村清一郎ほか『丹波の古墳』Ⅰ　山城考古学研究会　1983

注８　鍋田　勇「近畿自動車道敦賀線関係遺跡　(1)私市円山古墳」（『京都府遺跡調査概報』第36冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1989

注９　①梅原末治「牧の石室墓」（『京都府史蹟勝地調査會報告』第20冊　京都府）1940

②福知山市史編さん委員会『福知山市史』第１巻　福知山市　1976

③注７-②による

注10　注７-②による

注11　①梅原末治「以久田村群集墓」（『京都府史蹟勝地調査會報告』第２冊　京都府）1920

②注３-②による

③注７-②による

注12　石井清司「近畿自動車道敦賀線関係遺跡(８次区間）　第２章第３節　福垣北古墳群」（『京都府遺跡調査報告書』第17冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1992

注13　平良泰久ほか「高谷古墳群発掘調査概要」（『綾部市文化財調査報告書』１　綾部市教育委員会）　1973

注14　小山雅人「近畿自動車道敦賀線関係遺跡(８次区間）　第２章第４節　野崎古墳群」（『京都府遺跡調査報告書』第17冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1992

注15　注14に同じ

注16　①乙益重隆「農耕」（『新版考古学講座』９特論（中））雄山閣　1980

②田中義昭「弥生時代以降の食料生産」（『日本の考古学』３　生産と流通）　岩波書店　1986

注17　注３-②と同じ

注18　原口正三「考古学からみた原始・古代の高槻」（『高槻市史』1-1　高槻市）　1977

注19　川口宏海ほか「長曽根遺跡発掘調査報告」（『堺市文化財調査報告』第27集　堺市教育委員会）　1986

注20　久米雅雄ほか「菱木下遺跡」（『府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告』　(財)大阪文化財センター）　1984

注21　橋本高明ほか「万崎池遺跡」（『府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告』　(財)大阪文化財センター）　1984

注22　森村健一ほか『大和川・今池遺跡』　大和川・今池遺跡調査会　1980

注23　今村道雄『新家遺跡発掘調査概要』　大阪府教育委員会　1980

注24　『讃良条里遺跡現地説明会資料』　大阪府教育委員会　1988

注25　泉　武ほか「東安堵遺跡」（『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第46冊　奈良県立橿原考古学研究所）　1983

注26　古川与志継ほか「夕日ヶ丘北遺跡」（『三堂・野々宮遺跡他発掘調査概要報告書』　野洲町教育委員会）　1983

注27　西川　徹ほか「福岡遺跡」（『鳥取県教育文化財団調査報告書』27　鳥取県教育文化財団）　1992

注28　増田孝彦「上中遺跡第３次発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概要』第20冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1986

注29　村尾政人ほか「太田遺跡」（『京都府遺跡調査報告書』第６冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）1986

注30　田代　弘「近畿自動車道敦賀線関係遺跡（８次区間）　第２章第１節興遺跡」（『京都府遺跡調査報告書』第17冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1992

注31　奥村清一郎ほか「寺岡遺跡」（『京都府野田川町文化財調査報告』第２集　野田川町教育委員会）　1988

注32　福永伸哉『古墳時代の共同墓地』（『待兼山論叢』第23号　史学篇　大阪大学文学部）　1989

注33　奥村清一郎「集落遺跡に伴う不整円形土坑群」（『京都府埋蔵文化財情報』第33号　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1989

注34　興遺跡Ⅱ地区ＳＫ33から高杯と壺が合わせ口で出土しており、壺棺と判断されている。

注35　原　雅信ほか「藪田東遺跡」（『国道291号街路改良工事地域埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団）　1982

注36　小山雅人「青野西遺跡」（『京都府遺跡調査報告書』第４冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究

センター） 1985

注37 a. 堤圭三郎「成山古墳発掘調査概要」（『埋蔵文化財発掘調査概報(1966)』 京都府教育委員会） 1966

b. 京都府立丹後郷土資料館『両丹地方の方墳(常設展資料４)』 1978

注38 平良泰久他「曽我谷遺跡発掘調査概報」（『園部町文化財調査報告書』第２集 園部町教育委員会） 1977

注39 森下 衛・辻健二郎他「船阪・黒田工業団地予定地内遺跡群発掘調査概報」（『園部町文化財調査報告書』第８集 京都府園部町教育委員会） 1991

注40 近澤豊明「青野西遺跡第３次発掘調査概報」（『京都府綾部市文化財調査報告』第16集 綾部市教育委員会） 1989

注41 a. 水谷壽克・石井清司他「篠窯跡群Ⅰ」（『京都府遺跡調査報告書』第２冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター） 1984

b. 水谷壽克・岡崎研一他「篠窯跡群Ⅱ」（『京都府遺跡調査報告書』第11冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター） 1989

注42 引原茂治「篠・西長尾奥第２窯跡群１号窯覚書」（『京都府埋蔵文化財論集―創立十周年記念誌―』第２集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター） 1991

注43 伊野近富「篠原形須恵器の分布について」（『京都府埋蔵文化財論集―創立十周年記念誌―』第２集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター） 1991

注44 中村孝之「青野南遺跡第３次・第４次発掘調査概報」（『京都府綾部市文化財調査報告』第10集 綾部市教育委員会） 1983

付　載

小西町田遺跡出土土器の蛍光X線分析

奈良教育大学　三　辻　利　一

1．はじめに

これまでの胎土分析の研究では産地推定という問題が主要部分を占めていた。産地推定とは元素分析のデータを使って、遺跡出土土器を生産地である窯跡へ結び付けることである。そのため、窯跡が残っている須恵器、古墳時代後期の埴輪、灰釉陶器、山茶碗、中世陶器が主要な分析対象となっており、窯跡の残っていない土師器、弥生土器、縄文土器などは分析対象の周辺に置かれていた。しかし、窯跡出土須恵器の分析データが全日本にわたって大量に集積されてくると、地域差を示す因子の性格がかなり明確になってくる。K、Ca、Rb、Srなどは母岩中の主成分鉱物である長石類の中に、主として、存在すると考えられている。特別の鉱物をとり出して分析するのではなく、土器そのもの、岩石そのものを粉砕して分析する、所謂、バルク分析で地域差が見つけられたのも、主成分鉱物中の主要な構成元素としてこれら4元素が存在する故であると筆者は理解している。このような考え方に到達したのも、日本列島の基盤を構成する花崗岩類の分析が進み、上記の4因子が長石中に存在すること、しかも、花崗岩類自身が全日本で一様ではなく、これら4因子からみて地域差があること、さらに、これらの地域差が窯跡出土須恵器にみられる地域差によく対応することがわかって来たからである。K、Rbは主としてカリ長石に、Ca、Srは斜長石中にあるものとみられる。したがって、逆に、窯の後背地の岩石の長石類の特徴がわかれば、窯跡出土須恵器の化学特性もおおよそ推定できる。

こうして、地域差を示す因子のもつ地質学的性格が明らかになってくると、当然、これらの因子を使って、遺跡から出土する土師器、弥生土器、縄文土器なども分類してみようとする試みが出てくる。この分類のデータを集積し、遺跡間の土器の伝播・流通を考えようというのである。

本報告では小西町田遺跡出土の弥生土器、土錘、土師器、須恵器、緑釉陶器の蛍光X線分析の結果を報告するが、すべて、前記4因子を使ってクラスター分析で分類することからはじめたのも、このような考え方があるからである。

2.　分析方法

土器片試料はすべて、表面を研磨して付着物を除去したのち、タングステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉砕された。粉末試料は塩化ビニール製リングを枠にして、約15トンの圧力をかけてプレスし、内径20mm、厚さ3～5mmの錠剤試料を作成した。

蛍光X線分析には理学電機製の波長分散型スペクトロメーター、3270型機が使用された。測定された各元素の蛍光X線強度は岩石標準試料ＪＧ－１中の対応する元素の蛍光X線強度で標準化された。分析値はＪＧ－１による標準化値で表示されている。

3.　分析結果

はじめに、須恵器の分析結果から説明する。表１には須恵器の分析値を示してある。試料番号の右側にカッコを付けて示した番号はクラスター分析の際のコンピューターへの入力番号である。したがって、デンドログラムに出てくる番号も試料番号ではなく、コンピューター入力番号である。クラスター分析の結果は図１に示されている。縦列にはクラスター番号で試料を並べてあるが、横軸は最短距離法で計算した類似度を示す。類似度の計算にはK、Ca、Rb、Srの分析値をそのまま使用した。デンドログラムでは類似したものから順に一本の枝に結び付けられていく。例えば、No.25はまずNo.4に結び付けられ、No.4の枝はさらに、No.1の枝へと結び付けられていく。その結果、類似度の低いところでスキ間ができる。図１では大小、様々なスキ間があることがわかる。これらのスキ間のどこで区切って分類するかについてはとくに判断基準はない。任意に区切ってもよい訳である。筆者は大きなスキ間で区切り、その区切り方が適当であるかどうかはRb－Sr分布図を描いて確かめることにしている。図１ではNo.14とNo.19の間で区切ることにした。これをＡ群とした。また、類似度からみてNo.20、27、26も１群にまとめられそうである。これをＢ群とした。両群の中間に在るNo.19、21、12の３点はどこへ帰属させたらよいのかわからないので、不明とした。この分類結果は表１にも示されている。この分類結果が妥当であるかどうかを図２のRb

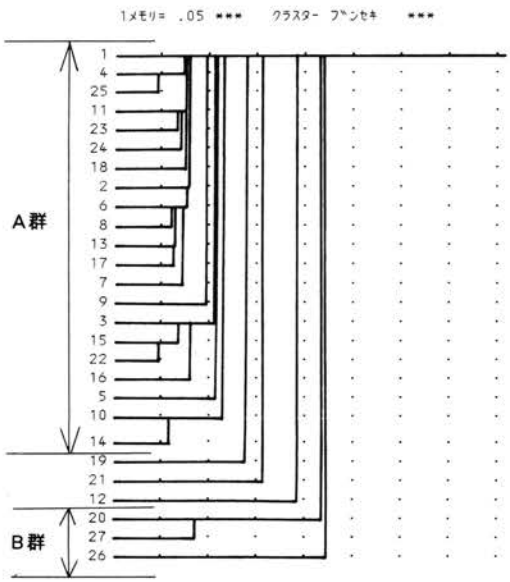


図１　須恵器・緑釉陶器のクラスター分析
(K, Ca, Rb, Sr因子使用)

－Sr分布図でみてみよう。A群にまとめられた須恵器はよくまとまって分布していることがわかる。これに対して、不明となったNo.12、19、21の３点はA群の須恵器の周辺にばらついて分布している。A群の須恵器の分布する領域は地元、篠窯群の須恵器が分布する領域であるところから、これらは篠窯群の製品であるとみられる。篠窯群のいくつもの窯の須恵器を分析すると、分布領域はもう少し広がっており、No.12、21の２点の須恵器も篠窯群産の可能性がある。No.19のみはK、Rb量がほんの少し少なく、一応、産地不明としておく。

他方、３点の緑釉陶器はデンドログラムでも須恵器とは明らかに区別され、胎土が異なることを示した。この３点の緑釉陶器のうち、No.20とNo.27は類似しており、１本の枝に

表１　須恵器・緑釉陶器の分析データ

試料番号				K	Ca	Fe	Rb	Sr		分類	備考
No 11	(1)	須恵器	杯蓋	0.471	0.148	2.430	0.540	0.411		A	
No 12	(2)	須恵器	杯蓋	0.399	0.080	1.910	0.475	0.336		A	
No 13	(3)	須恵器	杯蓋	0.442	0.054	1.530	0.588	0.367		A	
No 14	(4)	須恵器	杯身	0.477	0.126	1.580	0.547	0.446		A	
No 15	(5)	須恵器	杯蓋	0.404	0.170	2.010	0.487	0.471		A	
No 16	(6)	須恵器	杯蓋	0.391	0.120	1.750	0.449	0.393		A	
No 17	(7)	須恵器	杯蓋	0.377	0.115	1.830	0.488	0.395		A	
No 18	(8)	須恵器	杯身	0.415	0.106	1.750	0.455	0.399		A	
No 19	(9)	須恵器	杯身	0.459	0.088	2.030	0.495	0.448		A	
No 20	(10)	須恵器	杯身	0.471	0.025	2.600	0.492	0.299		A	
No 21	(11)	須恵器	杯蓋	0.439	0.133	2.020	0.504	0.407		A	
No 22	(12)	須恵器	杯身	0.609	0.147	2.470	0.626	0.484		不明	
No 23	(13)	須恵器	杯蓋	0.383	0.110	2.000	0.452	0.364		A	
No 24	(14)	須恵器	杯蓋	0.453	0.023	1.880	0.506	0.286		A	
No 25	(15)	須恵器	杯身	0.475	0.080	2.240	0.570	0.372		A	
No 26	(16)	須恵器	杯身	0.441	0.061	1.920	0.529	0.355		A	
No 27	(17)	須恵器	杯身	0.404	0.108	2.330	0.474	0.371		A	
No 28	(18)	須恵器	杯身	0.447	0.156	1.880	0.546	0.474		A	
No 29	(19)	須恵器	甕	0.332	0.086	1.430	0.396	0.454		不明	
No 30	(20)	緑釉	碗	0.658	0.049	2.670	0.664	0.221		B	洛西産の可能性大
No 94	(21)	緑釉	甕	0.456	0.129	2.480	0.594	0.261		不明	
No 95	(22)	緑釉	甕	0.469	0.066	1.590	0.567	0.366		A	
No 96	(23)	緑釉	壺	0.413	0.116	1.730	0.516	0.398		A	
No 97	(24)	緑釉	杯身	0.428	0.124	1.730	0.539	0.424		A	
No 98	(25)	緑釉	杯身	0.463	0.127	1.600	0.552	0.446		A	
No 99	(26)	緑釉		0.585	0.140	1.340	0.813	0.459		B	洛北産の可能性大
No 100	(27)	緑釉		0.618	0.049	2.520	0.633	0.238		B	洛西産の可能性大

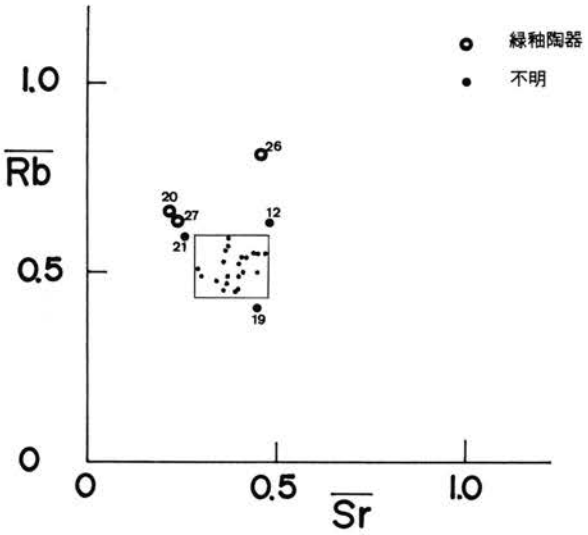


図２　須恵器・緑釉陶器のRb, Sr分布図

結び付けられているが、No.26の胎土は少し異なる。このことは図２でも確かめられる。肉眼観察ではNo.20、27は洛西産、No.26は洛北産と推定されているが、デンドログラムによる分類結果とはよく対応する。ただ、洛西、洛北窯出土の緑釉陶器の分析データが筆者の手元にはないので、産地を推定する訳にはいかない。

このように、須恵器胎土はほぼ一色、緑釉陶器の胎土は二色あり、かつ、須恵器と緑釉陶器では胎土が異なることが分析データから明らかになった。

次に、土師器の分析データについて説明する。表２には分析値がまとめられている。また、クラスター分析の結果は図３に示されている。土師器の胎土は見事に２群に分類できる。No.1～No.10をＡ群、No.4～No.5をＢ群とした。デンドログラムからも予想されるように、図４に示すRb－Sr分布図でも明快に２群に分かれる。したがって、土師器は別々の２ケ所で作られたものであることがわかる。この胎土分析による分類と考古学的型式分類とがどのように対応するかが注目される。また、図２と比較すると、土師器胎土は須恵器胎土とは全く別物であることがわかる。このようなことは全国各地でしばしばみられる。このことは須恵器粘土、すなわち、高温で焼結する粘土は限られた粘土であり、所謂、山粘土とみられるのに対し、高温では焼結しないが、数百度程度の焼成で軟質土器は焼ける

表２　土師器の分析データ

		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	出土地点	器種・手法
No8	(1)	0.275	0.76	3.11	0.295	0.845	0.302	A	溝ＳＤ09	甕Ｂ２
No9	(2)	0.261	0.763	3.65	0.283	0.794	0.288	A	溝ＳＤ09	甕Ｂ２
No10	(3)	0.263	0.747	2.96	0.298	0.852	0.312	A	溝ＳＤ09	甕Ｂ２
No87	(4)	0.284	0.214	2	0.315	0.306	0.142	B	溝ＳＤ09	壺Ｃ
No88	(5)	0.22	0.204	1.85	0.329	0.315	0.127	B	溝ＳＤ09	壺Ｃ
No89	(6)	0.285	0.219	1.71	0.315	0.302	0.152	B	溝ＳＤ09	壺Ｃ
No90	(7)	0.288	0.215	1.5	0.347	0.377	0.179	B	溝ＳＤ09	甕Ｃ
No91	(8)	0.293	0.22	1.12	0.339	0.354	0.179	B	溝ＳＤ09	甕Ｃ
No92	(9)	0.266	0.754	2.83	0.251	0.785	0.313	A	溝ＳＤ09	甕Ｂ２
No93	(10)	0.258	0.758	3.26	0.252	0.939	0.306	A	溝ＳＤ09	甕Ｂ２

ような粘土があちこちに散在するものとみられる。このような粘土は花崗岩類とも余り関係がない。淡水成粘土か、海成粘土かも定かでない。また、どこに、どの程度の規模で広がって分布しているのかについても全く知られていない。一般に、このような粘土には、K、Rb量が少ない(K、Rb<0.5)という特徴がある。したがって、A、B群の土師器が目下のところ、どこで作られたものであるかについては全く不明である。ただ、別々の2ケ所で作られた土師器であるというのが分析データからの結論である。今後、同時期の周辺の遺跡からA、B群の土師器と同じ胎土をもつ土師器がどのように出土するかによって、土師器の伝播・流通の研究の手掛かりがえられるものと思われる。

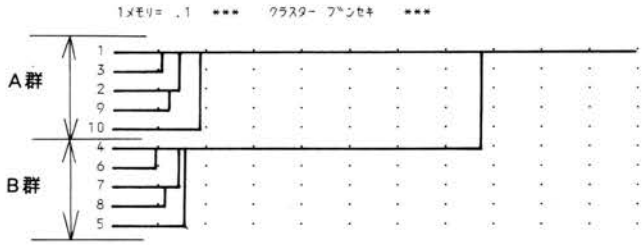


図3　土師器のクラスター分析(K, Ca, Rb, Sr因子使用)

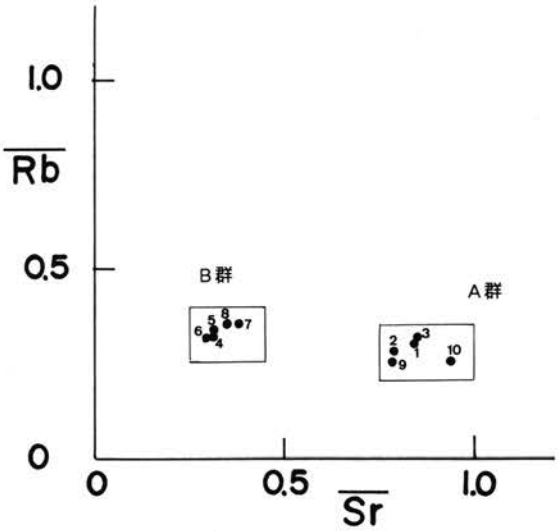


図4　土師器のRb-Sr分布図

次に、土錘の分析データについて説明する。分析値は表3にまとめられている。図5に示すデンドログラムから、A、B、Cの3群に分類された。この区切り方が妥当であることは図6のRb－Sr分布図から確かめられる。A、B、Cの3群の外に、No.39の別胎土の土錘があり、都合、4つの異なる型の胎土があることになる。土師器に比べて、土錘の胎土の種類が多く、土錘はあちこちで手軽に作られたのかもしれない。土錘についても、他の遺跡から出土した土錘の胎土と比較してみる必要がある。

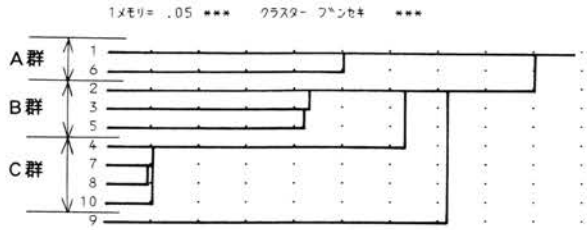


図5　土錘のクラスター分析
(K, Ca, Rb, Sr因子使用)

最後に、弥生土器の分析結果について説明する。表4には弥

表3　土錘の分析データ

			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na		分類		備考
No31	(1)		0.224	0.969	4.81	0.113	0.679	0.504		A		在地の粘土を使用している可能性大
No32	(2)		0.274	0.343	4.03	0.362	0.41	0.144		B		在地の粘土を使用している可能性大
No33	(3)		0.308	0.164	1.84	0.369	0.49	0.075		B		在地の粘土を使用している可能性大
No34	(4)		0.212	0.425	8.16	0.09	0.322	0.376		C		在地の粘土を使用している可能性大
No35	(5)		0.332	0.283	2.66	0.254	0.59	0.471		B		在地の粘土を使用している可能性大
No36	(6)		0.234	0.739	3.46	0.127	0.631	0.498		A		在地の粘土を使用している可能性大
No37	(7)		0.17	0.434	8.87	0.077	0.289	0.327		C		在地の粘土を使用している可能性大
No38	(8)		0.169	0.412	7.98	0.085	0.309	0.326		C		在地の粘土を使用している可能性大
No39	(9)		0.424	0.206	2.02	0.636	0.313	0.122				在地の粘土を使用している可能性大
No40	(10)		0.18	0.426	8.08	0.1	0.336	0.315		C		在地の粘土を使用している可能性大

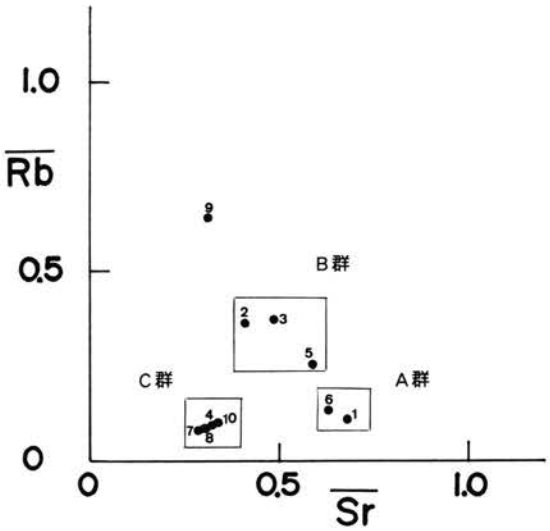


図6　土錘のRb-Sr分布図

生土器の分析値をまとめてある。デンドログラムは少し複雑であるが、図7に示してある。やはり、枝分かれの仕方から、A、B、Cの3群に分類してみた。この結果は図8のRb－Sr分布図で確かめられる。A、B、Cの3群に分かれて分布しており、しかも、各群の弥生土器はよくまとまっており、3種類の胎土があることを示している。つまり、分析された弥生土器は別々の3ケ所で作られたものであるといえる。デンドログラムで帰属させることができなかったNo.39、47、52、2、38、24とNo.21、26の8点は不明としてある。No.2、21のようにA領域、C領域に分布するものもあるが、他のものはA、B、C領域からはずれており、別の場所で作られた弥生土器とみることができる。

これまでのデータ解析では粘土は遠距離を運搬していないという前提で考えられて来

表4　弥生土器の分析データ

		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	出土地点	器種・手法
No1	(1)	0.346	0.168	1.88	0.369	0.307	0.146	A	土坑ＳＫ02	胴部
No2	(2)	0.265	0.411	3.58	0.256	0.4	0.232	不明	土坑ＳＫ02	胴部
No3	(3)	0.117	1.03	6.91	0.064	0.495	0.379	B	土坑ＳＫ03	胴部
No4	(4)	0.258	0.28	2.5	0.263	0.324	0.108	A	土坑ＳＫ03	胴部
No5	(5)	0.329	0.149	1.54	0.378	0.266	0.107	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ１
No6	(6)	0.259	0.24	1.29	0.289	0.36	0.168	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ１
No7	(7)	0.331	0.151	1.19	0.396	0.273	0.119	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ１
No41	(8)	0.339	0.171	1.56	0.409	0.312	0.159	A	土坑ＳＫ01	胴部
No42	(9)	0.146	1.39	3.3	0.109	0.872	0.372	C	土坑ＳＫ01	外ハケメ・内ケズリ
No43	(10)	0.144	0.652	3.98	0.073	0.465	0.496	B	土坑ＳＫ01	外ハケメ・内ケズリ
No44	(11)	0.253	0.188	1.85	0.33	0.293	0.11	A	土坑ＳＫ01	甕Ａ
No45	(12)	0.237	0.18	1.64	0.345	0.299	0.129	A	土坑ＳＫ01	甕Ｂ１
No46	(13)	0.222	0.656	1.64	0.258	0.588	0.232	B	土坑ＳＫ01	甕Ｂ１
No47	(14)	0.285	0.204	1.93	0.448	0.276	0.131	A	土坑ＳＫ01	高杯脚部
No48	(15)	0.161	0.764	3.66	0.124	0.508	0.456	B	土坑ＳＫ01	胴部
No49	(16)	0.301	0.196	1.73	0.436	0.296	0.132	A	土坑ＳＫ01	甕Ａ
No50	(17)	0.117	1.24	4.93	0.07	0.909	0.434	C	土坑ＳＫ01	胴部
No51	(18)	0.241	0.815	2.57	0.196	0.683	0.323	B	土坑ＳＫ02	外？・内ケズリ
No52	(19)	0.138	1.35	3.48	0.116	0.736	0.335	C	土坑ＳＫ02	外？・内ケズリ
No53	(20)	0.116	1.16	4.44	0.102	0.724	0.313	C	土坑ＳＫ02	外？・内ケズリ
No54	(21)	0.126	1.64	4.74	0.08	0.814	0.327	不明	土坑ＳＫ02	甕Ｂ１
No55	(22)	0.251	0.215	2.26	0.396	0.291	0.123	A	土坑ＳＫ02	外ハケメ・内ケズリ
No56	(23)	0.198	0.658	5.18	0.176	0.499	0.245	B	土坑ＳＫ02	甕Ｂ１
No57	(24)	0.407	0.156	1.26	0.474	0.482	0.16	不明	土坑ＳＫ02	外？・内ケズリ
No58	(25)	0.188	0.934	4.4	0.175	0.56	0.298	B	土坑ＳＫ02	外？・内ケズリ
No59	(26)	0.47	0.365	2.22	0.601	0.593	0.284	不明	土坑ＳＫ02	高杯脚部
No60	(27)	0.327	0.119	1.8	0.422	0.236	0.159	A	土坑ＳＫ02	胴部
No61	(28)	0.165	1.05	3.78	0.151	0.709	0.308	C	土坑ＳＫ02	胴部
No62	(29)	0.099	1.28	5.11	0.063	0.801	0.393	C	土坑ＳＫ03	ハケメ・赤色粒含む
No63	(30)	0.127	1.31	2.59	0.08	1.07	0.49	C	土坑ＳＫ03	胴部
No64	(31)	0.247	0.303	3.03	0.219	0.312	0.198	A	土坑ＳＫ03	胴部
No65	(32)	0.297	0.147	1.61	0.413	0.265	0.089	A	土坑ＳＫ03	高杯
No66	(33)	0.3	0.149	1.35	0.405	0.332	0.132	A	土坑ＳＫ03	甕Ｂ１
No67	(34)	0.156	0.778	3.65	0.168	0.534	0.254	B	土坑ＳＫ03	甕Ａ
No68	(35)	0.132	1.28	3.4	0.088	0.978	0.393	C	土坑ＳＫ03	甕Ｂ１
No69	(36)	0.318	0.159	1.67	0.369	0.293	0.14	A	土坑ＳＫ03	外？・ハケメ
No70	(37)	0.275	0.198	1.93	0.46	0.302	0.127	A	土坑ＳＫ03	器台Ａ
No71	(38)	0.322	0.261	2.29	0.405	0.419	0.148	不明	土坑ＳＫ03	甕
No72	(39)	0.4	0.139	1.16	0.477	0.31	0.115	不明	土坑ＳＫ03	高杯

No73	(40)	0.324	0.157	1.12	0.407	0.283	0.109	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ
No74	(41)	0.232	0.279	1.76	0.313	0.401	0.205	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ
No75	(42)	0.262	0.296	1.88	0.272	0.423	0.2	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ
No76	(43)	0.267	0.244	1.65	0.328	0.316	0.13	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ１ｃ
No77	(44)	0.3	0.164	0.965	0.336	0.328	0.149	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ
No78	(45)	0.232	0.575	2.72	0.199	0.611	0.294	B	土坑ＳＫ08	甕Ｃ１ｃ
No79	(46)	0.299	0.181	1.31	0.37	0.316	0.132	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ
No80	(47)	0.263	0.289	1.18	0.283	0.54	0.307	不明	土坑ＳＫ08	壺Ｃ
No81	(48)	0.233	0.285	1.89	0.282	0.382	0.164	A	土坑ＳＫ08	高杯Ａ２
No82	(49)	0.224	0.315	2.34	0.326	0.389	0.212	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ
No83	(50)	0.324	0.169	1.41	0.391	0.319	0.157	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ
No84	(51)	0.252	0.215	1.45	0.32	0.37	0.186	A	土坑ＳＫ08	壺Ｃ
No85	(52)	0.264	0.334	2.09	0.329	0.496	0.236	不明	土坑ＳＫ08	甕Ｃ
No86	(53)	0.262	0.267	1.76	0.278	0.405	0.189	A	土坑ＳＫ08	甕Ｃ

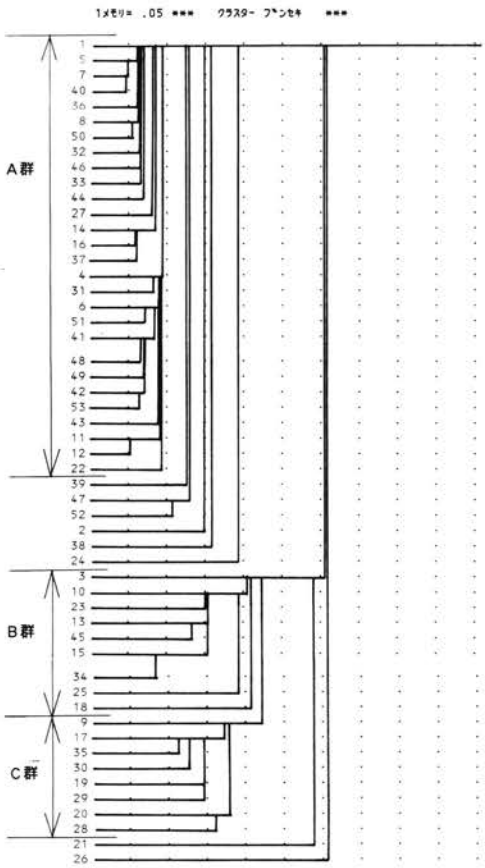


図７　弥生土器のクラスター分析
(K, Ca, Rb, Sr因子使用)

た。軟質土器を焼成する粘土はどこにでもあること、また、窯跡出土の須恵器、埴輪の分析データから、これらの素材粘土は在地産と考えられていること、さらに、素材粘土を遠方から運び込んだという証拠が全くないことなどがこの前提が決して不当ではないことを示している。

No.26(試料番号59)の弥生土器のK、Rb量は他の弥生土器に比べて多い。この点で異質の胎土をもっているとみられる。多数あるＡ群の弥生土器が常識的には在地産と考えられるのに対し、No.26の弥生土器は胎土からみて外部地域からの搬入品である可能性をもつ。考古学的型式分類との対応が注目される。

このように、１遺跡から出土した弥生土器、土錘では幾種類もの胎土がみられるが、土師器では２種類であり、製作地が次第に限定されて来ていることを窺わせる。そして、須恵器に至ってはほとん

ど篠窯群の１ケ所に限定される。このように、製作地の限定化は土器作りが次第に専業化されてくることと対応するのかもしれない。

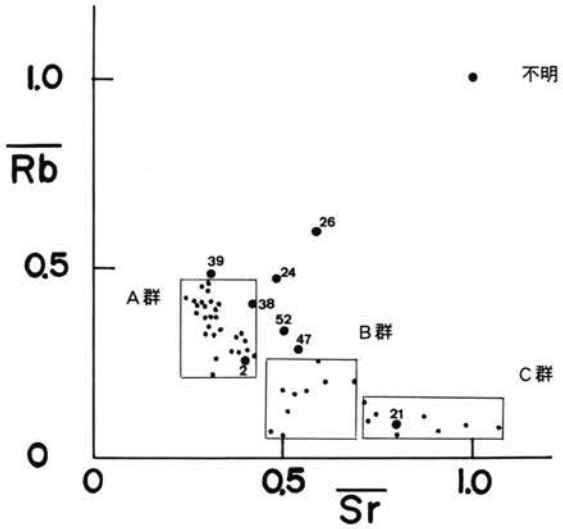


図８　弥生土器のRb-Sr分布図

京都府遺跡調査報告書　第18冊〈本文編〉

平成５年３月１７日

発行　（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617 向日市寺戸町南垣内40の３
Tel(075)933-3877（代）

印刷　中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
Tel(075)441-3155（代）